茨城県教育財団文化財調査報告第130集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

炭焼遺跡
札場古墳群
三和貝塚
成田古墳群

作業室用

平成10年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第130集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

炭焼遺跡
札場古墳群
三和貝塚
成田古墳群

平成10年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

上：遺跡遠景　　下：札場古墳群第2号古墳横穴式石室（南から）

成田古墳群第3号古墳横穴式石室（南から）

成田古墳群第3号古墳出土壺鐙

成田古墳群第3号古墳出土杏葉・飾金具

札場・成田古墳群出土猿投産須恵器

札場・成田古墳群出土湖西産須恵器

序

茨城県は，鹿行地域の総合的発展を目指して，東関東自動車道路の水戸～潮来間の延伸や，これを補完する国道や主要地方道等の幹線道路の整備を図っております。このため，この地域は，都市的開発の可能性が極めて高くなってきております。このような状況の中で，北浦複合団地造成事業が計画されたもので，その予定地内には炭焼遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査事業についての委託契約を結び，平成７年４月から発掘調査を実施してまいりました。

本書は，平成７年度から平成８年度に調査を実施した炭焼遺跡，札場古墳群，三和貝塚及び成田古墳群の調査成果を収録したものであり，本書が学術的な研究資料としてはもとより，教育，文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である茨城県から多大なる御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，北浦町教育委員会，北浦町開発課をはじめ，関係各機関及び関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成10年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋本　昌

例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が，平成７年４月から平成９年３月まで発掘調査を実施した行方郡北浦町に所在する炭焼遺跡，札場古墳群，三和貝塚及び成田古墳群の発掘調査報告書である。

なお，４遺跡の所在地は次のとおりである。

炭焼遺跡　　行方郡北浦町大字三和字炭焼2022番地ほか

札場古墳群　　行方郡北浦町大字三和字札場1711番地ほか

三和貝塚　　行方郡北浦町大字三和字二ノ間2037番地－４ほか

成田古墳群　　行方郡北浦町大字成田字手配台348番地ほか

2　炭焼遺跡，札場古墳群，三和貝塚及び成田古墳群の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		橋本　昌	平成７年４月～
副理事長		小林　秀文	平成６年４月～平成８年３月
		中島　弘光	平成７年４月～
		齋藤　佳郎	平成８年４月～
常務理事		一木　邦彦	平成７年４月～平成８年３月
		梅澤　秀夫	平成８年４月～平成９年３月
		齋藤　紀彦	平成９年４月～
事務局長		齋藤　紀彦	平成７年４月～平成８年３月
		小林　隆郎	平成８年４月～平成９年３月
		西村　敏一	平成９年４月～
埋蔵文化財部長		安藏　幸重	平成５年４月～平成８年３月
		沼田　文夫	平成８年４月～
埋蔵文化財　部長代理		河野　佑司	平成６年４月～
企画管理課	課長	水飼　敏夫	平成４年４月～平成８年３月
	課長	小幡　弘明	平成８年４月～平成９年３月
	課長	河崎　孝典	平成９年４月～
	課長代理	根本　達夫	平成７年４月～
	課長代理	清水　薫	平成９年４月～（平成８年４月～平成９年３月係長）
	主任調査員	海老澤　稔	平成６年４月～平成８年３月
	主任調査員	小高 五十二	平成８年４月～
経理課	課長	小幡　弘明	平成５年４月～平成８年３月
	課長	河崎　孝典	平成８年４月～平成９年３月
	課長	鈴木　三郎	平成９年４月～（平成７年４月～平成８年３月主査）
	主査	田所 多佳男	平成８年４月～
	課長代理	大高　春夫	平成７年４月～平成９年３月
	主任	小池　孝	平成７年４月～
	主任	宮本　勉	平成９年４月～
	主事	軍司　浩作	平成５年４月～平成８年３月
	主事	柳澤　松雄	平成８年４月～平成９年３月
	主事	小西　孝典	平成９年４月～

調査一課	課長(部長兼務)	安藏　幸重	平成５年４月 ～ 平成８年３月
	課長(部長兼務)	沼田　文夫	平成８年４月 ～
	調査第一班長	川井　正一	平成７年４月 ～ 平成８年３月
	調査第四班長	海老澤　稔	平成８年４月 ～ 平成９年３月
	主任調査員	荒井　保雄	平成７年４月 ～ 平成７年９月調査
	主任調査員	黒澤　秀雄	平成７年４月 ～ 平成９年３月調査
	主任調査員	茂木　悦男	平成７年10月 ～ 平成８年３月，平成８年10月 ～ 平成９年３月調査
	主任調査員	平松　孝志	平成８年４月 ～ 平成９年３月調査
	主任調査員	宮﨑　修士	平成８年10月 ～ 平成９年３月調査
整理課	課　　長	小泉　光正	平成９年４月 ～
	主任調査員	黒澤　秀雄	平成９年４月 ～ 平成10年３月整理・執筆・編集

3　本書に使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　本書の作成に当たり，７世紀代の社会状況については茨城キリスト教大学志田諄一氏，古墳については国立歴史民俗博物館杉山晋作氏，栃木県南那須町教育委員会木下実氏，石岡市教育委員会箕輪健一氏，霞ケ浦町郷土資料館千葉隆司氏，出土遺物については東京国立博物館古谷毅氏，静岡県湖西市教育委員会後藤建一氏，ひたちなか市文化・スポーツ振興公社佐々木義則氏，十王町教育委員会片平雅俊氏，自然遺物についてはミュージアムパーク茨城県自然博物館に御指導をいただいた。

5　炭焼遺跡の炭化材樹種同定については，パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。分析結果は付章として報告する。馬具の保存処理は，岩手県立博物館に依頼した。成田古墳群出土の人骨は，梶ケ山真里氏・馬場悠男氏に鑑定を依頼した。分析結果は付章として報告する。

6　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

7　遺跡の概略

ふりがな	きたうらふくごうだんちぞうせいじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	炭焼遺跡・札場古墳群・三和貝塚・成田古墳群
巻次	Ⅰ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第130集
編著者名	黒澤秀雄
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029（225）6587
発行年月日	1998（平成10）年３月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
炭焼遺跡（すみやきいせき）	茨城県行方郡（いばらきけんなめかたぐん） 北浦町大字三和（きたうらまちおおあざみわ） 字炭焼2022番地ほか（あざすみやき）		36度 07分 04秒	140度 31分 06秒	19950401～ 19960331	2,763㎡	北浦複合団地 整備推進事業 に伴う事前調

札場古墳群	茨城県行方郡 北浦町大字三和 字札場1711番地ほか	08424 －67	36度 06分 33秒	140度 30分 50秒	19950401～ 19960331	12,708m²	査
三和貝塚	茨城県行方郡北浦町 大字三和字二ノ間 2037番地－4ほか	08424 －79	36度 06分 49 秒	140度 30分 56秒	19950401～ 19960331	2,515m²	
成田古墳群	茨城県行方郡 北浦町大字成田 字手配台348番地ほか	08424 －68	36度 06分 23秒	140度 30分 46秒	19950401～ 19970331	12,156m²	

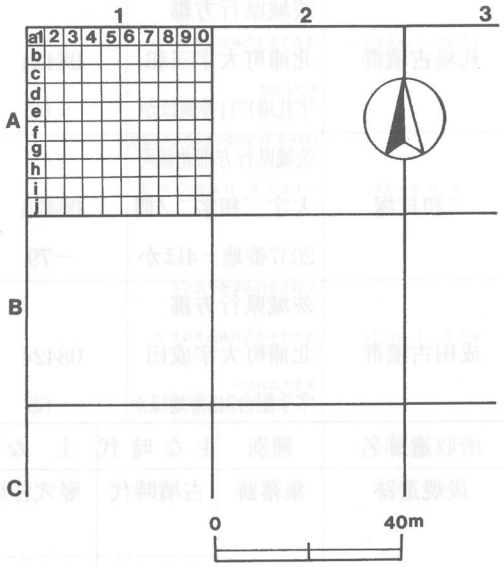
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
炭焼遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡　21軒	土師器（坏・高坏・甕・壺）,須恵器（坏・坏蓋・甕・鬼）,土製品（土玉・紡錘車）,石製品（紡錘車）	古墳時代から平安時代にかけての集落跡
		平安時代	竪穴住居跡　5軒	土師器（坏・甕）,石製品（砥石・紡錘車）	
		時期不明	土　坑　11基	縄文土器片，弥生土器片	
札場古墳群	古墳群	古墳時代	古　墳　4基	土師器，須恵器（平瓶・横瓶）,石製品（勾玉・切子玉）,ｶﾞﾗｽ玉	6世紀から7世紀の古墳群で,1基からはこの地域では数少ない横穴式石室を確認
三和貝塚	集落跡 貝塚	縄文時代	竪穴住居跡　6軒 土　坑　30基 地点貝塚　5か所	縄文土器，磨製石斧 貝（ﾊﾏｸﾞﾘ・ﾏｶﾞｷ・ﾊﾏｶﾞｲ・ｱｶﾆｼ・ｵｷｼｼﾞﾐ・ｶｶﾞﾐｶﾞｲ・ﾍﾅﾀﾘ・ｼｵﾌｷ・ﾂﾒﾀｶﾞｲ・ｳﾐﾆﾅ・ｶﾜｱｲ）	縄文時代前期の集落跡と貝塚
成田古墳群	集落跡 古墳群	古墳時代	竪穴住居跡　1軒 古　墳　7基	土師器（坏・坩・高坏・手捏土器）,須恵器（長頸瓶・横瓶）,金属製品（壺鐙，鈹具,杏葉,轡,鉄鏃,鉄斧）,ｶﾞﾗｽ玉	7世紀の古墳から馬具（壺鐙・杏葉・轡）が出土している。
		時期不明	土　坑　21基 塚　9基 堀　1条 溝　3条		

凡　　例

1　遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し，炭焼遺跡はＸ軸＝13,480m，Ｙ軸＝61,560m，札場古墳群はＸ＝12,320m，Ｙ＝61,400m，三和貝塚はＸ＝13,040m，Ｙ＝61,480m，成田古墳群はＸ＝11,960m，Ｙ＝61,120mの交点を基準点（Ａ1a₁）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，その組み合わせで「A1区」，「B2区」のように呼称した。さらに，小調査区も同様に北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠し，「A1a1区」，「B2b2区」のように呼称した。（第1図）



第1図　調査区呼称方法概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡－SI　土坑－SK　古墳－TM　堀・溝－SD　地点貝塚－SM　塚・不明遺構－SX　炉穴－FP

遺物　土器－P　土製品－DP　石器・石製品－Q　古銭・金属製品－M　拓本土器－TP

土層　撹乱－K　ロームブロック－RB

3　遺構及び遺物の実測図中の表示

炉・竈　粘土　焼土　貝

赤彩土器　黒色処理　須恵器の断面　繊維土器

● 土器　□ 石製品　▲ 金属製品　○ 土製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，以下のとおりである。

(1)　遺跡全体図は縮尺200分の1とし，各遺構の実測図は，80分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は，原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々にS＝1／2等と表示した。

(3)「主軸方向」は，炉・竈を通る軸線を主軸あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　N－10°－E　N－10°－W）

なお，[　]を付したものは推定である。

(4)　土器の計測値は，A－口径　B－器高　C－底径　D－高台径　E－高台高とし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は[　]を付して示した。

(5)　遺物観察表の備考の欄は，土器の残存率，実測（P）番号，出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目　　次

序
例言
凡例
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経過 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 4
　第1節　地理的環境 …… 4
　第2節　歴史的環境 …… 4
第3章　炭焼遺跡 …… 10
　第1節　遺跡の概要 …… 10
　第2節　基本層序 …… 10
　第3節　遺構と遺物 …… 11
　　1　竪穴住居跡 …… 11
　　2　土坑 …… 113
　　3　遺構外出土遺物 …… 115
　第4節　まとめ …… 118
第4章　札場古墳群 …… 125
　第1節　遺跡の概要 …… 125
　第2節　基本層序 …… 125
　第3節　遺構と遺物 …… 126
　　1　古墳 …… 126
　　2　遺構外出土遺物 …… 151
　第4節　まとめ …… 153
第5章　三和貝塚 …… 157
　第1節　遺跡の概要 …… 157
　第2節　基本層序 …… 157
　第3節　遺構と遺物 …… 159
　　1　竪穴住居跡 …… 159
　　2　炉穴 …… 174
　　3　地点貝塚 …… 180
　　4　土坑 …… 189
　　5　遺構外出土遺物 …… 195
　第4節　まとめ …… 198

第6章　成田古墳群 ……205
第1節　遺跡の概要 ……205
第2節　基本層序 ……205
第3節　遺構と遺物 ……206
1　竪穴住居跡 ……206
2　土坑 ……210
3　古墳 ……213
4　埋設遺構 ……252
5　堀・溝 ……253
6　土塁状遺構 ……256
7　塚 ……257
8　遺構外出土遺物 ……261
第4節　まとめ ……263
付章1　炭焼遺跡から出土した炭化材の樹種 ……276
2　成田古墳群出土人骨 ……279

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図　調査区呼称方法概念図
第 2 図　堂目木１号墳箱式石棺 …… 5
第 3 図　周辺遺跡分布図 …… 7
炭焼遺跡
第 4 図　炭焼遺跡遺構配置図 …… 9
第 5 図　基本土層図 ……10
第 6 図　第１・30号住居跡 ……12
第 7 図　第１号住居跡出土遺物(1) ……13
第 8 図　第１号住居跡出土遺物(2) ……14
第 9 図　第１号住居跡出土遺物(3) ……15
第 10 図　第２号住居跡 ……18
第 11 図　第２号住居跡出土遺物(1) ……20
第 12 図　第２号住居跡出土遺物(2) ……21
第 13 図　第３号住居跡 ……24
第 14 図　第３号住居跡出土遺物(1) ……25
第 15 図　第３号住居跡出土遺物(2) ……26
第 16 図　第４号住居跡，第２号土坑 ……29
第 17 図　第４号住居跡出土遺物 ……31
第 18 図　第５号住居跡 ……32
第 19 図　第５号住居跡出土遺物(1) ……34
第 20 図　第５号住居跡出土遺物(2) ……35
第 21 図　第６号住居跡 ……37
第 22 図　第６号住居跡出土遺物(1) ……39
第 23 図　第６号住居跡出土遺物(2) ……40
第 24 図　第６号住居跡出土遺物(3) ……41
第 25 図　第８号住居跡 ……44
第 26 図　第８号住居跡出土遺物 ……45
第 27 図　第９号住居跡 ……47
第 28 図　第９号住居跡出土遺物(1) ……49
第 29 図　第９号住居跡出土遺物(2) ……50
第 30 図　第11号住居跡 ……51
第 31 図　第11号住居跡出土遺物 ……52
第 32 図　第12号住居跡 ……53
第 33 図　第12号住居跡出土遺物 ……53
第 34 図　第13号住居跡 ……55
第 35 図　第13号住居跡出土遺物 ……56
第 36 図　第14号住居跡(1) ……58
第 37 図　第14号住居跡(2) ……59
第 38 図　第14号住居跡出土遺物(1) ……60
第 39 図　第14号住居跡出土遺物(2) ……61
第 40 図　第15号住居跡 ……65
第 41 図　第15号住居跡出土遺物(1) ……66
第 42 図　第15号住居跡出土遺物(2) ……67
第 43 図　第16号住居跡 ……68
第 44 図　第16号住居跡出土遺物 ……70
第 45 図　第17号住居跡 ……72
第 46 図　第17号住居跡出土遺物(1) ……73
第 47 図　第17号住居跡出土遺物(2) ……74
第 48 図　第18号住居跡 ……76
第 49 図　第18号住居跡出土遺物(1) ……78
第 50 図　第18号住居跡出土遺物(2) ……79
第 51 図　第19号住居跡，第12号土坑 ……81
第 52 図　第19号住居跡出土遺物(1) ……82
第 53 図　第19号住居跡出土遺物(2) ……83
第 54 図　第20号住居跡 ……85
第 55 図　第20号住居跡出土遺物 ……87
第 56 図　第22号住居跡 ……89
第 57 図　第22号住居跡出土遺物 ……90
第 58 図　第23号住居跡 ……92
第 59 図　第23号住居跡出土遺物(1) ……94
第 60 図　第23号住居跡出土遺物(2) ……95
第 61 図　第24号住居跡 ……97
第 62 図　第24号住居跡出土遺物 ……99
第 63 図　第25号住居跡 ……101
第 64 図　第25号住居跡出土遺物 ……102
第 65 図　第27号住居跡 ……104
第 66 図　第27号住居跡出土遺物 ……105
第 67 図　第28号住居跡 ……107
第 68 図　第28号住居跡出土遺物 ……108
第 69 図　第29号住居跡 ……110
第 70 図　第29号住居跡出土遺物 ……111
第 71 図　第30号住居跡出土遺物 ……112
第 72 図　第１・３・４・５・６・７・８・10・11号土坑 ……114
第 73 図　第７・８号土坑出土遺物 ……115
第 74 図　遺構外出土遺物 ……116
第 75 図　炭焼遺跡集落変遷図(1) ……119
第 76 図　炭焼遺跡集落変遷図(2) ……120
第 77 図　土玉の大きさ ……122
第 78 図　土玉の孔径 ……122
第 79 図　土玉の重量 ……123
札場古墳群
第 80 図　基本土層図 ……125
第 81 図　第１号古墳(1) ……127
第 82 図　第１号古墳(2) ……128
第 83 図　第１号古墳(3) ……129
第 84 図　第１号古墳(4) ……130
第 85 図　第１号古墳出土遺物 ……131
第 86 図　第２号古墳(1) ……133
第 87 図　第２号古墳(2) ……134
第 88 図　第２号古墳(3) ……135
第 89 図　第２号古墳(4) ……136
第 90 図　第２号古墳出土遺物 ……136
第 91 図　第３号古墳(1) ……138
第 92 図　第３号古墳(2) ……139
第 93 図　第３号古墳(3) ……140
第 94 図　第３号古墳(4) ……141
第 95 図　第３号古墳(5) ……142
第 96 図　第３号古墳出土遺物(1) ……143
第 97 図　第３号古墳出土遺物(2) ……144
第 98 図　第４号古墳(1) ……148
第 99 図　第４号古墳(2) ……149

第100図　第４号古墳出土遺物……150
第101図　遺構外出土遺物……151
三和貝塚
第102図　基本土層図……157
第103図　三和貝塚遺構配置図……158
第104図　第１号住居跡……160
第105図　第１号住居跡出土遺物(1)……161
第106図　第１号住居跡出土遺物(2)……162
第107図　第１号住居跡出土遺物(3)……163
第108図　第２号住居跡……164
第109図　第２号住居跡出土遺物……165
第110図　第３号住居跡……166
第111図　第３号住居跡出土遺物……167
第112図　第４号住居跡……168
第113図　第４号住居跡出土遺物……169
第114図　第５号住居跡……171
第115図　第５号住居跡出土遺物……172
第116図　第６号住居跡……173
第117図　第６号住居跡出土遺物……174
第118図　第１・２号炉穴……175
第119図　炉穴出土遺物……176
第120図　第３・４・５・６・７・８号炉穴……178
第121図　第１・２・４号地点貝塚，第９号炉穴…181
第122図　第１・２号地点貝塚出土遺物……182
第123図　第１号地点貝塚出土ハマグリ殻長分布図 183
第124図　第２号地点貝塚出土ハマグリ殻長分布図 184
第125図　第３号地点貝塚出土ハマグリ殻長分布図 184
第126図　第４号地点貝塚出土ハマグリ殻長分布図 185
第127図　第４号地点貝塚出土遺物……186
第128図　第５号地点貝塚……187
第129図　第５号地点貝塚出土ハマグリ殻長分布図 187
第130図　第５号地点貝塚出土遺物……188
第131図　土坑(1)……190
第132図　土坑(2)……191
第133図　土坑(3)……192
第134図　その他の土坑出土遺物(1)……193
第135図　その他の土坑出土遺物(2)……194
第136図　遺構外出土遺物(1)……196
第137図　遺構外出土遺物(2)……197
第138図　茨城県内浮島式期住居跡確認遺跡分布図 198
第139図　三和貝塚炉穴配置図……199
第140図　三和貝塚炉穴の規模分類……199
第141図　三和貝塚炉穴主軸方向……200
第142図　三和貝塚地点貝塚配置図……200
成田古墳群
第143図　基本土層図……205
第144図　第１号住居跡……207
第145図　第１号住居跡出土遺物(1)……208
第146図　第１号住居跡出土遺物(2)……209
第147図　土坑(1)……211
第148図　土坑(2)……212
第149図　第６号土坑出土遺物……213
第150図　第１号古墳(1)……214
第151図　第１号古墳(2)……215
第152図　第２号古墳(1)……217
第153図　第２号古墳(2)……218
第154図　第２号古墳出土遺物……219
第155図　第３号古墳(1)……221
第156図　第３号古墳(2)……222
第157図　第３号古墳(3)……223
第158図　第３号古墳(4)……224
第159図　第３号古墳出土遺物(1)……227
第160図　第３号古墳出土遺物(2)……228
第161図　第３号古墳出土遺物(3)……229
第162図　第３号古墳出土遺物(4)……230
第163図　第３号古墳出土遺物(5)……231
第164図　第３号古墳出土遺物(6)……232
第165図　第４号古墳(1)……233
第166図　第４号古墳(2)……234
第167図　第５号古墳(1)……236
第168図　第５号古墳(2)……237
第169図　第５号古墳(3)……238
第170図　第５号古墳出土遺物……239
第171図　第６号古墳(1)……241
第172図　第６号古墳(2)……242
第173図　第６号古墳(3)……243
第174図　第６号古墳出土遺物……244
第175図　第７号古墳(1)……246
第176図　第７号古墳(2)……247
第177図　第７号古墳(3)……248
第178図　第７号古墳出土遺物(1)……249
第179図　第７号古墳出土遺物(2)……250
第180図　第１号埋設遺構……252
第181図　第１号埋設遺構出土遺物……253
第182図　第１号堀，第２・３・４号溝，第１号土塁状遺構……254
第183図　第１号塚……258
第184図　第１号塚出土遺物……259
第185図　第２～９号塚……260
第186図　遺構外出土遺物……261
第187図　成田古墳群出土古銭……262
第188図　行方郡内古墳分布図……264
第189図　茨城県内湖西産須恵器出土遺跡分布図…267
第190図　金属製壺鐙の編年……269
第191図　茨城県内出土棘付花弁形杏葉図……270
第192図　札場古墳群・成田古墳群古墳変遷図……272
第193図　札場古墳群・成田古墳群古墳配置図……273

付　　図

付図１　札場古墳群遺構配置図
付図２　成田古墳群遺構配置図

表　目　次

表１　周辺遺跡一覧表……8
表２　炭焼遺跡住居跡一覧表……112～113
表３　炭焼遺跡土坑一覧表……115
表４　炭焼遺跡出土古墳時代の須恵器一覧表 121～122
表５　札場古墳群古墳一覧表……151
表６　茨城県内平瓶出土遺跡一覧表……154～155
表７　三和貝塚第１号地点貝塚貝遺存体組成表…183
表８　三和貝塚第１号地点貝塚ｅ２区貝遺存体組成表……183
表９　三和貝塚第２号地点貝塚貝遺存体組成表…184
表10　三和貝塚第２号地点貝塚ａ７区貝遺存体組成表……184
表11　三和貝塚第３号地点貝塚貝遺存体組成表…184
表12　三和貝塚第４号地点貝塚貝遺存体組成表…185
表13　三和貝塚第５号地点貝塚貝遺存体組成表…187
表14　三和貝塚土坑一覧表……189
表15　三和貝塚住居跡一覧表……197
表16　三和貝塚各地点貝塚出土貝種……201
表17　成田古墳群土坑一覧表……213
表18　成田古墳群古墳一覧表……251
表19　成田古墳群出土古銭一覧表……262
表20　茨城県内湖西産須恵器出土遺跡一覧表……267
表21　古墳時代の金属製壺鐙出土遺跡一覧表……269
表22　茨城県内鉄斧出土遺跡一覧表……271

写真図版目次

炭焼遺跡

PL１　遺跡全景，完掘状況
PL２　第１・30号住居跡，第１・30号住居跡遺物出土状況，第２号住居跡，第２号住居跡遺物出土状況
PL３　第３号住居跡，第３号住居跡遺物出土状況，第４号住居跡・第２号土坑，第４号住居跡竈遺物出土状況，第５号住居跡，第５号住居跡遺物出土状況
PL４　第６号住居跡，第６号住居跡遺物出土状況，第８号住居跡，第８号住居跡遺物出土状況，第９号住居跡
PL５　第９号住居跡遺物出土状況，第11号住居跡，第11号住居跡遺物出土状況，第12号住居跡，第12号住居跡遺物出土状況，第13号住居跡
PL６　第13号住居跡遺物出土状況，第14号住居跡，第14号住居跡遺物出土状況，第14号住居跡竈，第14号住居跡竈袖部内遺物出土状況，第15号住居跡
PL７　第15号住居跡遺物出土状況，第16号住居跡，第16号住居跡遺物出土状況，第16号住居跡竈遺物出土状況，第17号住居跡，第17号住居跡遺物出土状況
PL８　第17号住居跡遺物出土状況，第18号住居跡，第18号住居跡遺物出土状況，第19号住居跡，第19号住居跡遺物出土状況
PL９　第19号住居跡竈遺物出土状況，第20号住居跡，第20号住居跡遺物出土状況，第22号住居跡，第22号住居跡遺物出土状況
PL10　第22号住居跡遺物出土状況，第22号住居跡竈遺物出土状況，第23号住居跡，第23号住居跡遺物出土状況，第24号住居跡遺物出土状況
PL11　第24号住居跡遺物出土状況，第24号住居跡竈遺物出土状況，第25号住居跡，第27号住居跡，第27号住居跡遺物出土状況，第27号住居跡竈遺物出土状況，第28号住居跡遺物出土状況
PL12　第28号住居跡，第28号住居跡遺物出土状況，第28号住居跡竈遺物出土状況，第29号住居跡，第29号住居跡炭化材出土状況，第４号土坑，第５号土坑，第７号土坑
PL13　第１・２号住居跡出土遺物
PL14　第２・３号住居跡出土遺物
PL15　第３号住居跡出土遺物
PL16　第３・４・５号住居跡出土遺物
PL17　第５・６号住居跡出土遺物
PL18　第６号住居跡出土遺物
PL19　第６号住居跡出土遺物
PL20　第６・８・９号住居跡出土遺物
PL21　第９・11・12・13・14号住居跡出土遺物
PL22　第14・15号住居跡出土遺物
PL23　第15・16号住居跡出土遺物
PL24　第16・17・18号住居跡出土遺物
PL25　第18・19号住居跡出土遺物
PL26　第19・20・22号住居跡出土遺物
PL27　第22・23号住居跡出土遺物
PL28　第23・24・25・27号住居跡出土遺物
PL29　第27・28・29号住居跡，第７号土坑出土遺物，遺構外出土遺物，各遺構出土須恵器
PL30　各遺構出土須恵器，土玉

札場古墳群

PL31　遺跡全景
PL32　第１号古墳，第１号古墳調査前風景，第１号古墳墳丘土層断面，第１号古墳周溝集石状況，第１号古墳箱式石棺遺物出土状況
PL33　第２号古墳，第２号古墳周溝集石状況，第２号古墳横穴式石室，第２号古墳横穴式石室石組状況，第２号古墳横穴式石室玄門，第３号古墳箱式石棺，第３号古墳第１箱式石棺

PL34 第3号古墳，第3号古墳周溝集石状況，第3号古墳周溝須恵器出土状況，第3号古墳第2箱式石棺，第3号古墳第2箱式石棺遺物出土状況，第4号古墳，第4号古墳箱式石棺遺物出土状況
PL35 第1・2・3号古墳出土遺物
PL36 第3号古墳出土遺物
PL37 第3・4号古墳出土遺物，遺構外出土遺物，各遺構出土須恵器
三和貝塚
PL38 遺跡全景
PL39 調査前風景，完掘状況
PL40 第1号住居跡，第1号住居跡・第3号地点貝塚遺物出土状況
PL41 第1号住居跡遺物出土状況，第3号地点貝塚，第2・3号住居跡
PL42 第2・3号住居跡遺物出土状況，第2号住居跡，第3号住居跡，第3号住居跡遺物出土状況，第4号住居跡遺物出土状況，第5号住居跡遺物出土状況
PL43 第4号住居跡，第5号住居跡
PL44 第6号住居跡，第6号住居跡遺物出土状況，第1号炉穴，第2号炉穴
PL45 第3号炉穴，第4号炉穴，第6号炉穴，第1号地点貝塚土層断面，第1号地点貝塚
PL46 第1号地点貝塚，第1号地点貝塚土層断面，第4号地点貝塚，第4号地点貝塚遺物出土状況，第5号地点貝塚
PL47 第1・3・5・6・8・9・11・12号土坑
PL48 第15・19・21・27・28・30号土坑，第30号土坑遺物出土状況，テストピット
PL49 第1号住居跡出土遺物
PL50 第1号住居跡出土遺物
PL51 第2・3・4・5・6号住居跡，第1号地点貝塚出土遺物
PL52 第2・3・4・5号地点貝塚，第21号土坑出土遺物
PL53 遺構外出土遺物，現地説明会風景
成田古墳群
PL54 遺跡全景
PL55 第1号住居跡，第1号住居跡遺物出土状況，第1号古墳，第1号古墳箱式石棺
PL56 第2号古墳調査前風景，第2号古墳，第2号古墳遺物出土状況，第2号古墳第1箱出土石棺，第2号古墳第2箱式石棺
PL57 第3号古墳，第3号古墳横穴式石室
PL58 第3号古墳調査前風景，第3号古墳墳丘土層断面，第3号古墳横穴式石室確認状況，第3号古墳墓道須恵器出土状況，第3号古墳横穴式石室遺物出土状況
PL59 第3号古墳横穴式石室遺物出土状況，第3号古墳横穴式石室玄門，第3号古墳横穴式石室石組状況，第3号古墳箱式石棺，第3号古墳箱式石棺遺物出土状況
PL60 第4号古墳，第4号古墳周溝集石状況，第4号古墳横穴式石室，第5号古墳箱式石棺蓋石，第5号古墳箱式石棺，第5号古墳箱式石棺遺物出土状況
PL61 第5号古墳，第5号古墳箱式石棺
PL62 第6号古墳調査前風景，第6号古墳，第6号古墳箱式石棺，第6号古墳箱式石棺遺物出土状況
PL63 第7号古墳，第7号古墳箱式石棺，第7号古墳周溝集石状況，第7号古墳周溝遺物出土状況
PL64 第7号古墳箱式石棺遺物出土状況，第1号埋設遺構，第1号堀・第2・4号溝，第1号土塁状遺構
PL65 第1号塚調査前風景，第1号塚土層断面，第2～9号塚調査前風景，第1号土坑，第2号土坑，第3号土坑，第8号土坑，第10号土坑
PL66 第1号住居跡出土遺物
PL67 第1号住居跡，第2・3号古墳出土遺物
PL68 第3号古墳出土遺物
PL69 第3号古墳出土遺物
PL70 第5・6・7号古墳出土遺物
PL71 第7号古墳，第1号埋設遺構，第1号塚出土遺物
PL72 第3号古墳出土遺物X線
PL73 第3号古墳出土遺物X線
PL74 第3号古墳出土遺物X線

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

茨城県は，鹿行地域の総合的発展を目指して，東関東自動車道路の水戸～潮来間の延伸や，これを補完する国道や主要地方道路の整備を図っている。このため，この地域は，都市的開発の可能性が極めて高くなって来ている。このような状況の中で，北浦複合団地造成事業が計画された。

平成6年3月28日，茨城県は，茨城県教育委員会に対し，北浦複合団地造成事業予定地内の三和・内宿・成田及び長野江地区における埋蔵文化財の有無について照会した。茨城県教育委員会は，同年5月11・24日，6月23日に現地踏査，同年10月11～13日，平成7年1月24～26日に試掘調査を実施した。同年3月2日に茨城県教育委員会は，事業予定地内に，炭焼遺跡・三和貝塚・札場古墳群・成田古墳群・木工台遺跡・木工台古墳群・手配台遺跡及び内宿井戸作台城跡が所在することを，茨城県に回答した。茨城県と茨城県教育委員会は，埋蔵文化財の取り扱いについて，文化財保護の立場から慎重な協議を重ねてきた。その結果，同年3月9日，炭焼遺跡・札場古墳群及び成田古墳群について記録保存の措置を講ずることとし，茨城県教育委員会は，茨城県に埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成7年4月1日から発掘調査を実施することになった。

平成7年11月24日，茨城県は，茨城県教育委員会と成田古墳群の平成7年度発掘調査区域6,000㎡の内，民有地3,471㎡について土地所有者と調整未了のため，発掘調査計画の変更協議をした。同年11月24日，茨城県教育委員会は，茨城県に事業の円滑な推進を勘案して，発掘調査計画を次のように変更することを回答した。①成田古墳群（当初6,000㎡）の調査面積を減じ，県有地2,529㎡を調査する。②新たに三和貝塚（2,515㎡）の発掘調査を追加実施する。

平成8年1月30日，茨城県と茨城県教育委員会は，成田古墳群（8,477㎡）・木工台遺跡（20,949㎡）の取り扱いについて，文化財保護の立場から慎重な協議を行った。同年2月5日，茨城県教育委員会は，茨城県に成田古墳群・木工台遺跡を記録保存の措置を講ずることとし，調査機関として，引き続き財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成8年4月1日から発掘調査を実施することになった。

平成8年7月11日，財団法人茨城県教育財団から茨城県教育委員会あてに，成田古墳群の調査区東側（北浦町大字成田字手配台343番地－1ほか　1,150㎡）に古墳群の広がりが認められる旨報告があり，その取り扱いについて照会があった。同年8月5日，茨城県は，茨城県教育委員会に異存のない旨を回答した。同年8月10日，茨城県教育委員会は，財団法人茨城県教育財団に，成田古墳群の調査範囲を拡大（1,150㎡増）し，調査面積を9,627㎡とすると回答した。

第2節　調査経過

炭焼遺跡，札場古墳群，三和貝塚及び成田古墳群の発掘調査は，平成7年4月1日から平成9年3月31日ま

での２か年にわたり実施した。平成８年度は木工台遺跡の調査も併行して実施した。

《炭焼遺跡》

4　月　４日に現地踏査を行い，発掘調査をするための事前準備を行った。続いて発掘器材の搬入など発掘調査の諸準備を行った。14日に調査補助員を投入して，諸施設の整備，調査区域内の清掃・焼却作業をし，18日に関係者列席のもと，発掘調査の円滑な推進と作業の安全を願って鍬入れ式を挙行した。同日午後から手掘りによる試掘調査を実施した。

5　月　引き続き試掘調査を実施し，遺構の存在を確認した。16日には，遺跡の堆積状況を調べるため，テストピットを設定した。同日から重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。23日から方眼杭打ち測量（茨城県建設技術公社に委託）を開始した。25日に重機による表土除去を終え，遺構確認作業と併行して，住居跡の掘り込みを開始した。

6　月　引き続き遺構調査（住居跡）を実施した。

7　月　引き続き遺構調査（住居跡・土坑）を実施した。

8　月　遺構調査をほぼ終了し，札場古墳群の古墳の墳丘上の除草作業を開始した。10日に航空写真撮影を行い，竈の断ち割りをはじめとする補足調査を実施した。18日に補足調査を含めたすべての調査を終了した。

《札場古墳群》

8　月　３日から古墳の墳丘上の除草作業を開始した。７日から方眼杭打ち測量（茨城県建設技術公社に委託）を開始した。22日から古墳の墳丘測量と手掘りによる試掘調査を実施した。31日から古墳の墳丘の掘り込みを開始した。

9　月　引き続き手掘りによる試掘調査と古墳の墳丘の掘り込みを実施した。試掘の結果，古墳４基を確認し，古墳の周辺のみを表土除去することにした。

10　月　３日には，遺跡の堆積状況を調べるため，テストピットを設定した。また，同日から重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。30日に重機による表土除去を終えた。

11　月　引き続き古墳の遺構調査を実施した。

12　月　引き続き古墳の遺構調査を実施し，６日に航空写真撮影を行い，主体部の展開図をはじめとする補足調査を開始した。同日から三和貝塚の伐開及び手掘りによる試掘調査を実施した。また，11日から成田古墳群の伐開作業を開始した。

1　月　引き続き古墳の補足調査を実施し，26日にすべての調査を終了した。

3　月　16日に札場古墳群を中心に現地説明会を実施した。

《三和貝塚》

12　月　６日から伐開及び手掘りによる試掘調査を開始した。

1　月　８日から重機による表土除去を開始した。16日に重機による表土除去を終え，遺構確認作業を開始した。24日に方眼杭打ち測量（茨城県建設技術公社に委託）を実施した。31日から住居跡の掘り込みをはじめとする遺構調査を開始した。

2　月　引き続き遺構調査（住居跡・土坑・地点貝塚）を実施した。13日に遺跡の堆積状況を調べるため，テストピットを設定した。

3　月　引き続き遺構調査（住居跡・土坑・地点貝塚）を実施した。12日に航空写真撮影を実施し，補足調査を開始した。18日にすべての調査を終了した。

《成田古墳群》

12　月　11日から伐開・焼却作業を開始した。同時に試掘調査を実施した。

1　月　引き続き伐開・焼却作業を実施した。18日から古墳・塚の墳丘測量を実施した。31日から重機による表土除去を開始した。

2　月　引き続き重機による表土除去を実施した。13日に重機による表土除去を終え，遺構確認作業を開始した。

3　月　引き続き遺構確認作業を実施した。5日に方眼杭打ち測量（茨城県建設技術公社に委託）を実施した。8日から古墳の掘り込みをはじめとする遺構調査を開始した。22日をもって平成7年度の調査を終了した。

4　月　5日に現地踏査を行い，平成8年度の発掘調査をするための事前準備を行った。15日に調査補助員を投入して昨年度に引き続き，古墳・塚・溝の調査を実施した。23日から伐開・残木処理を行った。

5　月　引き続き伐開・残木処理を行いながら，古墳の墳丘測量及び土塁状遺構の測量を開始した。8日から試掘調査を実施した。13日から古墳の墳丘の掘り込みをはじめとする遺構調査を開始した。

6　月　引き続き古墳の墳丘の掘り込みをはじめとする遺構調査を実施した。10日から重機による表土除去を開始した。19日からは遺跡の堆積状況を調べるためにテストピットを設定した。

7　月　引き続き重機による表土除去を実施した。1日から遺構確認作業を開始した。4日に方眼杭打ち測量（茨城県建設技術公社に委託）を実施した。25日に重機による表土除去を終えた。

8　月　引き続き古墳の掘り込みを中心に遺構調査を実施した。9日に東側の拡張部の重機による表土除去を開始し，併行して，遺構確認作業を実施した。26日に重機による表土除去を終えた。28日から木工台遺跡の伐開作業を開始した。

9　月　引き続き遺構調査を実施した。11日に航空写真撮影を実施し，補足調査を開始した。

10　月　引き続き補足調査を実施した。14日をもってすべての調査を終了した。

第2章　位　置　と　環　境

第1節　地理的環境

炭焼遺跡は，茨城県行方郡北浦町大字三和字炭焼2022番地ほかに，札場古墳群は，行方郡北浦町大字三和字札場1711番地ほかに，三和貝塚は，行方郡北浦町大字三和字二ノ間2037番地－4ほかに，成田古墳群は,行方郡北浦町大字成田字手配台348番地ほかにそれぞれ所在し，北浦町役場から北々西に約3.6～4.4kmのところに位置している。

遺跡が所在する北浦町は，茨城県の南東部に位置し，北は鹿島郡鉾田町に，東は北浦をはさんで同郡大洋村に，南は行方郡麻生町に，西は同郡玉造町に接している。当町は，昭和30年に津澄村，要村及び武田村の3村が合併して北浦村となり，平成9年10月1日に現在の北浦町となった。行方郡の北部に位置する当町の総面積は約58.5km²で，東西約9km，南北約7.5kmのやや東西に長い町域である。

北浦町の地形を概観すると，北浦湖岸近くまで延びている台地と湖岸沿いの低湿地，及び小河川によって形成される低地にほぼ分けられる。台地は玉造町方面から潮来町方面に延びる標高35～39mの行方台地で，緩やかな丘陵を形成しており，畑や山林等に利用されている。また，湖岸に面した台地の東側には支谷が樹枝状に入り組んでいる。台地の内陸部は，比較的広い台地を形成しているが，先端部分は細長く突出した舌状台地となっている。台地を開折しながら東流し，北浦に注ぐ武田川・山田川・蔵川の両岸に開ける低地や，湖西部の沿岸に帯状に巡る湖岸低地は，当町の水田地帯を形成している。

地質は，砂鉄質の中粒砂よりなる石崎層（見和層堆積以前の洪積層を総称），灰褐色のシルトからなる見和下層（見和層は関東平野に広く分布する狭義の成田層に対比される），黄褐色の中粒砂からなる見和上層，灰色中粒～粗粒の砂からなる竜ヶ崎砂礫層，灰白色粘土層の茨城粘土層（県南では常総粘土層，千葉県の松戸粘土層・東京の板橋粘土層に対比される），関東ローム層（南関東の武蔵野ローム層・立川ローム層に対比され，一般に新期ローム層と言われている。また，宇都宮付近のローム層序と比較すると田原ローム層・宝木ローム層に対比される）の順で堆積している。

炭焼遺跡他3遺跡は，北浦町の北東部にあり，北浦西岸の行方台地の縁辺部に位置している。炭焼遺跡は，北浦に張り出した標高22～27m舌状台地の縁辺部に位置し，東側は沖積低地として水田に利用されている。水田との比高は，約20mである。調査前の現況は，畑と雑木林である。札場古墳群他2遺跡は，炭焼遺跡よりも内陸の標高30～34mの行方台地の縁辺部に位置している。低地との比高は約30mである。調査前の現況は，札場古墳群と三和貝塚は，畑で，成田古墳群は，山林である。

《参考文献》

・大森昌衛・蜂須紀夫『茨城の地質をめぐって』1987年8月
・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　玉造』1984年11月
・茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査　磯浜・鉾田』1991年3月

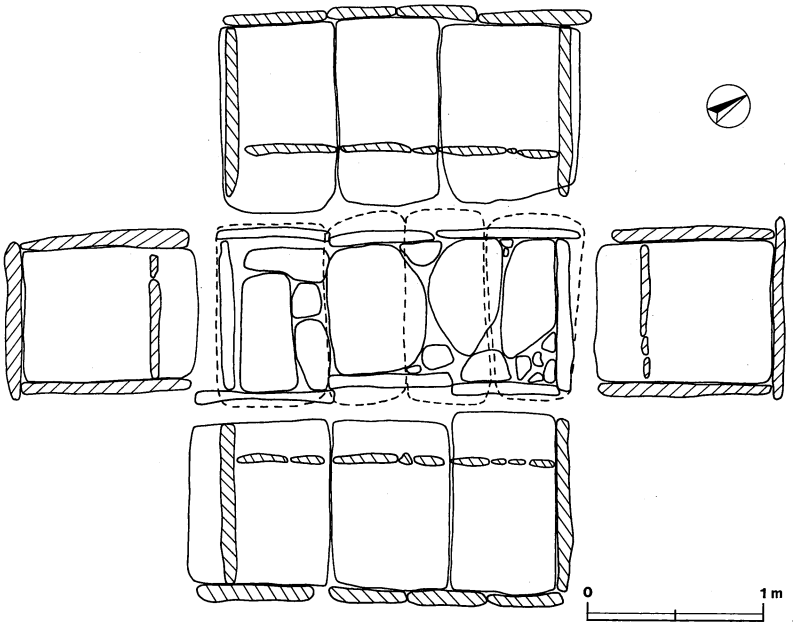
第2節　歴史的環境

北浦町には，縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。当町は，北浦をはじめとした水利に

恵まれており，霞ケ浦と北浦に面した行方台地は，古代から人々の生活に絶好の舞台となってきた。ここでは，北浦町の主な遺跡について時代を追って述べる事にする。

旧石器時代の遺跡として，古館遺跡[1]<42>があり，珪質頁岩製の削器が出土している。

縄文時代になると，県内各地に貝塚が形成されるようになり，当町内でも15か所の貝塚[2]が確認されている。貝塚をはじめ縄文時代の遺跡は，北浦に面する湖岸の台地上や武田川，山田川の両岸の台地上に多く見られる。調査が実施された遺跡として，次のような遺跡がある。森戸貝塚とも呼ばれる鬼越貝塚<65>は，清水潤三氏により，昭和29年7月に調査され，後期の遺跡であることが判明した[3]。鶴ケ居貝塚<35>は，同村教育委員会によって，昭和47年7月に調査され，中期から後期の遺跡であることが判明した[4]。今山遺跡[5]<38>，六台遺跡[6]<41>，平遺跡[7]<43>は，山田地区遺跡発掘調査会により，昭和63年から平成元年にかけて調査され，中期の集落跡であることが判明した。今山遺跡からは，早期のファイヤーピットも確認されている。六台遺跡からは，中期のフラスコ状土坑が7基確認されている。また，茨城県立歴史館の学術調査[8]によると，今山貝塚<38>は中期の貝塚，成田早川貝塚<10>は中期から後期の貝塚であることが分かった。この他には，出土遺物等により時期の判明している遺跡として，中期から後期にかけての遺跡として長野江貝塚<5>，両宿貝塚<19>，後期の遺跡として，並松遺跡<54>，後期から晩期にかけての遺跡として戸呂井戸遺跡<48>，晩期の遺跡として，穴瀬貝塚<6>，大塚遺跡<36>等がある。今回調査した三和貝塚<3>は，中期の貝塚と考えられていたが，前期の貝塚であることが判明した。



第2図　堂目木1号墳箱式石棺（註9より再トレース1部改変）

弥生時代の遺跡としては，包蔵地が確認されており，武田川流域と山田川流域に分布している。武田川流域には，両宿神明遺跡<59>，下山遺跡<18>，内宿遺跡<16>等が所在し，山田川流域には，御門山遺跡<30>，南高岡平遺跡<66>，関戸遺跡<31>，古屋平遺跡<29>，中山遺跡<49>等が所在している。

古墳時代の遺跡は，今回報告する集落跡の炭焼遺跡<1>，古墳群の札場古墳群<2>，成田古墳群<4>の他に，古墳群としては，大塚古墳群<20>，新堀古墳群<23>，ドンビン塚古墳群<25>，堂目木古墳群<26>，及び平成9年度に調査された木工台古墳群<11>等がある。堂目木1号墳は小規模な前方後円墳で，くびれ部で確認された箱式石棺から水晶製切子玉・ガラス玉や直刀片が出土している[9]（第2図参照）。集落跡としては，昭和63年から平成元年に六台遺跡，古屋敷遺跡[10]<40>，平遺跡，今山遺跡，古館遺跡[11]，平成2年に風早遺跡[12]<44>等が調査され，古墳時代前期から後期にかけての遺構が確認されている。古屋敷遺跡からは円窓土器[13]が出土している。

奈良・平安時代の遺跡としては，今回報告する炭焼遺跡の他に，六台遺跡，古屋敷遺跡，平遺跡，今山遺跡，古館遺跡，平成3年に調査された菖蒲沢遺跡[14]<55>及び平成8年から平成9年に調査された木工台遺跡<12>が

ある。六台遺跡からは青銅製の丸鞆が出土している。木工台遺跡からは多数の住居跡の他に製鉄関連遺構が確認されている。

鎌倉・室町時代になると城館跡が主になり，武田川流域には，武田氏が築いた神明城跡[15]<14>，木崎城跡[16]<17>，小貫館跡<63>，西館跡<15>及び内宿館跡<13>等が所在している。山田川流域左岸台地上には，山田氏が築いた山田城跡<46>，前館跡<53>，古館遺跡，古屋敷跡及び平遺跡等が所在している。同流域右岸台地上には，小幡氏が築いた小幡城跡<64>，古屋台館跡<32>，前原館跡<33>等が所在している。このうち，昭和62年に神明城跡，昭和63年から平成元年にかけて古館遺跡，古屋敷遺跡及び平遺跡，平成6年に木崎城跡が調査されている。

※文中の<　>内の番号は，表1，第3図中の該当番号と同じである。

《註》

(1)山田地区遺跡発掘調査会『古館遺跡調査報告書』 1990年3月

(2)北浦村教育委員会『北浦村文化財地図』 1986年8月

(3)茨城県『茨城県史料　考古史料編　先土器・縄文時代』 1979年3月

(4)北浦村教育委員会『北浦村鶴ケ居貝塚』 1972年7月

(5)山田地区遺跡発掘調査会『今山遺跡調査報告書』 1990年3月

(6)山田地区遺跡発掘調査会『六台遺跡調査報告書』 1990年3月

(7)山田地区遺跡発掘調査会『平遺跡調査報告書』 1990年3月

(8)茨城県歴史館『県内貝塚における動物遺存体の研究(3)』 1981年3月

(9)茂木雅博「堂目木1号墳調査報告」『茨城考古学』第1号　茨城考古学会　1968年3月

(10)山田地区遺跡発掘調査会『古屋敷遺跡調査報告書』 1990年3月

(11)山田地区遺跡発掘調査会『古館遺跡調査報告書』 1990年3月

(12)山田地区遺跡発掘調査会『風早遺跡調査報告書』 1990年3月

(13)円窓土器の県内での出土事例は，稲敷郡江戸崎町の二の宮貝塚第4号住居跡，那珂郡那珂町森戸遺跡豪族居館跡，竜ヶ崎市外八代遺跡第067号住居跡，鹿島郡鉾田町烟田遺跡第10号住居跡，ひたちなか市山崎遺跡第7号住居跡等がある。

・茨城県教育財団「一般県道新川江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　二の宮貝塚他」『茨城県教育財団文化財調査報告』第65集　1991年3月

・茨城県教育財団「一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　森戸遺跡他」『茨城県教育財団文化財調査報告』第55集　1990年3月

・茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書2　外八代遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅱ　1980年3月

・茨城県教育財団「鹿島線関係遺跡発掘調査報告書　烟田遺跡他」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅵ　1980年3月

・茨城県教育財団「常陸那珂有料道路事業地内埋蔵文化財調査報告書　山崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第105集　1995年9月

(14)菖蒲沢遺跡調査会『菖蒲沢遺跡調査報告書』 1991年11月

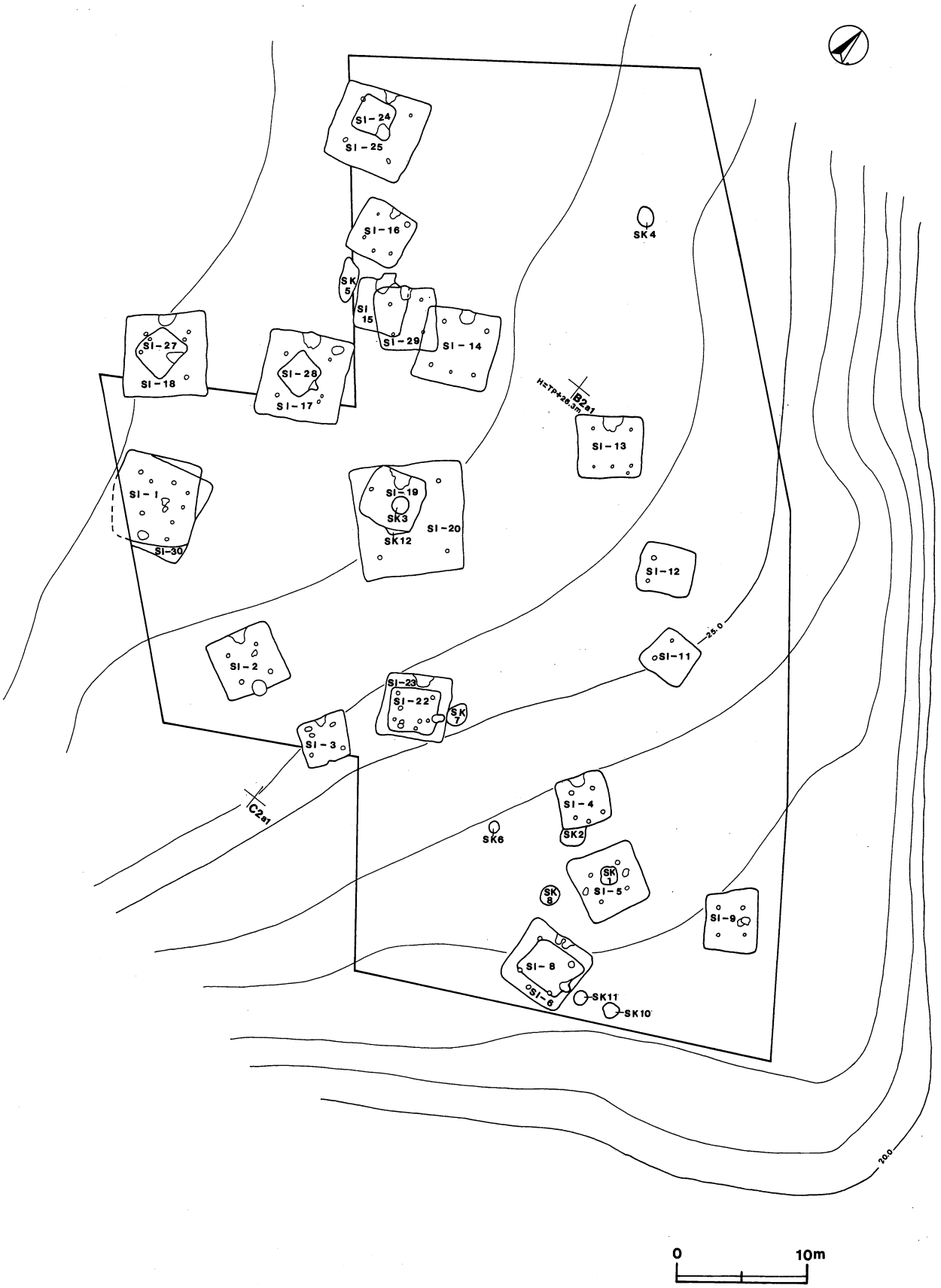
(15)茨城県教育財団「主要地方道土浦・大洋線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書　神明城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第48集　1988年9月

(16)茨城県教育財団「国道354号国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　木崎城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第109集　1996年3月

第3図　周辺遺跡分布図

表１　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降	番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降
①	炭焼遺跡(当遺跡)					○	○		34	御門山古墳群	1486		○		○		
②	札場古墳群(当遺跡)	1478				○			35	鶴ケ居貝塚	1435		○				
③	三和貝塚(当遺跡)	1490		○					36	大塚遺跡	1419		○				
④	成田古墳群(当遺跡)	1479				○			37	千両山古墳群	1418				○		
5	長野江貝塚	1492		○					38	今山貝塚(今山遺跡)	1437		○		○	○	
6	穴瀬貝塚	1461		○					39	中山古墳群	1424				○		
7	金上遺跡	1459		○					40	古屋敷(遺)跡	1428				○	○	○
8	道祖神遺跡	1462		○					41	六台貝塚(六台遺跡)	1436		○		○	○	
9	塚原古墳群	1412				○			42	古館(遺)跡	1426	○			○	○	○
10	成田早川貝塚	1463		○					43	平遺跡	1439		○		○	○	○
11	木工台古墳群	1481				○			44	風早遺跡					○		
12	木工台遺跡	1464				○	○		45	妙義台貝塚	1442		○				
13	内宿館跡	1487						○	46	山田城跡	1425						○
14	神明城跡	1429						○	47	新橋古墳群	1415				○		
15	西館跡	1433						○	48	戸呂井戸遺跡	1440		○				
16	内宿遺跡	1489						○	49	中山遺跡	1441			○	○		
17	木崎城跡	1430						○	50	京田古墳群	5168				○		
18	下山遺跡	1466		○	○	○			51	蛍入古墳群	5167				○		
19	両宿貝塚	1465		○					52	前館遺跡	1467				○		
20	大塚古墳群	1470				○			53	前館跡	1427						○
21	松並古墳群	1417				○			54	並松遺跡	1434		○				
22	権現山古墳群	1414				○			55	菖蒲沢遺跡			○		○	○	
23	新堀古墳群	1471				○			56	清水台古墳群	1420				○		
24	殿山古墳群	1469				○			57	台山古墳群	1422				○		
25	ﾄﾞﾝﾋﾞﾝ塚古墳群	1482				○			58	北原古墳群	1416				○		
26	堂目木古墳群	1483				○			59	両宿神明遺跡	5174		○	○	○		
27	大峰古墳群	1484				○			60	塚原古墳群	1480				○		
28	地蔵後古墳群	1485				○			61	うなぎ塚古墳群	5166		○	○	○		
29	古屋平遺跡	1453		○	○	○			62	諏訪後古墳群	1421				○		
30	御門山遺跡	1454			○				63	小貫館跡	5173						○
31	関戸遺跡	1472		○	○	○			64	小幡城跡	1431						○
32	古屋台館跡	1432						○	65	鬼越貝塚	1444		○				
33	前原館跡	1488						○	66	南高岡平遺跡	5164		○	○	○		



第４図　炭焼遺跡遺構配置図

第3章　炭　焼　遺　跡

第1節　遺跡の概要

炭焼遺跡は，北浦町の北東部に位置し，北浦西岸の行方台地の縁辺部に立地している。台地は，標高22～27mで，北浦西岸の低地面との比高は17～22mである。調査区域は東西約72m，南北約68m，面積2,763m²で，現況は畑・雑木林である。当遺跡は，縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。

今回の調査では，古墳時代中期の竪穴住居跡4軒，後期の竪穴住居跡17軒，平安時代の竪穴住居跡5軒，土坑11基を検出した。古墳時代の住居跡で，炉跡をもつ住居跡は5軒，竈をもつ住居跡は14軒である。平安時代の住居跡は，竈を東壁にもち，全て古墳時代の住居跡を掘り込んで構築している。

遺物は，縄文土器片，弥生土器片，土師器（坏・高坏・甕・壺・甑），須恵器（坏身・坏蓋・甕・瓶），石製品（砥石・紡錘車・磨製石斧），土製品（土玉・支脚・紡錘車）が出土している。須恵器は全て古墳時代のものである。第22号住居跡からは，「山田」と墨書された土器が出土している。

第2節　基本層序

炭焼遺跡においては，調査区北部A1f7区にテストピットを設定し，第5図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は，厚さ40～46cmで，褐色の耕作土である。

第2層は，厚さ14～20cmで，やや赤みを帯びた褐色土層である。

第3層は，厚さ20～32cmで，ソフトローム層への漸移層である。

第4層は，厚さ14～20cmで，明褐色のソフトローム層である。

第5層は，厚さ30～42cmで，ローム中ブロックを中量含むややしまりのある明褐色土層である。

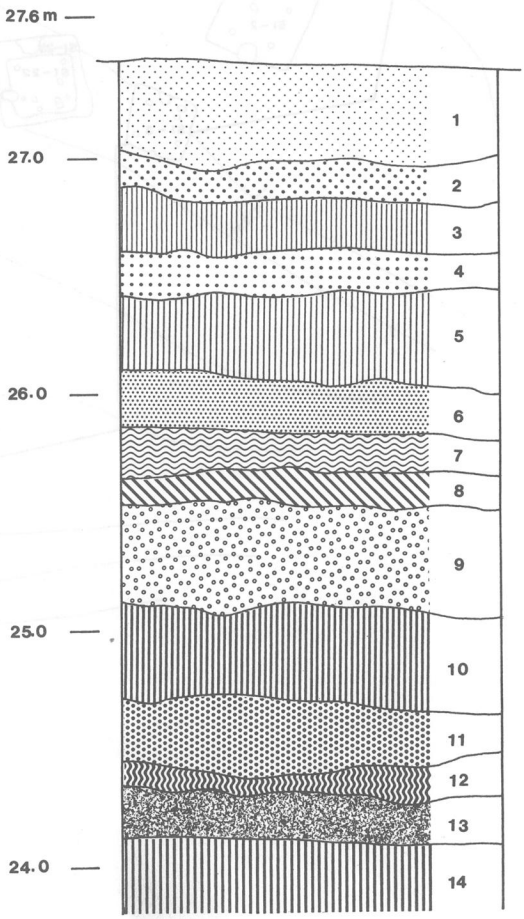
第6層は，厚さ20～24cmで，しまりのある明褐色のハードローム層である。

第7層は，厚さ16～22cmで，ややしまりのある明褐色のハードローム層である。

第8層は，厚さ12～16cmで，やや黒っぽい感じのする明褐色のハードローム層である。

第9層は，厚さ40～44cmで，粘性もしまりもある明褐色のハードローム層である。

第10層は，厚さ34～40cmで，8層に比べてしまりの



第5図　炭焼遺跡基本土層図

つよい明褐色のハードローム層である。

第11層は，厚さ16～34cmで，粘性もしまりも極めてつよく，粘土ブロックを少量含んだ明褐色土層である。

第12層は，厚さ８～20cmで，粘土ブロックを少量含んだ黄褐色土層である。

第13層は，厚さ16～24cmで，オリーブ褐色の粘土層への漸移層である。

第14層は，粘性の極めてつよい黄褐色の粘土層である。

遺構は，第２層上面で確認できたが，地山と区別が難しく，第２層から第３層上面での確認の方が明瞭である。

第３節　遺構と遺物

１　竪穴住居跡

今回の調査では，古墳時代中期の竪穴住居跡４軒，後期の竪穴住居跡17軒，平安時代の竪穴住居跡５軒を検出した（SI１～30，内SI７，10，21，26は欠番）。

以下，検出した住居跡の特徴や遺物について記載する。

第１号住居跡（第６図　PL２）

位置　調査区の西部，$B1_{g5}$区を中心に確認されているが，南西側は調査エリア外に延びている。

重複関係　本跡の大部分が，第30号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸6.90m，短軸6.70mの方形と考えられる。

主軸方向　N－61°－E

壁　壁高15～35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平担で，炉跡の周辺を中心によく踏み固められている。

炉　P_1・P_2を結んだ直線上より，やや内側に２基確認している。炉Ａは長径72cm，短径56cmの不定形をした地床炉で，床面をわずかに掘り凹め，炉床面は，赤変しているが硬化していない。炉Ｂは長径42cm，短径32cmの楕円形の地床炉で，床面をわずかに掘り凹め，炉床面は，赤変しているが硬化していない。

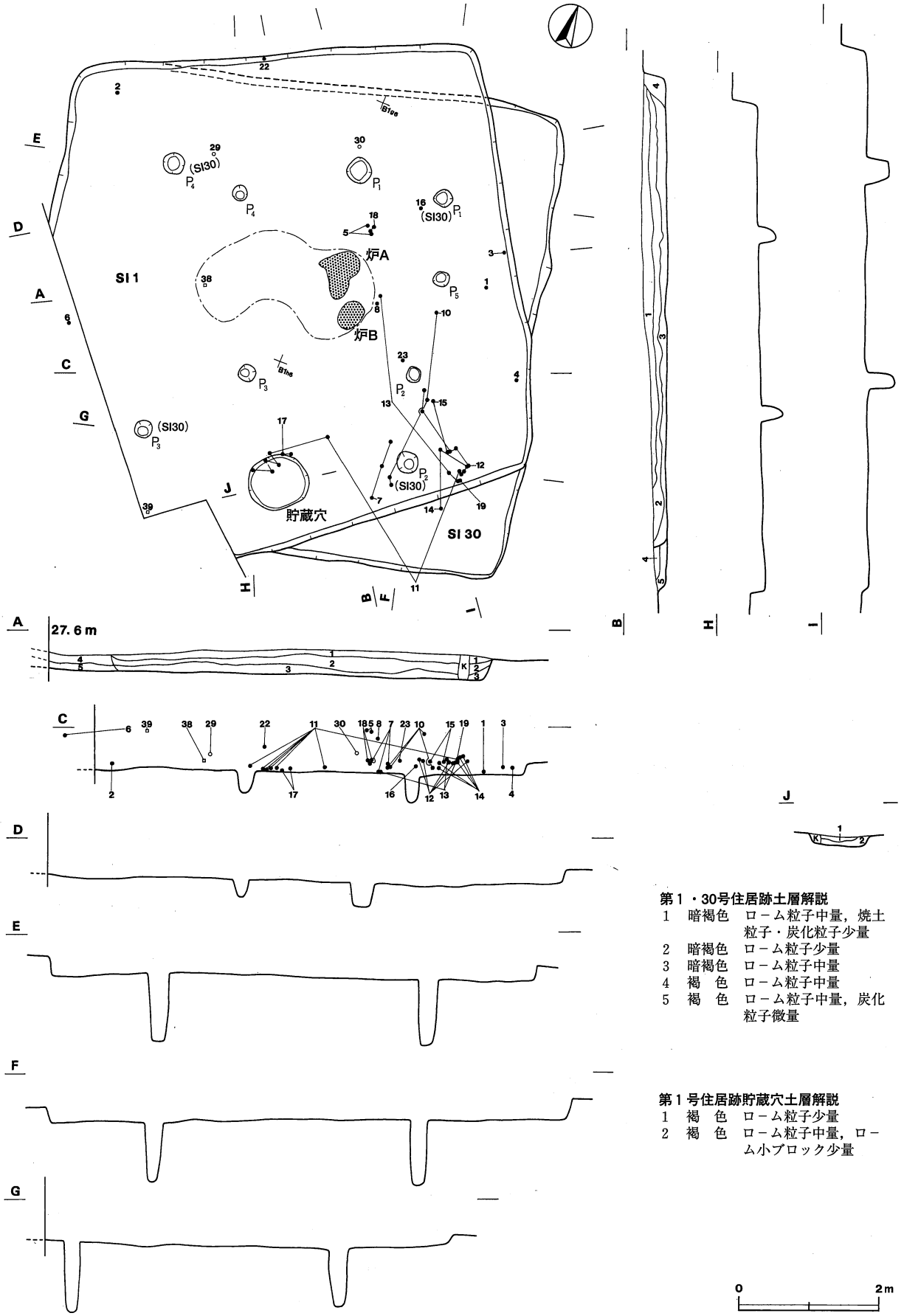
ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径20～36cmの円形，深さ25～38cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径24cmの円形，深さ24cmであるが性格は不明である。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，平面形は長径88cm，短径78cmの楕円形である。深さ14cmで，断面形は逆台形をしている。底面は平担で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　３層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片1318片（坏片47片，鉢片１片，甕片1368片，壺片１片，甑片１片），縄文土器片16片が，東部から南部にかけての床面や覆土中から出土している。第７図１の土師器坏は正位の状態で，３・４の土師器坏は横位の状態でそれぞれ北東壁際中央部床面から出土している。６の土師器鉢は西部床面から横位の状態で出土している。２の土師器坏は北西コーナー床面から正位の状態で，７の土師器鉢は東部床面から，８の土師器椀は中央部床面から正位の状態で，11の土師器甕は南部床面からつぶれた状態で出土している。第８図22の須恵器坏蓋が北西壁際覆土上層から出土している。第９図29の土玉は西部覆土中層から，30の土玉は北部覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第30号住居跡より新しく，遺構の形態と遺物等から５世紀中葉の住居跡と考えられる。



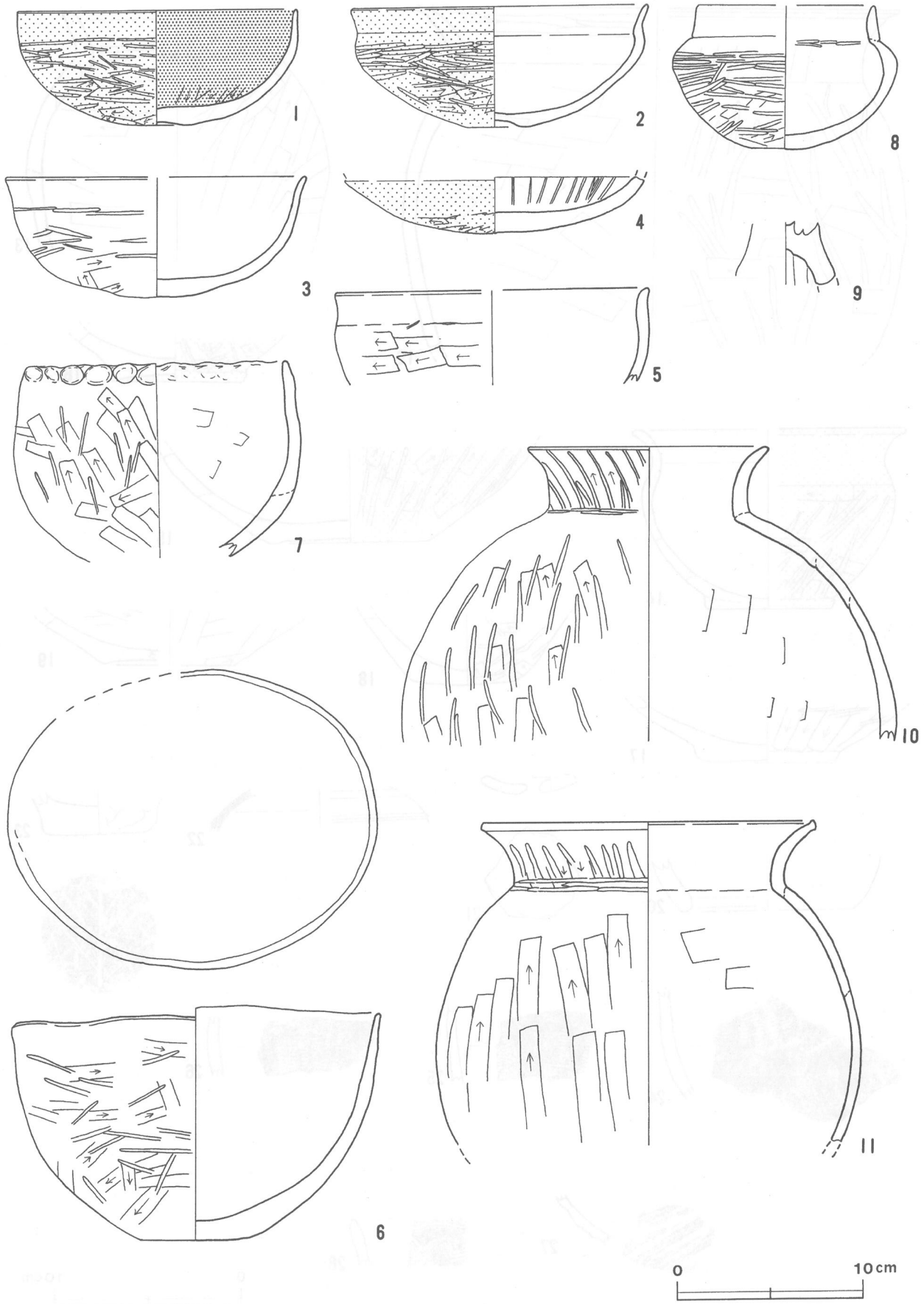
第1・30号住居跡土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

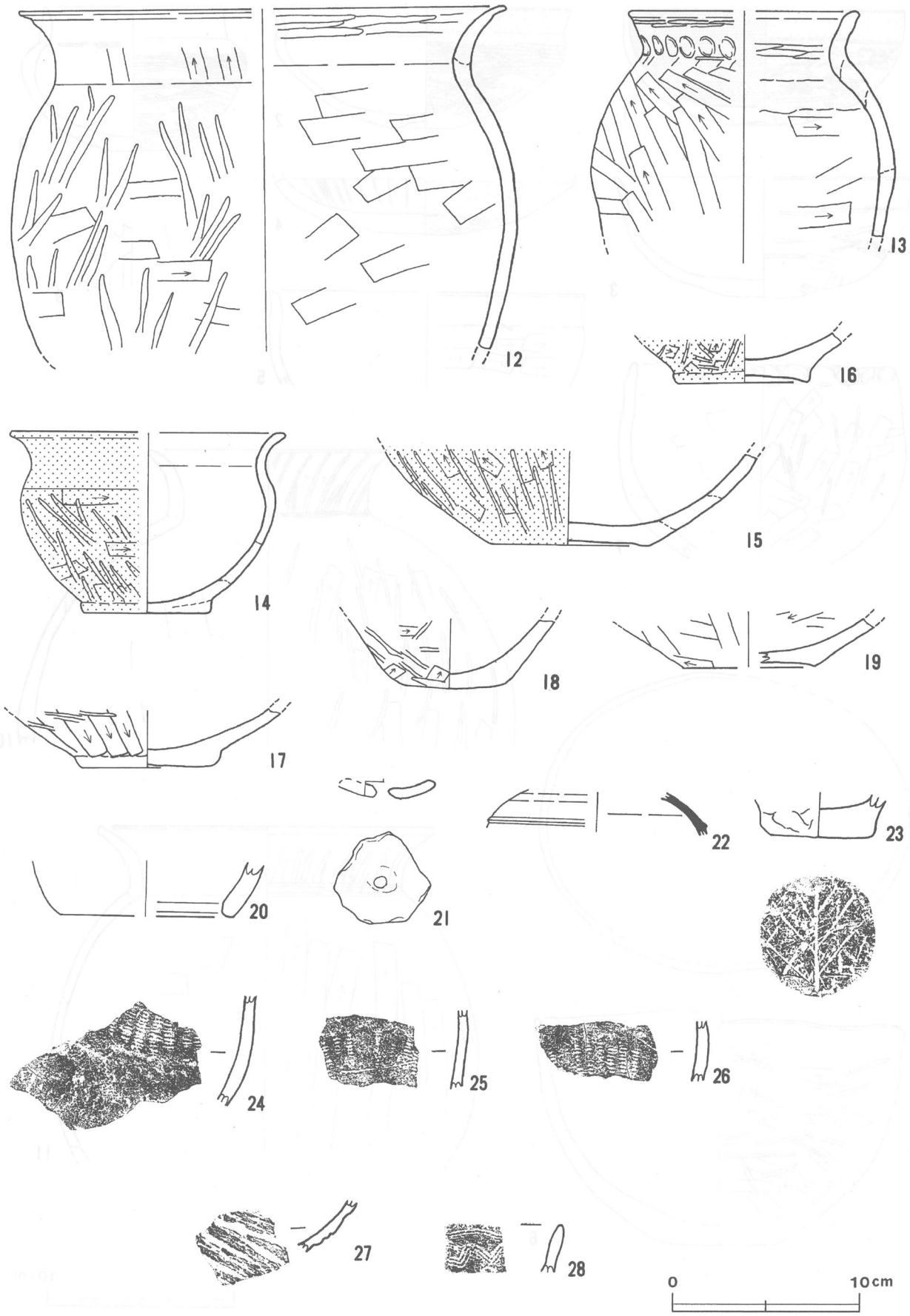
第1号住居跡貯蔵穴土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

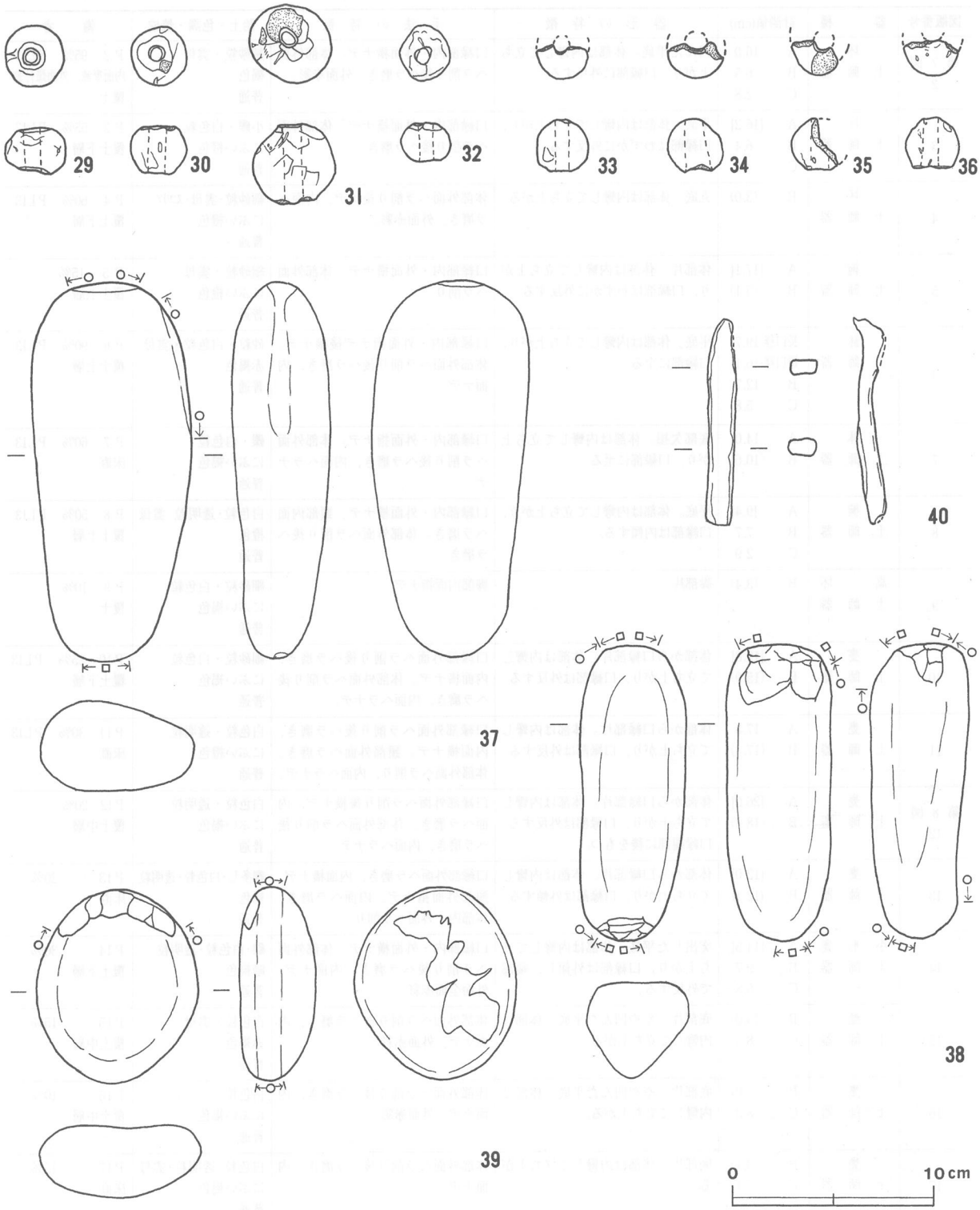
第6図　第1・30号住居跡



第７図　第１号住居跡出土遺物(1)



第８図　第１号住居跡出土遺物(2)



第9図　第1号住居跡出土遺物(3)

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第7図 1	坏 土師器	A 15.2 B 6.2 C 2.8	わずかに凹む平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ削り後ナデ。外面赤彩，内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P 1　100%　PL13 床直

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第7図 2	坏 土師器	A 16.0 B 6.5 C 2.8	凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。外面赤彩。	細砂粒・雲母 褐色 普通	P 2 95% PL13 内面摩滅，外面煤付着 覆土
3	坏 土師器	A [16.2] B 6.4 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	小礫・白色粒 にぶい橙色 普通	P 3 55% PL13 覆土下層
4	坏 土師器	B (3.0)	丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。外面赤彩。	細砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P 4 60% PL13 覆土下層
5	椀 土師器	A [17.1] B (5.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	細砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P 5 15% 覆土上層
6	鉢 土師器	長口径 19.7 短口径 16.1 B 12.7 C 5.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面指ナデ後横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母 赤褐色 普通	P 6 90% PL13 覆土上層
7	鉢 土師器	A 14.0 B (10.6)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面指ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	礫・白色粒 にぶい褐色 普通	P 7 60% PL13 床直
8	椀 土師器	A [9.4] B 7.7 C 2.9	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P 8 50% PL13 覆土上層
9	高坏 土師器	B (3.4)	脚部片。	脚部内面指ナデ。	細砂粒・白色粒 にぶい褐色 普通	P 9 10% 覆土
10	甕 土師器	A [12.8] B (15.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	細砂粒・白色粒 にぶい褐色 普通	P10 25% PL13 覆土下層
11	甕 土師器	A 17.8 B (17.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面横ナデ。頸部外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P11 30% PL13 床直
第8図 12	甕 土師器	A [26.0] B (18.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部に稜をもつ。	口縁部外面ヘラ削り後横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P12 20% 覆土中層
13	甕 土師器	A [12.0] B (12.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。頸部外面指ナデ，内面ヘラ磨き。体部内・外面ヘラ削り。	礫多し・白色粒・透明粒 褐色 普通	P13 20% 床直
14	小形甕 土師器	A [14.5] B 9.7 C 6.8	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾し，端部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。外面全面赤彩。	礫・白色粒・透明粒 暗褐色 普通	P14 30% 覆土下層
15	甕 土師器	B (5.0) C 8.3	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。外面赤彩。	白色粒・雲母 赤褐色 普通	P15 15% 覆土中層
16	甕 土師器	B (5.0) C 8.3	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。外面赤彩。	白色粒 にぶい褐色 普通	P16 10% 覆土中層
17	甕 土師器	B (3.1) C 7.1	底部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい褐色 普通	P17 15% 床直
18	甕 土師器	B (3.8) C 6.0	底部片。丸みを帯びた平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・透明粒 橙色 普通	P18 15% 覆土中層
19	甕 土師器	B (2.5) C 7.0	底部片。やや凹んだ平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り。	白色粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P19 10% 覆土中層
20	甑 土師器	B (3.0) C [9.3] 孔径 [8.1]	無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	白色粒 橙色 普通	P20 5% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 21	坏 土師器	B (1.0) 孔径 0.8	底部片。丸底。底・体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	白色粒 橙色 良好	P21 10% 紡錘車に二次転用の可能性あり 覆土
22	坏蓋 須恵器	B (2.2)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は内彎しながら口縁部に至る。口縁部との境に稜をもつ。	ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。	細砂粒・白色粒・透明粒・黒色斑点 灰色 良好	P22 10% PL29 覆土中層
23	甕 土師器	B (2.4) C 6.0	底部片。	底部木葉痕後ヘラ削り。	白色粒 褐色 普通	P23 5% 覆土中層

第8図24～26（TP1～3）は土師器甕の体部片で，外面に平行叩き後ヘラ磨きが施され，同一個体と考えられる。27（TP4）は土師器の坏底・体部片で，砥石代わりに使われた痕跡が見られる。28（TP5）は弥生土器の口縁部片で，外面櫛描文が施されている。

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第9図29	土玉	3.1	3.0	2.4	0.8	21.2	100	西部覆土中層	DP1 赤彩 PL30
30	土玉	2.9	2.8	2.4	0.8	19.1	100	北部覆土中層	DP2 赤彩 PL30
31	土玉	3.9	4.1	4.0	0.9	54.8	100	覆土	DP3 PL30
32	土玉	2.7	2.6	2.0	0.7	12.4	100	覆土	DP4 PL30
33	土玉	(1.7)	(2.6)	2.6	(0.7)	(9.6)	50	覆土	DP5 PL30
34	土玉	(1.8)	(2.8)	2.7	(1.2)	(10.1)	50	覆土	DP6 PL30
35	土玉	(1.7)	(2.3)	2.6	(0.8)	(6.3)	30	覆土	DP7 PL30
36	土玉	(1.8)	(2.7)	2.6	(0.8)	(10.1)	40	覆土	DP8 PL30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第9図37	敲石	18.7	8.0	4.8	1048.8	安山岩	覆土	Q1
38	敲石	14.7	5.3	4.7	510.7	流紋岩	中央部覆土中層	Q2
39	磨石・敲石	19.1	16.1	7.5	3343.0	砂岩	南部覆土上層	Q3

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第9図40	不明鉄製品	(10.2)	1.5	0.9	(42.8)	鉄	覆土	M1

第2号住居跡（第10図 PL2）

位置 調査区の南西部，B1i9区を中心に確認されている。

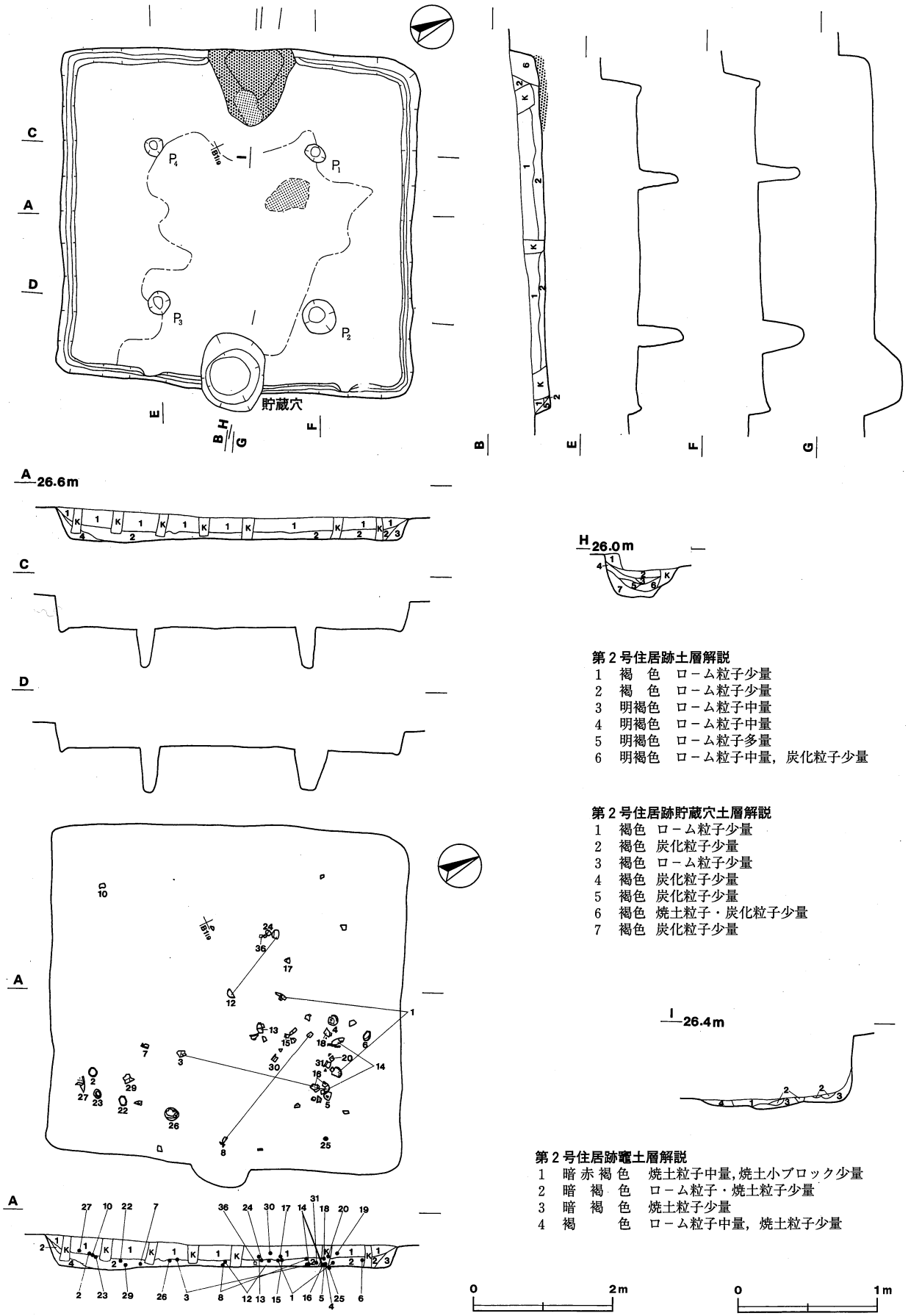
規模と平面形 長軸5.05m，短軸4.95mの方形である。

主軸方向 N－62°－W

壁 壁高15～52cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 幅12～26cm，深さ4～6cmで，断面形は「U」字状である。竈と貯蔵穴の部分を除いて，壁下を全周している。

床 平坦で，主柱穴の内側を中心によく踏み固められている。床面中央部からやや北寄りに，長さ70cm，幅45cmの楕円形をした焼土の範囲を確認している。よく焼けているので炉跡である可能性が考えられる。



第2号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　明褐色　ローム粒子中量
4　明褐色　ローム粒子中量
5　明褐色　ローム粒子多量
6　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第2号住居跡貯蔵穴土層解説

1　褐色　ローム粒子少量
2　褐色　炭化粒子少量
3　褐色　ローム粒子少量
4　褐色　炭化粒子少量
5　褐色　炭化粒子少量
6　褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
7　褐色　炭化粒子少量

第2号住居跡竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

第10図　第2号住居跡

竈　北西壁中央部に構築されているが，残存状態は悪く，天井部・袖部は遺存していない。規模は，幅126cm，長さ108cmを測る。火床面は，床面を5cm程掘り込み，赤変しかなり硬化している。煙道部は，壁外への掘り込みは全く見られない。竈上面に住居跡の覆土が堆積しているので，住居跡の廃棄時に竈を壊したと考えられる。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径26～50cmの円形，深さ58～66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南東壁中央部に壁を掘り込んで付設され，平面形は長軸110cm，短軸90cmの隅丸長方形である。深さは40cmで，断面形は逆台形をしている。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

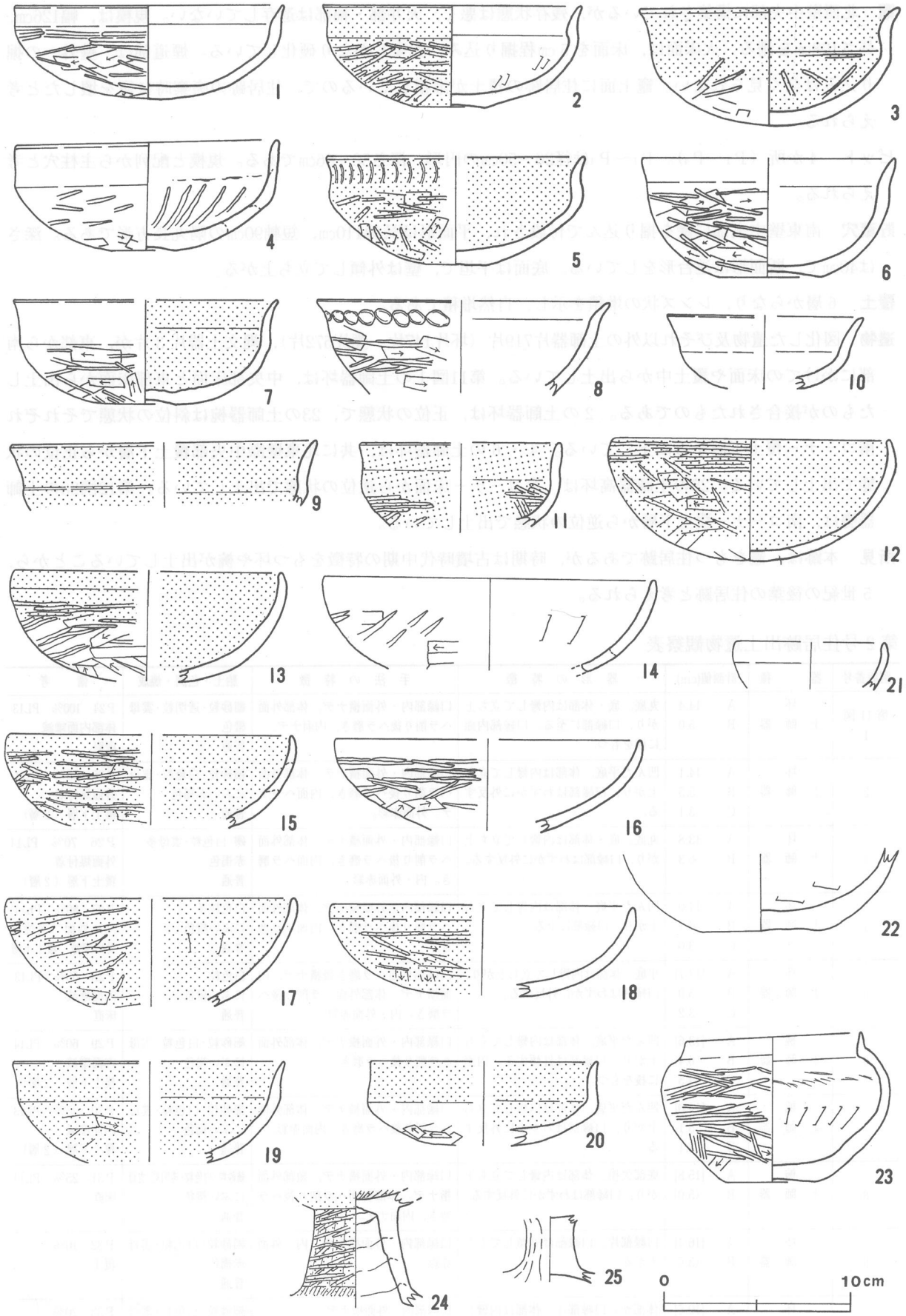
覆土　6層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片719片（坏片147片，甕片572片），縄文土器片3片が，東部から南部にかけての床面や覆土中から出土している。第11図1の土師器坏は，中央部床面と東部床面から出土したものが接合されたものである。2の土師器坏は，正位の状態で，23の土師器椀は斜位の状態でそれぞれ南コーナー覆土下層から出土している。4・6の土師器坏は，共に北東壁際中央部覆土下層から正位の状態で出土している。25の土師器高坏は，東コーナー床面から逆位の状態で出土している。第12図26の土師器甕は，南コーナー覆土下層から逆位の状態で出土している。

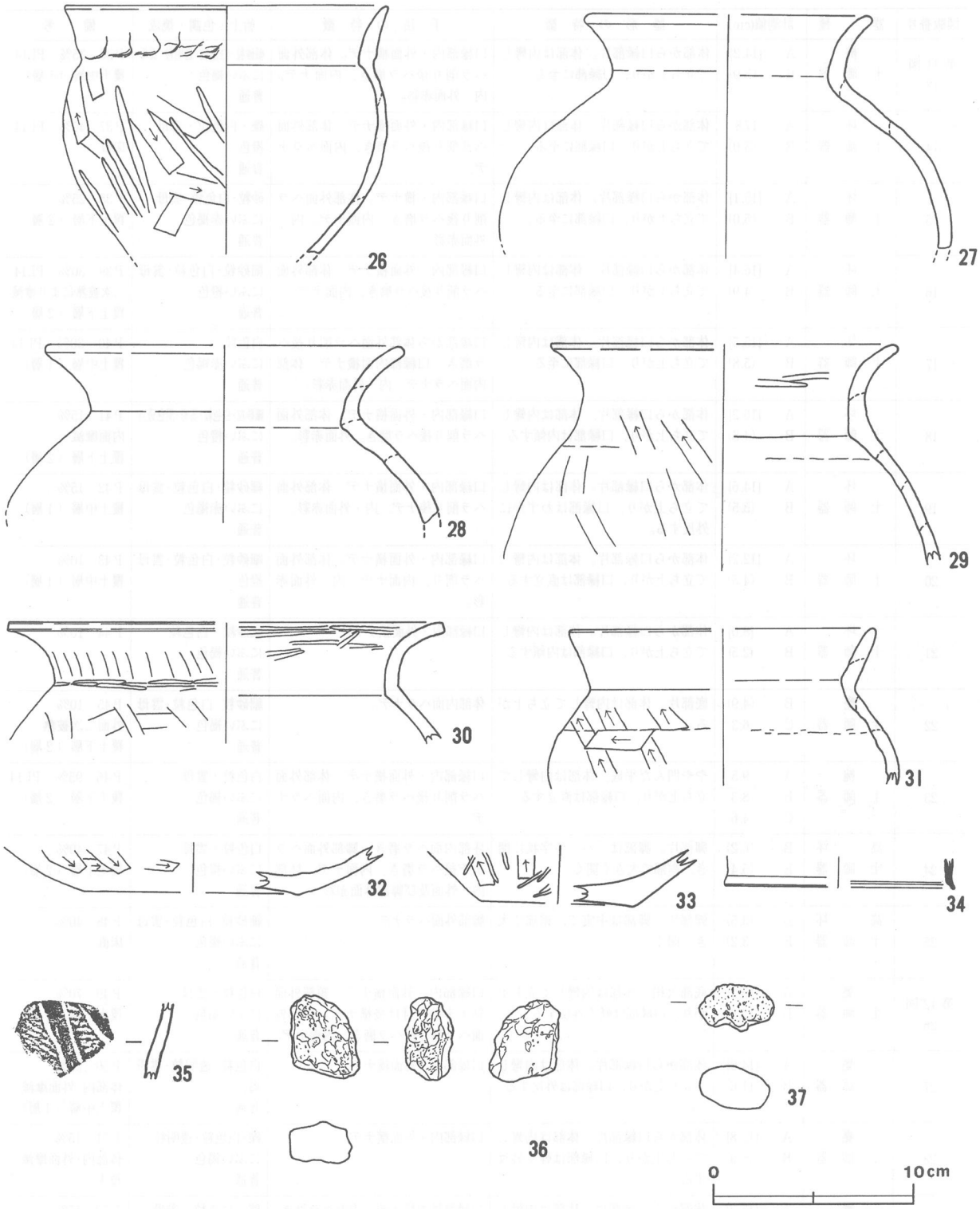
所見　本跡は，竈をもつ住居跡であるが，時期は古墳時代中期の特徴をもつ坏や椀が出土していることから，5世紀の後葉の住居跡と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	坏 土師器	A 14.4 B 5.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	細砂粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P24 100% PL13 体部内面摩滅 床直
2	坏 土師器	A 14.1 B 5.5 C 3.1	凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P25 85% PL14 外面煤付着 覆土下層（2層）
3	坏 土師器	A 13.8 B 6.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	礫・白色粒・雲母多 赤褐色 普通	P26 70% PL14 外面煤付着 覆土下層（2層）
4	坏 土師器	A 14.0 B 6.1 C 3.0	凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒多 にぶい橙色 普通	P27 80% PL14 内・外面二次焼成 受け摩滅　覆土下層
5	坏 土師器	A [13.7] B 5.9 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面ヘラ磨き後横ナデ，内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒 にぶい橙色 普通	P28 60% PL13 内面摩滅 床直
6	椀 土師器	A [13.6] B 6.4 C 4.5	凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P29 60% PL14 内面摩滅 覆土下層（2層）
7	椀 土師器	A [14.0] B 5.1 C 3.1	凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P30 40% PL13 内面摩滅 覆土下層（2層）
8	椀 土師器	A [15.8] B (5.0)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい橙色 普通	P31 25% PL14 床直
9	坏 土師器	A [16.4] B (3.6)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 赤褐色 普通	P32 10% 覆土
10	坏 土師器	A [10.6] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P33 20% 覆土下層（2層）



第11図　第２号住居跡出土遺物(1)



第12図　第２号住居跡出土遺物(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第11図 11	甕 土師器	A　17.8 B　(17.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	礫・白色粒 にぶい褐色 普通	P34　30% 覆土
12	坏 土師器	A　14.7 B　6.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	礫・白色粒 にぶい褐色 普通	P35　85%　PL14 覆土中層（２層）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 13	椀 土師器	A [14.2] B (5.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい褐色 普通	P36 35% PL14 覆土中層（1層）
14	坏 土師器	A 17.8 B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	礫・白色粒・雲母 橙色 普通	P37 40% PL14 床直
15	坏 土師器	A [15.1] B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P38 25% 覆土下層（2層）
16	坏 土師器	A [16.4] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P39 30% PL14 二次被熱により摩滅 覆土下層（2層）
17	坏 土師器	A [15.5] B (5.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。口縁部内面横ナデ。体部内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色粒 にぶい赤褐色 普通	P40 30% PL14 覆土中層（1層）
18	坏 土師器	A [16.2] B (4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母・黒色斑点 にぶい橙色 普通	P41 15% 内面摩滅 覆土下層（2層）
19	坏 土師器	A [14.6] B (5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P42 15% 覆土中層（1層）
20	坏 土師器	A [12.2] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 橙色 普通	P43 10% 覆土中層（1層）
21	坏 土師器	A [8.0] B (2.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	細砂粒・白色粒 にぶい褐色 普通	P44 10%
22	甕 土師器	B (4.9) C 6.3	底部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ヘラナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P45 10% 外面二次被熱 覆土下層（2層）
23	椀 土師器	A 9.5 B 8.3 C 4.6	やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P46 95% PL14 覆土下層（2層）
24	高坏 土師器	B (6.2) E (5.4)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開き，裾部で大きく開く。	坏部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ナデ。坏部内・外面及び脚部外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P47 40% 覆土下層（2層）
25	高坏 土師器	B (3.5) E (3.2)	脚部片。脚部は中実で，裾部で大きく開く。	脚部外面ヘラナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P48 40% 床直
第12図 26	甕 土師器	A 16.2 B (12.3)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面粘土を貼り付け後横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P49 70% 覆土下層（2層）
27	甕 土師器	A [14.0] B (11.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	白色粒・透明粒・雲母 褐色 普通	P50 20% 体部内・外面摩滅 覆土中層（1層）
28	甕 土師器	A [17.8] B (8.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P51 15% 体部内・外面摩滅 覆土
29	甕 土師器	A [17.2] B (11.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。	礫・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P52 15% 外面煤付着 覆土下層（2層）
30	甕 土師器	A [22.0] B (6.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラナデ後横ナデ，内面ヘラ磨き。頸部外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P53 20% 覆土中層（1層）
31	甕 土師器	A [15.2] B (7.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P54 10% 覆土下層（2層）
32	甕 土師器	B (2.5) C [10.7]	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。	細砂粒・白色粒 褐色 普通	P55 10% 内面摩滅 覆土

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第12図 33	甕 土師器	B (2.9) C [7.6]	底部片。やや凹んだ平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	細砂粒・白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P56 10%
34	坏蓋 須恵器	A [5.8] B (1.5)	口縁部片。口縁端部が凹む(沈線が巡る)。	口縁部内・外面回転ナデ。	砂粒・白色粒 黒褐色 良好	P57 5% PL29

第12図35（TP6）は縄文土器の胴部片で，外面に単節LRの縄文が施された後，磨消懸垂文を有している。

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第12図36	浮　子	4.1	3.5	2.4	10.9	軽　石	中央部覆土下層	Q 4 PL14
37	浮　子	(2.4)	(3.8)	2.2	(4.1)	軽　石	覆　土	Q 5 PL14

第3号住居跡（第13図　PL 3）

位置　調査区の南部，B2$_{11}$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.45mの不整方形である。南東壁中央部から南側部分に幅160cm，長さ30cmの張り出し部分がある。

主軸方向　N－53°－W

壁　壁高20～56cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，主柱穴の内側を中心によく踏み固められている。床面中央部と竈左袖前方部の2か所に，長径80・48cm，短径25cm程の楕円形状の砂混じりの土の高まりを確認している。

竈　北西壁中央部に，ロームと砂混じりの粘土（粘土分は極めて少ない）で構築されている。規模は，幅73cm，長さ63cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化しており，長期間使用したものと考えられる。袖部下位の基底部の幅は，右袖25cm，左袖35cmを測る。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

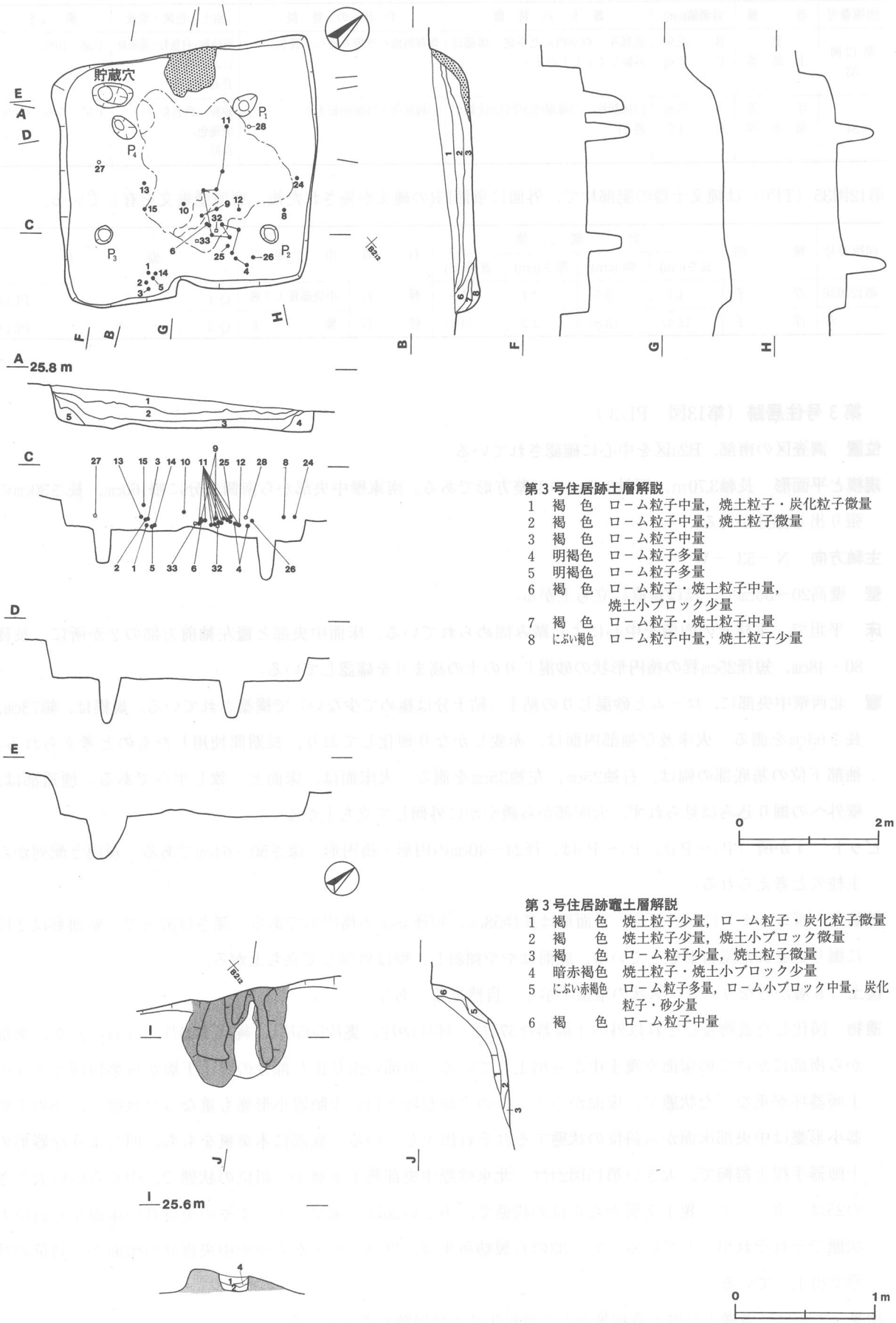
ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径24～40cmの円形・楕円形，深さ50～64cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　西コーナーに付設され，平面形は長径58cm，短径36cmの楕円形である。深さは57cmで，断面形は2段に掘り込まれた逆台形をしている。底面はやや傾斜し，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　8層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片574片（坏片69片，甕片505片），縄文土器片1片石1点が，東部から南部にかけての床面や覆土中から出土している。南部の張り出し部分の覆土下層から第14図2・3の土師器坏が重なった状態で，床面から1・5の土師器坏と14の土師器小形甕も重なった状態で，16の土師器小形甕は中央部床面から斜位の状態でそれぞれ出土している。底部に木葉痕をもち，同じような器形の土師器手捏土器椀で，大きい第15図24は，北東壁際中央部覆土下層から斜位の状態で，中ぐらいの大きさの25は，東コーナー覆土下層から正位の状態で，小さい26は，東コーナーやや中央寄りの床面から斜位の状態でそれぞれ出土している。32・33の石製紡錘車は，東コーナーからやや中央寄りの床面から斜位の状態で出土している。

所見　本跡は，遺構の形態と遺物等から5世紀後葉の住居跡と考えられる。



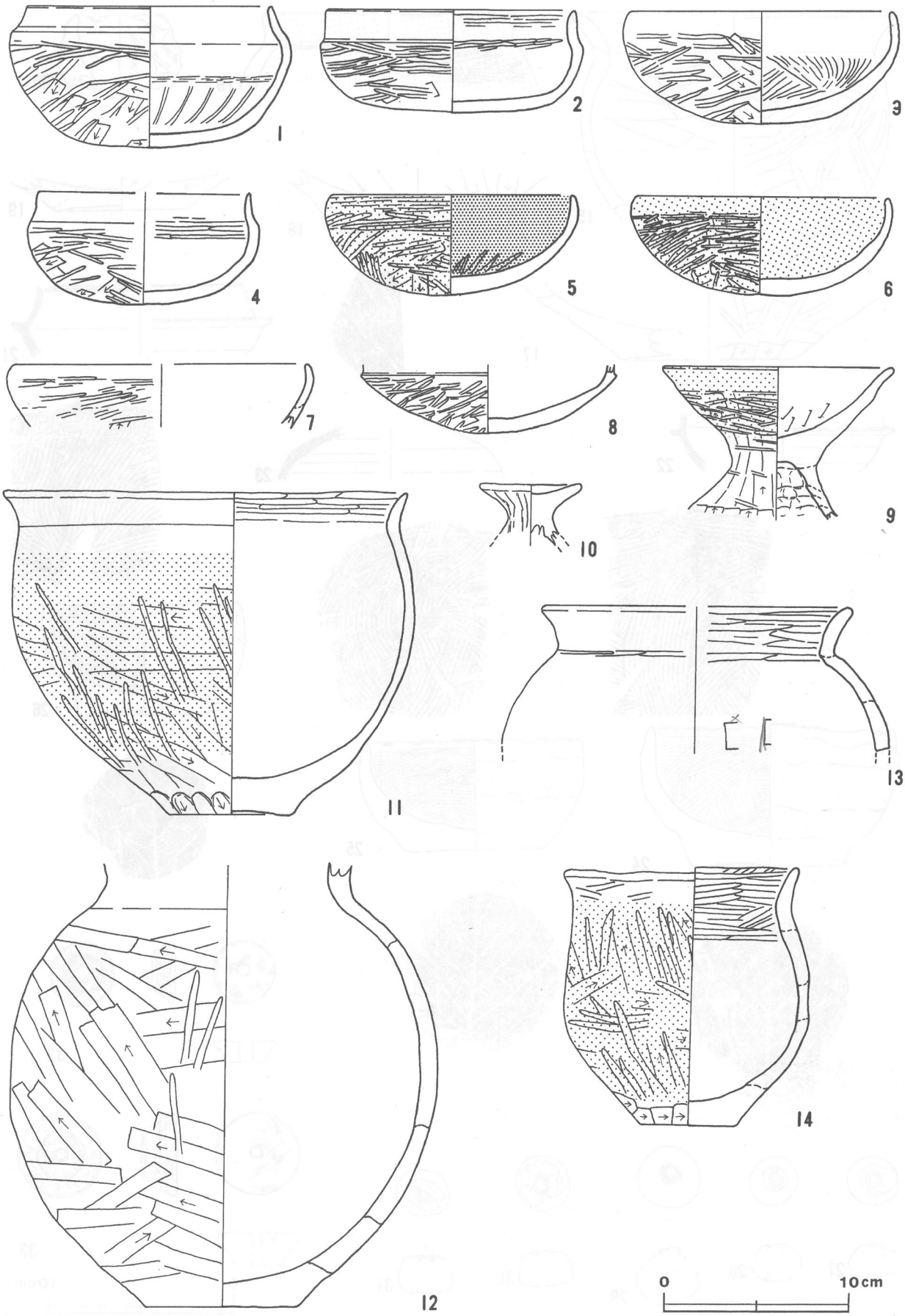
第3号住居跡土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3 褐　色　ローム粒子中量
4 明褐色　ローム粒子多量
5 明褐色　ローム粒子多量
6 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
7 褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
8 にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

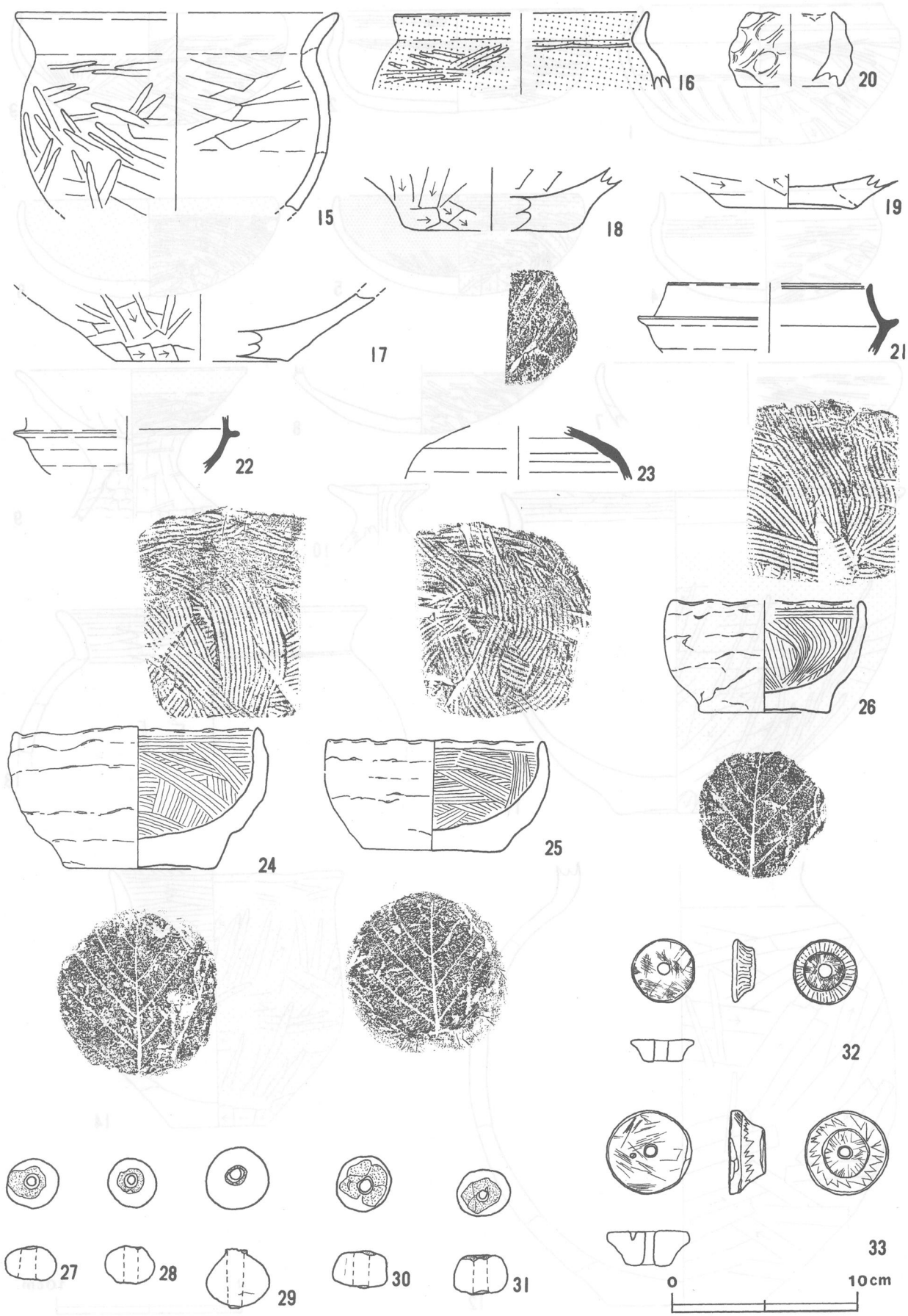
第3号住居跡竈土層解説

1 褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3 褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量
5 にぶい赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子・砂少量
6 褐　色　ローム粒子中量

第13図　第3号住居跡



第14図　第３号住居跡出土遺物(1)



第15図　第３号住居跡出土遺物(2)

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	坏 土師器	A 13.1 B 7.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 にぶい橙色 良好	P58 100% PL15 床直
2	坏 土師器	A 13.4 B 5.5	偏平な丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい橙色 良好	P59 100% PL15 覆土下層
3	坏 土師器	A 14.0 B 6.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・透明粒 にぶい橙色	P60 95% PL15 内・外面煤付着 覆土下層
4	坏 土師器	A [11.3] B 6.1	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・透明粒 にぶい赤褐色 普通	P61 50% PL16 覆土
5	坏 土師器	A 13.0 B 5.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。外面赤彩。内面黒色処理	礫・白色粒・透明粒 褐色 普通	P62 95% PL16 床直
6	坏 土師器	A 13.5 B 5.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 褐色 普通	P63 90% PL15 内面摩滅 床直
7	坏 土師器	A [15.6] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒 にぶい橙色 普通	P64 10% 覆土
8	坏 土師器	B (3.7)	口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P65 70% PL16 外面煤付着 覆土中層
9	高坏 土師器	A 12.4 B (8.2) E (3.0)	坏部は内彎して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。脚部は「ハ」の字状に開く。	坏口縁部内・外面横ナデ。坏体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ。坏部外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P66 65% PL16 床直
10	手捏土器 土師器	A 5.5 B (3.3) E (1.7)	坏部は外傾して立ち上がる。脚部は「ハ」の字状に開く。	坏部内・外面指ナデ。	白色粒 褐色 普通	P67 50% 覆土中層
11	甕 土師器	A 21.7 B 17.4 C 6.5	やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部外面赤彩。	細砂粒・白色粒 にぶい褐色 普通	P68 75% PL15 内面摩滅 外面煤付着 覆土下層
12	甕 土師器	B (23.9) C 8.4	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，頸部から軽く外反する。	頸部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	礫多し・白色粒 褐色 普通	P69 50% PL15 内面摩滅 体部外面煤付着 覆土下層
13	甕 土師器	A [16.4] B (7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。頸部外面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 明褐色 普通	P70 15% PL14 体部外面被熱により摩滅 覆土下層
14	小形甕 土師器	A 12.4 B 13.9 C 5.3	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。体部外面赤彩。	礫・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P71 90% PL15 床直
第15図 15	甕 土師器	A [17.2] B (10.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P72 15% 覆土上層
16	小形甕 土師器	A [13.7] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	礫・雲母 赤褐色 良好	P73 10% 床直
17	甕 土師器	B (3.6) C [9.2]	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	礫・白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P74 5% 覆土
18	甕 土師器	B (3.4) C [8.7]	底部片。やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。底部木葉痕後ヘラ削り。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P75 5% 覆土
19	甕 土師器	B (1.9) C 6.8	底部片。凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P76 5% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 20	手捏土器 土師器	A [4.6] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面指ナデ，内面ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P77 30% 覆土
21	坏身 須恵器	A [11.0] B (2.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，受部に至る。受部はやや上方に伸び，端部はシャープである。立ち上がりは内傾して立ち上がり，端部に沈線が巡る(凹む)。	ロクロ整形。立ち上がり部及び体部下端回転ヘラ削り	細砂粒・白色粒・黒色斑点 褐灰色 良好	P78 15% PL29 覆土
22	坏身 須恵器	B (3.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がり，受部に至る。受部は水平に伸び，端部はシャープである。立ち上がりは直立近くに立ち上がる。	ロクロ整形。立ち上がり部及び体部内・外面回転ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母少・黒色斑点 灰色 良好	P79 10% PL29 覆土
23	坏蓋 須恵器	B (2.9)	天井部片。	ロクロ整形。天井部外面回転削り，内面回転ナデ。	細砂粒・白色粒・黒色斑点 灰色 良好	P80 5% PL29 覆土
24	椀 土師器	A 12.9 B 7.6 C 7.8	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面に明瞭な輪積みの痕跡を残し，内面ハケ目整形。底部木葉痕。	白色粒・透明粒 橙色 普通	P81 100% PL16 重量 649.7g 底部に煤付着，覆土下層
25	椀 土師器	A 11.6 B 6.0 C 7.4	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面に明瞭な輪積みの痕跡を残し，内面ハケ目整形。底部木葉痕	白色粒・透明粒 橙色 普通	P82 80% PL15 重量 (373.8) g 底部に煤付着，覆土下層
26	椀 土師器	A [10.2] B 6.0 C 6.9	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面に明瞭な輪積みの痕跡を残し，内面ハケ目整形。底部木葉痕。	白色粒・透明粒 橙色 普通	P83 60% PL16 重量 (253.1) g 底部に煤付着，床直

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率 (%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第15図27	土玉	2.6	2.8	1.9	0.85	13.1	100	西部覆土中層	DP 9 PL30
28	土玉	2.6	2.7	2.1	0.7	15.5	100	北部覆土中層	DP10 PL30
29	土玉	3.3	3.4	3.3	0.9	34.0	100	覆土	DP11 PL30
30	土玉	3.0	2.9	2.0	0.8	18.4	100	覆土	DP12 PL30
31	土玉	2.4	2.9	2.2	0.7	17.4	100	覆土	DP13 PL30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第15図32	紡錘車	3.4	3.4	1.2	17.6	滑石	中央部床直	Q 6 孔径0.7cm 表面ていねいに研磨 PL16
33	紡錘車	5.6	5.5	2.0	47.3	砂岩	中央部床直	Q 7 孔径0.7cm 上面0.4cm程の孔をつ 側面に鋸歯紋が施されている PL15

第4号住居跡（第16図 PL 3）

位置 調査区の南東部，$B2_{g6}$区を中心に確認されている。

重複関係 本跡の南コーナーは，第2号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.80m，短軸3.75mの方形である。

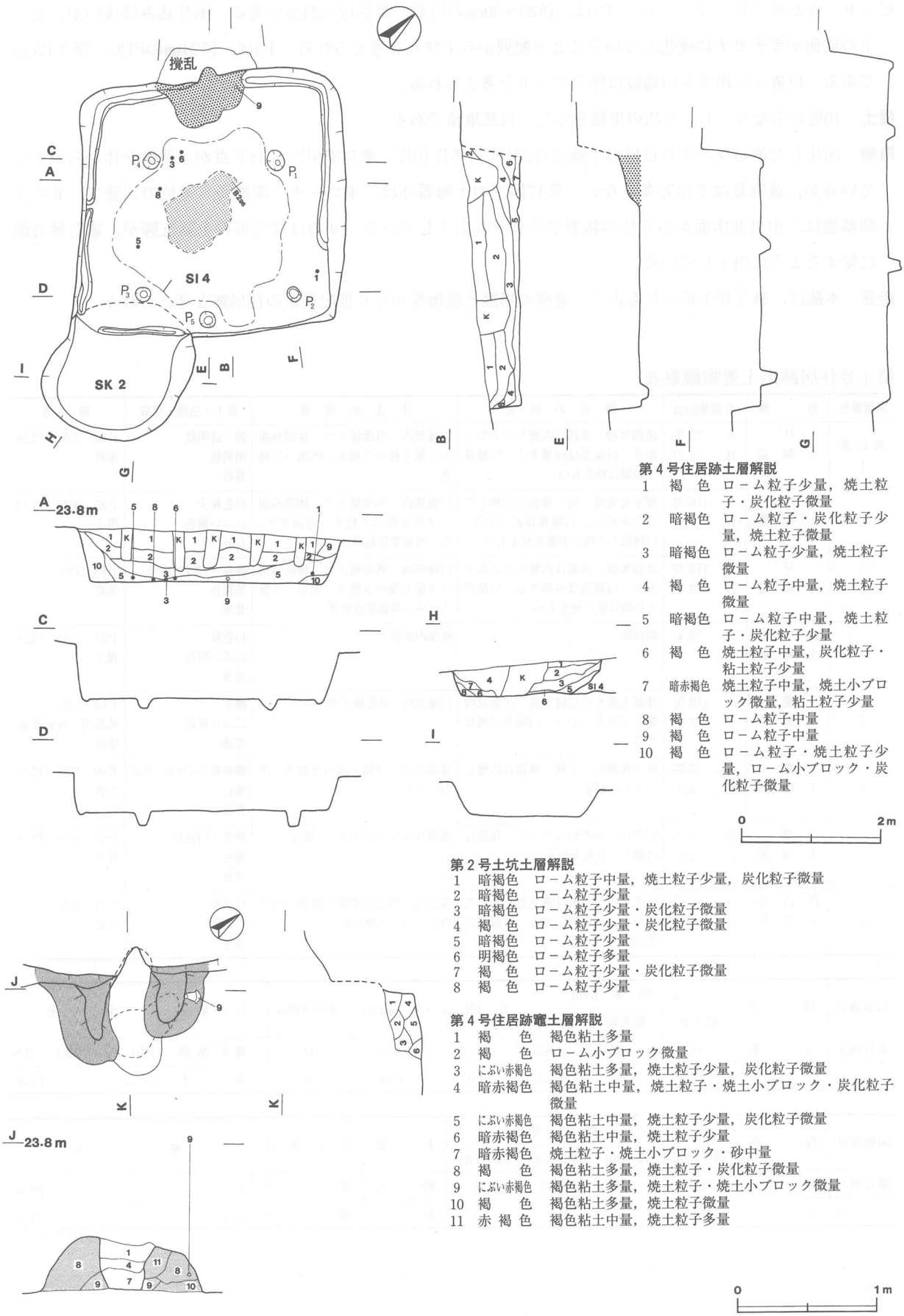
主軸方向 N－51°－W

壁 壁高26～86cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 幅12～14cm，深さ3～6cmで，断面形は「U」字状である。竈と北東壁と南東壁の東コーナーの部分を除いて，壁下をほぼ全周している。

床 平坦で，主柱穴や出入り口施設に伴うピットの内側を中心によく踏み固められている。

竈 北西壁中央部に，砂混じりの粘土で構築されている。規模は，幅108cm，長さ93cmを測る。火床及び袖部内面は赤変しかなり硬化しており，長期間使用したものと考えられる。袖部中位以下は，良好に遺存しており，両袖とも基底部の幅は40cmを測る。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外へ17cm程掘り込み，火床部から急激に外傾して立ち上がる。



第4号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック微量，粘土粒子少量
8　褐　色　ローム粒子中量
9　褐　色　ローム粒子中量
10　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

第2号土坑土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　明褐色　ローム粒子多量
7　褐　色　ローム粒子少量・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子少量

第4号住居跡竈土層解説

1　褐　色　褐色粘土多量
2　褐　色　ローム小ブロック微量
3　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂中量
8　褐　色　褐色粘土多量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
10　褐　色　褐色粘土多量，焼土粒子微量
11　赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子多量

第16図　第4号住居跡，第2号土坑

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径20～30cmの円形，深さ12～24cmである。掘り込みは浅いが，ピットの底面がガチガチに硬化していることと配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径24cmの円形，深さ12cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　10層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片371片（坏片16片，甕片355片），石2点が，遺構全体から出土しているが，遺物量はさほど多くない。第17図1の土師器坏は，東コーナー床面から逆位の状態で，6の土師器甕は，中央部床面から正位の状態でそれぞれ出土している。9のほぼ完形の土製支脚が，竈右袖外面に接するように出土している。

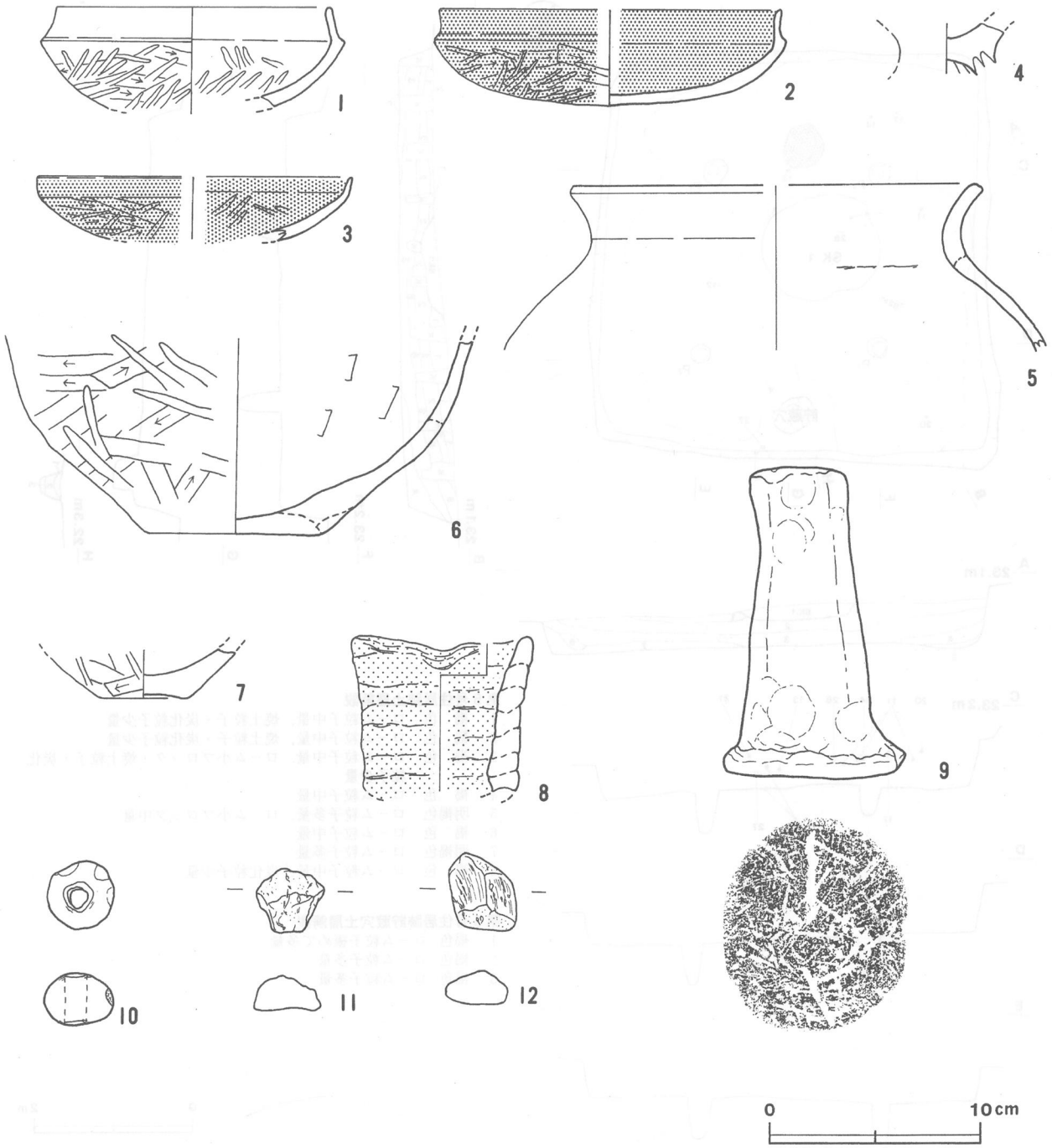
所見　本跡は，第2号土坑よりも古く，遺構の形態と遺物等から6世紀後葉の住居跡と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	坏 土師器	A 13.0 B (4.7)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	礫・透明粒 明褐色 良好	P84 50% PL16 床直
2	坏 土師器	A [16.3] B 4.5	偏平な丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒少 にぶい褐色 良好	P85 30% PL16 覆土
3	坏 土師器	A [15.1] B (3.0)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 黒褐色 普通	P86 20% 床直
4	高坏 土師器	B (2.4)	脚部片。	脚部内面指ナデ。	白色粒 にぶい橙色 普通	P87 10% PL16 覆土
5	甕 土師器	A [19.0] B (7.9)	体部上端から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	礫多 にぶい褐色 普通	P88 15% 体部内・外面摩滅 床直
6	甕 土師器	B (9.3) C 8.3	底・体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 褐色 普通	P89 25% PL16 床直
7	甕 土師器	B (2.3) C 4.0	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	礫多・白色粒 褐色 普通	P90 15% PL16 覆土
8	片口鉢 土師器	A [8.5] B (7.3)	底部欠損。体部は直立近くで立ち上がり，口縁部に至る。口縁部に片口が付く。	体部内・外面に明瞭な輪積み痕が残る。内・外面赤彩。	白色粒 赤褐色 普通	P91 15% 床直

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第17図 9	支脚	14.8	8.5	6.2	－	566.9	100	竈右袖部	DP14 底部に木葉痕あり PL16
10	土玉	3.3	3.2	2.5	1.0	19.0	100	覆土	DP15 PL30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第17図11	浮子	(3.0)	(3.2)	(1.7)	(1.9)	軽石	覆土	Q 8 PL16
12	浮子	(3.6)	3.3	(1.7)	(4.3)	軽石	覆土	Q 9 PL16



第17図　第４号住居跡出土遺物

第５号住居跡（第18図　PL３）

位置　調査区の南東部，B2$_{g7}$区を中心に確認されている。

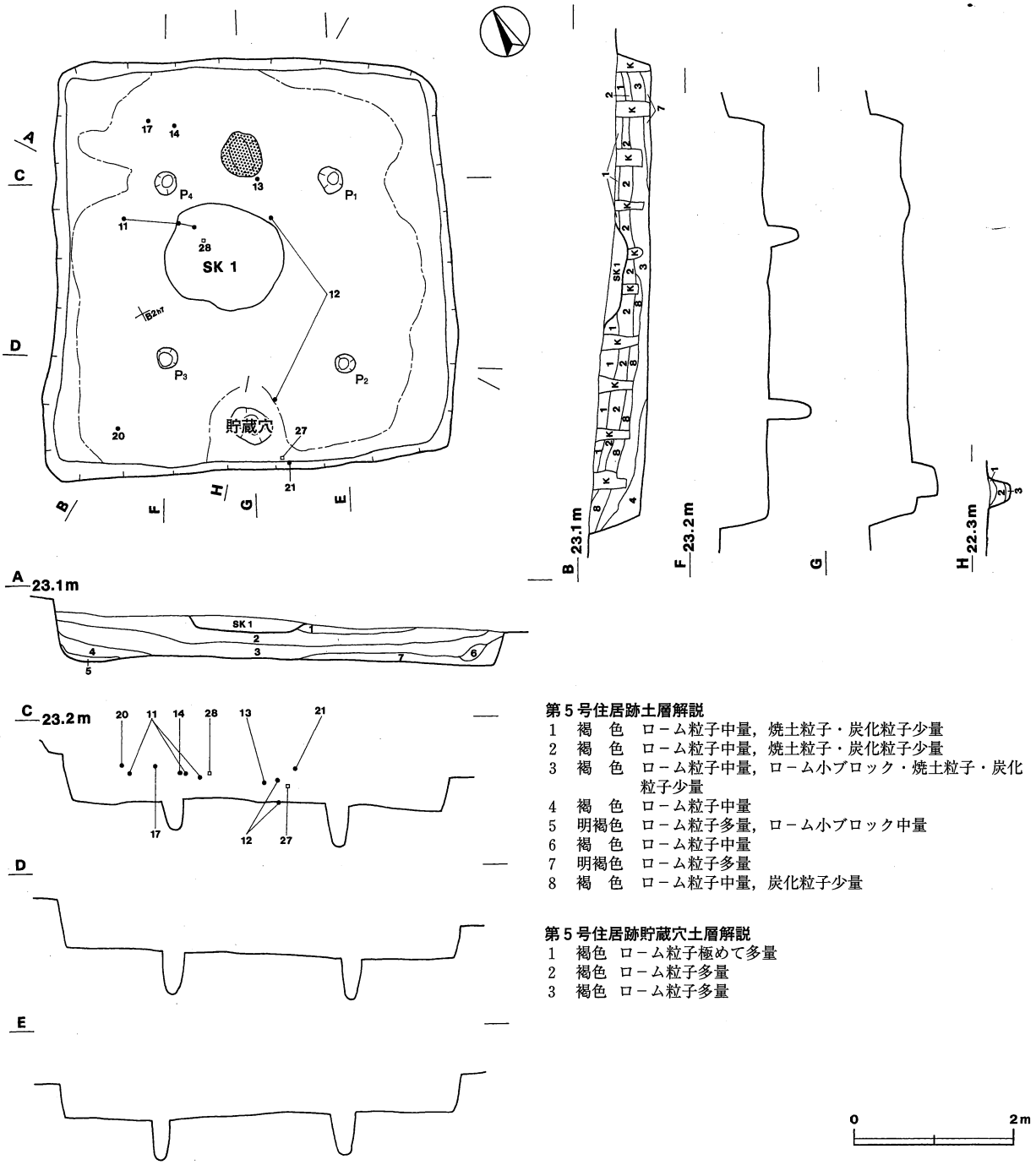
規模と平面形　長軸5.15m，短軸4.95mの方形である。

主軸方向　N－28°－E

壁　壁高40～60cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，壁際を除いてよく踏み固められている。

炉　P_1とP_4を結んだ直線上より，やや壁際に寄った位置に確認している。平面形は，長径60cm，短径50cmの



第５号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　明褐色　ローム粒子多量
8　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

第５号住居跡貯蔵穴土層解説

1　褐色　ローム粒子極めて多量
2　褐色　ローム粒子多量
3　褐色　ローム粒子多量

第18図　第５号住居跡

楕円形で，床面を10cm程掘り凹めた地床炉である。炉床面は，火熱を受け，赤変しかなり硬化している。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径24～32cmの円形，深さ38～54cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　南西壁中央部の内側に付設され，平面形は，長径54cm，短径42cmの楕円形である。深さ31cmで，断面形は逆台形をしている。底面は平担で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　８層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

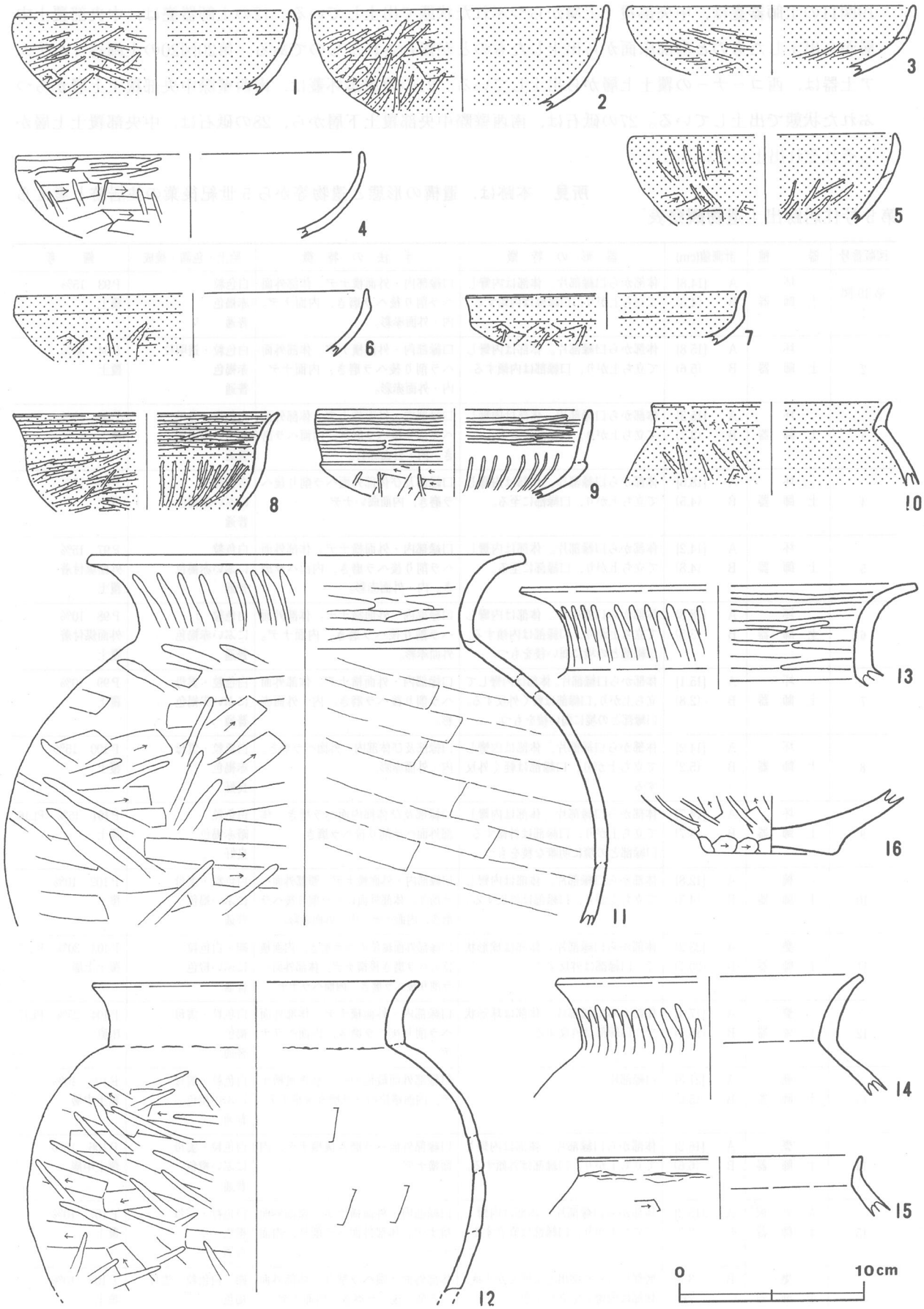
遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片1081片（坏・椀片は150片で，この中の80片が赤彩，甕片931片），縄文土器片３点が，遺構全体から出土している。覆土中からの出土が多く，床面からの出土は少ない。第

19図11の土師器甕は，中央部覆土上層からつぶれた状態で出土している。12の土師器甕は，中央部覆土中層から出土したものと南部床面から出土したものとが接合されたものである。第20図20の土師器ミニチュア土器は，西コーナーの覆土上層から出土している。21の須恵器坏蓋は，南西壁際中央部覆土上層からつぶれた状態で出土している。27の砥石は，南西壁際中央部覆土下層から，28の砥石は，中央部覆土上層からそれぞれ出土している。

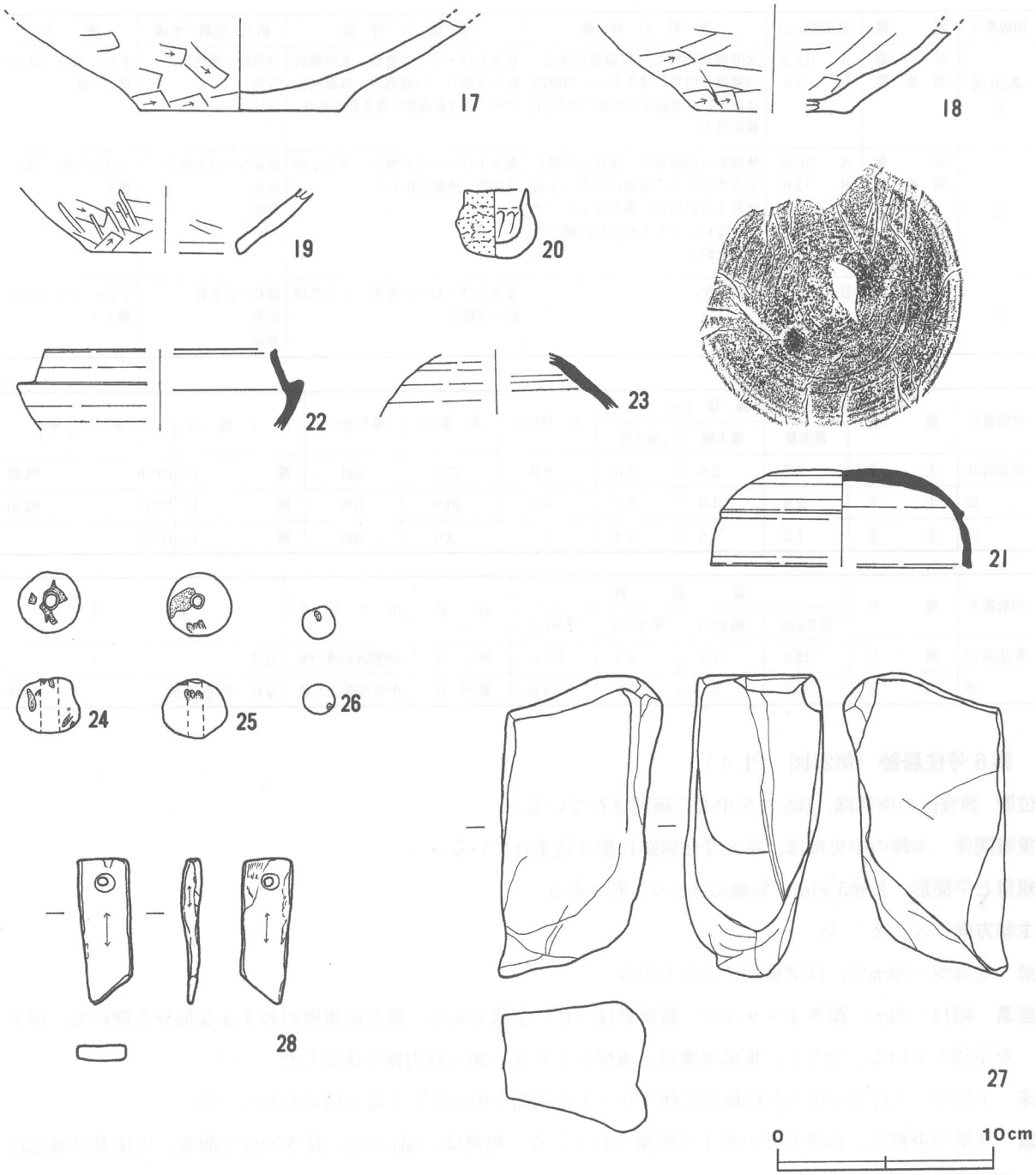
所見　本跡は，遺構の形態と遺物等から5世紀後葉の住居跡と考えら

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	坏 土師器	A [14.8] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒 赤褐色 普通	P93 15% 覆土
2	坏 土師器	A [15.8] B (5.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 赤褐色 普通	P94 30% 覆土
3	坏 土師器	A [15.3] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P95 10% 覆土
4	坏 土師器	A [18.5] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面弱いナデ。	白色粒 にぶい赤褐色 普通	P96 15% 覆土
5	坏 土師器	A [14.2] B (4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒 にぶい赤褐色 普通	P97 15% 外面煤付着 覆土
6	坏 土師器	A [18.8] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり．口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。外面赤彩。	白色粒 にぶい赤褐色 普通	P98 10% 外面煤付着 覆土
7	坏 土師器	A [15.1] B (2.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,口縁部は軽く外反する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P99 10% 覆土
8	坏 土師器	A [14.2] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 赤褐色 良好	P100 15% 覆土
9	坏 土師器	A [14.7] B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	白色粒 暗赤褐色 良好	P101 15% PL16 覆土
10	椀 土師器	A [12.8] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。体部外面にヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P102 10% 覆土
11	甕 土師器	A [23.2] B (20.1)	体部から口縁部片。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラ磨き後横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	礫・白色粒 にぶい橙色 普通	P103 30% PL17 覆土上層
12	甕 土師器	A [17.4] B (16.7)	体部から口縁部片。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 褐色 普通	P104 25% PL17 床直
13	甕 土師器	A [21.3] B (5.6)	口縁部片。	口縁部外面縦位のヘラ磨き後横ナデ，内面横位のヘラ磨き後横ナデ。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P105 10% 覆土中層
14	甕 土師器	A [16.2] B (6.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部外面ヘラ磨き後横ナデ，内面横ナデ。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P106 10% 覆土中層
15	大形椀 土師器	A [15.2] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P107 10% 覆土
16	甕 土師器	B (3.5) C 7.0	底部片。やや突出して凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	礫・白色粒・雲母 褐色 普通	P108 10% 覆土



第19図　第５号住居跡出土遺物(1)



第20図　第５号住居跡出土遺物(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第20図 17	甕 土師器	B (4.3) C 9.2	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P109 10% 覆土上層
18	甕 土師器	B (4.0) C [6.9]	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面強いヘラナデ。底部ヘラ削り。	白色粒・雲母 褐色 普通	P110 10% 外面煤付着 覆土
19	甑 土師器	B (3.1) C [7.0] 孔径 [6.5]	底部片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒 にぶい褐色 普通	P112 5% 覆土
20	ﾐﾆﾁｭｱ土器 土師器	A 2.9 B 3.2	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨き，内面指ナデ。外面赤彩。	白色粒・雲母 明褐色 良好	P113 100% PL16 覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第20図 21	坏　蓋 須恵器	A [12.2] B 5.0	天井部は内彎して口縁部に至る。口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直下し，端部はわずかに凹む(沈線が巡る)。	巻き上げ・ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面回転ナデ。天井部器壁に焼き膨れあり。	白色粒・黒色斑点 灰色 良好	P114 70% PL16 覆土上層
22	坏　身 須恵器	A [10.6] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，受部に至る。受部は外上方に伸び，端部はシャープではない。立ち上がりは内傾して立ち上がる。	巻き上げ・ロクロ整形。立ち上がり部内・外面回転ナデ。	砂粒少・白色粒少 灰色 良好	P115 15% PL29 覆土
23	坏　蓋 須恵器	B (2.7)	天井部片。	巻き上げ・ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。	砂粒・白色粒 灰色 良好	P116 5% PL29 覆土

図版番号	種　別	計測値 (cm)			孔　径(cm)	重　量(g)	現存率(%)	出土地点	備　考
		最大長	最大幅	最大厚					
第20図24	土　玉	2.8	2.9	2.6	0.8	17.3	100	覆　土	DP16 PL30
25	土　玉	2.9	3.0	2.7	0.6	20.9	100	覆　土	DP17 PL30
26	土　玉	1.5	1.6	1.4	−	3.0	100	覆　土	DP18

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第20図27	砥　石	13.9	7.8	6.4	777.5	砂　岩	南西壁際中央部覆土下層	Q10
28	砥　石	(6.7)	2.5	0.9	(14.6)	凝灰岩	中央部覆土上層	Q11 孔径0.4cm PL16

第6号住居跡（第21図　PL4）

位置　調査区の南東部，B2$_{j7}$区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の中央部は，第8号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.50m，短軸5.35mの方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高28～80cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

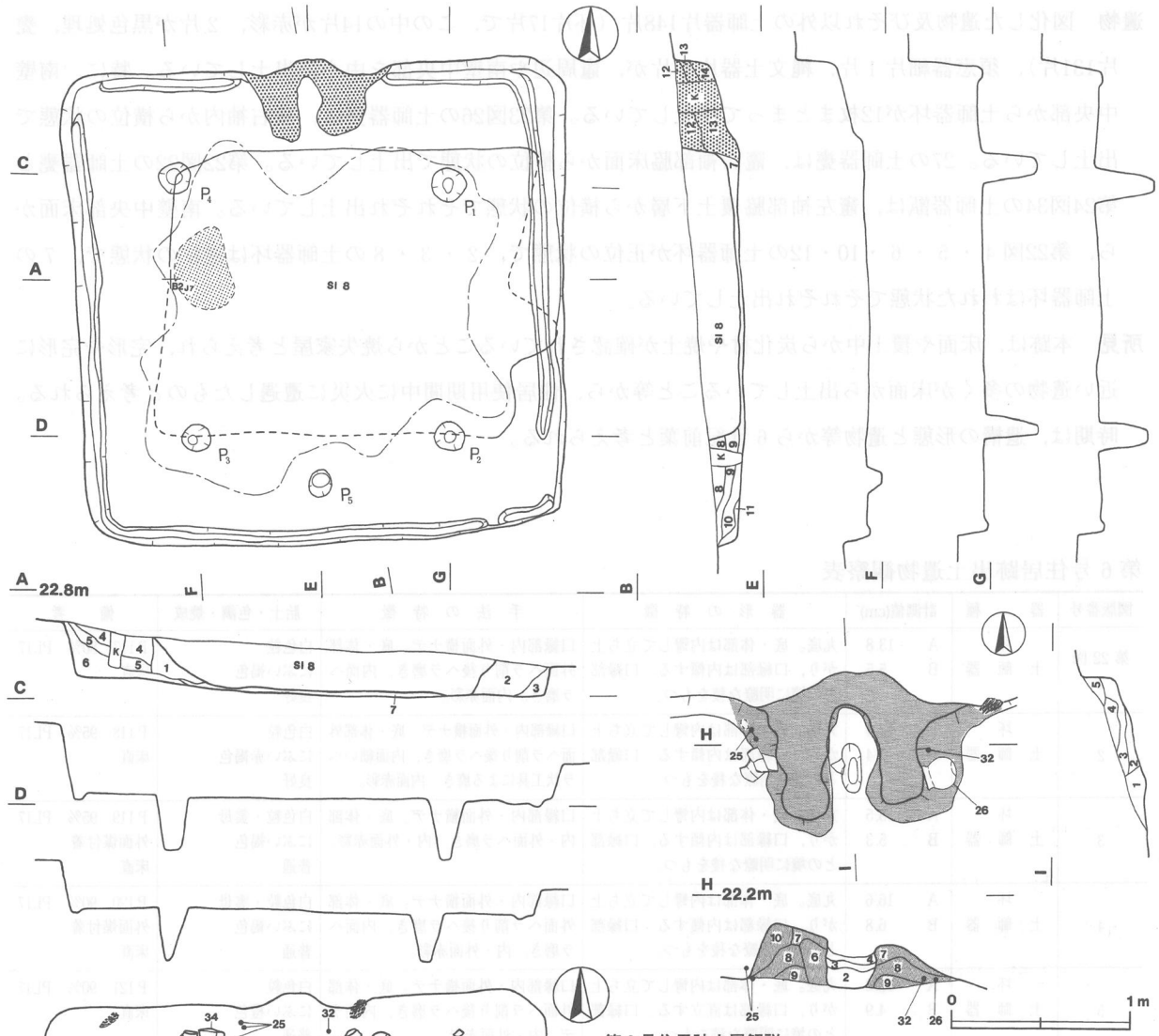
壁溝　幅14～20cm，深さ4～9cmで，断面形は「U」字状である。竈と南東壁のわずかな部分を除いて，壁下を全周している。ただし，東部壁溝は，東壁下より6～20cm程内側で確認した。

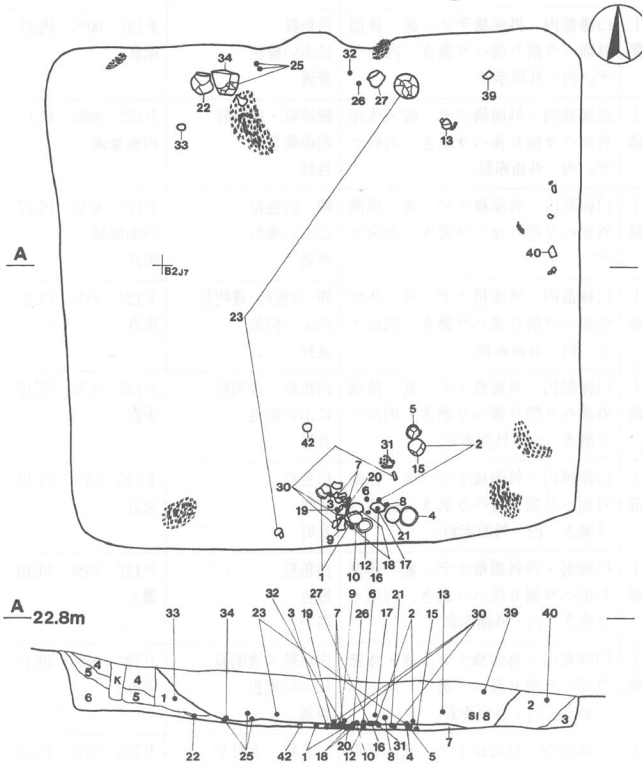
床　平坦で，主柱穴や出入り口施設に伴うピットの内側を中心によく踏み固められている。

竈　北壁中央部に，砂混じりの粘土で構築されている。規模は，幅125cm，長さ90cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化している。袖部中位以下は，良好に遺存しており，両袖とも基底部の幅は55cmを測る。右側袖部には，完形の土師器甕が横位の状態で補強材として使われている。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から急激に外傾して立ち上がる。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は，径27～40cmの円形，深さ56～66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_5$は，長径30cm，短径26cmの楕円形，深さ17cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　14層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。覆土中に炭化粒子や焼土粒子が見られる。





第6号住居跡土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　明褐色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
11　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
12　暗褐色　ローム粒子少量
13　暗褐色　ローム粒子中量
14　褐　色　ローム粒子・砂中量，焼土粒子・炭化粒子少量

第6号住居跡竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子・褐色粘土少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・褐色粘土少量
3　赤褐色　炭化材多量，焼土粒子・炭化粒子中量，褐色粘土少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化材・炭化粒子・褐色粘土少量
5　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・褐色粘土・砂少量
6　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　赤褐色　褐色粘土・焼土粒子多量，炭化粒子微量
8　赤褐色　褐色粘土・焼土粒子・炭化粒子多量，焼土小ブロック微量
9　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

0　1 m

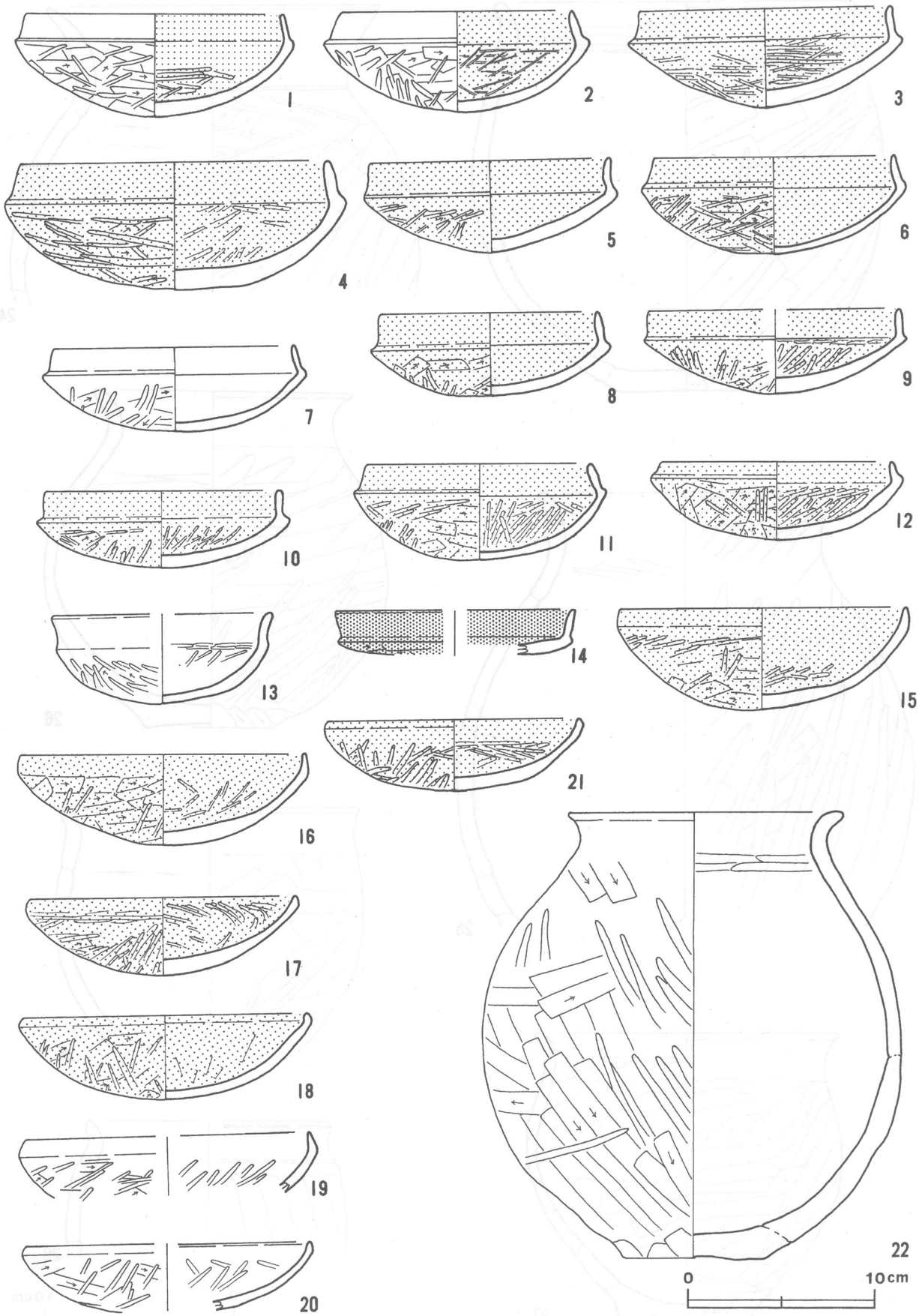
第21図　第6号住居跡

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片148片（坏片17片で，この中の14片が赤彩，２片が黒色処理，甕片131片），須恵器細片１片，縄文土器片２片が，竈周辺や南壁中央部を中心に出土している。特に，南壁中央部から土師器坏が12枚まとまって出土している。第23図26の土師器甕は，竈右袖内から横位の状態で出土している。27の土師器甕は，竈右袖部脇床面から横位の状態で出土している。第22図22の土師器甕と第24図34の土師器甑は，竈左袖部脇覆土下層から横位の状態でそれぞれ出土している。南壁中央部床面から，第22図４・５・６・10・12の土師器坏が正位の状態で，２・３・８の土師器坏は逆位の状態で，７の土師器坏はわれた状態でそれぞれ出土している。

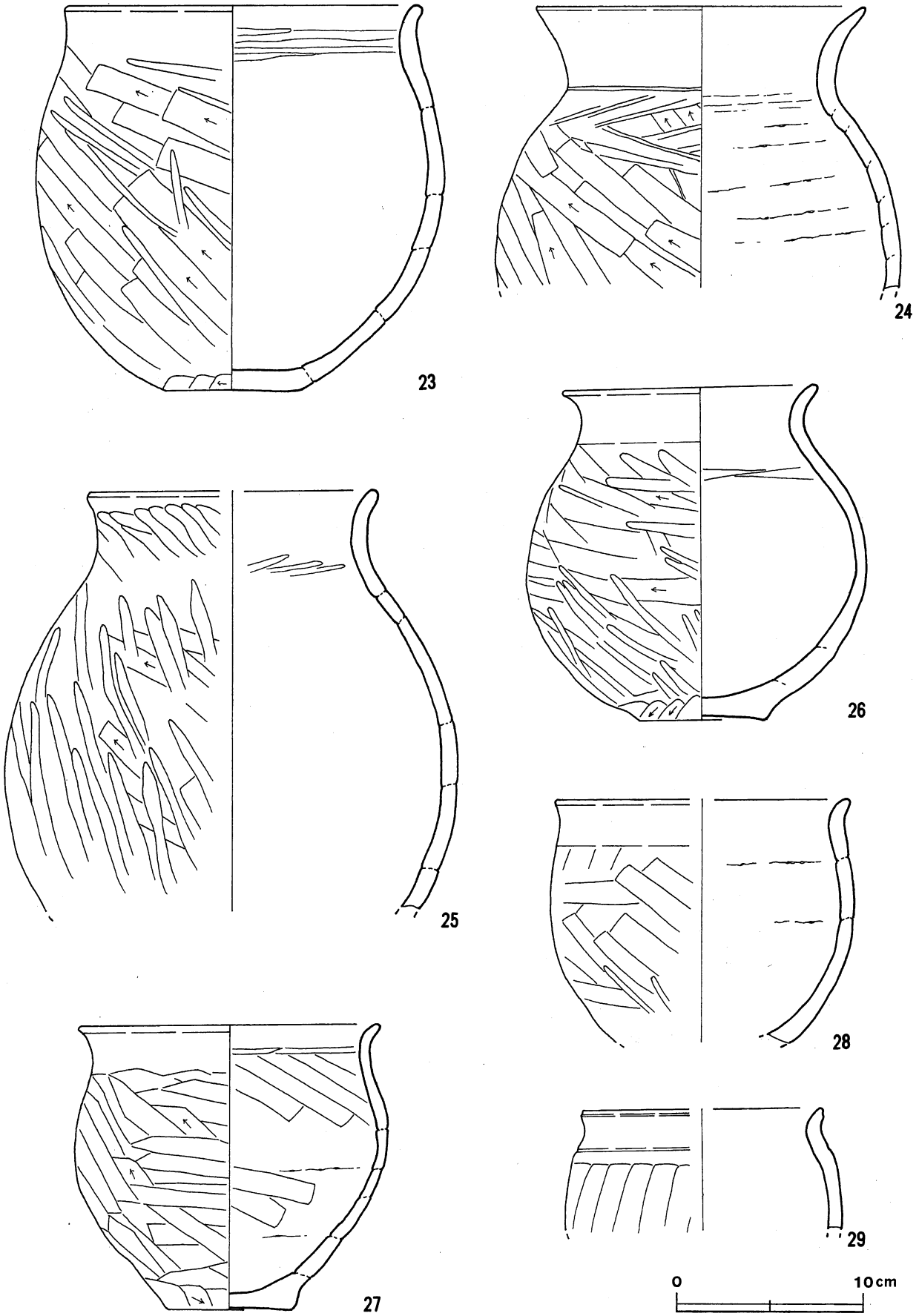
所見　本跡は，床面や覆土中から炭化材や焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられ，完形や完形に近い遺物の多くが床面から出土していること等から，住居使用期間中に火災に遭遇したものと考えられる。時期は，遺構の形態と遺物等から６世紀前葉と考えられる。

第６号住居跡出土遺物観察表

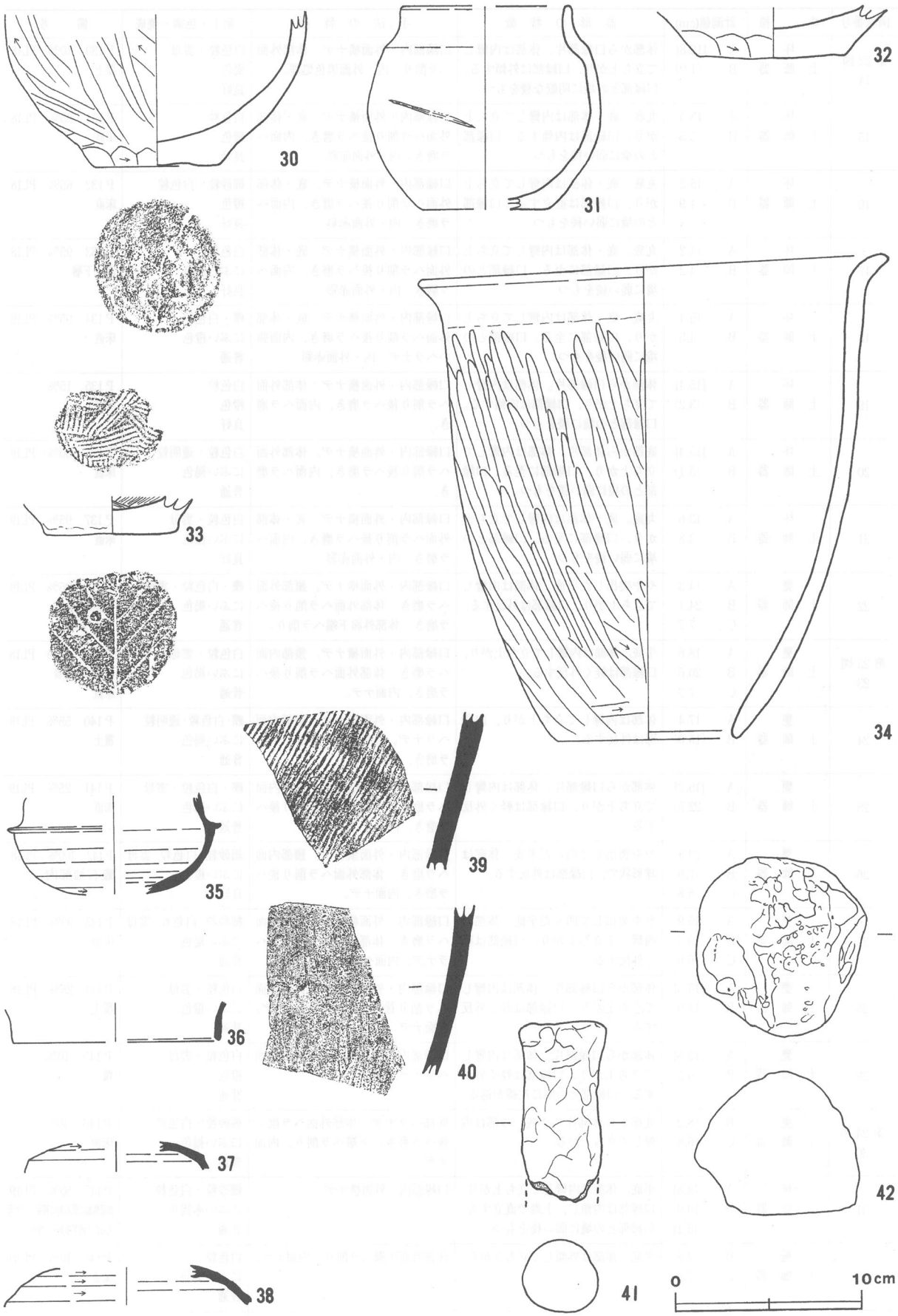
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内面赤彩。	白色粒 にぶい褐色 良好	P117 80% PL17 床直
2	坏 土師器	A 12.4 B 5.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面細いヘラ状工具による磨き。内面赤彩。	白色粒 にぶい赤褐色 良好	P118 95% PL17 床直
3	坏 土師器	A 13.5 B 5.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P119 95% PL17 外面煤付着 床直
4	坏 土師器	A 16.6 B 6.8	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P120 90% PL17 外面煤付着 床直
5	坏 土師器	A 12.8 B 4.9	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒 にぶい橙色 普通	P121 90% PL17 床直
6	坏 土師器	A 13.0 B 5.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり．口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒 明赤褐色 良好	P122 95% PL17 内面摩滅
7	坏 土師器	A 13.0 B 4.6	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	礫・白色粒 にぶい褐色 普通	P123 85% PL17 内面摩滅 床直
8	坏 土師器	A 11.8 B 4.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	礫・白色粒・透明粒 にぶい橙色 良好	P124 95% PL17 床直
9	坏 土師器	A [13.5] B 4.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 にぶい褐色 良好	P125 60% PL17 床直
10	坏 土師器	A 12.6 B 4.1	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒 橙色 良好	P126 75% PL19 床直
11	坏 土師器	A 12.0 B 5.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部・内外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒 橙色 良好	P127 75% PL19 覆土
12	坏 土師器	A 12.4 B 4.2	丸底。底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P128 95% PL19 床直
13	坏 土師器	A [11.6] B 4.9	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母少 橙色 良好	P129 35% PL17 覆土下層



第22図　第６号住居跡出土遺物(1)



第23図　第６号住居跡出土遺物(2)



第24図　第６号住居跡出土遺物(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 14	坏 土師器	A [12.8] B (1.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 褐色 良好	P130 10% PL18 覆土
15	坏 土師器	A 15.5 B 5.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒 橙色 良好	P131 85% PL18 床直
16	坏 土師器	A 15.2 B 4.9	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒 橙色 良好	P132 65% PL18 床直
17	坏 土師器	A 14.2 B 4.2	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒 にぶい橙色 良好	P133 95% PL18 覆土下層
18	坏 土師器	A 15.4 B 4.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面強いヘラナデ。内・外面赤彩。	礫・白色粒 にぶい橙色 普通	P134 95% PL19 床直
19	坏 土師器	A [15.4] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒 橙色 良好	P135 15% 床直
20	坏 土師器	A [15.4] B (3.1)	底部から体部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P136 30% PL19 床直
21	坏 土師器	A 13.6 B 3.8	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい橙色 良好	P137 95% PL19 床直
22	甕 土師器	A 14.3 B 24.1 C 7.7	やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部外面下端ヘラ削り。	礫・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P138 95% PL19 外面煤付着 覆土下層
第23図 23	甕 土師器	A 18.6 B 20.6 C 7.3	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P139 85% PL18 外面煤付着 床直
24	甕 土師器	A 17.4 B (15.0)	体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	礫・白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P140 55% PL18 覆土
25	甕 土師器	A [15.2] B (22.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	礫・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P141 25% PL19 床直
26	甕 土師器	A 13.3 B 17.9 C 6.8	やや突出して凹んだ平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 良好	P142 100% PL18 竈右袖部内
27	甕 土師器	A 15.9 B 15.3 C 6.6	やや突出して凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P143 95% PL18 床直
28	甕 土師器	A [15.6] B (13.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き・ヘラナデ，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P144 25% PL18 覆土
29	甕 土師器	A [12.8] B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P145 10% 覆土
第24図 30	甕 土師器	B (8.2) C 6.8	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，下端ヘラ削り，内面ナデ。	細砂粒・白色粒 にぶい褐色 普通	P146 30% 床直
31	椀 土師器	A [8.8] B 10.9 C [6.1]	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾し，上端で直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。	細砂粒・白色粒 にぶい赤褐色 普通	P147 50% PL19 体部外面に砥石的に利用したと考えられる研ぎ痕あり，床直
32	椀 土師器	B (2.8) C 7.9	平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒 にぶい褐色 普通	P148 10% PL19 床直
33	椀 土師器	B (2.0) C 6.9	底部片。平底。	体部内面ハケ目整形。底部木葉痕。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P149 15% 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 34	甑 土師器	A 24.6 B 25.8 C 9.8 孔径 9.1	無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部で軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・雲母 褐色 良好	P150 90% PL20 覆土下層
35	坏身 須恵器	B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，受部に至る。受部は水平に伸び，端部は尖る。立ち上がりは内傾して立ち上がる。	巻き上げ・ロクロ整形。立ち上がり部回転ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。	砂粒少·白色粒·黒色粒 オリーブ黒色 普通	P151 20% PL17 覆土
36	坏蓋 須恵器	A [11.0] B (2.1)	口縁部片。	口縁部回転ナデ。	白色粒 灰色 普通	P152 5% PL29 覆土
37	坏蓋 須恵器	B (1.5)	天井部片。天井部は内彎して口縁部に至り，口縁部との境に稜をもつ。	天井部外面回転ヘラ削り。天井部下端回転ナデ。	白色粒・透明粒 灰色 良好	P153 5% PL29 覆土
38	坏蓋 須恵器	B (2.0)	天井部片。天井部は内彎して口縁部に至る。	天井部外面回転ヘラ削り。天井部下端回転ナデ。	白色粒 灰色 良好	P154 5% PL29 覆土

第24図39（TP7）は須恵器甕の体部片で，外面に斜位の平行叩きが施されている。40（TP28）は須恵器甕の体部片で，外面にヘラナデが施されている。

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第24図41	支脚	(9.6)	4.7	3.9	−	(202.0)	50	覆土	DP19 PL18

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第24図42	浮子	9.6	9.1	7.7	137.8	軽石	中央部床直	Q12 PL19

第8号住居跡（第25図　PL 4）

位置　調査区の南東部，B2$_{j7}$区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は，第6号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.90m，短軸3.20mの長方形である。

主軸方向　N－93°－E

壁　壁高36～54cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

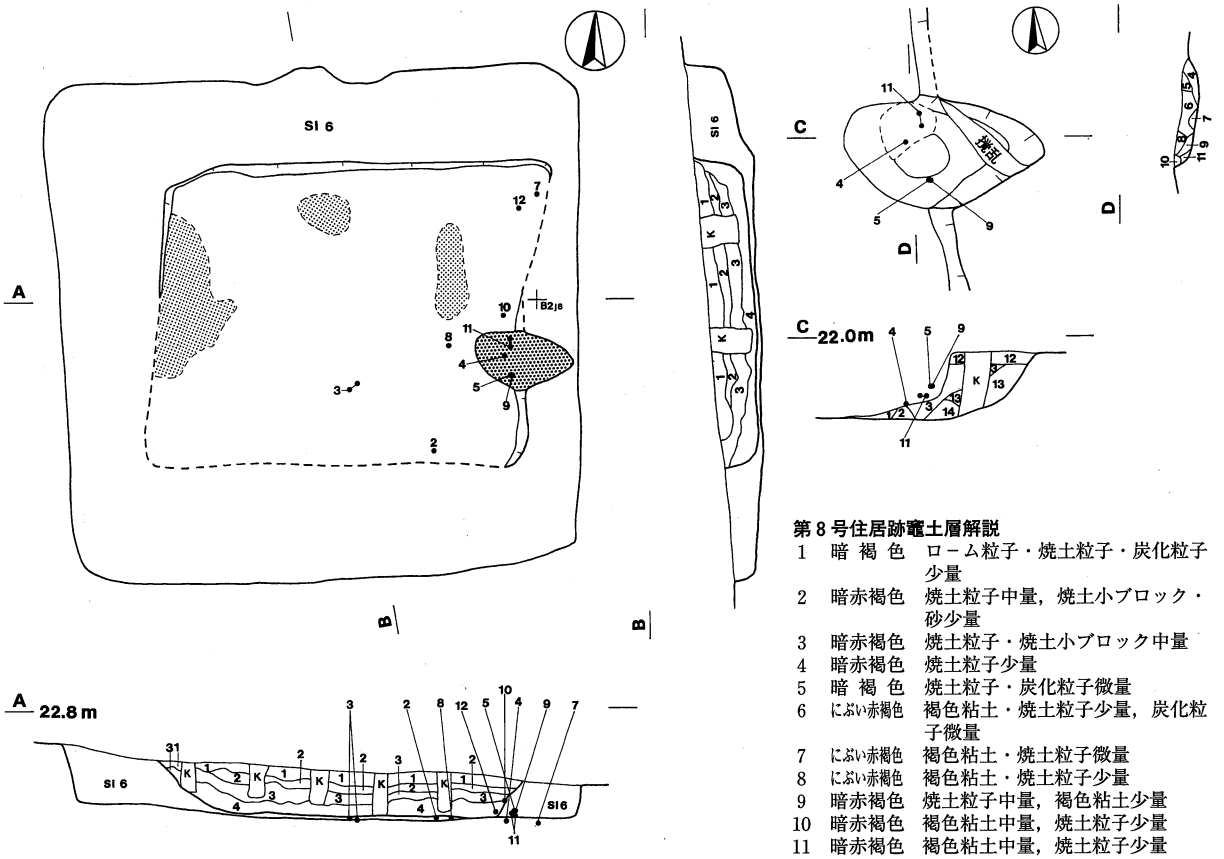
床　平坦であるが，踏み固められた面は認められず，硬化の度合いは弱い。竈前方部，床面北部・西部の3か所に焼土の範囲を確認している。

竈　東壁中央部よりやや南寄りに砂混じりの粘土で構築されているが，残存状態は悪く，天井部・袖部は遺存していない。規模は，幅60cm，長さ106cmを測る。火床面は，床面と一致し平らであり，赤変しかなり硬化している。煙道部は，壁外へ52cm程掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土　4層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片323片（坏片78片，甕片242片，小皿片3片）が，遺構全体から出土している。第26図2の土師器高台付坏は，南東部床面から逆位の状態で，北東コーナーから7の土師器高台付坏は，床面から正位の状態で，12の土師器小皿は，覆土下層から逆位の状態でそれぞれ出土している。3の土師器高台付坏は，中央部覆土下層からわれた状態でそれぞれ出土している。4・5の土師器高台付坏と11の土師器小皿は，竈内からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第６号住居跡より新しい。時期は，内・外面黒色処理の土師器高台付坏や椀的に立ち上がる土師器高台付坏や，底部回転糸切りの土師器小皿が出土していることから，11世紀前葉と考えられる。



第８号住居跡竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量
5　暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　褐色粘土・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　にぶい赤褐色　褐色粘土・焼土粒子微量
8　にぶい赤褐色　褐色粘土・焼土粒子少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，褐色粘土少量
10　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子少量
11　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子少量
12　暗 褐 色　ローム粒子少量
13　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量

第８号住居跡土層解説

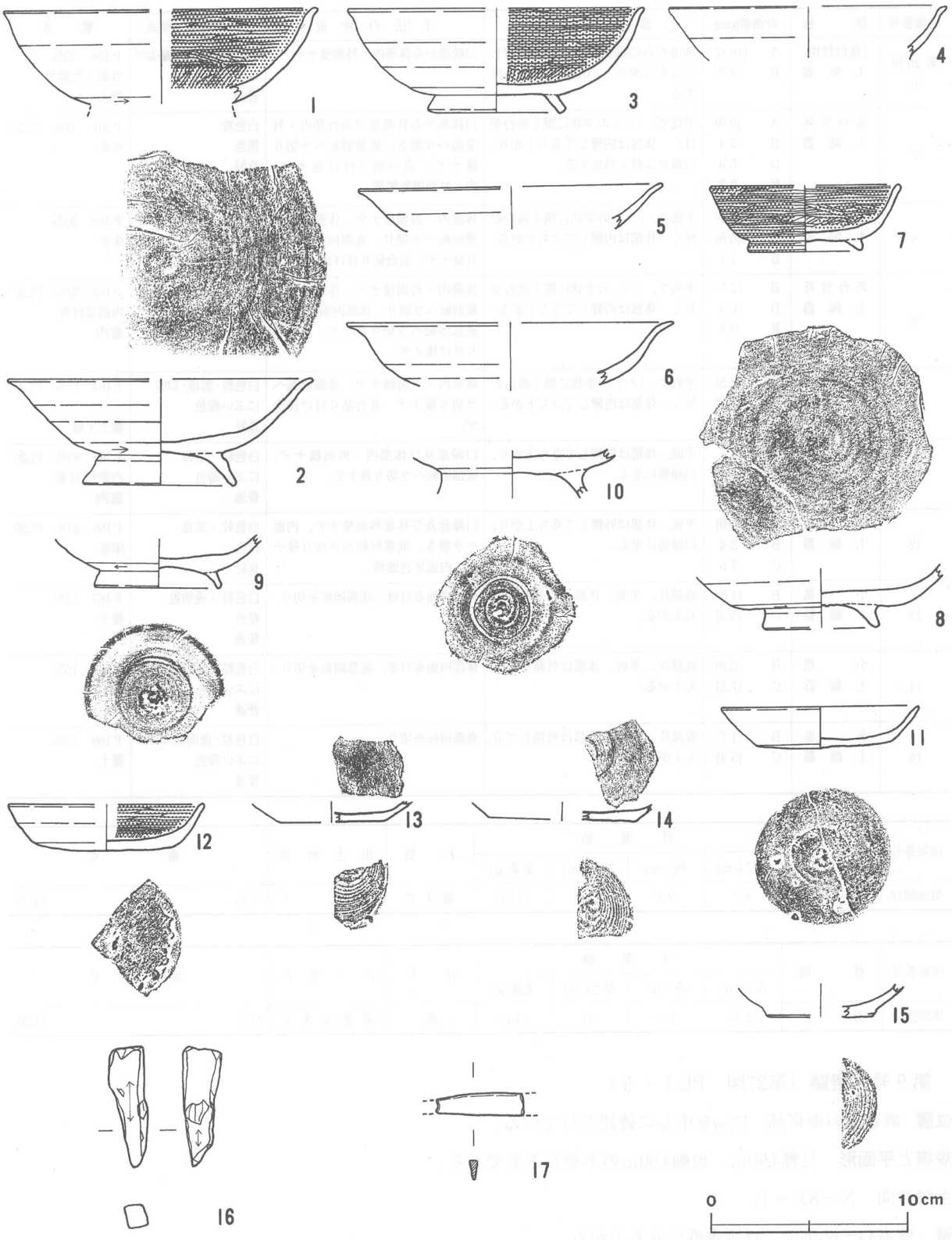
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　黒色土中量，ローム粒子少量
3　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
4　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量

0　2m　　0　1m

第25図　第８号住居跡

第８号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第26図 1	高台付坏 土師器	A [13.8] B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P155 20% 覆土
2	高台付坏 土師器	A [12.4] B 5.5 D 7.7 E 1.7	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ，内面に布目痕が残る。体部外面回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P156 55% PL20 外面二次被熱 床直
3	高台付坏 土師器	A [15.2] B 5.3 D 7.1 E 0.9	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 良好	P157 40% PL20 外面二次被熱 覆土下層
4	[高台付]坏 土師器	A [14.2] B (2.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ，内面に布目痕残る。	細砂粒・白色粒 にぶい橙色 普通	P158 30% PL20 竈内
5	[高台付]坏 土師器	A [15.6] B (2.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ。	白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P159 20% 竈内



第26図　第８号住居跡出土遺物

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 6	[高台付]坏 土師器	A [16.6] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ。	細砂粒・白色粒・透明粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P160 20% 外面二次被熱 覆土
7	高台付坏 土師器	A [9.9] B 3.4 D 5.8 E 0.7	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部及び高台部内・外全面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒 黒色 良好	P161 70% PL20 床直
8	高台付坏 土師器	B (3.1) D [5.6] E 1.1	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	白色粒・透明粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P162 30% 床直
9	高台付坏 土師器	B (2.7) D 6.4 E 0.8	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。体部内面布目痕。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい褐色 良好	P163 30% PL20 内面煤付着 竈内
10	高台付坏 土師器	B (2.5) E (0.9)	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 良好	P164 15% PL20 覆土下層
11	小皿 土師器	A 10.1 B 2.1 C 6.9	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P165 80% PL20 内面ﾀｰﾙ付着 竈内
12	小皿 土師器	A [10.0] B 2.4 C 7.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。内面黒色処理。	白色粒・雲母 橙色 良好	P166 30% PL20 床直
13	小皿 土師器	B (1.0) C [5.3]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面布目痕。底部回転糸切り。	白色粒・透明粒 橙色 普通	P167 15% 覆土
14	小皿 土師器	B (0.9) C [7.5]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面布目痕。底部回転糸切り。	白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P168 15% 覆土
15	小皿 土師器	B (1.7) C [5.4]	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り。	白色粒・透明粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P169 15% 覆土

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第26図16	砥石	6.2	(2.1)	(2.1)	(24.4)	凝灰岩	覆土	Q13 PL20

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第26図17	刀子	(4.5)	1.1	0.4	(4.8)	鉄	南東部覆土	M2 PL20

第9号住居跡（第27図　PL4・5）

位置　調査区の南東部，$B2_{g9}$を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸4.00mの不整長方形である。

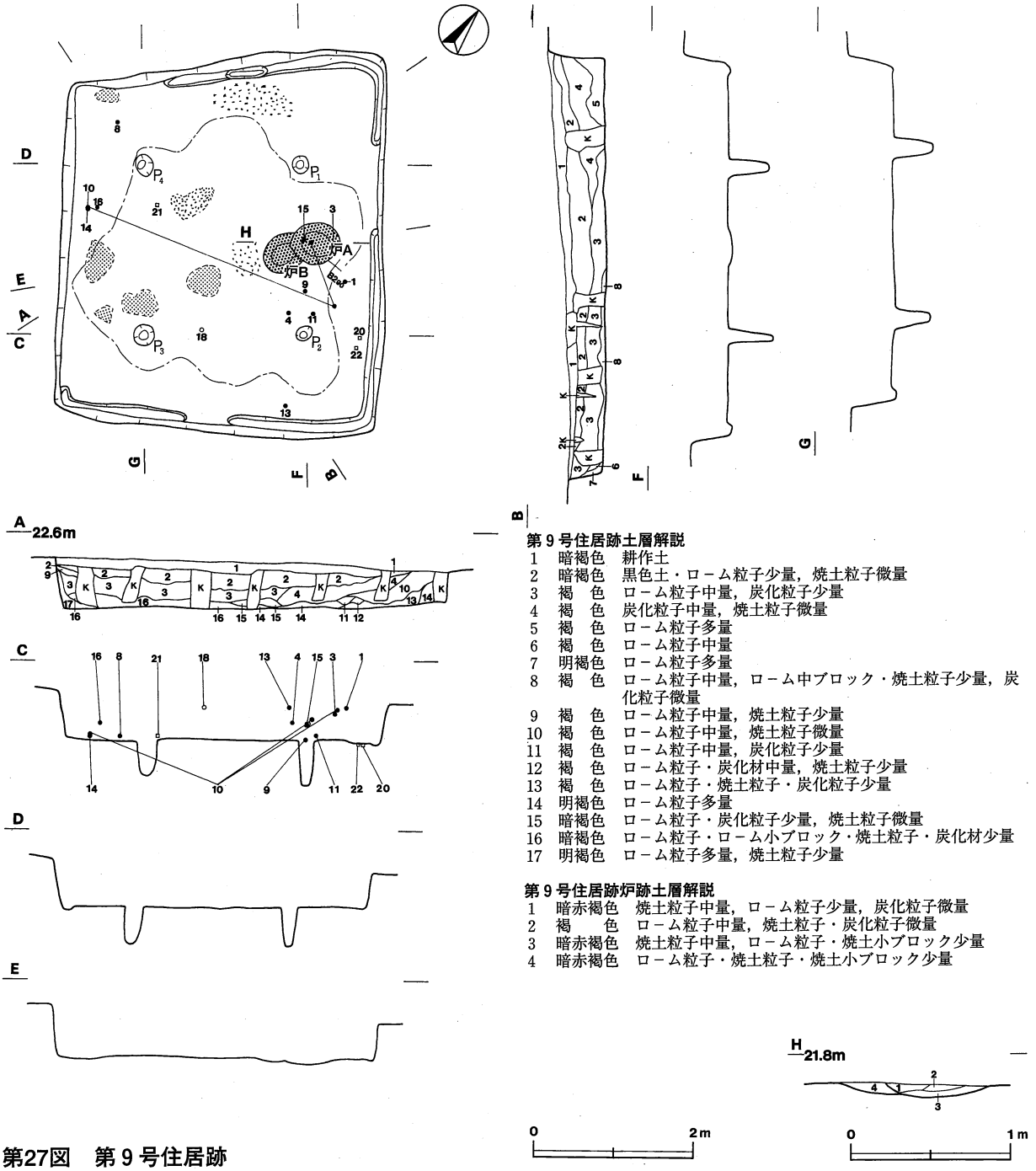
主軸方向　N－83°－E

壁　壁高44～65cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅10～16cm，深さ4cmで，断面形は「U」字状である。北東壁と北西壁と南東壁の壁下を周っている。

床　平坦で，主柱穴の内側を中心によく踏み固められている。床面より5cm程浮いた面で，西コーナーと南部で焼土の範囲を4か所確認している。

炉　P_1・P_2を結んだ直線上に，2基接して確認している。炉Aは，炉Bを掘り込み，長径62cm，短径54cmの楕円形の地床炉で，床面を16cm程掘り凹め，炉床面は，赤変しかなり硬化している。炉Bは，炉Aに掘り



第9号住居跡土層解説

1　暗褐色　耕作土
2　暗褐色　黒色土・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　明褐色　ローム粒子多量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
10　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
12　褐　色　ローム粒子・炭化材中量，焼土粒子少量
13　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
14　明褐色　ローム粒子多量
15　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材少量
17　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

第9号住居跡炉跡土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量

第27図　第9号住居跡

込まれ，長径［58］cm，短径44cmの楕円形の地床炉で，床面を14cm程掘り凹め，炉床は，赤変しているがさほど硬化しておらず，短期間の使用と考えられる。炉B使用後，炉Aを使用したものと考えられる。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径20～26cmの円形・楕円形，深さ48～57cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

覆土　17層からなり，基本となる土層はレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

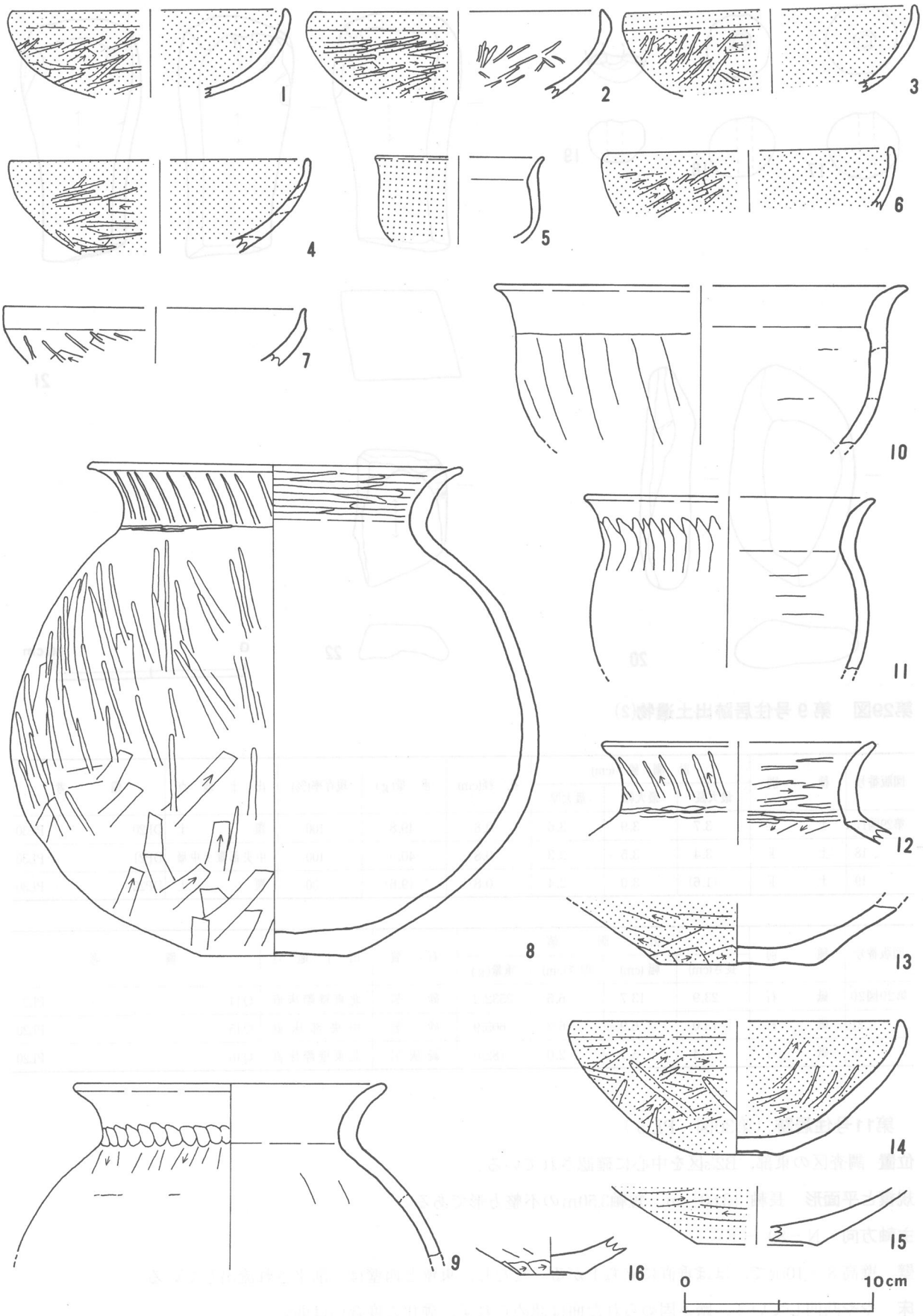
遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片374片（坏片は45片で，この中の30片が赤彩，甕片32片）が，東部から南部にかけて出土している。北東壁際中央部から第28図1と3の土師器坏は覆土中層から，第29図22の砥石は床面から，第28図8の土師器甕は西コーナー床面から横位の状態でそれぞれ出土している。中央部東寄りから4の土師器坏は覆土中層から，9の土師器甕は床面から逆位の状態で，第29図21の砥石は

中央部西寄り床面から，第28図14の土師器鉢は南西壁際中央部床面からそれぞれ出土している。

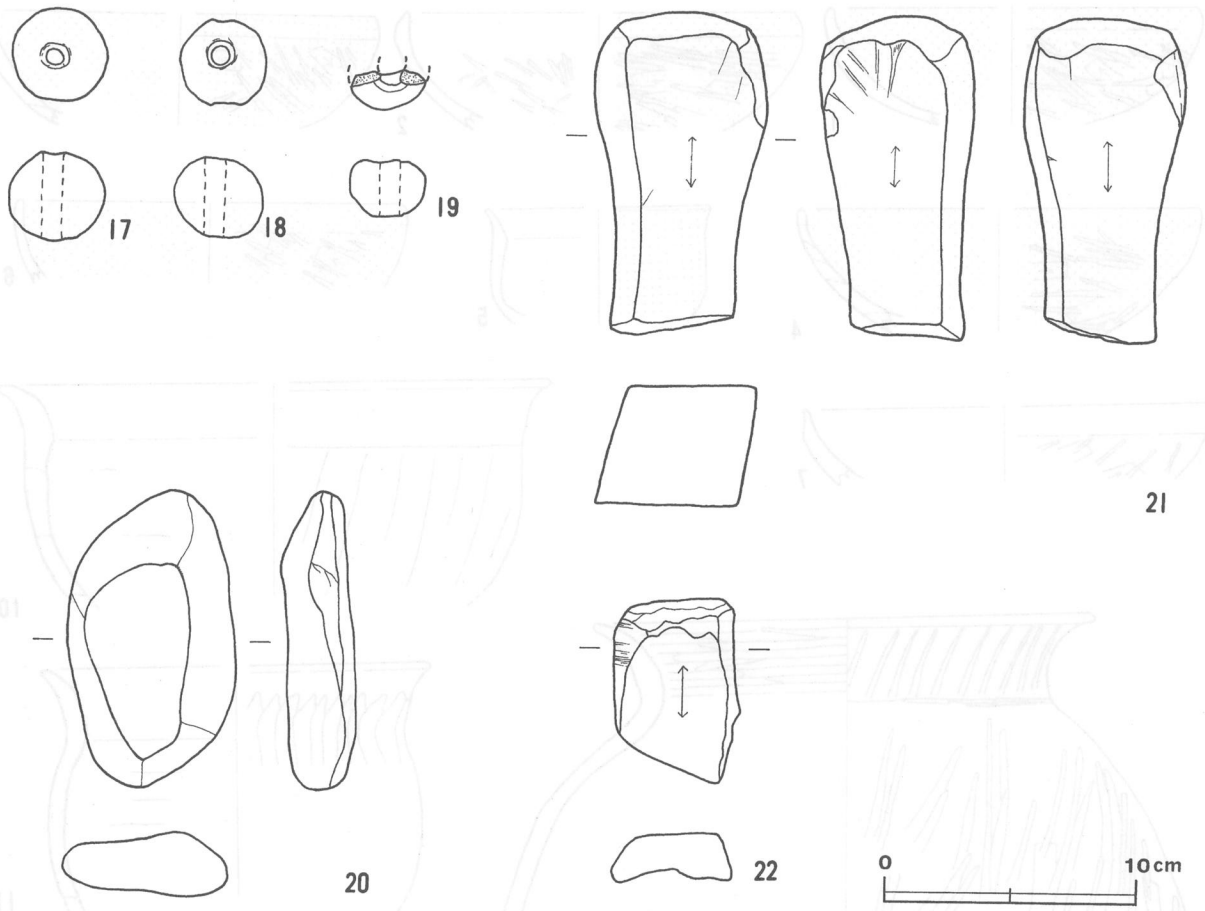
所見　本跡は，炉跡があるという遺構としての形態，まだ模倣坏が見られないことから，時期は5世紀中葉と位置づけたい。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	坏 土師器	A [14.6] B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・透明粒 赤褐色 普通	P170 35% 覆土中層
2	坏 土師器	A [15.4] B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。外面赤彩。	礫・白色粒・透明粒 暗赤褐色 普通	P171 20% PL20 覆土
3	坏 土師器	A [15.4] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P172 20% 覆土中層
4	坏 土師器	A [16.0] B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい赤橙色 普通	P173 20% 覆土中層
5	椀 土師器	A [9.0] B (4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面赤彩。	透明粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P174 15% 覆土
6	坏 土師器	A [15.4] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P175 10% 覆土
7	坏 土師器	A [16.0] B (3.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	細砂粒・白色粒・透明粒 明赤褐色 普通	P176 10% 覆土
8	甕 土師器	A 20.0 B 26.5 C 8.0	平底。体部は球形状で，口縁部は外反する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。底部ヘラ削り。	礫・白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P177 90% PL21 床直
9	甕 土師器	A 16.4 B (9.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P178 30% PL21 外面被熱により摩滅　床直
10	鉢 土師器	A [21.8] B (8.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	礫・白色粒・透明粒 橙色 普通	P179 10% 覆土下層
11	甕 土師器	A [15.4] B (9.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P180 10% 床直
12	甕 土師器	A [14.4] B (5.5)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラ削り後ヘラ磨き・ヘラナデ，内面ヘラ削り後ヘラ磨き。頸部内・外面横位のヘラ磨き。	白色粒・透明粒 赤褐色 普通	P181 10% 覆土
13	甕 土師器	B (3.3) C 8.4	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。体部外面赤彩。	白色粒・透明粒 橙色 普通	P182 10% 覆土中層
14	鉢 土師器	A [17.6] B 7.2 C 4.3	やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 赤褐色 普通	P183 35% 床直
15	甕 土師器	B (3.1) C [6.4]	底部片。やや凹んだ平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P184 10% 覆土中層
16	甕 土師器	B (2.0) C 3.5	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒 黒褐色 普通	P185 10% 覆土中層



第28図　第９号住居跡出土遺物(1)



第29図　第９号住居跡出土遺物(2)

図版番号	種　別	計測値 (cm)			孔　径(cm)	重　量(g)	現存率(%)	出土地点	備　考	
		最大長	最大幅	最大厚						
第29図17	土　玉	3.7	3.9	3.6	0.8	49.8	100	覆　土	DP20	PL30
18	土　玉	3.4	3.5	3.3	0.8	40.5	100	中央部覆土中層	DP21	PL30
19	土　玉	(1.6)	3.0	2.4	0.8	(9.6)	30	覆　土	DP22	PL30

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第29図20	砥　石	23.9	13.7	6.5	2532.2	砂　岩	北東壁際床直	Q14	PL21
21	砥　石	13.0	6.9	6.2	(605.9)	砂　岩	中央部床直	Q15	PL20
22	砥　石	7.4	5.1	2.0	(82.6)	凝灰岩	北東壁際床直	Q16	PL20

第11号住居跡（第30図　PL５）

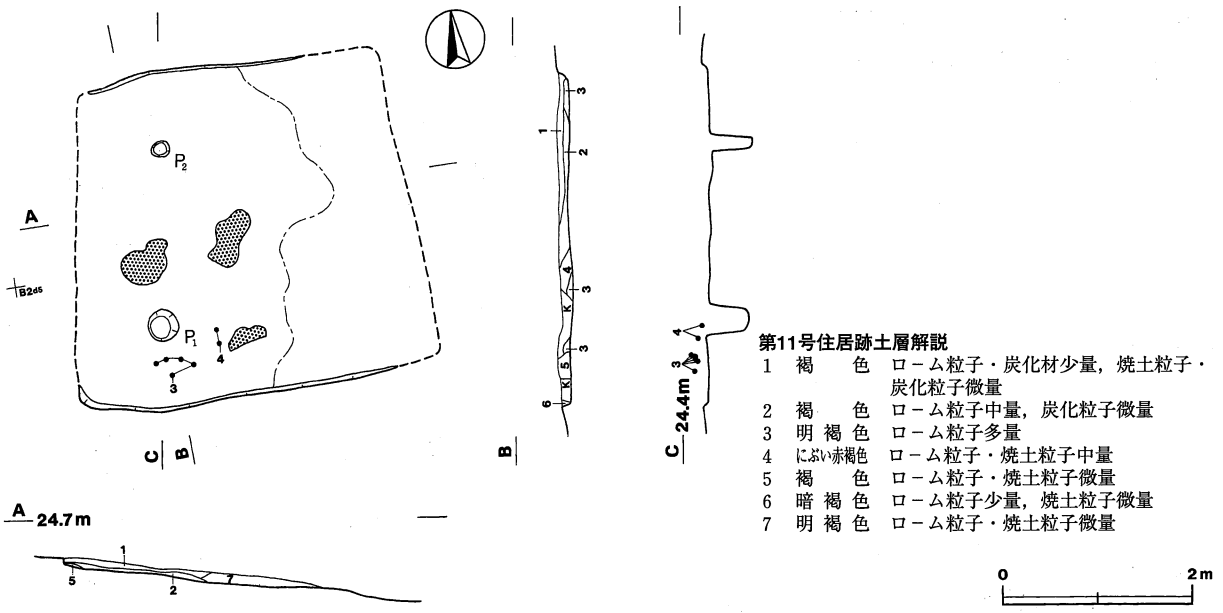
位置　調査区の東部，B2$_{c5}$区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸［3.60］m，短軸3.50mの不整方形である。

主軸方向　N－89°－E

壁　壁高８～10cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。ただし，東壁と西壁は，削平され流出している。

床　やや凸凹していて，踏み固められた面は認められず，硬化の度合いは弱い。



第30図　第11号住居跡

炉　床が焼土化している場所が3か所確認されている。これらの焼土化している床は，炉と考えるには焼け具合が弱いことから，一時的に炉として使用したものか，火災によるものか判然としない。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1・P_2は，径20～32cmの円形，深さ44～46cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

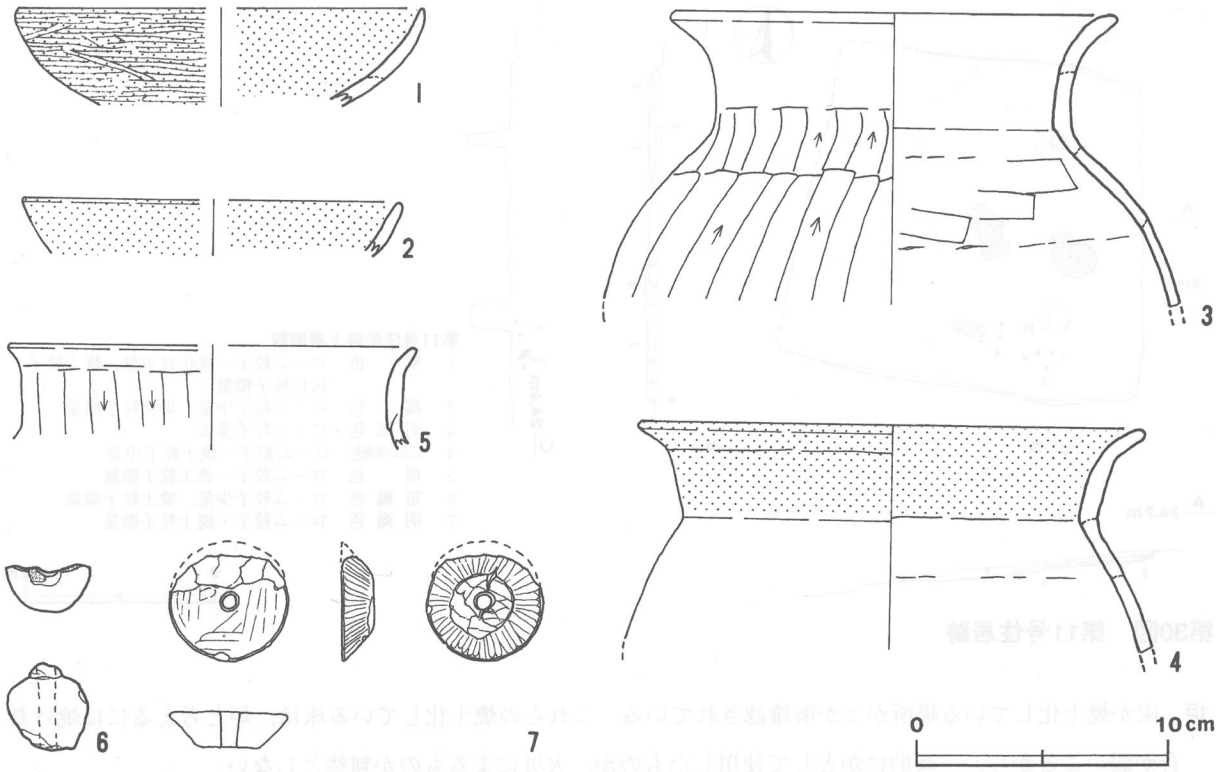
覆土　7層からなるが，覆土が薄く堆積状況は明確でない。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片243片（坏・椀片は33片で，この中の24片が赤彩，甕片210片）が，西部から出土している。第31図3・4の土師器甕は，南西コーナー覆土下層からそれぞれつぶれた状態で出土している。

所見　本跡は，床面や覆土中から炭化材や焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は，遺構の形態と遺物等から第9号住居跡と同時期の5世紀中葉と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	坏 土師器	A [15.9] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P186 15% 覆土
2	坏 土師器	A [14.7] B (2.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 暗赤褐色 普通	P187 10% 覆土
3	甕 土師器	A 17.3 B (11.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ヘラナデ。	礫・白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P188 30% PL21 外面被熱により赤化 覆土下層
4	甕 土師器	A 19.6 B (8.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反し，上端で更に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面赤彩。	礫・白色粒・透明粒 明赤褐色 普通	P189 15% 覆土下層
5	甕 土師器	A [16.0] B (4.0)	口縁部片。口縁部は直立し，上端で軽く外反する。	口縁部外面ヘラ削り後ヘラナデ，外面上端及び内面横ナデ。	白色粒・透明粒 にぶい褐色 普通	P190 10% 内面摩滅 覆土



第31図　第11号住居跡出土遺物

図版番号	種　別	計測値(cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第31図6	土　玉	(1.9)	3.3	3.6	0.8	(13.7)	50	覆　土	DP23　PL30

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第31図7	紡錘車	(4.2)	4.7	1.4	(36.7)	滑　石	覆　土	Q17　孔径0.7cm　PL21

第12号住居跡（第32図　PL５）

位置　調査区の東部，B2b4区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸（2.40）mであるが，北東壁は，削平され流出しているが，平面形は，方形と　推定される。

主軸方向　N－65°－E

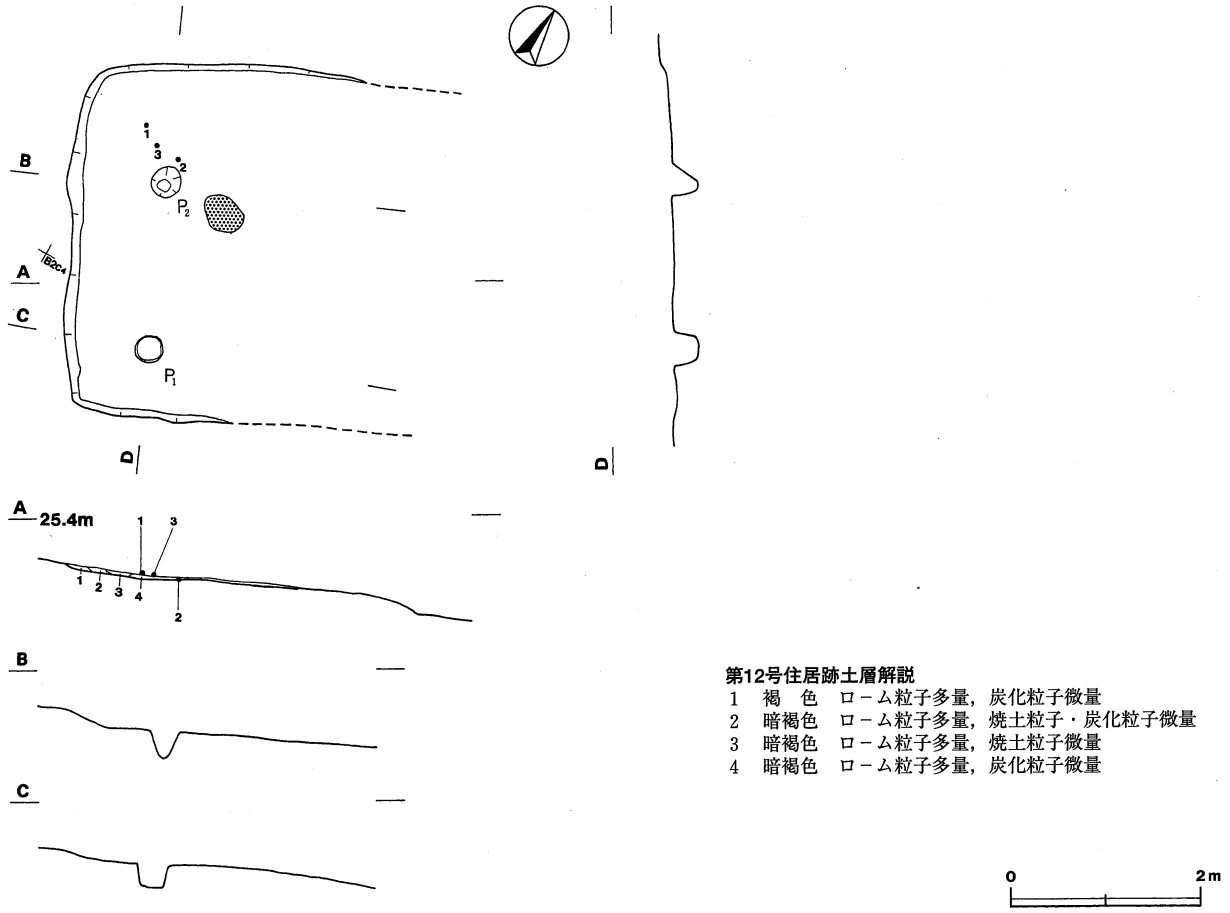
壁　壁高４～８cmで，外傾して立ち上がる。ただし,北東壁は，削平され流出している。

床　平坦であるが，踏み固められた面は認めらず，硬化の度合いは弱い。

炉　主柱穴を結んだ線より内側に床が焼土化している場所を１か所確認している。平面形は，長径48cm，短径36cmの楕円形をした地床炉で，床面をわずかに掘り凹め，炉床面は，赤変しているが硬化していない。この焼土化している床は，炉と考えるには焼け具合が弱いことから，一時的に炉として使用したものか，火災によるものか判然としない。

ピット　２か所（P1・P2）。P1・P2は，径30～34cmの円形，深さ26～30cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

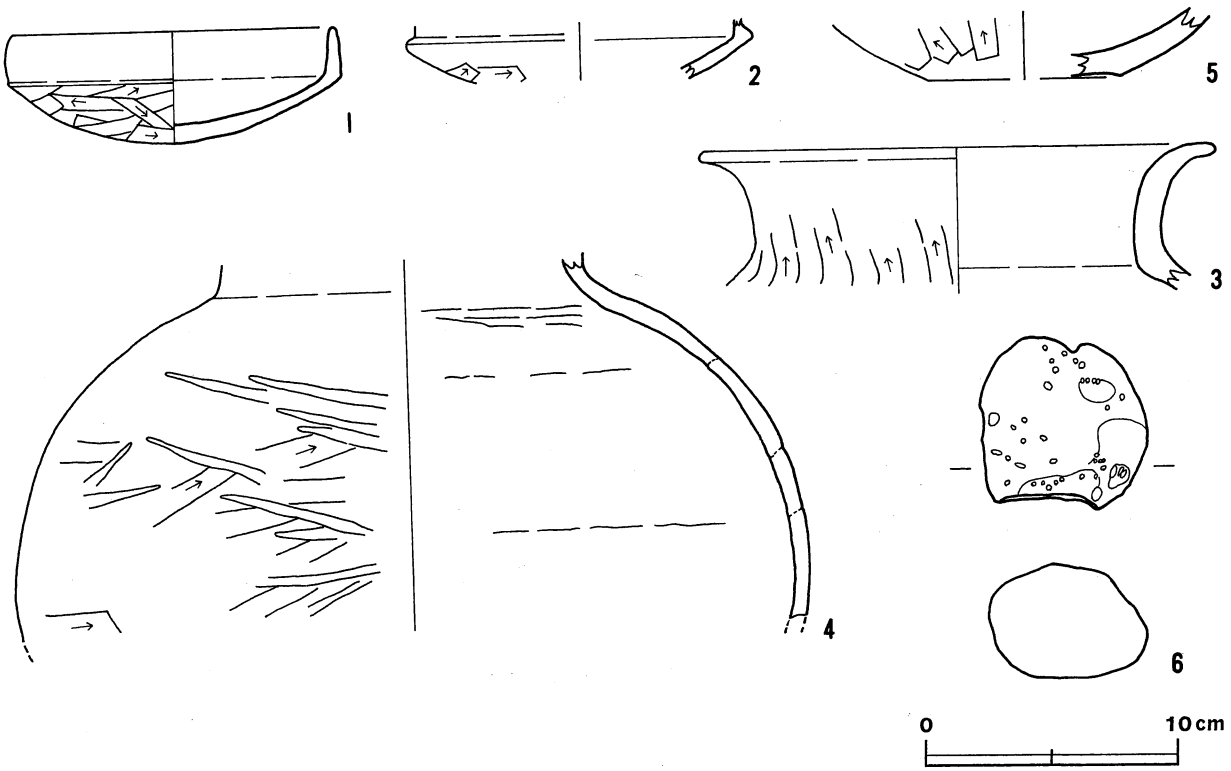
覆土　４層からなるが，覆土が薄く堆積状況は明確でない。



第12号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第32図　第12号住居跡



遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片131片（坏片18片，甕片113片）が，北西部の床面の焼土化した地点の周辺から出土している。西コーナー床面から，第33図１の土師器坏が正位の状態で，２の土師器坏は破片の状態で，３の土師器甕は正位の状態でそれぞれ出土している。

所見　本跡は，床面や覆土中から炭化材や焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は，炉跡があるという遺構の形態と，遺物に模倣坏が見られることから，５世紀後葉と考えたい。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	坏 土師器	A 12.7 B 4.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラナデ，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P191 100% PL21 床直
2	坏 土師器	B (2.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	体部外面ヘラ削り。	白色粒 にぶい橙色 普通	P192 10% 床直
3	甕 土師器	A 20.0 B (5.8)	口縁部片。口縁部は直立して立ち上がり，上端で大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下端ヘラ削り後横ナデ。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい褐色 普通	P193 20% PL21 床直
4	甕 土師器	B (14.8)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。頸部内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P194 15% 覆土下層
5	甕 土師器	B (2.7) C [7.6]	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。底部外面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P195 10% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第33図 6	浮子	6.9	6.6	4.6	61.7	軽石	覆土	Q18 PL21

第13号住居跡（第34図　PL５・６）

位置　調査区の東部，B2a2区を中心に確認されている。

規模と平面形　長軸4.90m，短軸4.85mの方形である。

主軸方向　N－38°－W

壁　壁高４～42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

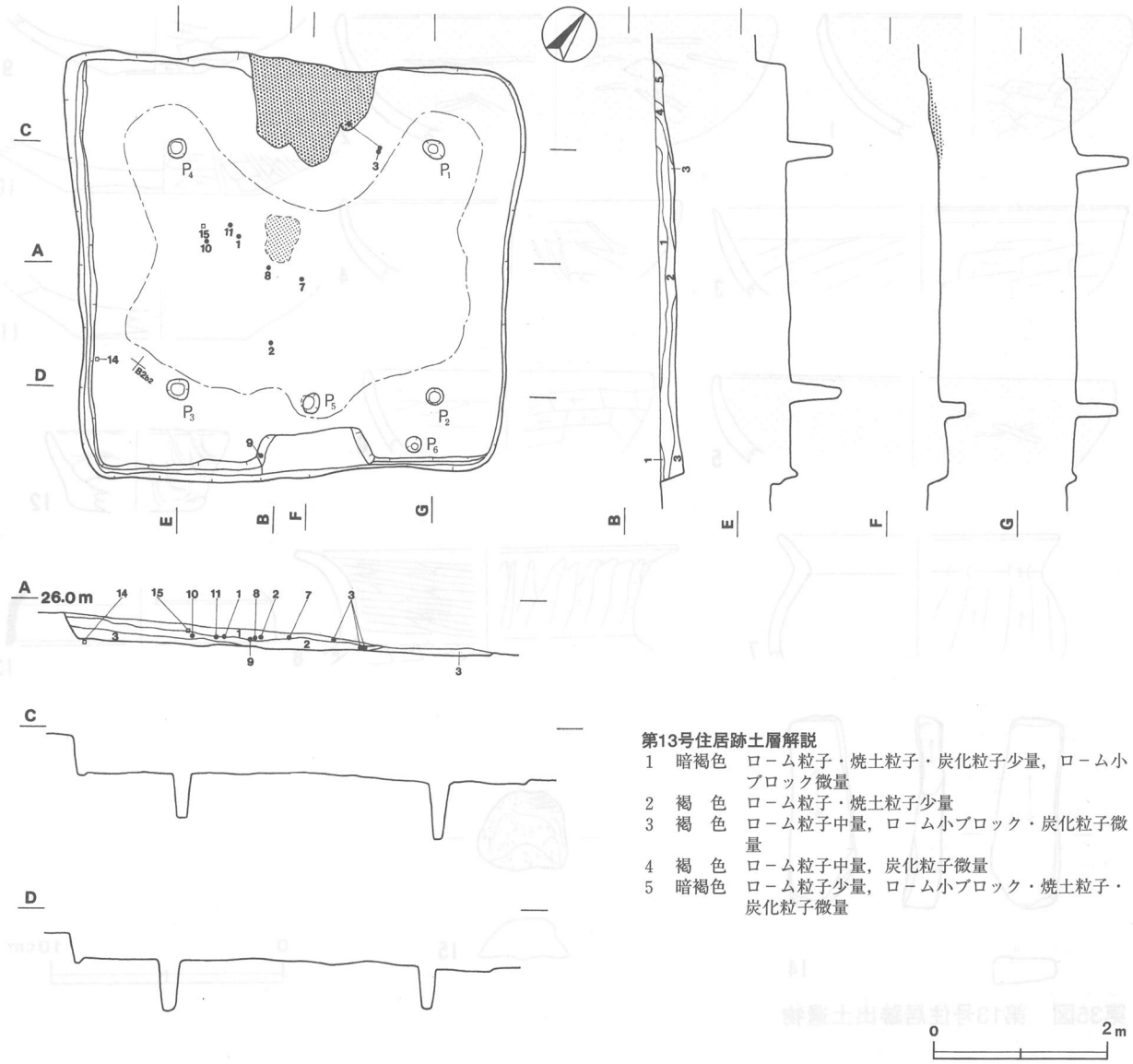
壁溝　幅８～12cm，深さ４～12cmで，断面形は「U」字状である。南東壁と南西壁で，壁下を周っている。

床　平坦で，主柱穴の内側を中心によく踏み固められている。床面中央部に長径52cm，短径36cmの楕円形状の焼土化している場所を１か所確認している。南東壁中央部に接して，幅130cm，長さ42cmの長方形で，深さ10cm程の落ち込みが見られる。

竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅132cm，長さ117cmを測る。火床及び袖部内面の赤変の度合いは弱い。袖部下位は，両袖とも基底部の幅は25cm程である。火床面は，床面を５cm程掘り込んでいる。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から急激に外傾して立ち上がる。１層は，竈天井部の崩落した土層である。

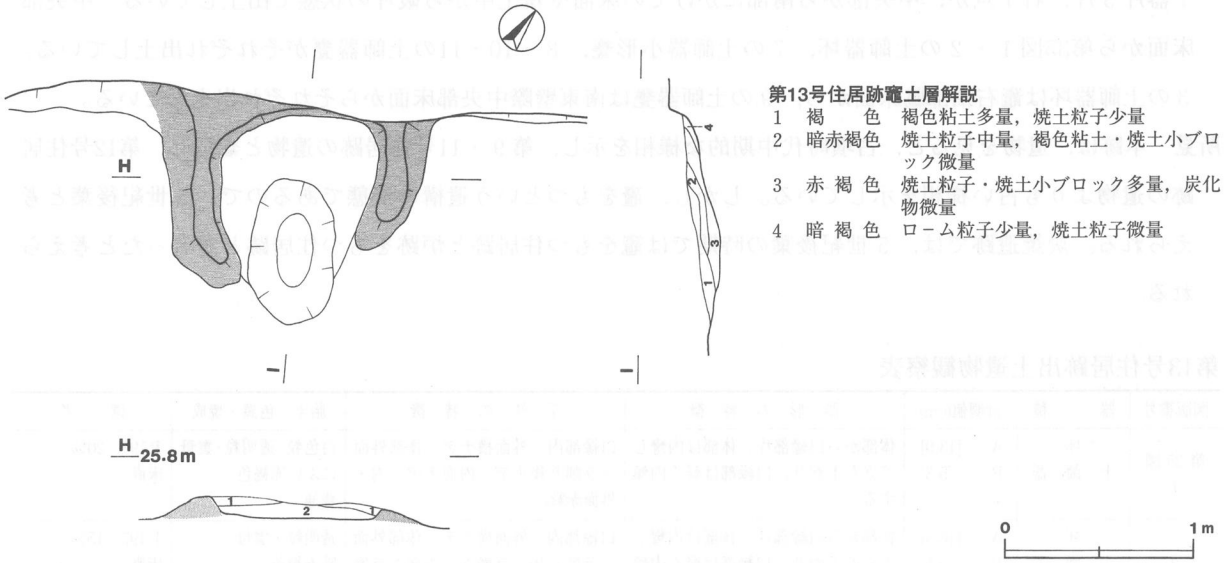
ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は，径20～24cmの円形，深さ46～64cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径22cmの円形，深さ28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_6は，径18cm，深さ54cmであるが，性格は不明である。

覆土　５層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。



第13号住居跡土層解説

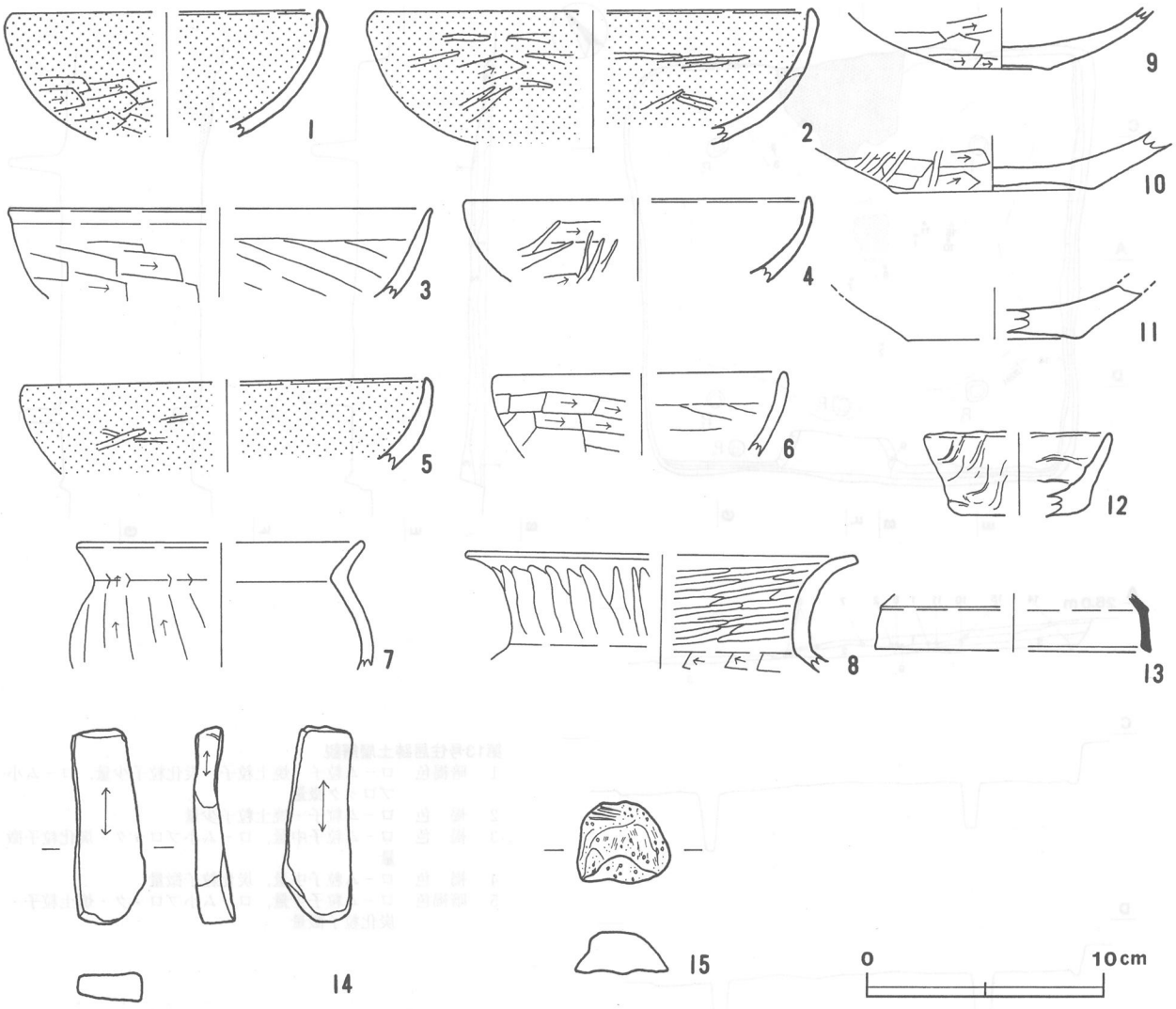
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第13号住居跡竈土層解説

1　褐　　色　褐色粘土多量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，褐色粘土・焼土小ブロック微量
3　赤 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第34図　第13号住居跡



第35図　第13号住居跡出土遺物

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片408片（坏・椀片84片，この中の31片が赤彩，甕片324片），縄文土器片３片，石１点が，中央部から南部にかけての床面や覆土中から破片の状態で出土している。中央部床面から第35図１・２の土師器坏，７の土師器小形甕，８・10・11の土師器甕がそれぞれ出土している。３の土師器坏は竈右袖部脇床面から，９の土師器甕は南東壁際中央部床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，遺物を見ると，古墳時代中期的な様相を示し，第９・11号住居跡の遺物と類似し，第12号住居跡の遺物よりも古い様相を示している。しかし，竈をもつという遺構の形態であるので，５世紀後葉と考えられる。炭焼遺跡では，５世紀後葉の時期では竈をもつ住居跡と炉跡をもつ住居跡とが有ったと考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第35図 1	坏 土師器	A [13.0] B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P196　20% 床直
2	坏 土師器	A [18.3] B (5.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	透明粒・雲母 暗赤褐色 普通	P197　15% 床直

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 3	坏 土師器	A [17.8] (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P198 15% 床直
4	坏 土師器	A [14.5] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P199 10% 覆土
5	坏 土師器	A [17.0] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 暗赤褐色 普通	P200 10% 覆土
6	坏 土師器	A [12.2] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P201 10% 覆土
7	小形甕 土師器	A [12.0] B (5.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P202 20% 床直
8	甕 土師器	A [16.4] B (4.9)	口縁部片。口縁部は大きく外反する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラ磨き後ナデ。頸部内面ヘラ削り。	白色粒・透明粒 橙色 普通	P203 10% 床直
9	甕 土師器	B (2.6) C 4.0	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	礫・白色粒・透明粒 橙色 普通	P204 10% PL21 床直
10	甕 土師器	B (2.4) C 8.2	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P205 10% 床直
11	甕 土師器	B (2.2) C [7.1]	底部片。やや凹んだ平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P206 10% 床直
12	手捏土器 土師器	A [8.0] B 3.5 C [4.0]	底部から口縁部片。やや丸みを帯びた平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	内・外面指ナデ。	白色粒 橙色 普通	P207 30% 覆土
13	坏蓋 須恵器	A [16.6] B (2.4)	天井部から口縁部片。天井部は内彎して口縁部に至る。口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直下する。	口縁部内・外面回転ナデ。	白色粒 黒褐色 普通	P208 5% PL30 覆土

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第35図14	砥石	8.2	3.1	1.7	44.5	凝灰岩	南西壁際床直	Q19 PL21
15	浮子	3.5	4.0	(1.8)	(3.5)	軽石	中央部覆土中層	Q20

第14号住居跡（第36・37図　PL 6）

位置　調査区の北西部，B1a8区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の北西部は，第29号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

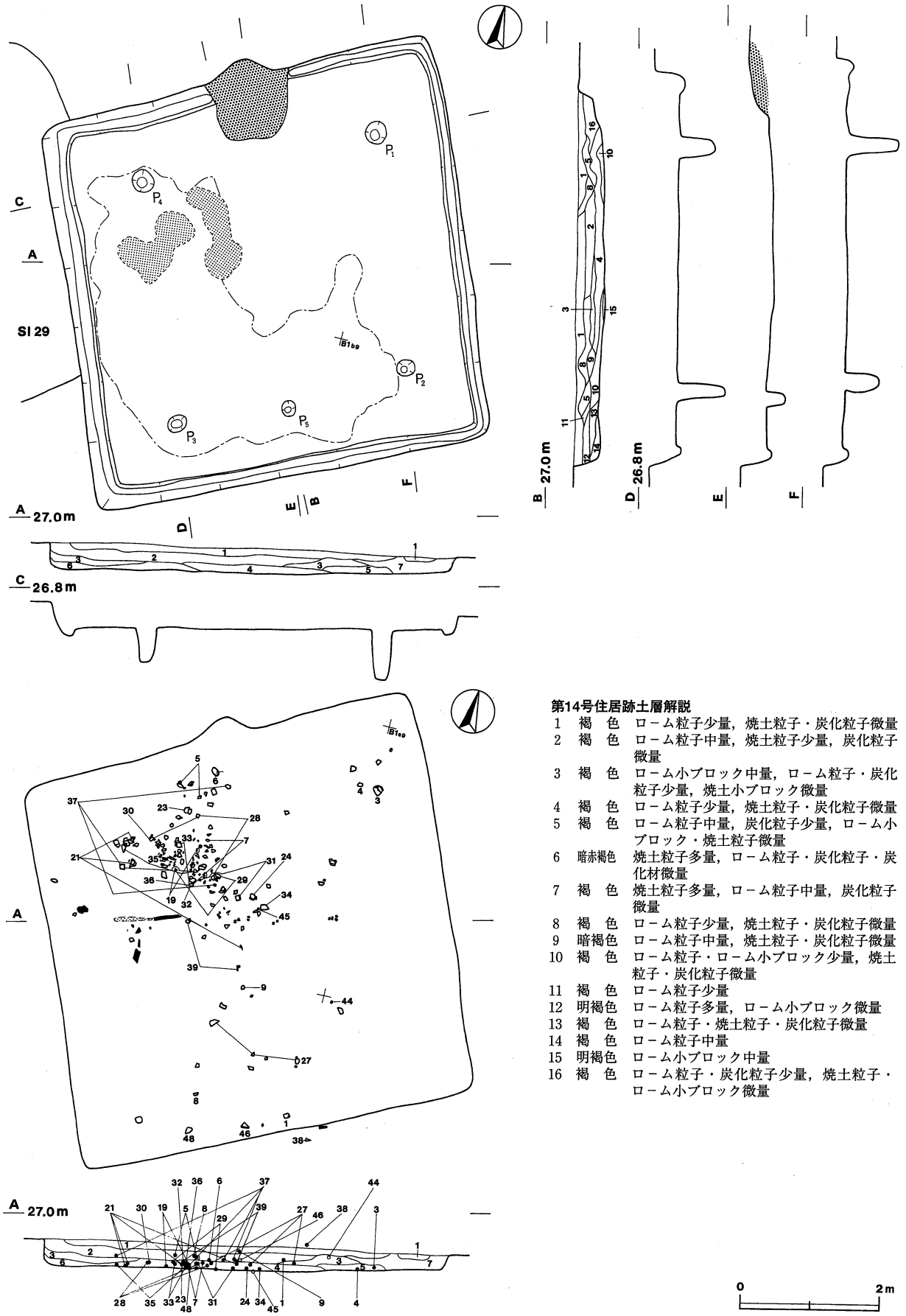
規模と平面形　長軸5.80m，短軸5.70mの方形である。

主軸方向　N－23°－W

壁　壁高20～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅14～24cm，深さ4～8cmで，断面形は「U」字状である。竈の部分を除いて，壁下を全周している。

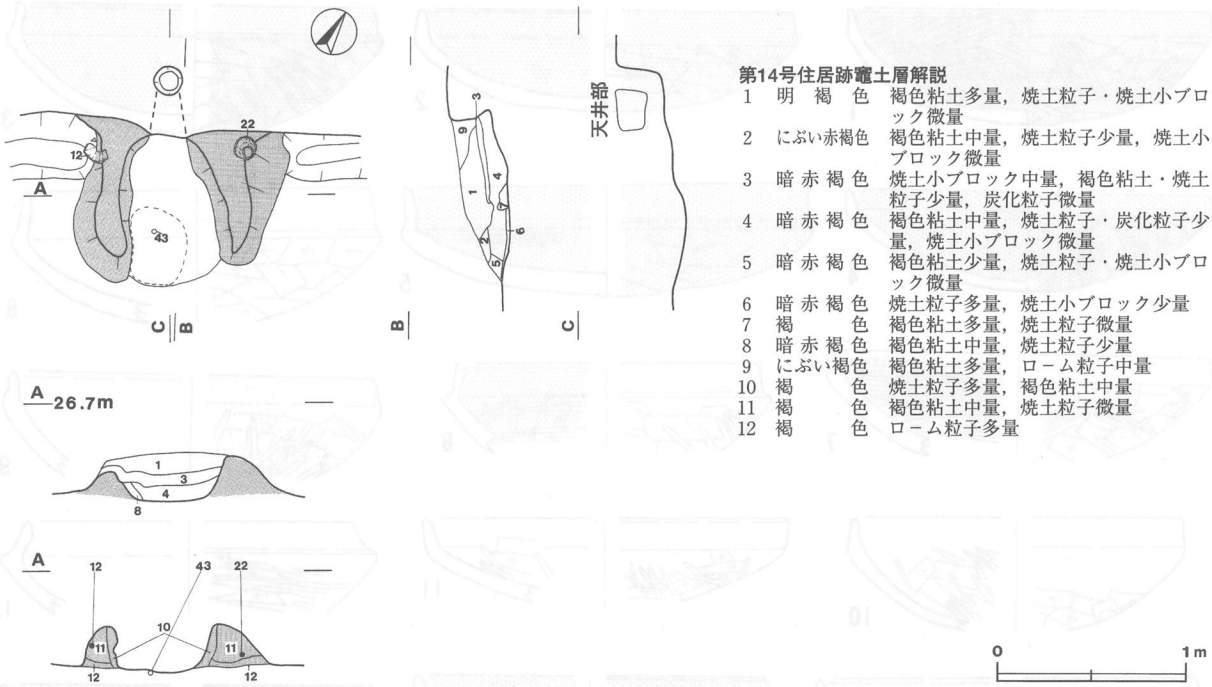
床　平坦で，中央部から北西部にかけての部分を除いてよく踏み固められている。北西部に長さ140cm，幅30cmと長さ100cm，幅20cmのそれぞれ不定形をした焼土化している場所を確認している。



第14号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・炭化材微量
7　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐　色　ローム粒子少量
12　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
13　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　色　ローム粒子中量
15　明褐色　ローム小ブロック中量
16　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量

第36図　第14号住居跡(1)



第14号住居跡竈土層解説

1	明褐色	褐色粘土多量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
2	にぶい赤褐色	褐色粘土中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3	暗赤褐色	焼土小ブロック中量，褐色粘土・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4	暗赤褐色	褐色粘土中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
5	暗赤褐色	褐色粘土少量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
6	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
7	褐色	褐色粘土多量，焼土粒子微量
8	暗赤褐色	褐色粘土中量，焼土粒子少量
9	にぶい褐色	褐色粘土多量，ローム粒子中量
10	褐色	焼土粒子多量，褐色粘土中量
11	褐色	褐色粘土中量，焼土粒子微量
12	褐色	ローム粒子多量

第37図　第14号住居跡(2)

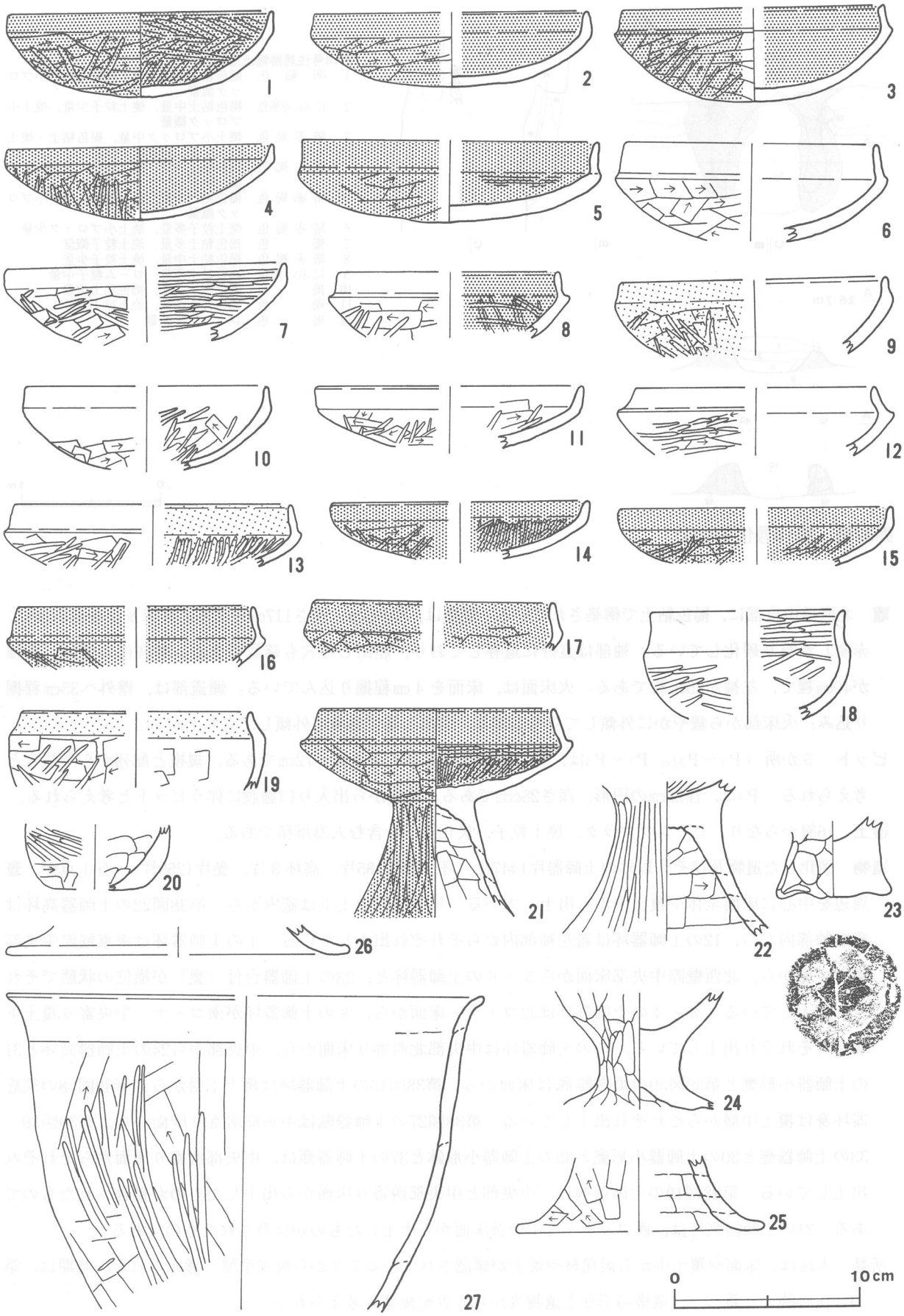
竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅105cm，長さ117cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化している。袖部は良好に遺存しており，煙出しの穴も確認できた。基底部の幅は，右袖が40cm程で，左袖が25cm程である。火床面は，床面を4cm程掘り込んでいる。煙道部は，壁外へ35cm程掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がり，煙出し部で急激に外傾して立ち上がる。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径28～33cmの円形，深さ47～72cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径22cmの円形，深さ28ccmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

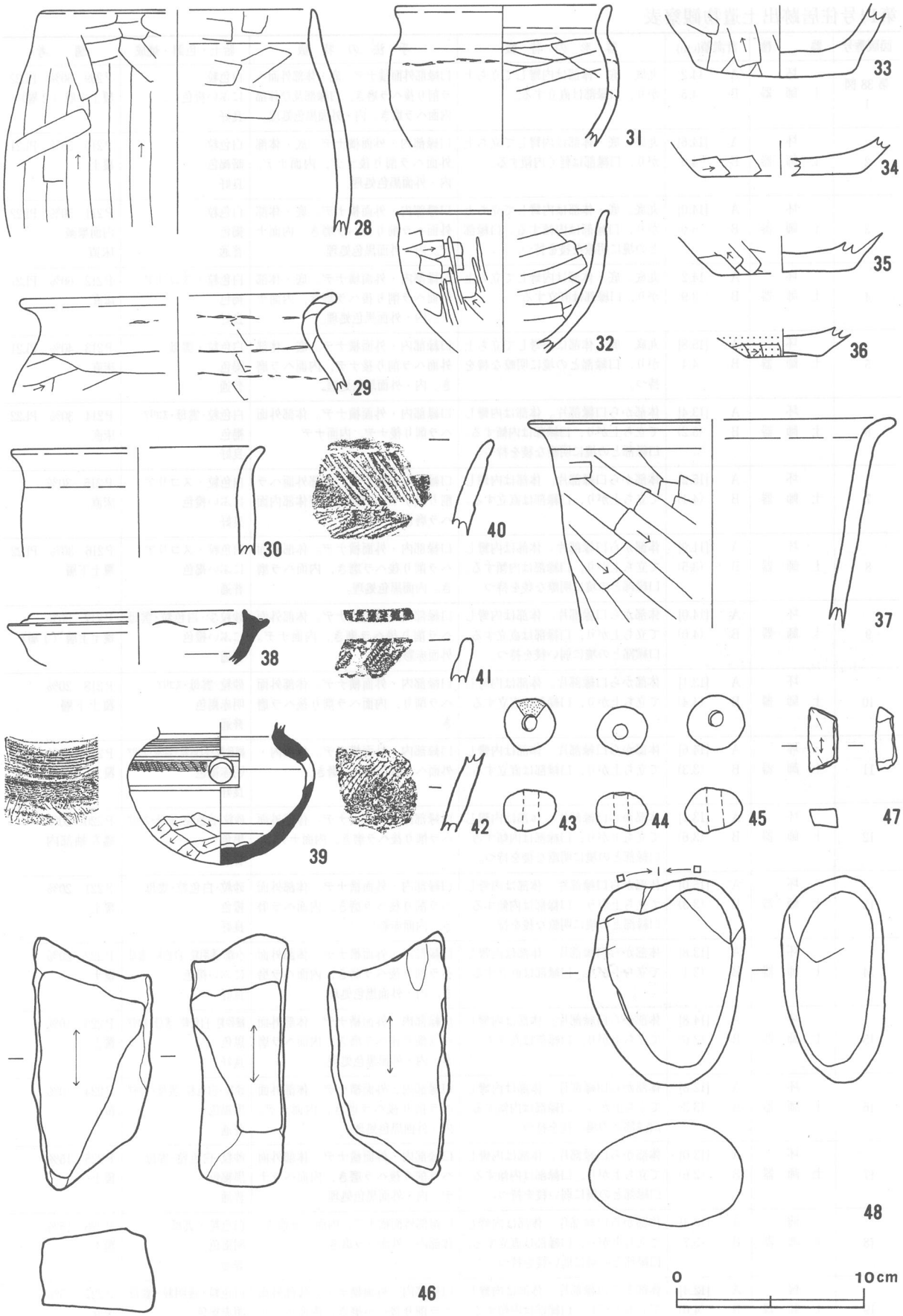
覆土　16層からなり，ロームブロック，焼土粒子，炭化粒子を含む人為堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片1447片（坏・椀片185片，高坏3片，甕片1259片），石1点が，竈周辺を中心に床面全体や覆土中から出土している。第39図43の土玉は竈内から，第38図22の土師器高坏は竈右袖部内から，12の土師器坏は竈左袖部内からそれぞれ出土している。1の土師器坏は南東壁際中央部覆土中層から，北西壁際中央部床面から5・6の土師器坏と，23の土師器台付［甕］が横位の状態でそれぞれ出土している。3・4の土師器坏は北コーナー床面から，8の土師器坏が南コーナー中央寄り覆土下層からそれぞれ出土している。7の土師器坏は中央部北西寄り床面から，中央部から24の土師器高坏と31の土師器小形甕と第39図39の須恵器甑は床面から，第38図10の土師器坏は覆土下層から，第39図38の須恵器坏身は覆土中層からそれぞれ出土している。第38図27の土師器甑は中央部南寄り床面から，第39図29・33の土師器甕と30の土師器小形甕と32の土師器小形鉢と37の土師器甑は，中央部西寄り床面からそれぞれ出土している。第38図19の土師器椀は，中央部と中央部西寄り床面から出土したものが接合されたものである。21の土師器高坏は，西コーナーと中央部床面から出土したものが接合されたものである。

所見　本跡は，床面や覆土中から炭化材や焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は，第29号住居跡より新しく，遺構の形態と遺物等から6世紀後葉と考えられる。



第38図　第14号住居跡出土遺物(1)



第39図　第14号住居跡出土遺物(2)

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	坏 土師器	A 14.2 B 4.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。口縁部及び体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒 にぶい橙色 良好	P209 60% PL22 覆土中層（2層）
2	坏 土師器	A [14.6] B 4.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒 暗褐色 良好	P210 55% PL21 覆土
3	坏 土師器	A [14.0] B 5.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒 褐色 普通	P211 50% PL22 内面摩滅 床直
4	坏 土師器	A 14.2 B 3.9	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒・スコリア 褐色 良好	P212 60% PL21 床直
5	坏 土師器	A [15.8] B 4.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 褐色 普通	P213 40% PL21 床直
6	坏 土師器	A [13.4] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面ナデ。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 褐色 良好	P214 30% PL22 床直
7	坏 土師器	A [15.2] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。口縁部及び体部内面ヘラ磨き。	白色粒・スコリア にぶい橙色 良好	P215 30% 床直
8	坏 土師器	A [11.9] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	白色粒・スコリア にぶい褐色 普通	P216 30% PL22 覆土下層
9	坏 土師器	A [14.0] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。外面赤彩。	砂粒少・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P217 20% 覆土上層（1層）
10	坏 土師器	A [13.1] B (4.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ削り後ヘラ磨き。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ 明赤褐色 普通	P218 20% 覆土下層
11	坏 土師器	A [14.6] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	細砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 明赤褐色 良好	P219 30% 覆土
12	坏 土師器	A [13.1] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 黒色 普通	P220 20% 竈左袖部内
13	坏 土師器	A [15.0] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母 橙色 良好	P221 20% 覆土
14	坏 土師器	A [13.8] B (3.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	小礫・透明粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 良好	P222 20% 覆土
15	坏 土師器	A [14.8] B (3.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	細砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 黒色 良好	P223 10% 覆土
16	坏 土師器	A [12.8] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 黒褐色 普通	P224 10% 覆土
17	坏 土師器	A [13.0] B (2.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 黒褐色 普通	P225 15% 覆土
18	椀 土師器	A [10.4] B (5.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜を持つ。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部内・外面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 明褐色 普通	P226 15% 覆土
19	椀 土師器	A [12.4] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。口縁部内・外面赤彩。	白色粒・透明粒・雲母 明赤褐色 普通	P227 15% 床直

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 20	小形鉢 土師器	B (3.5) C [5.0]	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P228 50% 覆土
21	高坏 土師器	A 12.6 B (11.2) E (6.2)	裾部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。坏部内・外面及び脚部外面黒色処理。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 良好	P229 80% PL22 床直
22	高坏 土師器	B (8.5) E (6.1)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	坏部内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 良好	P230 40% PL22 竈内
23	台付[甕] 土師器	D 6.3 E (4.4)	台部片。台部は台形状で，中実である。	台部外面指ナデ。底部木葉痕。	白色粒・雲母 明黄褐色 普通	P231 20% 床直
24	高坏 土師器	B (6.2) E (2.9)	坏部は内彎して立ち上がる。脚部はラッパ状に開く。	坏部及び脚部外面指ナデ。坏部内面ナデ。脚部内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P232 40% PL21 床直
25	高坏 土師器	D [13.2] E (4.0)	脚部片。脚部はラッパ状に大きく開く。	脚部外面ヘラ削り，内面横位のヘラ削り。	砂粒・白色粒・雲母 灰褐色 普通	P233 15% PL22 覆土
26	高坏 土師器	D [18.6] E (1.6)	脚裾部片。	裾部内・外面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・針状鉱物 黒褐色 普通	P234 15% 覆土
27	甑 土師器	A [25.9] B (17.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P235 40% 床直
第39図 28	甕 土師器	A [15.0] B (12.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P236 15% 覆土下層（4層）
29	甕 土師器	A [17.1] B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。輪積痕あり。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P237 20% 床直
30	小形甕 土師器	A [13.5] B (5.7)	体部から口縁部片。体部は直立して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P238 20% PL22 床直
31	小形甕 土師器	A 11.7 B (7.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。輪積痕あり。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P239 30% 床直
32	小形鉢 土師器	A [11.6] B (7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	細砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 良好	P240 30% PL22 床直
33	甕 土師器	B (3.6) C 8.2	底部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P241 10% 床直
34	甕 土師器	B (1.9) C [8.7]	底部片。平底。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P242 5% PL22 床直
35	甕 土師器	B (2.0) C [7.3]	底部片。平底。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P243 10% 覆土下層（4層）
36	小形甕 土師器	B (1.5) C 4.1	底部片。やや凹んだ平底。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。外面赤彩。	白色粒・雲母 橙色 普通	P244 10% 覆土下層（4層）
37	甑 土師器	A [19.8] B (11.3)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P245 30% 床直
38	坏身 須恵器	A [10.8] B (2.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，受け部は外上方に伸び端部は丸みを帯びる。立ち上がり部は短く内傾する。	巻き上げ・ロクロ整形。立ち上がり部上端は粘土貼り付け。	砂粒・白色粒 灰色 (釉)灰ｵﾘｰﾌﾞ色 普通	P246 20% PL22 在地産Ⅰ 覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第39図 39	瑳 須恵器	B (7.6) 最大径 10.0	口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，上位に円孔を穿つ。	巻き上げ・ロクロ整形。体部外面上位回転カキ目，中位櫛状工具による押し引き刺突文，下位手持ちヘラ削り。	砂粒少·白色粒·黒色斑点 灰色 良好	P247 50% PL22 東海東部産か？ 床直

第39図40（TP8）は縄文土器の口縁部片で，斜位の沈線が施され、下端には無節Lの縄文が施されている。41（TP9）は縄文土器の口縁部片で，口唇部にキザミ目が施され、口縁部に無節Lの縄文が施されている。42（TP10）は縄文土器の口縁部片で，無節Lの縄文が施されている。

図版番号	種　別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備　考
		最大長	最大幅	最大厚					
第39図43	土　玉	2.8	2.8	2.2	0.8	14.4	100	竈内	DP24 PL30
44	土　玉	2.6	2.7	2.0	0.8	13.3	100	中央部覆土中層	DP25 PL30
45	土　玉	2.9	3.1	2.4	0.8	17.8	100	中央部床直	DP26 PL30

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第39図46	砥　石	13.6	6.5	5.4	594.7	砂　岩	南東壁際覆土中層	Q21
47	砥　石	3.4	(1.6)	(1.2)	(8.6)	凝灰岩	覆　土	Q22 PL21
48	敲　石	11.1	8.4	5.6	712.7	砂　岩	南東壁際床直	Q23

第15号住居跡（第40図　PL６・７）

位置　調査区の北西部，B1$_{b7}$区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の東部は，第29号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.95m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－28°－W

壁　壁高18～36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

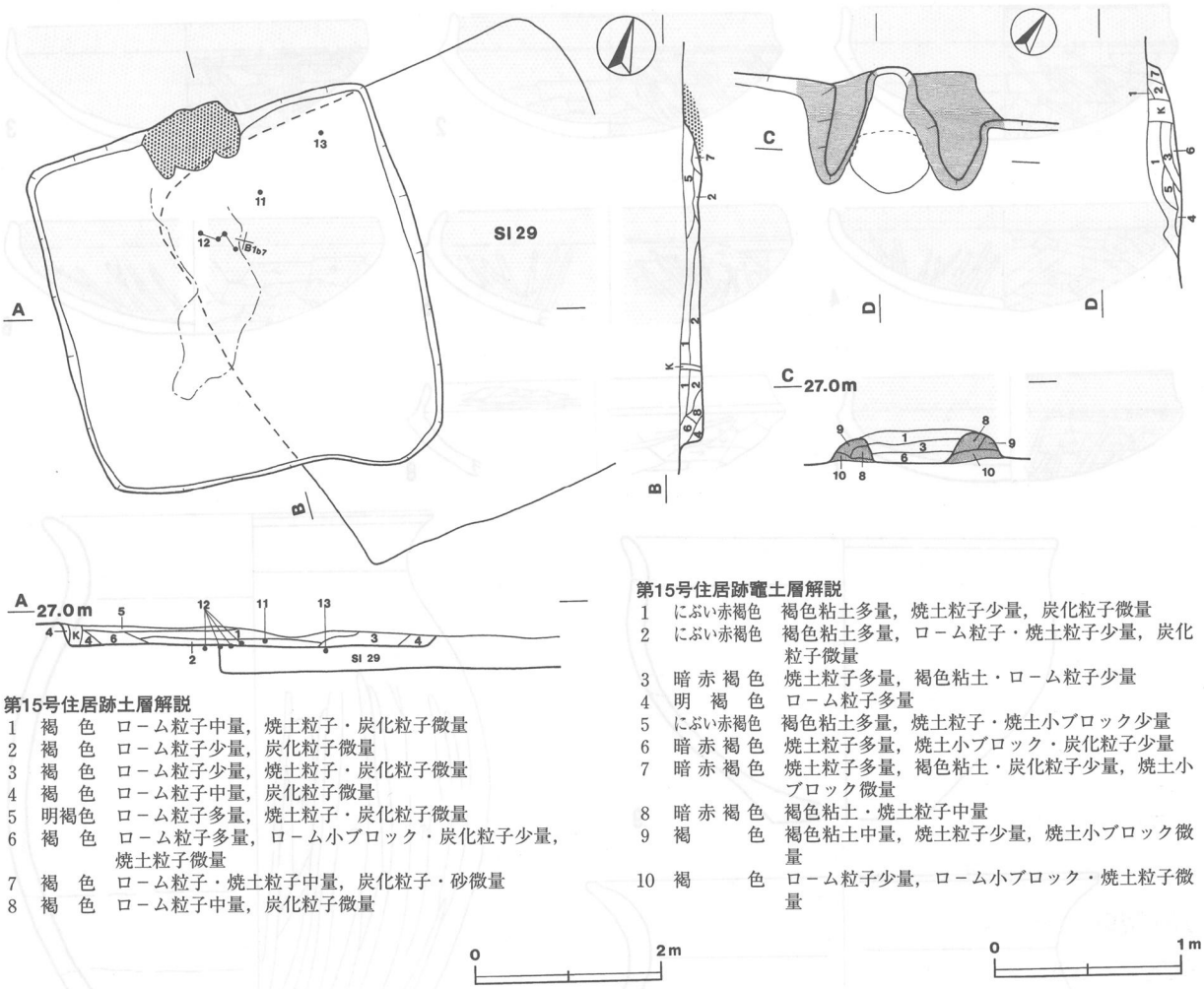
床　平坦で，竈の前方部を中心によく踏み固められている。

竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅100cm，長さ68cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化しており，長期間使用したものと考えられる。袖部中位以下は，良好に遺存しており，基底部の幅は，右袖が40cm程で，左袖が35cm程ある。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外へ17cm程掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。１層は，天井部の崩落した土層である。

覆土　７層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片334片（坏片14片，甕片320片），縄文土器片８片が，竈周辺や覆土中から出土している。第41図１・２の土師器坏は北部床面から正位の状態で，第42図13の土師器甑は北コーナー床面から横位の状態で，竈前方部床面から第41図４の土師器坏はつぶれた状態で，11の土師器甕は横位でつぶれた状態で，10・12の土師器甕は砂混じりの土の中でつぶれた状態でそれぞれ出土している。10の土師器甕は竈内の土器と接合関係にあり，12の土師器甕と共に竈が壊れるのと一緒に流れ出したような様相を示している。

所見　本跡は，土師器坏に赤彩されるものが見られなくなり，黒色処理されるものが多いことや，まだ，それほど器高が低くなっていないことから，６世紀後葉の住居跡と考えられる。



第15号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子・砂微量
8　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

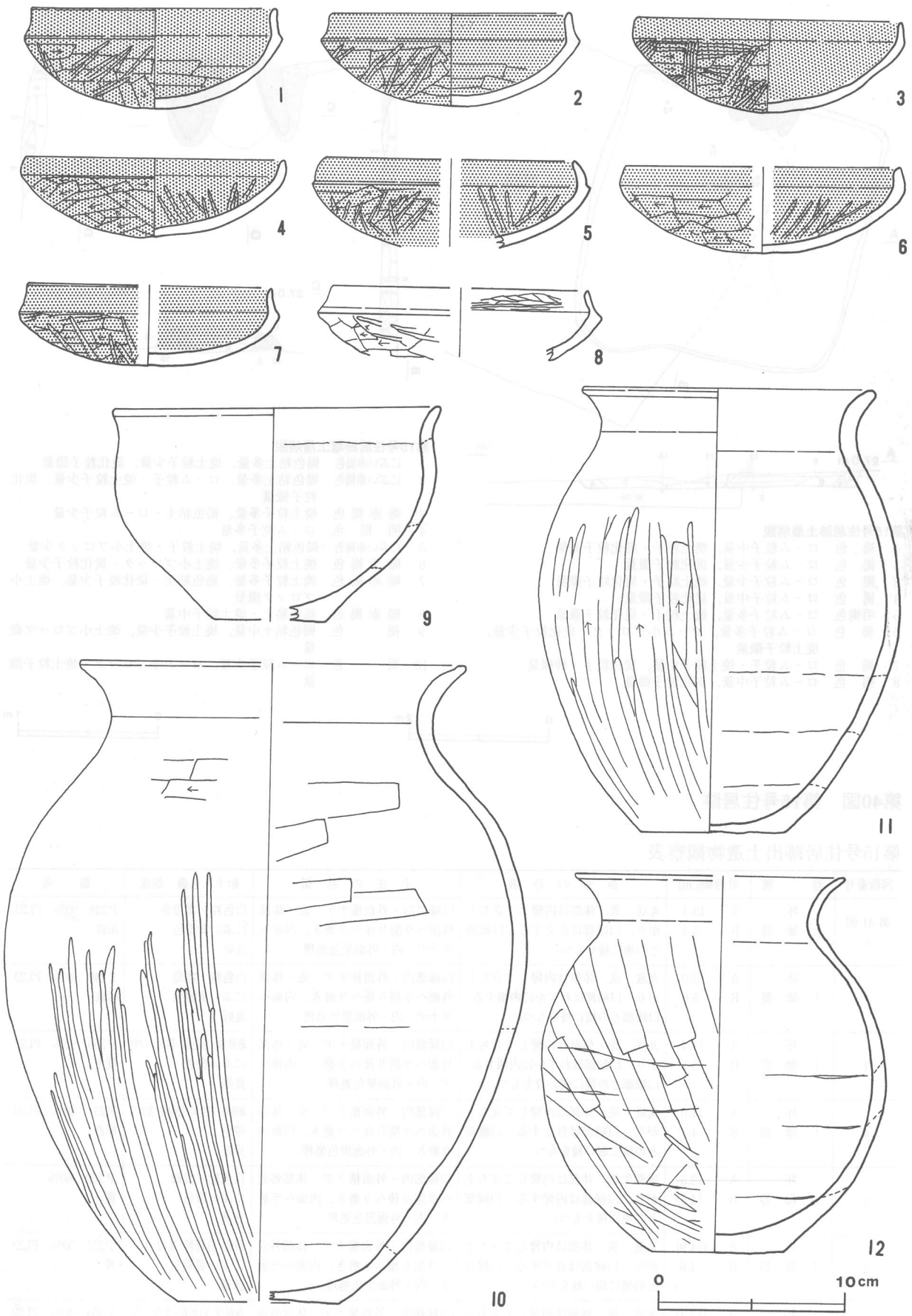
第15号住居跡竈土層解説

1　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，褐色粘土・ローム粒子少量
4　明　褐　色　ローム粒子多量
5　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
7　暗赤褐色　焼土粒子多量，褐色粘土・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
8　暗赤褐色　褐色粘土・焼土粒子中量
9　褐　　色　褐色粘土中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
10　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

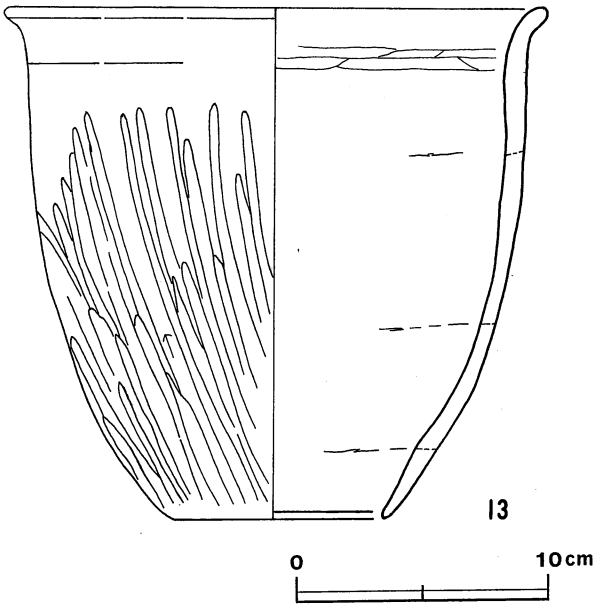
第40図　第15号住居跡

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第41図 1	土師器 坏	A 13.4 B 5.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母多 にぶい黄橙色 良好	P248 90% PL23 床直
2	土師器 坏	A 13.0 B 5.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 良好	P249 90% PL23 床直
3	土師器 坏	A 14.4 B 5.1	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	細砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 良好	P250 90% PL23 覆土
4	土師器 坏	A 14.0 B 4.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	細砂粒・白色粒・透明粒・雲母少 橙色 良好	P251 80% PL23 床直
5	土師器 坏	A 13.5 B (4.5)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P252 60% 覆土
6	土師器 坏	A [14.9] B 4.6	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P253 50% PL23 覆土
7	土師器 坏	A [13.4] B 4.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒少・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P254 40% PL22 覆土



第41図　第15号住居跡出土遺物(1)



第42図　第15号住居跡出土遺物(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第41図 8	坏 土師器	A [13.8] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒少・雲母・ｽｺﾘｱ 黒色 普通	P255　20%　PL22 覆土
9	鉢 土師器	A 17.7 B 11.7 C [6.2]	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 明赤褐色 普通	P256　60%　PL22 内・外面摩滅 覆土
10	甕 土師器	A [28.0] B 34.7 C [8.8]	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ削り，中位から下位ヘラ磨き，内面ヘラナデ。底部ヘラ磨き。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P257　50% 床直
11	甕 土師器	A 15.9 B 24.0 C 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。輪積み痕残る。	白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P258　90%　PL22 床直
12	甕 土師器	A [14.6] B 20.3 C 7.1	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラ磨き，内面ナデ。輪積み痕残る。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P259　70%　PL22 床直
第42図 13	甑 土師器	A 21.8 B 20.3 C 8.7 孔径 8.2	無底式。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 明赤褐色 普通	P260　95%　PL23 床直

第16号住居跡（第43図　PL 7）

位置　調査区の北西部，B1a6区を中心に確認されている。

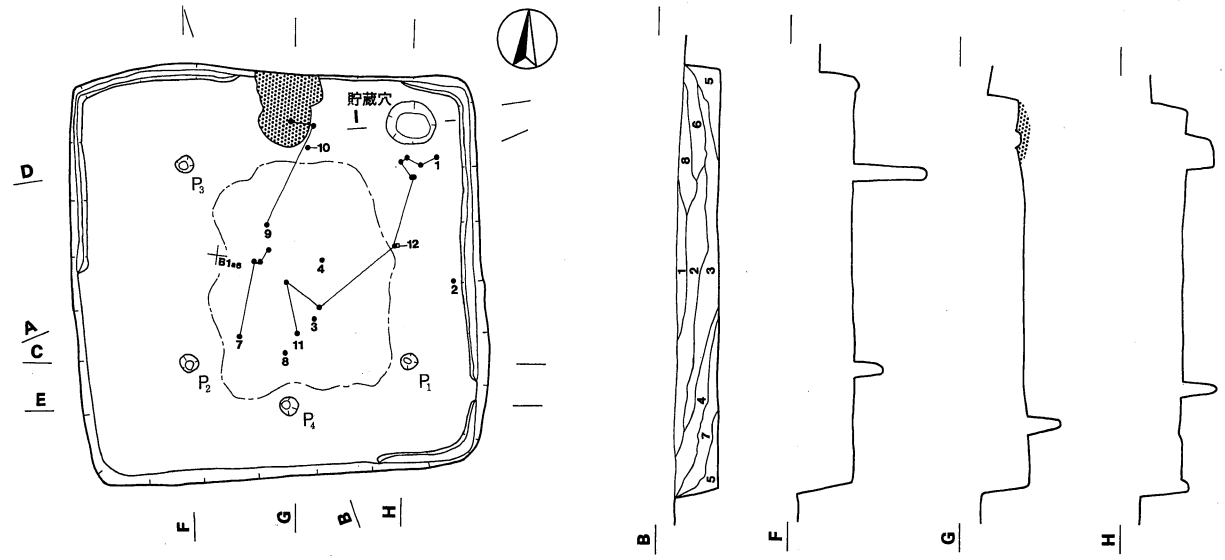
規模と平面形　長・短軸4.30mの方形である。

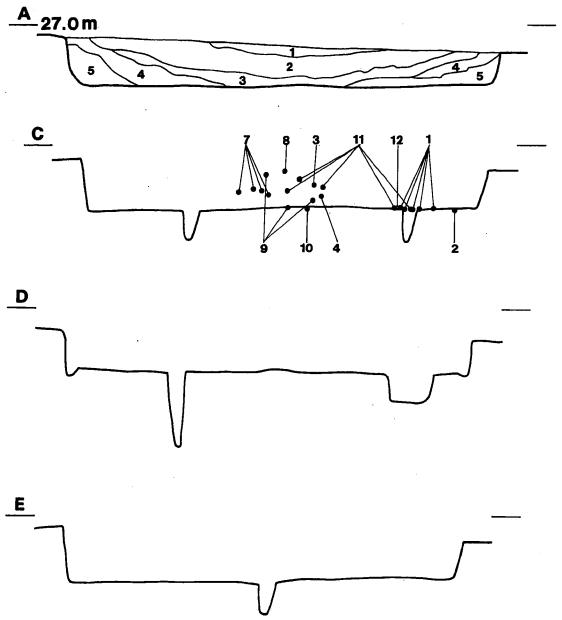
主軸方向　N－8°－W

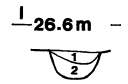
壁　壁高34～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅14～16cm，深さ4～8cmで，断面形は「U」字状である。東壁と北西コーナー部分で，壁下を周っている。

床　平坦で，主柱穴の内側を中心によく踏み固められている。





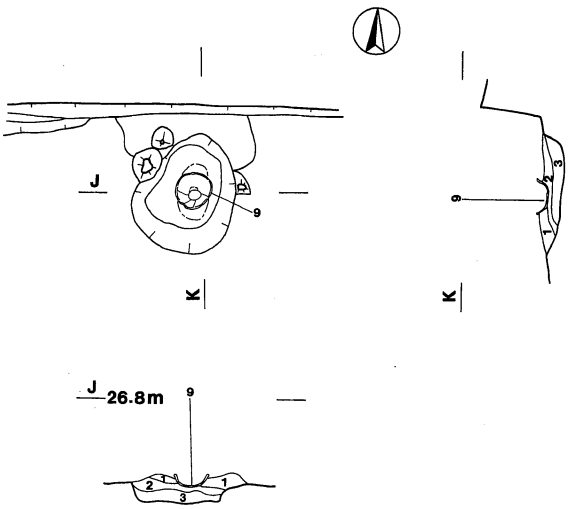


第16号住居跡土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，褐色粘土微量
8　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

第16号住居跡貯蔵穴土層解説

1　明褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　明褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量



第16号住居跡竈土層解説

1　にぶい赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　褐色粘土・焼土粒子中量，焼土小ブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

第43図　第16号住居跡

竈　北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されているが，袖部はほとんど遺存しておらず，竈の全体的な残存状態は悪い。規模は，幅70cm，長さ80cmを測ると考えられる。火床面は，床面を7cm程掘り込み，赤変しかなり硬化しており，長期間使用したものと考えられる。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から急激に外傾して立ち上がる。1層は，天井部の崩落した土層である。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_3は，径18cmの円形，深さ30～78cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。配列から考えれば北東部にもあるはずであったが，確認できなかった。P_4は，径20cmの円形，深さ36cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　北東コーナーに付設され，平面形は，長径52cm，短径45cmの楕円形である。深さ30cmで，断面形は，逆台形である。底面は平担で，壁は外傾して立ち上がる。

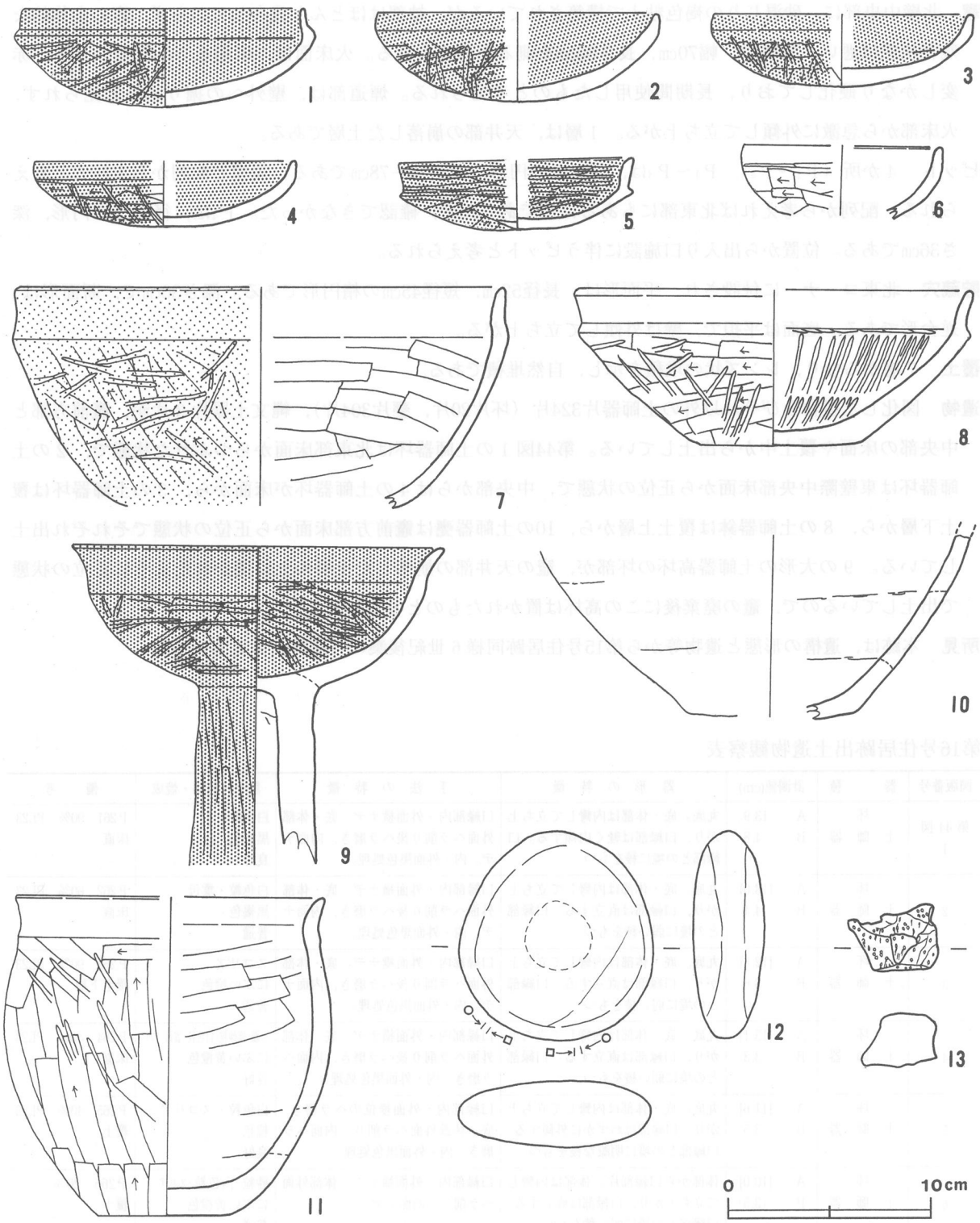
覆土　7層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片324片（坏片20片，甕片304片），縄文土器片3片が，竈前方部と中央部の床面や覆土中から出土している。第44図1の土師器坏は北東部床面からつぶれた状態で，2の土師器坏は東壁際中央部床面から正位の状態で，中央部からは4の土師器坏が床面から，3の土師器坏は覆土下層から，8の土師器鉢は覆土上層から，10の土師器甕は竈前方部床面から正位の状態でそれぞれ出土している。9の大形の土師器高坏の坏部が，竈の天井部の崩落した土層の上に置かれたように正位の状態で出土しているので，竈の廃棄後にこの高坏は置かれたものと考えられる。

所見　本跡は，遺構の形態と遺物等から第15号住居跡同様6世紀後葉の住居跡と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	坏 土師器	A 13.9 B 4.8	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒 黒褐色 良好	P261 90% PL23 床直
2	坏 土師器	A [13.0] B 4.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 黒褐色 普通	P262 60% PL23 床直
3	坏 土師器	A [12.8] B 3.6	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	スコリア にぶい橙色 普通	P263 90% PL23 覆土下層
4	坏 土師器	A [13.1] B 3.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	小礫・細砂粒・白色粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 良好	P264 40% PL23 床直
5	坏 土師器	A [11.6] B 3.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横位のヘラ磨き。底・体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒・スコリア 橙色 良好	P265 40% PL23 覆土
6	坏 土師器	A [10.0] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P266 20% 覆土
7	鉢 土師器	A [24.1] B (10.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面強いヘラナデ。外面赤彩。	白色粒・雲母 橙色 普通	P267 20% PL24 覆土下層
8	鉢 土師器	A [19.7] B 7.7 C 8.6	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒少・白色粒・透明粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P268 50% PL24 覆土上層
9	高坏 土師器	A 18.5 B (15.7) E (8.7)	裾部欠損。脚部は円筒状である。坏体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P269 70% PL23 竈内と中央部床面



第44図　第16号住居跡出土遺物

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第44図 10	甕 土師器	B (9.0) C [8.4]	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	輪積み痕残る。	白色粒・雲母少 橙色 不良	P270 40% PL23 内・外面摩滅 床直
11	甕 土師器	A [15.9] B 15.8 C 6.7	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラ磨き，内面ヘラナデ。輪積み痕残る。	白色粒・雲母 赤褐色 普通	P271 50% PL24 床直

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第44図12	磨石・敲石	10.2	9.6	3.1	483.4	砂岩	覆土	Q24	PL24
13	浮子	3.3	4.5	3.2	6.4	軽石	覆土	Q25	PL24

第17号住居跡（第45図　PL７・８）

位置　調査区の南西部，B1d6区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の中央部は，第28号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.60m，短軸6.40mの方形である。

主軸方向　N－27°－W

壁　壁高40～95cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅12～23cm，深さ４～６cmで，断面形は「U」字状である。竈部分を除いて，壁下を全周している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　北西壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。規模は，幅130cm，長さ120cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化している。袖部中位以下は，良好に遺存しており，両袖とも基底部の幅は40cmを測る。火床面は，床面を２cm程掘り込んでいる。煙道部は，壁外へ16cm程掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

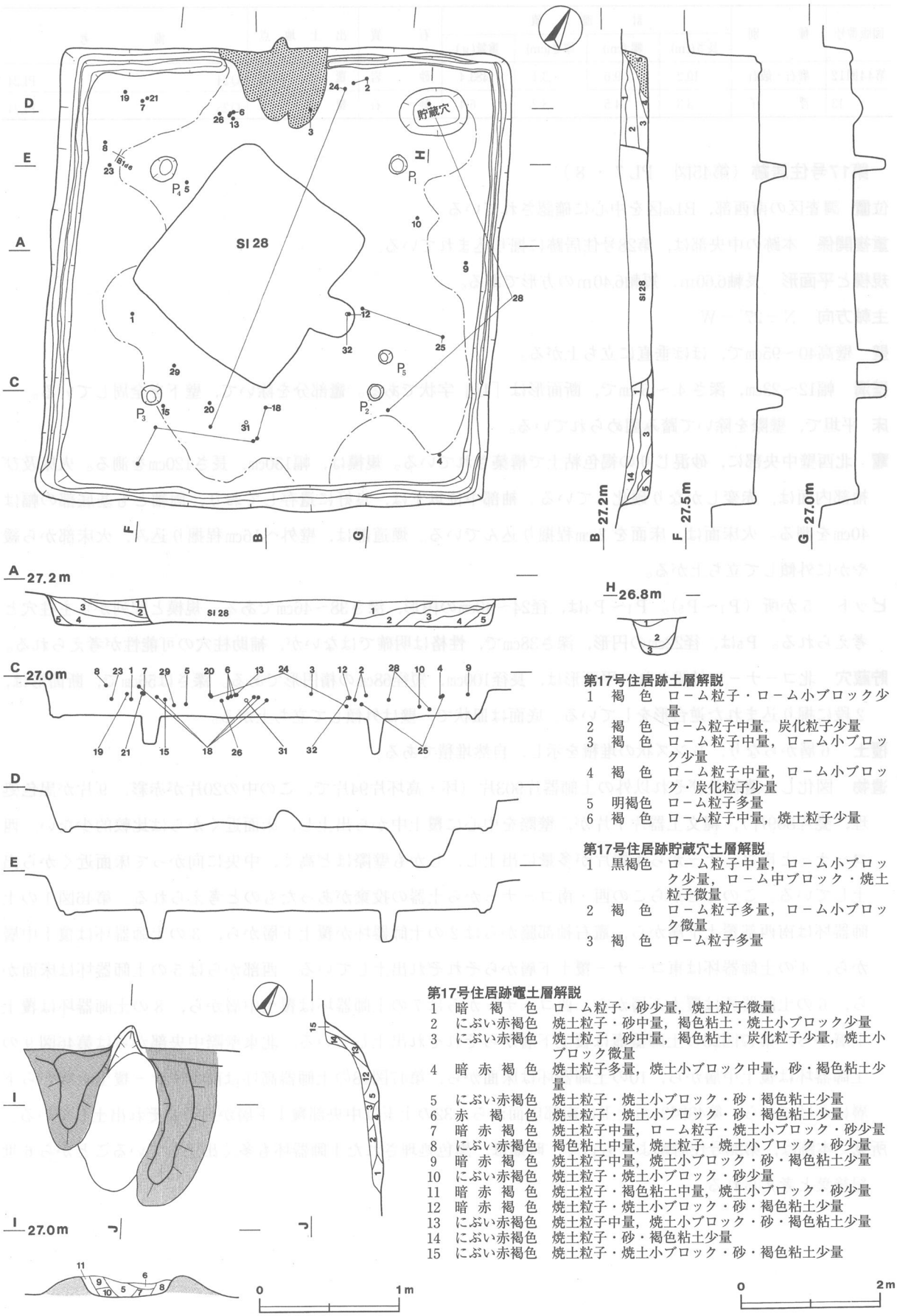
ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は，径24～40cmの円形，深さ38～46cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径22cmの円形，深さ38cmで，性格は明確ではないが，補助柱穴の可能性が考えられる。

貯蔵穴　北コーナーに付設され，平面形は，長径100cm，短径68cmの楕円形である。深さは56cmで，断面形は，２段に掘り込まれた逆台形をしている。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　６層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片903片（坏・高坏片94片で，この中の20片が赤彩，９片が黒色処理，甕片809片），縄文土器片７片が，壁際を中心に覆土中から出土し，床面近くからは比較的少ない。西コーナーと南コーナーから土器片が多量に出土し，しかも壁際ほど高く，中央に向かって床面近くから出土している。このことからこの西・南コーナーから土器の投棄があったものと考えられる。第46図１の土師器坏は南西部覆土下層から，竈右袖部脇からは２の土師器坏が覆土下層から，３の土師器坏は覆土中層から，４の土師器坏は東コーナー覆土下層からそれぞれ出土している。西部からは５の土師器坏は床面から，６の土師器坏は覆土下層から，西コーナーからは７の土師器坏は覆土中層から，８の土師器坏は覆土上層から，第47図23の土師器壺は覆土下層からそれぞれ出土している。北東壁際中央部からは第46図９の土師器坏は覆土中層から，10の土師器坏は床面から，第47図18の土師器高坏は南コーナー覆土上層から下層にかけてから，第48図31の土玉は南部床面から，32の土玉は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第28号住居跡よりも古く，時期は，黒色処理された土師器坏も多く出土していることから６世紀後葉と考えられる。



第17号住居跡土層解説

1 褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4 褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 明褐色　ローム粒子多量
6 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

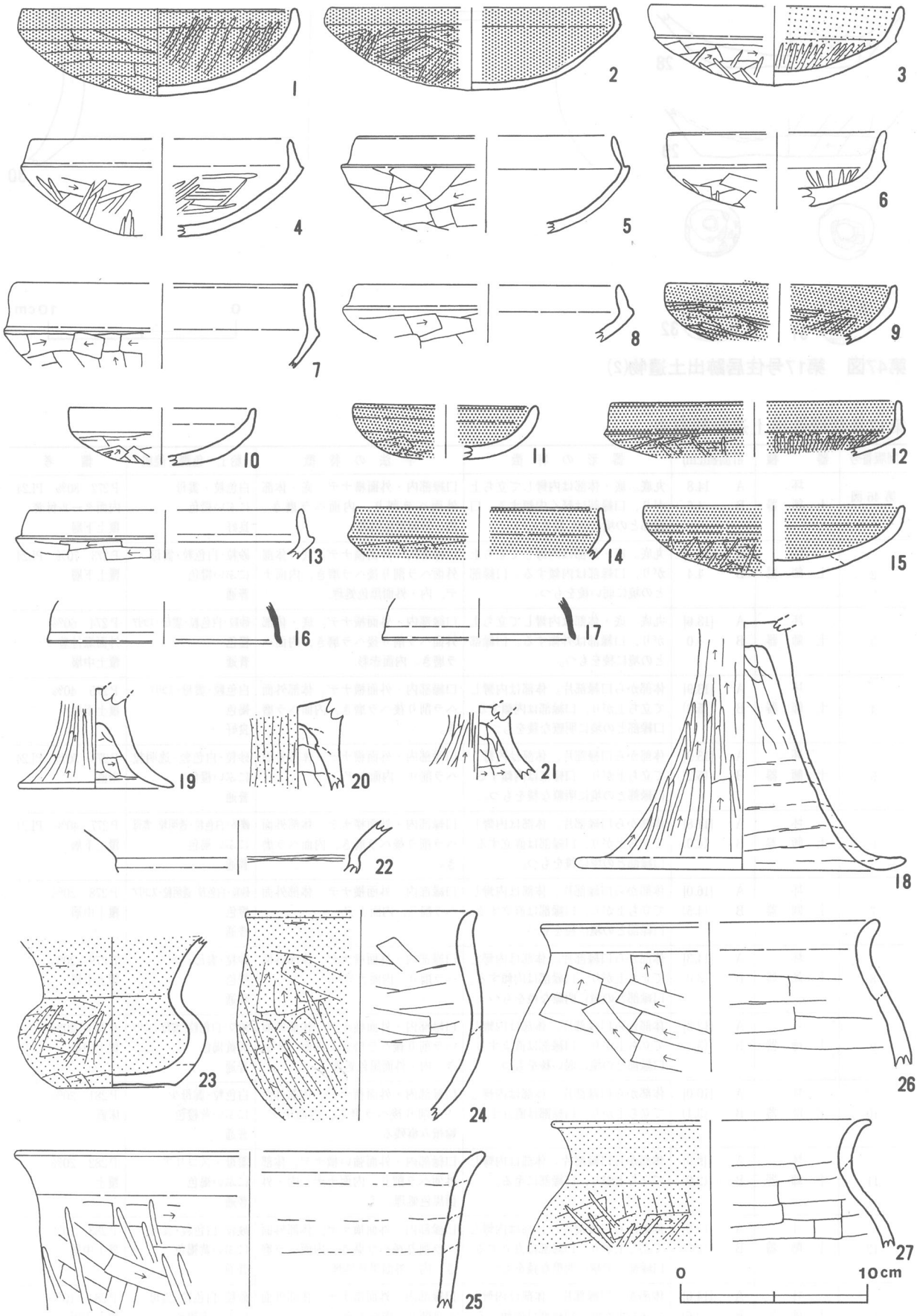
第17号住居跡貯蔵穴土層解説

1 黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
3 褐　色　ローム粒子多量

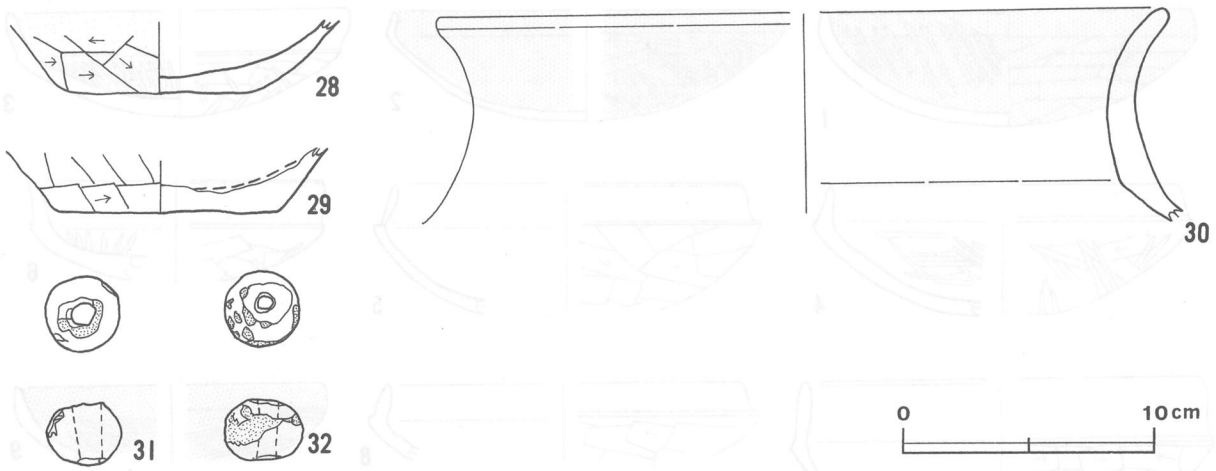
第17号住居跡竈土層解説

1 暗　褐　色　ローム粒子・砂少量，焼土粒子微量
2 にぶい赤褐色　焼土粒子・砂中量，褐色粘土・焼土小ブロック少量
3 にぶい赤褐色　焼土粒子・砂中量，褐色粘土・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
4 暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，砂・褐色粘土少量
5 にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂・褐色粘土少量
6 赤　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂・褐色粘土少量
7 暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック・砂少量
8 にぶい赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子・焼土小ブロック・砂少量
9 暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂・褐色粘土少量
10 にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂少量
11 暗 赤 褐 色　焼土粒子・褐色粘土中量，焼土小ブロック・砂少量
12 暗 赤 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂・褐色粘土少量
13 にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂・褐色粘土少量
14 にぶい赤褐色　焼土粒子・砂・褐色粘土少量
15 にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・砂・褐色粘土少量

第45図　第17号住居跡



第46図　第17号住居跡出土遺物(1)



第47図　第17号住居跡出土遺物(2)

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 1	坏 土師器	A 14.8 B 4.6	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい橙色 良好	P272 80% PL24 内面タール付着 覆土下層
2	坏 土師器	A [15.4] B 4.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P273 70% PL24 覆土下層
3	坏 土師器	A [13.6] B 4.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P274 60% 外面煤付着 覆土中層
4	坏 土師器	A [13.9] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母・スコリア 褐色 良好	P275 40% 覆土下層
5	坏 土師器	A [13.9] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P276 30% PL24 床直
6	坏 土師器	A [11.8] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	礫多・白色粒・透明粒・雲母 にぶい褐色 普通	P277 40% PL24 覆土下層
7	坏 土師器	A [16.0] B (4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・スコリア 橙色 普通	P278 20% 覆土中層
8	坏 土師器	A [14.3] B (3.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P279 20% 覆土上層
9	坏 土師器	A [12.3] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母・スコリア 灰黄褐色 普通	P280 20% 覆土中層
10	坏 土師器	A [10.0] B (3.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。輪積み痕残る。	白色粒・雲母少 にぶい黄橙色 普通	P281 20% 床直
11	坏 土師器	A [9.9] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面強い横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P282 20% 覆土
12	坏 土師器	A [15.6] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P283 10% 覆土中層
13	坏 土師器	A [14.6] B (2.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P284 10% 覆土中層

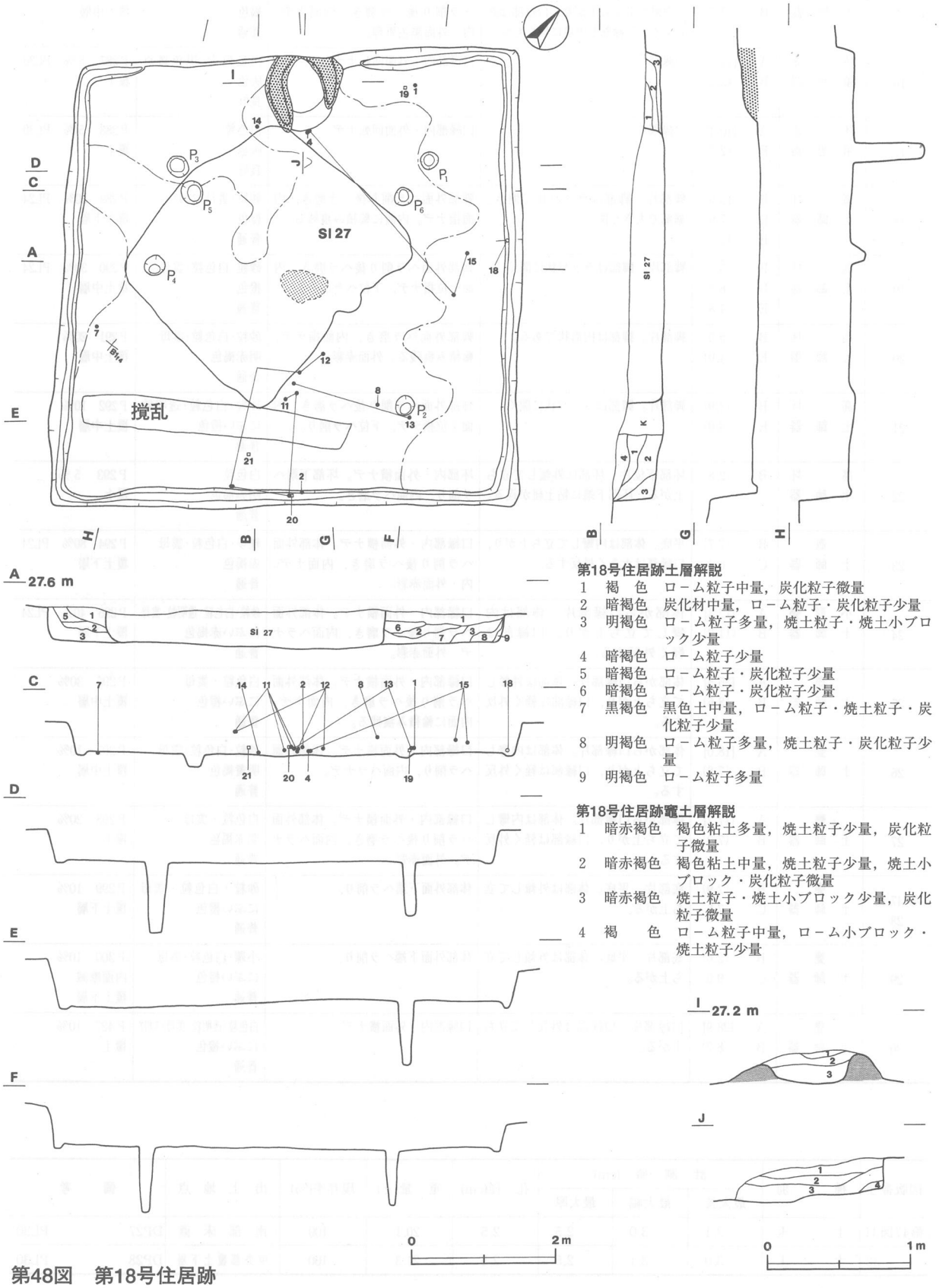
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 14	坏 土師器	A [13.3] B (2.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 黒色 普通	P285 10% 覆土
15	坏 土師器	A [14.0] B 3.7	底部から口縁部片。丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 褐色 普通	P286 20% PL24 覆土中層
16	坏蓋 須恵器	A [12.6] B (2.2)	口縁部片。	口縁部内・外面回転ナデ。	白色粒少・黒色斑点 灰色 良好	P287 5% PL30 覆土
17	坏蓋 須恵器	A [10.4] B (2.2)	口縁部片。	口縁部内・外面回転ナデ。	白色粒 灰色 良好	P288 5% PL30 覆土
18	高坏 土師器	B (13.5) D 17.9 E 12.7	脚部片。脚部はラッパ状に開き，裾部で大きく開く。	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ。内面に輪積み痕残る。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P289 50% PL24 覆土下層
19	高坏 土師器	B (5.4) D 8.4 E 4.8	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面上位指ナデ，下位ヘラ削り。	砂粒・白色粒・雲母 橙色 普通	P290 30% PL24 覆土中層
20	高坏 土師器	B (5.0) E (4.0)	脚部片。脚部は円筒状である。	脚部外面ヘラ磨き，内面指ナデ，輪積み痕残る。外面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P291 20% 覆土中層
21	高坏 土師器	B (3.9) E (3.0)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面上位指ナデ，下位ヘラ削り。	砂粒・白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P292 10% 覆土中層
22	高坏 土師器	B (2.8)	坏部下位片。坏部は外傾して立ち上がる。坏部下端に粘土紐が巡る。	坏部内・外面横ナデ。坏部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	白色粒 明赤褐色 普通	P293 5% 覆土
23	壺 土師器	B (7.7) C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	礫多・白色粒・雲母 赤褐色 普通	P294 80% PL24 覆土下層
24	小形甕 土師器	A [12.4] B (11.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P295 40% PL24 覆土下層
25	甕 土師器	A [25.5] B (8.6)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内面に輪積み痕残る。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P296 30% 覆土中層
26	甕 土師器	A [18.0] B (7.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・雲母 明黄褐色 普通	P297 10% 覆土中層
27	甕 土師器	A [17.2] B (7.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。外面赤彩。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P298 20% 覆土
第47図 28	甕 土師器	B (2.9) C 7.7	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P299 10% 覆土下層
29	甕 土師器	B (2.6) C 9.0	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り。	小礫・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P300 10% 内面摩滅 覆土下層
30	甕 土師器	A [28.9] B (8.7)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	白色粒・透明粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P427 10% 覆土

図版番号	種別	計測値(cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第47図31	土玉	3.1	3.0	2.5	2.5	20.1	100	南部床直	DP27 PL30
32	土玉	3.0	3.1	2.5	2.5	21.3	100	中央部覆土下層	DP28 PL30

第18号住居跡（第48図　PL８）

位置　調査区の南西部，B1e4区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の中央部は，第27号住居跡に掘り込まれている。



第18号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　炭化材中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒褐色　黒色土中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　明褐色　ローム粒子多量

第18号住居跡竈土層解説

1　暗赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

第48図　第18号住居跡

規模と平面形　長軸6.40m，短軸6.20mの方形である。

主軸方向　N－37°－W

壁　壁高26～70cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅14～20cm，深さ4～10cmで，断面形は「U」字状である。竈部分を除いて，壁下を全周している。

床　平坦で，壁際を除いて踏み固められている。

竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅106cm，長さ102cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化している。袖部中位以下は良好に遺存しており，両袖とも基底部の幅は30cmを測る。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から急激に外傾して立ち上がる。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_3は，径26～30cmの円形，深さ78～100cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。配列から考えれば，南コーナーにもあるはずであったが，撹乱があり確認できなかった。P_4は，径28cmの円形，深さ20cmである。竈の反対壁ではないが，南を意識した点を考えると出入り口施設に伴うピットの可能性も考えられる。P_5・P_6は，径25・34cmの円形，深さ8・20cmと浅く，性格は不明である。

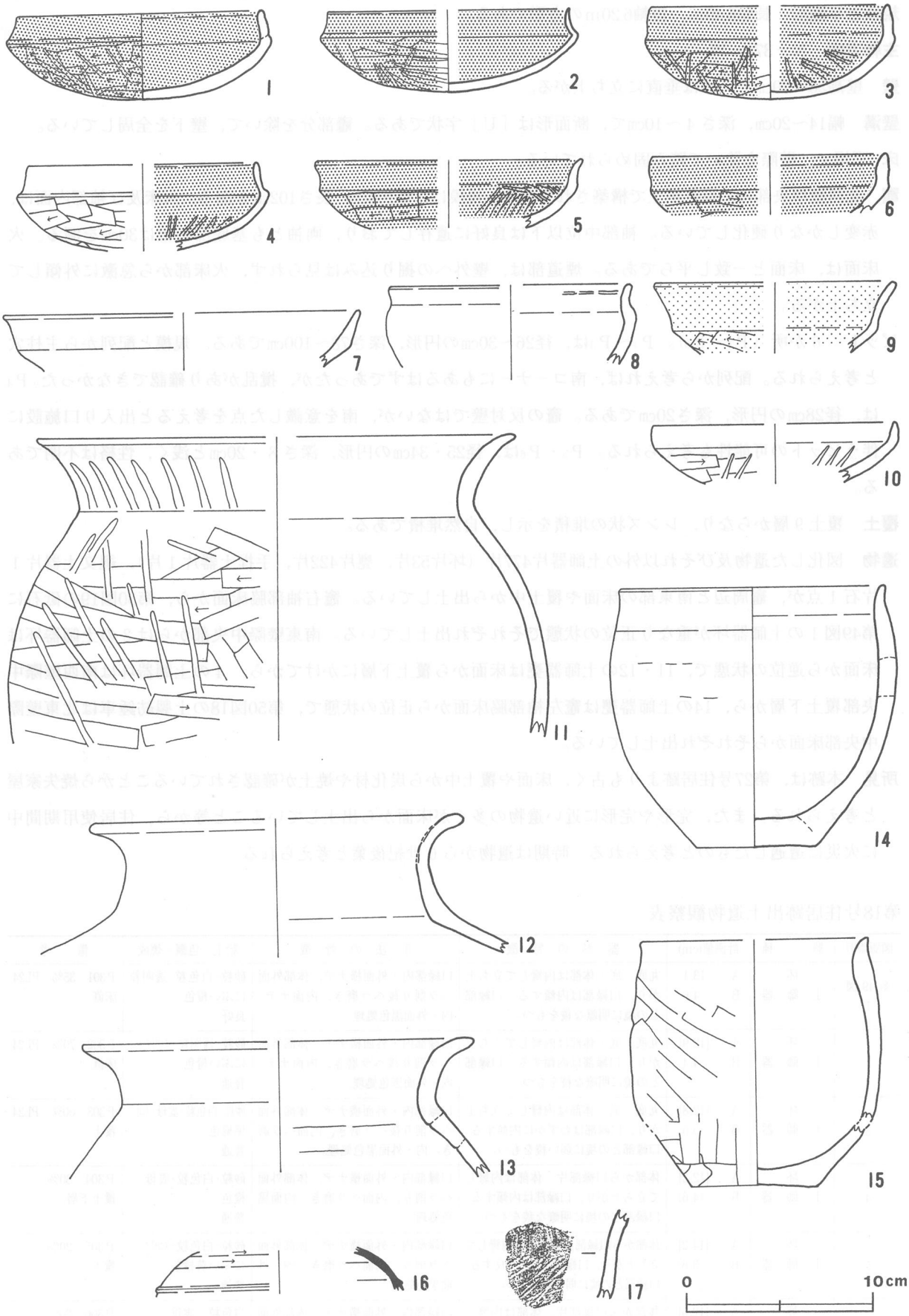
覆土　覆土9層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片477片（坏片53片，甕片422片，手捏土器片1片），縄文土器片1片石1点が，竈周辺と南東部の床面や覆土中から出土している。竈右袖部脇床面から，第50図19の砥石に第49図1の土師器坏が重なり正位の状態でそれぞれ出土している。南東壁際中央部からは2の土師器坏は床面から逆位の状態で，11・12の土師器甕は床面から覆土下層にかけてから，4の土師器坏は南西壁際中央部覆土下層から，14の土師器甕は竈左袖部脇床面から正位の状態で，第50図18の土製紡錘車は北東壁際中央部床面からそれぞれ出土している。

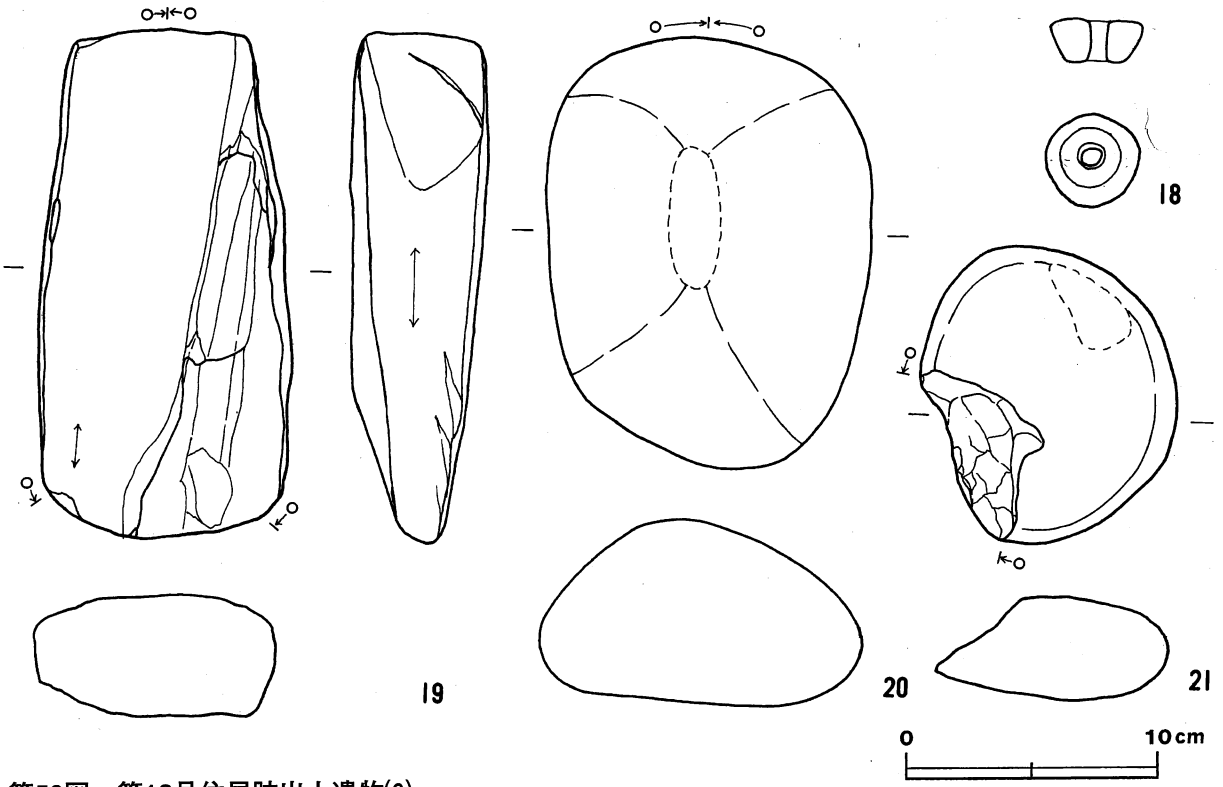
所見　本跡は，第27号住居跡よりも古く，床面や覆土中から炭化材や焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられる。また，完形や完形に近い遺物の多くが床面から出土していること等から，住居使用期間中に火災に遭遇したものと考えられる。時期は遺物から6世紀後葉と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	坏 土師器	A 13.1 B 4.6	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・透明粒 にぶい橙色 良好	P301 35% PL24 床直
2	坏 土師器	A [12.9] B 4.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・透明粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P302 70% PL24 床直
3	坏 土師器	A [12.8] B 5.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 黒褐色 普通	P303 60% PL24 覆土
4	坏 土師器	A [12.2] B (4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 橙色 普通	P304 30% 覆土下層
5	坏 土師器	A [14.2] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P305 20% 覆土
6	坏 土師器	A [12.5] B (3.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 オリーブ黒色 普通	P306 20% 覆土



第49図　第18号住居跡出土遺物(1)



第50図　第18号住居跡出土遺物(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 7	坏 土師器	A [18.9] B (3.0)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	細砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 灰黄褐色 普通	P307 10% 床直
8	椀 土師器	A [12.8] B (4.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 橙色 普通	P308 20% 覆土中層
9	坏 土師器	A [12.8] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P309 10% 覆土
10	坏 土師器	A [13.0] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 良好	P310 10% 覆土
11	甕 土師器	A [25.5] B (16.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P311 30% 床直
12	甕 土師器	A [19.4] B (7.5)	口縁部片。口縁部は直立し，上端で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P312 30% PL25 内面摩滅 床直
13	甕 土師器	A [20.8] B (7.2)	口縁部片。口縁部は直立し，上端で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面に輪積み痕あり。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P313 20% PL25 覆土下層
14	甕 土師器	A [13.9] B 13.9 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。輪積み痕あり。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P314 70% PL25 内・外面摩滅 床直
15	甕 土師器	A [12.0] B (13.2) C 6.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ 明赤褐色 普通	P315 60% 覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第49図16	坏　蓋 須恵器	B　(2.3)	天井部片。天井部は内彎して口縁部に至る。口縁部との境に稜をもつ。	巻き上げ・ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。	白色粒・黒色斑点 褐灰色 良好	P316　5%　PL30 覆土

第49図17（TP11）は弥生土器の胴部片で，附加条１種（附加２条）の縄文が施されている。

図版番号	種　別	計測値(cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備　考
		最大長	最大幅	最大厚					
第50図18	紡錘車	3.7	3.7	1.8	0.8	26.7	100	北東壁際床直	DP29　PL24

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第50図19	砥　石	20.0	9.7	5.4	1516.9	凝灰岩	北コーナー床直	Q26　PL25
20	磨　石	17.1	13.0	7.5	2340.9	砂　岩	南東壁際覆土下層	Q27
21	磨　石	11.8	10.3	4.1	642.1	砂　岩	南東壁際覆土下層	Q28

第19号住居跡（第51図　PL８・９）

位置　調査区の中央部，B1d9区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は，第20号住居跡の中央部から西部と第12号土坑をそれぞれ掘り込み，中央部は第３号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.40m，短軸6.20mの方形である。

主軸方向　N－16°－W

壁　壁高46～80cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　幅14～18cm，深さ６～８cmで，断面形は「U」字状である。竈部分を除いて，壁下を全周している。

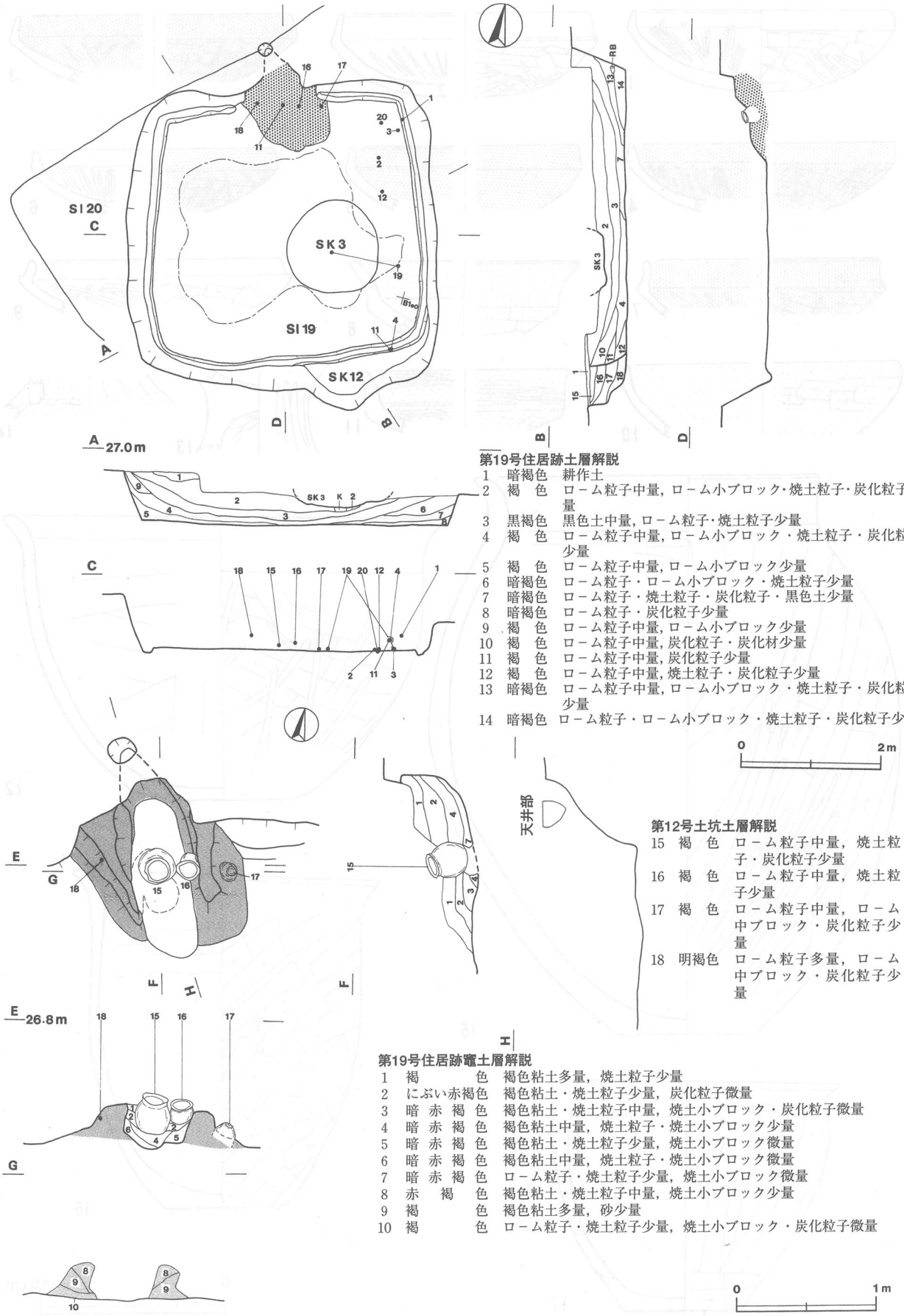
床　平坦で，中央部を中心によく踏み固められている。

竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅110cm，長さ165cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化しており，長期間使用したものと考えられる。袖部は，天井部とともに良好に遺存しており，両袖とも基底部の幅は40cmを測る。右袖部から，補強材として使用したであろう完形の土師器甕が逆位の状態で出土している。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外へ40cm程掘り込み，火床部から急激に外傾して立ち上がる。

覆土　14層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片416片（坏片35片で，この中の17片が赤彩，15片が黒色処理，甕片359片で，この中の４片が赤彩，鉢片１片），石１点が，北東部の床面や覆土中から出土している。竈内から第52図15の土師器甕は正位の状態で，16の土師器甕はやや斜位の状態でそれぞれ出土している。これら２つの甕は，竈に据えられた状態で住居跡が廃棄になったものと考えられる。17の土師器甕は竈右袖部内から逆位の状態で，第53図18の土師器甕は竈左袖部内から横位の状態でそれぞれ出土し，共に袖部の補強材として使用されたものと考えられる。第52図11の土師器坏は南東コーナー床面から正位の状態で，12の土師器鉢は東壁中央部内側から斜位の状態で，13の土師器高坏は中央部北西寄り床面から，第53図19の土師器甑は中央部南東寄り床面から逆位の状態で，20の土師器甑は北東コーナー床面からつぶれた状態で，23の土玉は南壁中央部床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第20号住居跡と第12号土坑よりも新しく，第３号土坑よりも古い。時期は土師器坏で赤彩されたものと黒色処理されたものとがほぼ同じような出土状況であることから，６世紀中葉と考えられる。



第19号住居跡土層解説

1　暗褐色　耕作土
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　黒色土中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黒色土少量
8　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
9　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・炭化材少量
11　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
12　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
13　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
14　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

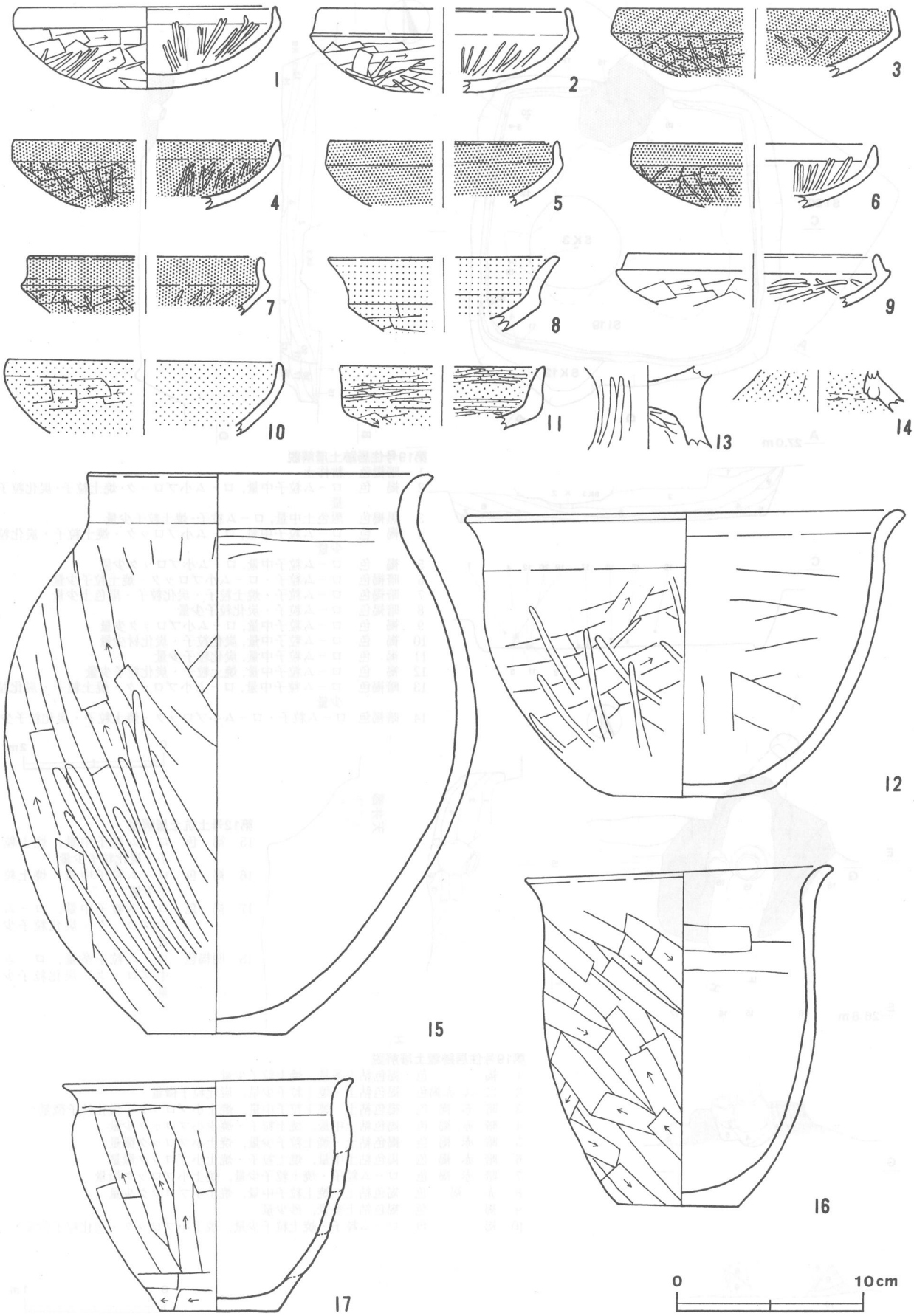
第12号土坑土層解説

15　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
16　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
17　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
18　明褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・炭化粒子少量

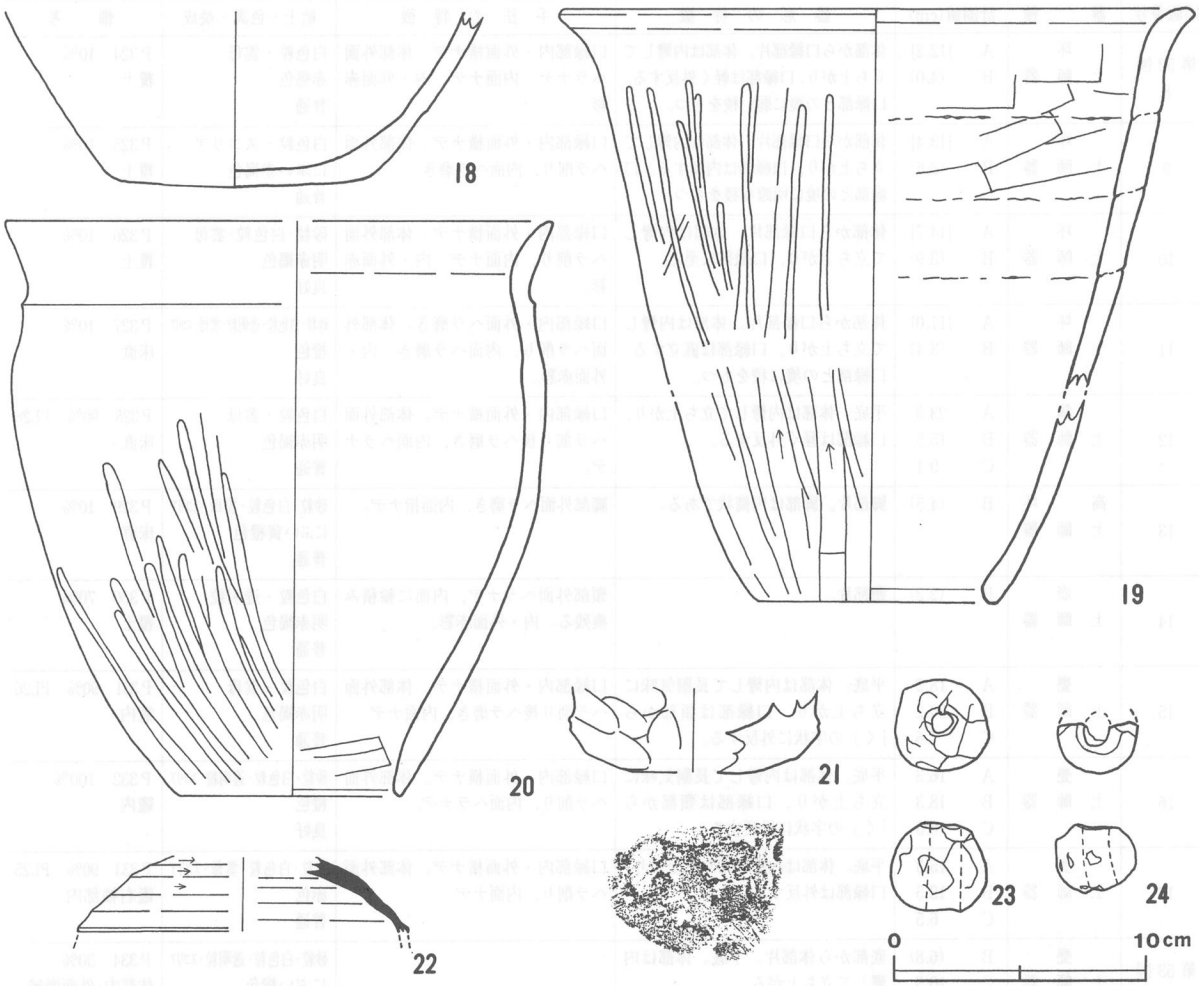
第19号住居跡竈土層解説

1　褐　色　褐色粘土多量，焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　褐色粘土・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　褐色粘土・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
5　暗赤褐色　褐色粘土・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
6　暗赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
8　赤　褐　色　褐色粘土・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
9　褐　色　褐色粘土多量，砂少量
10　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量

第51図　第19号住居跡，第12号土坑



第52図　第19号住居跡出土遺物(1)



第53図　第19号住居跡出土遺物(2)

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第52図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.4	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 明赤褐色 良好	P317 70% PL25 内・外面煤付着 覆土下層
2	坏 土師器	A [13.2] B (4.5)	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	小礫・砂粒・透明粒・雲母 にぶい橙色 普通	P318 60% PL25 外面煤付着 床直
3	坏 土師器	A [14.7] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P319 40% 床直
4	坏 土師器	A [14.2] B (3.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒 明赤褐色 良好	P320 30% 覆土下層
5	坏 土師器	A [12.2] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒 黒褐色 普通	P321 20% 覆土
6	坏 土師器	A [13.0] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。外面黒色処理。	白色粒・雲母 黒褐色 普通	P322 20% 覆土
7	坏 土師器	A [12.4] B (3.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 橙色 普通	P323 20% 覆土

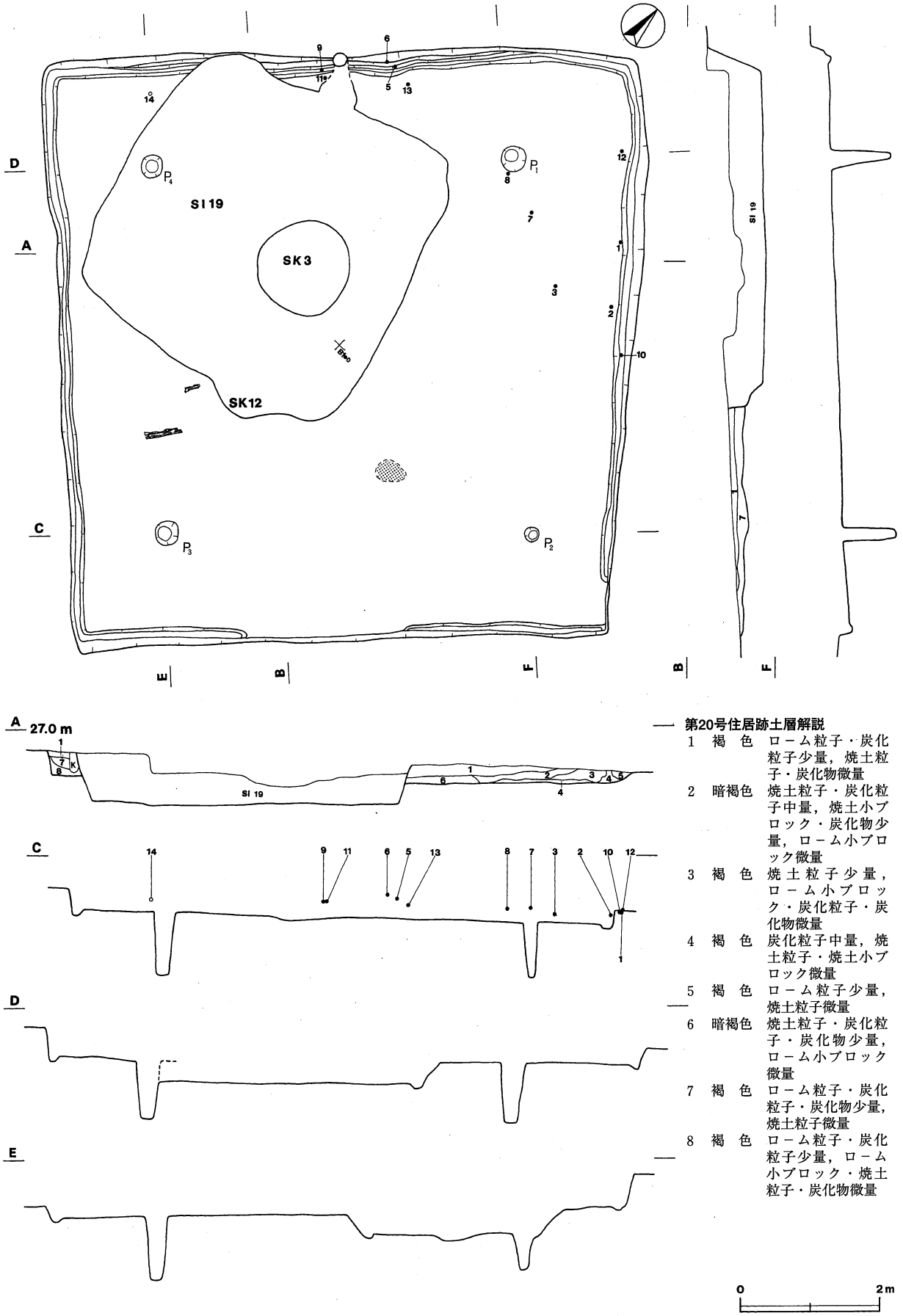
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 8	坏 土師器	A [12.2] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ，内面ナデ。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 赤褐色 普通	P324 10% 覆土
9	坏 土師器	A [13.4] B (2.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	白色粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P325 10% 覆土
10	坏 土師器	A [14.7] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母 明赤褐色 良好	P326 10% 覆土
11	坏 土師器	A [11.0] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・スコリア 橙色 良好	P327 10% 床直
12	鉢 土師器	A 23.3 B 15.5 C 9.1	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P328 90% PL26 床直
13	高坏 土師器	B (4.5)	脚部片。脚部は円筒状である。	脚部外面ヘラ磨き，内面指ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P329 10% 床直
14	壺 土師器	B (2.2)	頸部片。	頸部外面ヘラナデ，内面に輪積み痕残る。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒 明赤褐色 普通	P330 70% 覆土
15	甕 土師器	A 18.2 B 30.2 C 7.6	平底。体部は内彎して長胴気味に立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P331 90% PL26 竈内
16	甕 土師器	A 16.3 B 18.3 C 6.5	平底。体部は内彎して長胴気味に立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・スコリア 橙色 良好	P332 100% 竈内
17	甕 土師器	A 15.3 B 12.5 C 6.5	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・スコリア 赤色 普通	P333 90% PL25 竈右袖部内
第53図 18	甕 土師器	B (6.8) C 10.3	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。		砂粒・白色粒・透明粒・スコリア にぶい橙色 普通	P334 30% 体部内・外面摩滅 竈左袖部内
19	甑 土師器	A 25.0 B [24.0] C [9.5] 孔径 [8.4]	無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P335 75% 床直
20	甑 土師器	A [21.7] B 23.1 C 8.6 孔径 7.4	無底式。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 明赤褐色 普通	P336 90% PL25 床直
21	手捏土器 土師器	B (3.4) C [4.6]	底部片。やや突出気味の平底。	底部及び体部外面下端指ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・スコリア 橙色 普通	P337 30% 床直
22	坏蓋 須恵器	B (3.0)	天井部片。天井部は内彎して口縁部に至る。口縁部との境に稜をもつ。	巻き上げ・ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り。	細砂粒・黒色斑点 灰色 普通	P338 15% PL30 覆土

図版番号	種別	計測値(cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第53図23	土玉	3.6	3.8	3.6	1.3	46.5	100	南壁際中央部床直	DP30 PL30
24	土玉	(2.1)	(3.3)	2.7	(1.1)	(14.6)	50	覆土	DP31 PL30

第20号住居跡（第54図　PL 9）

位置　調査区の中央部，B1e0区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の西部は，第19号住居跡と第12号土坑にそれぞれ掘り込まれている。



第20号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　焼土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物微量
4　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
5　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
7　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
8　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

第54図　第20号住居跡

規模と平面形　長軸8.35m，短軸8.20mの方形である。

主軸方向　N－45°－W

壁　壁高22～42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅16～18cm，深さ6～8cmで，断面形は「U」字状である。南東壁中央部を除いて，壁下を全周している。

床　平坦であるが，踏み固められた面は認めらず，硬化の度合いは弱い。

炉　P_2・P_3を結んだ直線上より内側に，長径44cm，短径36cmの楕円形をした焼土の範囲を確認している。焼け具合が弱いことから，一時的に炉として使用したものか，火災によるものか判然としない。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径21～36cmの円形，深さ80～92cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

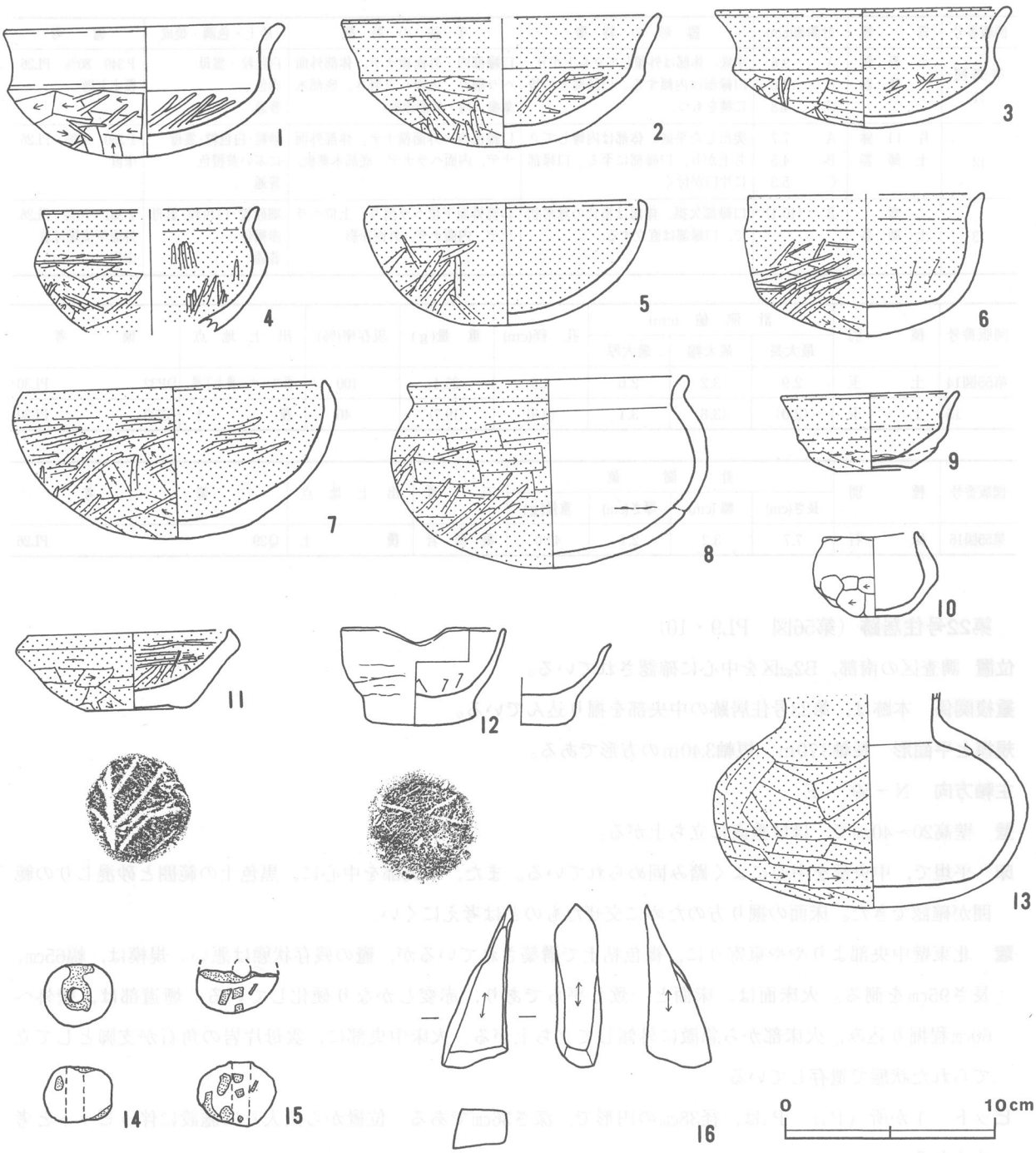
覆土　8層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片244片（坏片61片で，この中の23片が赤彩，甕・壺片169片で，この中の1片が赤彩，鉢片14片で，この中の8片が赤彩）が，壁際の床面や覆土中から出土している。第55図1・2の土師器坏はそれぞれ北東壁際中央部床面から，北西壁際中央部からは10の土師器小形鉢と13の土師器壺は床面から，5の土師器椀と9・11の土師器小形鉢は覆土下層から，6の土師器椀は覆土中層から，3の土師器坏と7の土師器坏と8の土師器椀は北東部床面から，12の土師器片口鉢は北コーナー床面から，14の土玉は西コーナー覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第19号住居跡と第12号土坑よりも古く，時期は，炉跡があるという遺構としての形態，遺物に中期の坏・椀が主体で，少し模倣坏が見られることから5世紀後葉と考えられる。また，炭焼遺跡の中で最大規模の住居跡である。床面や覆土中から炭化材や焼土が確認されていることから，焼失家屋と考えられ，完形や完形に近い遺物が多く床面から出土していること等から，住居使用期間中に火災に遭遇したものと考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	坏 土師器	A 13.1 B 6.2	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P339 80% PL26 床直
2	坏 土師器	A [15.1] B 6.1	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P340 60% 床直
3	坏 土師器	A 13.9 B 5.7	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 赤褐色 普通	P341 70% 床直
4	椀 土師器	A [10.2] B (5.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。体部上位に最大径をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒 明赤褐色 普通	P342 30% 覆土
5	椀 土師器	A 13.0 B 5.7	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ・ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・雲母・スコリア 赤色 普通	P343 90% PL26 覆土下層
6	椀 土師器	A [11.1] B 6.6	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色粒・透明粒・雲母 赤褐色 普通	P344 80% PL26 覆土中層
7	坏 土師器	A 14.3 B 7.2 C 6.3	丸底気味の平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P345 60% PL26 床直



第55図　第20号住居跡出土遺物

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第55図 8	椀 土師器	A 13.2 B 9.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒 赤色 普通	P346　65%　PL26 床直
9	小形鉢 土師器	A 8.4 B 3.7 C 3.8	やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。底部接合痕あり。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P347　100%　PL26 覆土下層
10	小形鉢 土師器	A 4.6 B 4.0 C 2.3	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P348　100%　PL26 床直

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 11	小形鉢 土師器	A 9.6 B 3.6 C 4.8	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。底部木葉痕。内・外面赤彩。	白色粒・雲母 赤色 普通	P349 80% PL26 覆土下層
12	片口鉢 土師器	A 7.7 B 4.5 C 5.3	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部に片口が付く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ，内面ヘラナデ。底部木葉痕。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P350 90% PL26 床直
13	壺 土師器	B (10.1)	口縁部欠損。体部は横長の球形状で，口縁部は直立する。	体部外面下位ヘラ削り，上位ヘラナデ，内面ナデ。外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 赤褐色 普通	P351 70% PL26 外面下位煤付着 床直

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第55図14	土玉	2.9	3.2	2.6	0.8	26.4	100	西コーナー覆土下層	DP32 PL30
15	土玉	(2.0)	(3.8)	3.1	(0.9)	(19.7)	40	覆土	DP33 PL30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第55図16	砥石	7.7	3.2	2.1	43.0	凝灰岩	覆土	Q29 PL26

第22号住居跡（第56図　PL9・10）

位置　調査区の南部，B2g2区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は，第23号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.40mの方形である。

主軸方向　N－59°－E

壁　壁高20～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

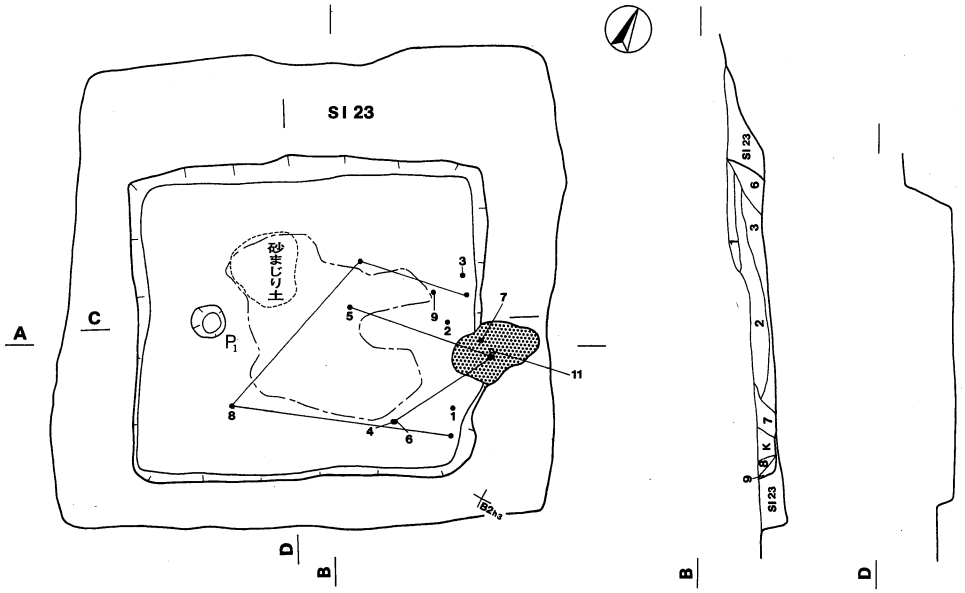
床　平坦で，中央部を中心によく踏み固められている。また，中央部を中心に，黒色土の範囲と砂混じりの範囲が確認できた。床面の掘り方のために交ぜたものとは考えにくい。

竈　北東壁中央部よりやや東寄りに，褐色粘土で構築されているが，竈の残存状態は悪い。規模は，幅65cm，長さ95cmを測る。火床面は，床面と一致し平らであり，赤変しかなり硬化している。煙道部は，壁外へ60cm程掘り込み，火床部から急激に外傾して立ち上がる。火床中央部に，雲母片岩の角石が支脚として立てられた状態で遺存している。

ピット　1か所（P_1）。P_1は，径38cmの円形で，深さ36cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

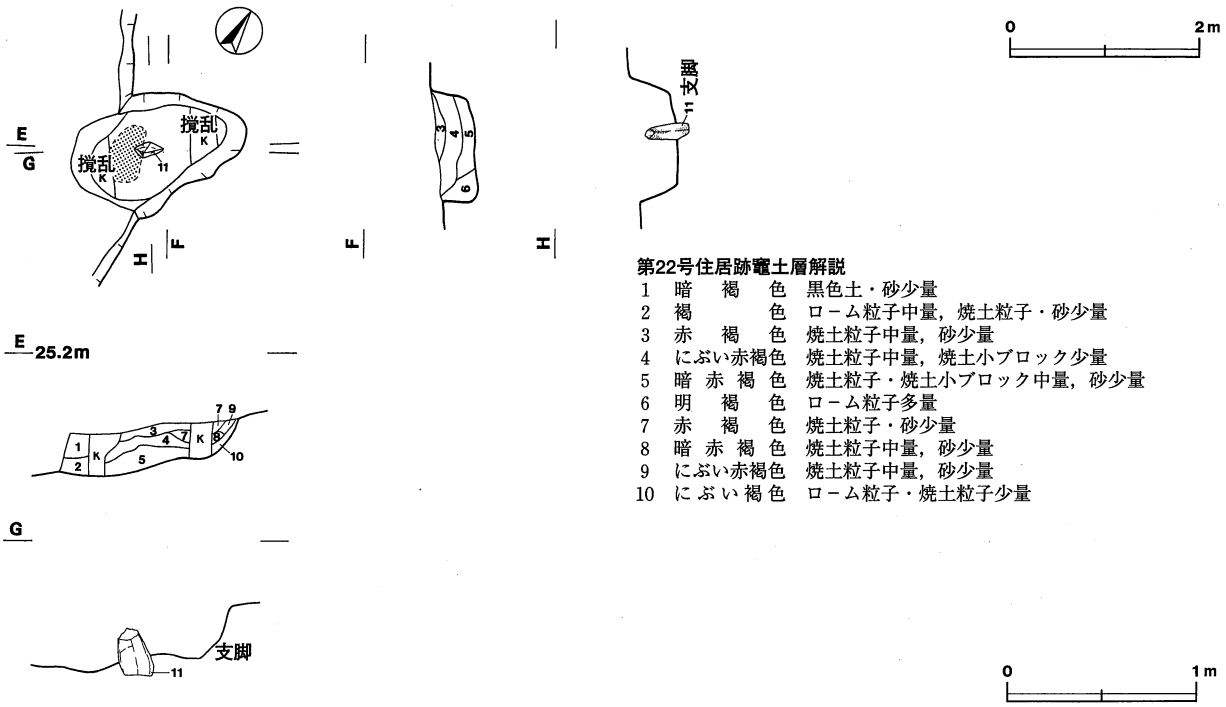
覆土　9層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。6・7・9層からは，床面からも確認できた砂が含まれている。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片360片（坏・高台付坏片43片で，この中の8片が黒色処理，甕片317片），縄文土器片3片が，竈内や竈周辺の床面や覆土中から出土している。第57図1・4の土師器高台付坏が東コーナーからそれぞれ正位の状態で出土している。竈左袖部脇からは，3の土師器高台付坏が床面から正位の状態で，9の土師器甕は覆土下層から，竈内からは5・6・7の土師器高台付坏が正位の状態で，2の土師器高台付坏は逆位の状態でそれぞれ出土している。8の土師器甕は，東コーナー床面と中央部覆土下層と南部床面と竈左袖部脇床面から出土したものが接合されたものである。



第22号住居跡土層解説

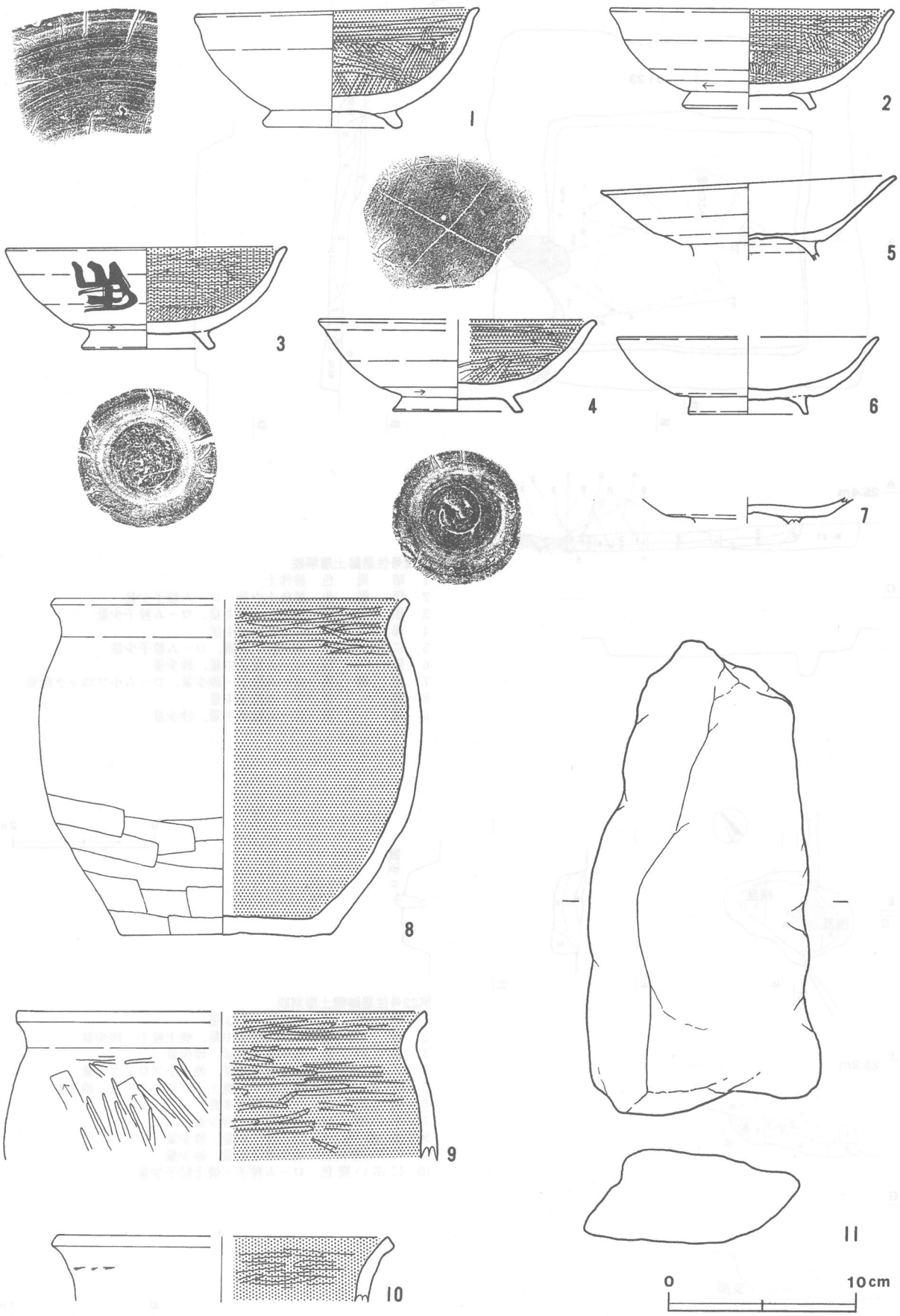
1　暗　褐　色　耕作土
2　黒　褐　色　黒色土中量，ローム粒子少量
3　黒　褐　色　黒色土・砂中量，ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，砂少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・砂少量，ローム小ブロック微量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　褐　　色　ローム粒子中量，砂少量



第22号住居跡竈土層解説

1　暗　褐　色　黒色土・砂少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・砂少量
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，砂少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，砂少量
6　明　褐　色　ローム粒子多量
7　赤　褐　色　焼土粒子・砂少量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，砂少量
9　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，砂少量
10　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

第56図　第22号住居跡



第57図　第22号住居跡出土遺物

所見　本跡は，第23号住居跡よりも新しい。時期は，土師器小皿が出現していないこと，土師器高台付坏が椀的に立ち上がるが，足高高台付坏が出現していないこと，常総型甕のつまみ上げがまだわずかに残ることから，10世紀中葉と考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 1	高台付坏 土師器	A 15.1 B 6.5 D 7.4 E 1.0	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。内面黒色処理。体部外面ロクロ痕強い。	砂粒・白色粒・透明粒・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P352　90%　PL27 床直
2	高台付坏 土師器	A 15.2 B 5.4 D [7.3] E 0.9	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 良好	P353　80%　PL27 竈内
3	高台付坏 土師器	A 15.0 B 5.4 D 7.3 E 1.0	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P354　60%　PL26 体部外面墨書「山田」 床直
4	高台付坏 土師器	A [14.9] B 4.9 D 7.1 E 0.8	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。内面黒色処理。	白色粒・透明粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P355　80% 体部内面ヘラ記号「×」 床直
5	高台付坏 土師器	A 15.9 B (4.5) E (1.1)	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P356　70%　PL26 内面摩滅 竈内
6	高台付坏 土師器	A [14.1] B 4.1 D 6.4 E 1.0	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	白色粒・雲母 赤褐色 普通	P357　50% 内・外面摩滅 竈内
7	高台付坏 土師器	B (1.3) E (0.3)	高台部から体部下端片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	砂粒・透明粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P358　20% 竈内
8	甕 土師器	A [18.5] B 18.0 C 11.6	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。単口縁。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下位横位のヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P359　50% 床直
9	甕 土師器	A [22.0] B (7.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。口縁部はわずかにつまみあげが残る。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。口縁部から体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・透明粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P360　10% 覆土下層
10	甕 土師器	A [17.9] B (3.5)	口縁部片。単口縁。	口縁部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P361　5% 覆土

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第57図11	支脚	25.5	12.5	5.0	2083.4	雲母片岩	竈内	Q30　被熱により摩滅

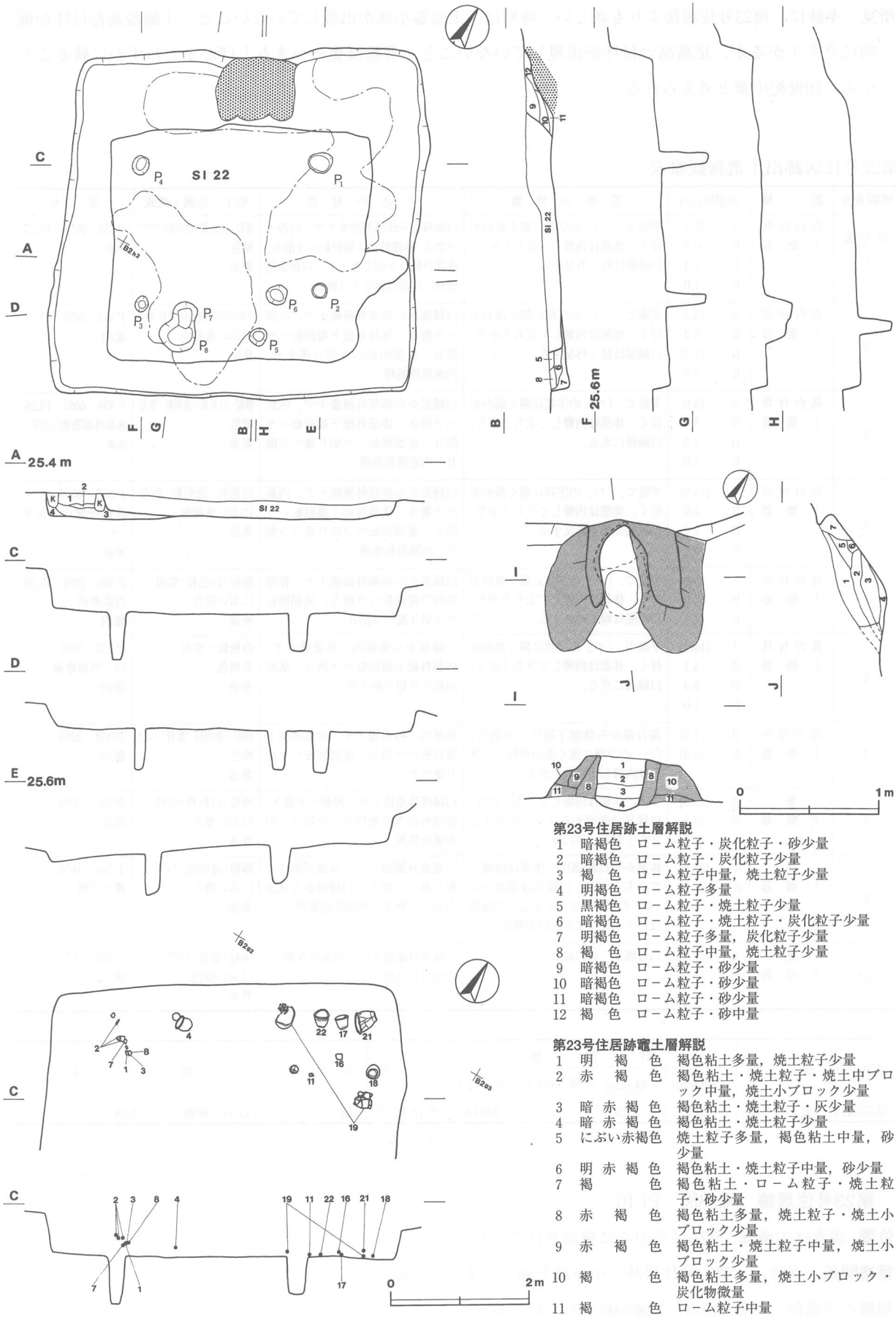
第23号住居跡（第58図　PL10）

位置　調査区の南部，$B2_{g2}$区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は，第22号住居跡に中央部を掘り込まれている。

規模と平面形　長軸5.10m，短軸5.00mの方形である。

主軸方向　N－28°－W



第58図　第23号住居跡

第23号住居跡土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・砂少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　明褐色　ローム粒子多量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7　明褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子・砂少量
10　暗褐色　ローム粒子・砂少量
11　暗褐色　ローム粒子・砂少量
12　褐　色　ローム粒子・砂中量

第23号住居跡竈土層解説

1　明　褐　色　褐色粘土多量，焼土粒子少量
2　赤　褐　色　褐色粘土・焼土粒子・焼土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
3　暗赤褐色　褐色粘土・焼土粒子・灰少量
4　暗赤褐色　褐色粘土・焼土粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，褐色粘土中量，砂少量
6　明赤褐色　褐色粘土・焼土粒子中量，砂少量
7　褐　色　褐色粘土・ローム粒子・焼土粒子・砂少量
8　赤　褐　色　褐色粘土多量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
9　赤　褐　色　褐色粘土・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
10　褐　色　褐色粘土多量，焼土小ブロック・炭化物微量
11　褐　色　ローム粒子中量

壁　壁高25～57cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部を中心に踏み固められている。

竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅115cm，長さ95cmを測る。火床及び袖部は，赤変しかなり硬化している。袖部は良好に遺存しており，両袖部とも基底部の幅は，ほぼ45cm程を測る。火床面は，床面を5cm程掘り込んでいる。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から緩やかにに外傾して立ち上がる。

ピット　8か所（P_1～P_8）。P_1～P_4は，径22～35cmの円形，深さ54～71cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5は，径24cmの円形，深さ50cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_6は，径30cmの円形で，深さ58cmであるが，性格は不明である。P_7・P_8は，径36・52cmの円形で，深さ30・43cmである。お互いが接して確認できたが，性格は不明である。

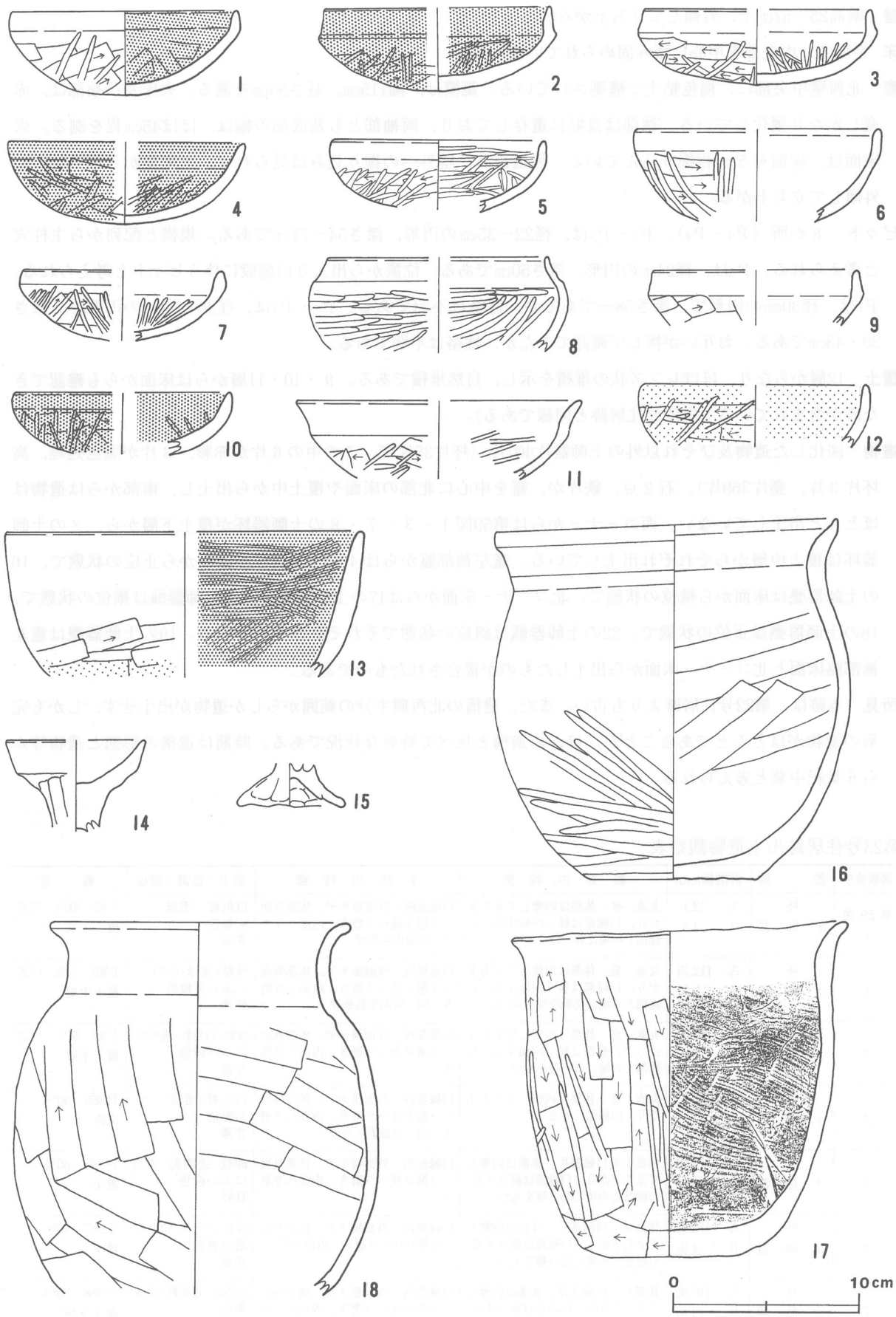
覆土　12層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。9・10・11層からは床面からも確認できた砂が含まれている（第22号住居跡と同様である）。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片407片（坏片35片で，この中の6片が赤彩，3片が黒色処理，高坏片3片，甕片369片），石2点，鉄片が，竈を中心に北部の床面や覆土中から出土し，南部からは遺物はほとんど出土していない。西コーナーからは第59図1・3・7・8の土師器坏が覆土下層から，2の土師器坏は覆土中層からそれぞれ出土している。竈左袖部脇からは4の土師器坏が床面から正位の状態で，16の土師器甕は床面から横位の状態で，北コーナー床面からは17の土師器甕と21の土師器甑は横位の状態で，18の土師器甕は正位の状態で，22の土師器甑は斜位の状態でそれぞれ出土している。19の土師器甕は竈左袖部脇床面と北コーナー床面から出土したものが接合されたものである。

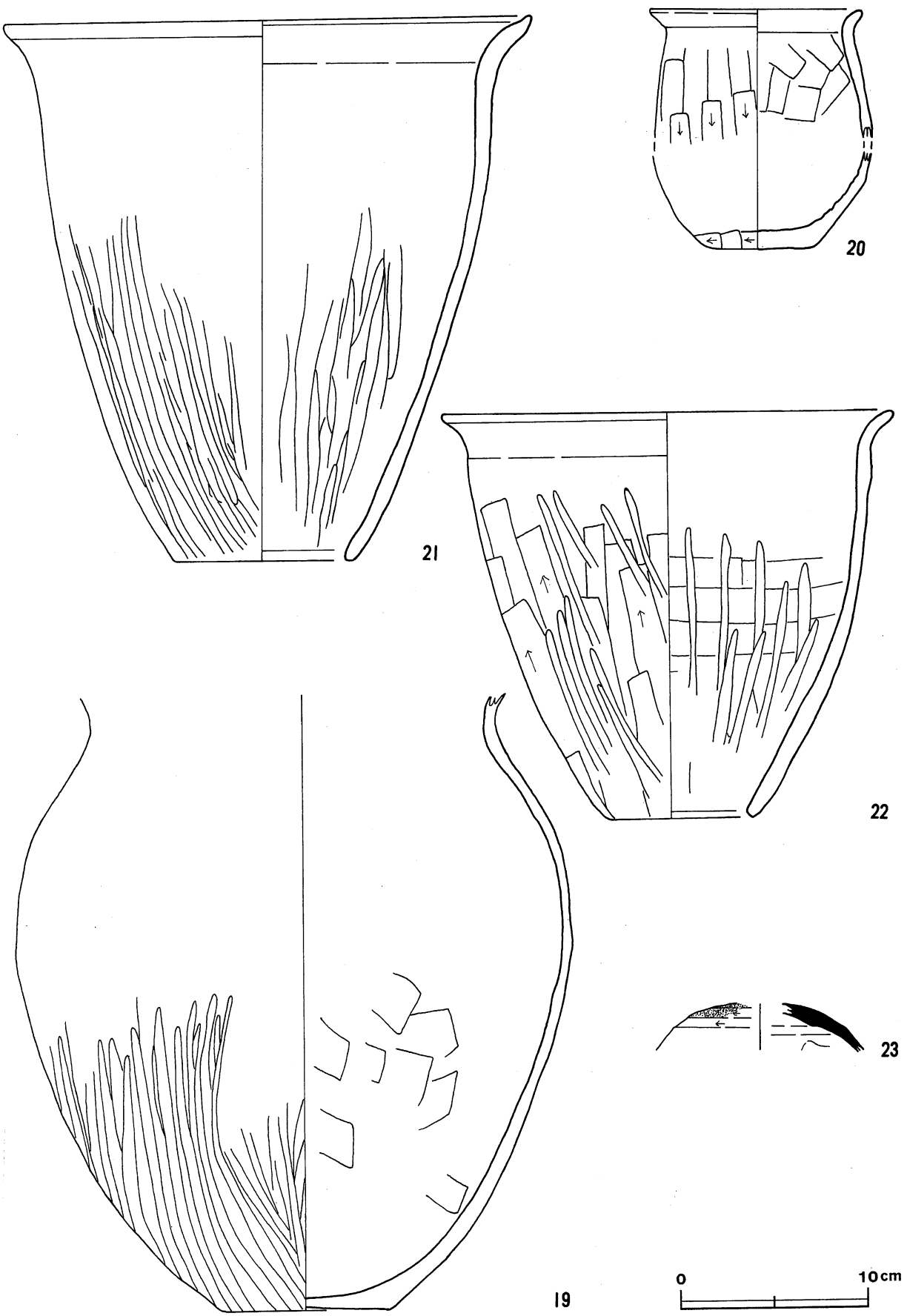
所見　本跡は，第22号住居跡よりも古い。また，遺構の北西側半分の範囲からしか遺物が出土せず，しかも完形の遺物がほとんどであることが，ほかの遺構と比べて特異な状況である。時期は遺構の形態と遺物等から6世紀中葉と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 1	坏 土師器	A 12.1 B 4.5	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。内面黒色処理。	白色粒・雲母 灰褐色 普通	P362 100% PL27 覆土下層
2	坏 土師器	A [12.2] B 4.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P363 70% PL27 覆土中層
3	坏 土師器	A [12.2] B 4.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P364 60% PL27 覆土下層
4	坏 土師器	A [12.7] B 4.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 黒褐色 普通	P365 60% 床直
5	坏 土師器	A 11.3 B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	砂粒・透明粒・雲母 にぶい橙色 良好	P366 60% 覆土
6	坏 土師器	A [13.1] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒 暗灰黄色 普通	P367 40% 覆土
7	坏 土師器	A [10.6] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・透明粒・雲母 橙色 良好	P368 30% 覆土下層



第59図　第23号住居跡出土遺物(1)



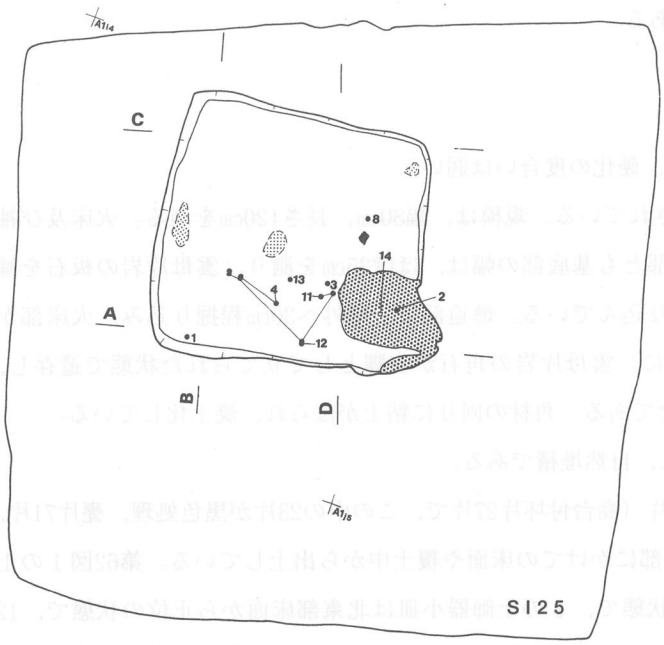
第60図　第23号住居跡出土遺物(2)

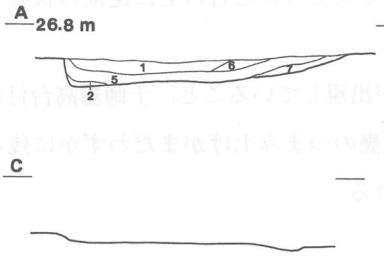
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 8	土師器 坏	A [11.8] B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	砂粒・白色粒・雲母 橙色 普通	P369 30% 覆土下層
9	土師器 坏	A [10.9] B (3.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く内傾する。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	細砂粒・雲母 橙色 普通	P370 20% 覆土
10	土師器 坏	A [11.6] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	細砂粒・雲母 にぶい橙色 良好	P371 30% 床直
11	土師器 坏	A [15.4] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P372 10% 床直
12	土師器 坏	A [11.9] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 明赤褐色 良好	P373 30% 覆土
13	土師器 鉢	A [19.0] B (7.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。口縁部から体部内面ヘラ磨き。体部外面下位赤彩。内面黒色処理。	細砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P374 30% 覆土
14	土師器 高坏	A [7.4] B (5.0) E (2.4)	脚部から坏部片。脚部は円筒状である。坏体部は内彎して立ち上がり，坏口縁部は外傾して立ち上がる。	坏口縁部内・外面横ナデ。坏体部から脚部外面指ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P375 40% 覆土
15	土師器 高坏	B (2.3) D 5.8	脚裾部片。脚裾部は「ハ」の字状に開く。	脚部内・外面指ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P376 40% 覆土
16	土師器 甕	A 18.4 B 19.4 C 8.9	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，端部はわずかにつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P377 100% PL27 外面摩滅 床直
17	土師器 甕	A 17.8 B 17.9	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面強いヘラナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・カリア 明黄褐色 普通	P378 100% PL27 床直
18	土師器 甕	A 16.0 B (19.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立し，上位で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P379 70% 外面煤付着 床直
第60図 19	土師器 甕	B (33.2) C 9.1	口縁部欠損。平底。体部は長胴気味に立ち上がる。頸部は「く」の字状である。	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P380 60% 床直
20	土師器 甕	A 11.3 B [13.0] C 5.8	平底。体部は長胴気味に立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P381 70% 覆土
21	土師器 甑	A 28.2 B 29.3 C 9.6 孔径 8.6	無底式。体部は長胴気味に立ち上がり，口縁部は外反し，端部はわずかにつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P382 100% PL27 床直
22	土師器 甑	A 24.1 B 21.8 C 8.1 孔径 7.1	無底式。体部は長胴気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ後ヘラ磨き。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P383 90% PL28 床直
23	須恵器 坏蓋	B (2.5)	天井部片。	巻き上げ・ロクロ整形。天井部回転ヘラ削り，下位回転ナデ。	白色粒・黒色斑点 灰色 (釉)暗オリーブ色 普通	P384 15% PL30 覆土

第24号住居跡（第61図　PL10・11）

位置　調査区の北西部，A1i4区を中心に確認されている。

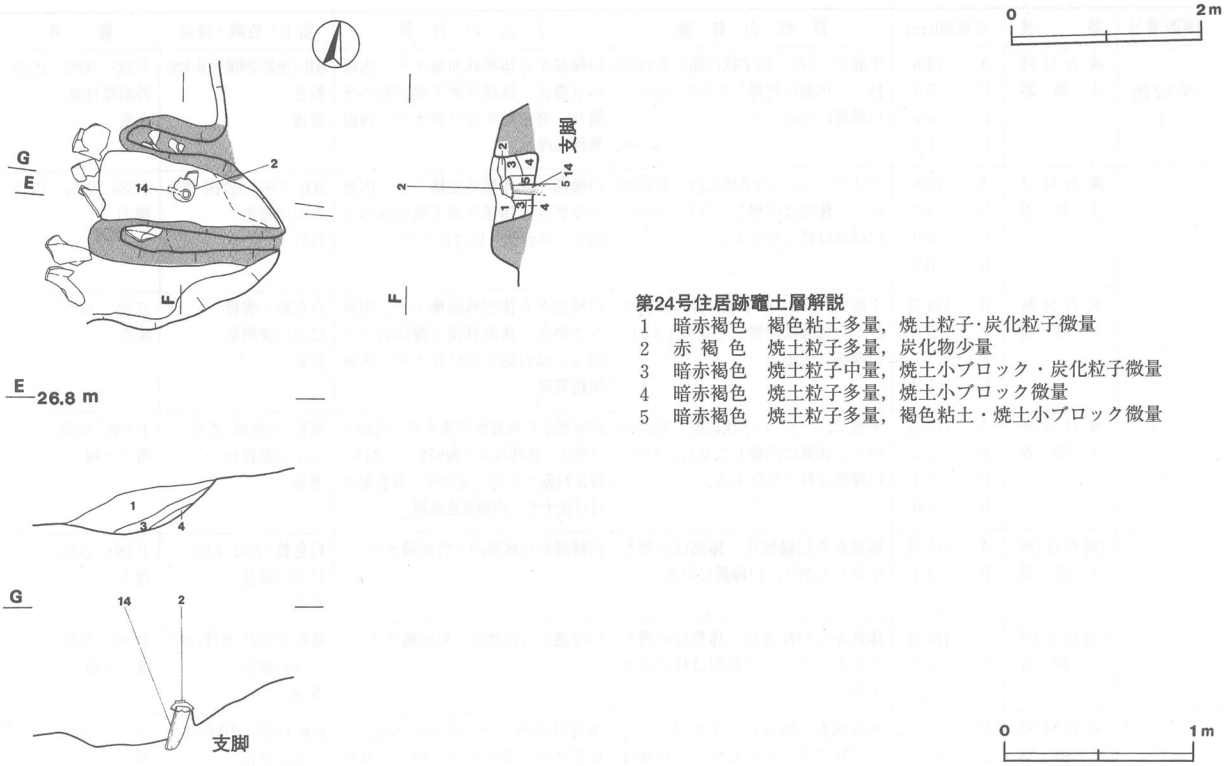
重複関係　本跡は，第25号住居跡の中央部を掘り込んでいる。





第24号住居跡土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
3　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，褐色粘土微量
4　褐　　色　褐色粘土中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　暗 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量



第24号住居跡竈土層解説

1　暗赤褐色　褐色粘土多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック微量
5　暗赤褐色　焼土粒子多量，褐色粘土・焼土小ブロック微量

第61図　第24号住居跡

規模と平面形　長軸2.80m，短軸2.65mの方形である。

主軸方向　N－97°－E

壁　壁高26～30cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，踏み固められた面は認めらず，硬化の度合いは弱い。

竈　東壁の南コーナー近くに，褐色粘土で構築されている。規模は，幅80cm，長さ120cmを測る。火床及び袖部内面は，赤変しかなり硬化している。両袖部とも基底部の幅は，ほぼ25cmを測り，雲母片岩の板石を補強材としている。火床面は，床面を5cm程掘り込んでいる。煙道部は，壁外へ30cm程掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。火床中央部に，雲母片岩の角石が支脚として立てられた状態で遺存し，その上に土師器の高台付坏を逆位の状態で乗せてある。角材の回りに粘土がはられ，焼土化している。

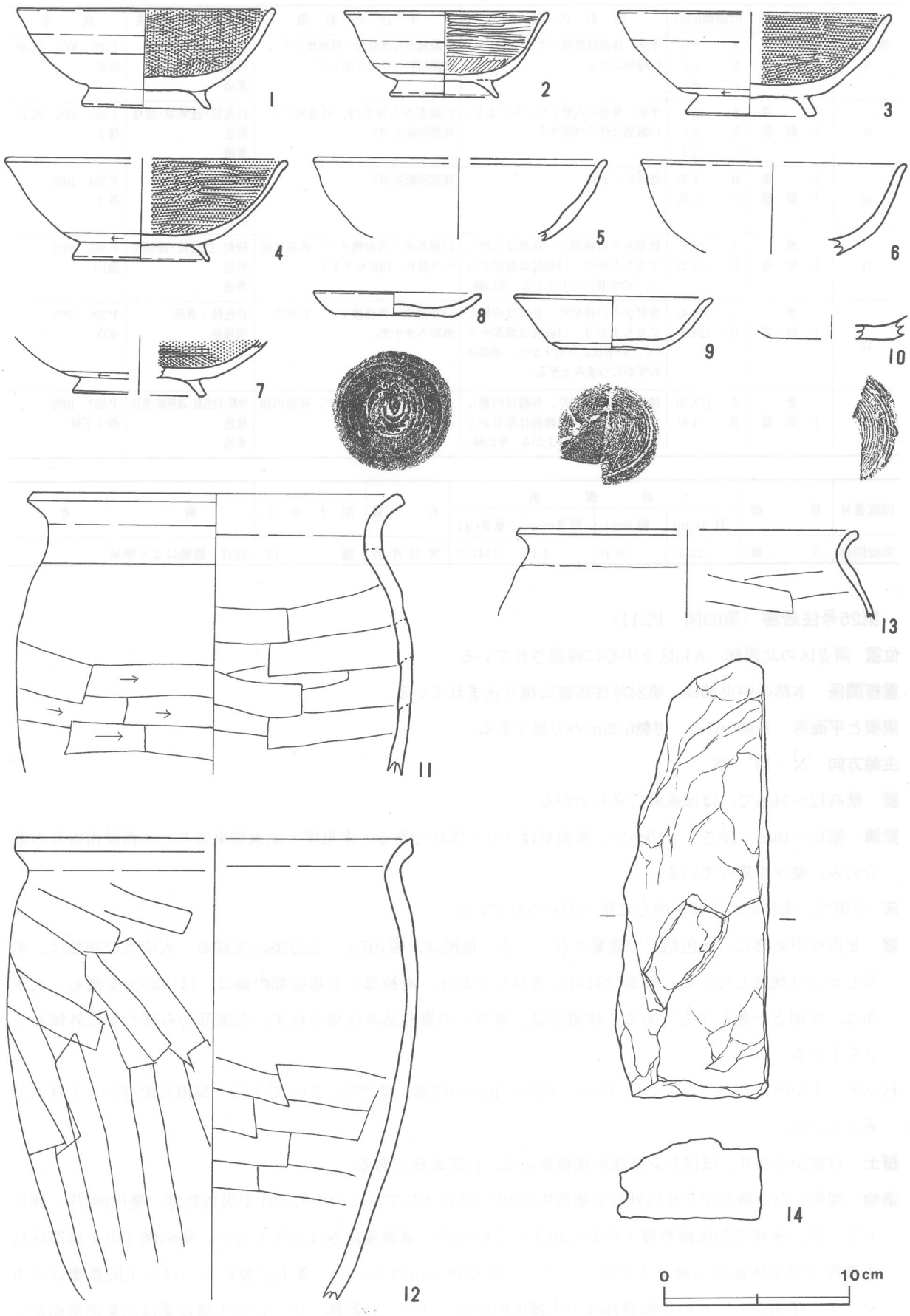
覆土　7層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片100片（高台付坏片27片で，この中の23片が黒色処理，甕片71片，小皿片2片），石10点が，竈内や竈周辺から南部にかけての床面や覆土中から出土している。第62図1の土師器高台付坏は南西コーナー床面から斜位の状態で，8の土師器小皿は北東部床面から正位の状態で，12の土師器甕は南壁際中央部床面から横位の状態でそれぞれ出土している。3の土師器高台付坏は竈前方部床面から正位の状態で，2の土師器高台付坏は竈内の支脚として立てられた石の上に逆位の状態で，11の土師器甕は竈内からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第25号住居跡よりも新しい。時期は，土師器小皿が出現していること，土師器高台付坏が椀的に立ち上がるが，足高高台付坏は出現していないこと，常総型甕のつまみ上げがまだわずかに残ること等から，第22号住居跡よりも新しく10世紀中葉から後葉と考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	高台付坏 土師器	A 13.8 B 5.5 D 6.9 E 1.0	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P385 90% PL28 外面煤付着 床直
2	高台付坏 土師器	A 13.8 B 5.7 D 5.9 E 0.9	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい橙色 良好	P386 95% PL28 竈内
3	高台付坏 土師器	A [14.7] B 5.6 D 7.1 E 1.2	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 良好	P387 60% 床直
4	高台付坏 土師器	A [15.1] B 5.5 D 7.4 E 1.0	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P388 50% 覆土下層
5	[高台付]坏 土師器	A [15.7] B (4.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面横ナデ。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい褐色 普通	P389 20% 覆土
6	[高台付]坏 土師器	A [14.2] B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P390 20% 覆土下層
7	高台付坏 土師器	B (3.0) D [7.2] E 0.9	高台部から体部片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい橙色 良好	P391 20% 覆土



第62図　第24号住居跡出土遺物

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 8	小皿 土師器	A 9.0 B 1.2 C 6.6	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 明褐色 普通	P392 80% PL28 床直
9	小皿 土師器	A 10.6 B 2.9 C 5.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P393 50% PL28 覆土
10	小皿 土師器	B (1.3) C [6.8]	底部片。平底。	底部回転糸切り。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P394 10% 覆土
11	甕 土師器	A 19.9 B (15.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。単口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒 橙色 普通	P395 60% 竈内
12	甕 土師器	A [21.4] B (24.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，端部はわずかにつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	白色粒・雲母 明褐色 普通	P396 50% 床直
13	甕 土師器	A [18.3] B (4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。単口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P397 10% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第62図14	支脚	(24.1)	(8.4)	4.4	(1247.7)	雲母片岩	竈内	Q31 被熱により摩滅

第25号住居跡（第63図　PL11）

位置　調査区の北西部，A1i4区を中心に確認されている。

重複関係　本跡の中央部は，第24号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸6.65m，短軸6.35mの方形である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高12～34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅12～16cm，深さ5～10cmで，断面形は「U」字状である。南東壁と北東壁東寄りと南西壁南寄りの部分のみ，壁下を周っている。

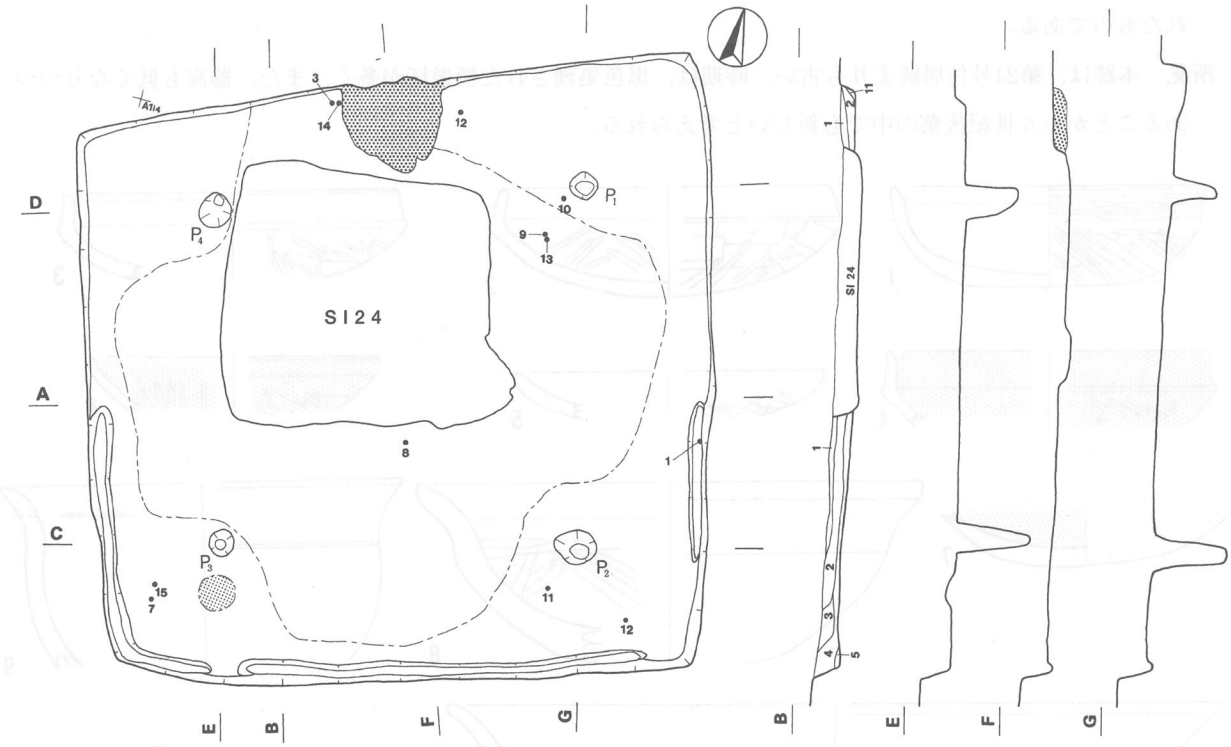
床　平坦で，主柱穴の内側を中心に踏み固められている。

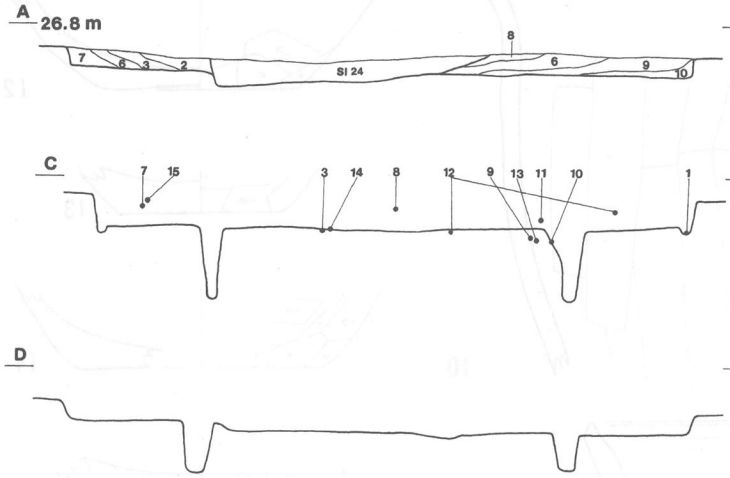
竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は，幅107cm，長さ98cmを測る。火床及び袖部は，赤変しかなり硬化している。袖部は良好に遺存しており，両袖部とも基底部の幅は，ほぼ35cmを測る。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外への掘り込みは見られず，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径30～46cmの円形，深さ55～79cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

覆土　11層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

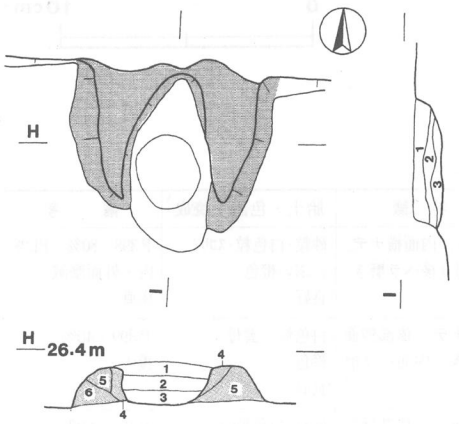
遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片292片（坏片28片で，この中の22片が黒色処理，甕片292片，鉢片6片）が，南西部の床面や覆土中から出土しているが，遺物量はさほど多くない。第64図1の土師器坏は東壁際中央部床面から横位の状態で，7の土師器坏は南西コーナー覆土中層から，11の土師器甕は南東コーナー床面から，8の土師器鉢は中央部床面から，9の土師器鉢，10・13の土師器甕は北東部床面からそれぞれ出土している。12の土師器甕は，竈右袖部脇床面と南東コーナー床面から出土したものが接合さ





第25号住居跡土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化物少量
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
7　褐　色　ローム粒子多量
8　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
11　褐　色　ローム粒子中量



0　2 m

第25号住居跡竈土層解説

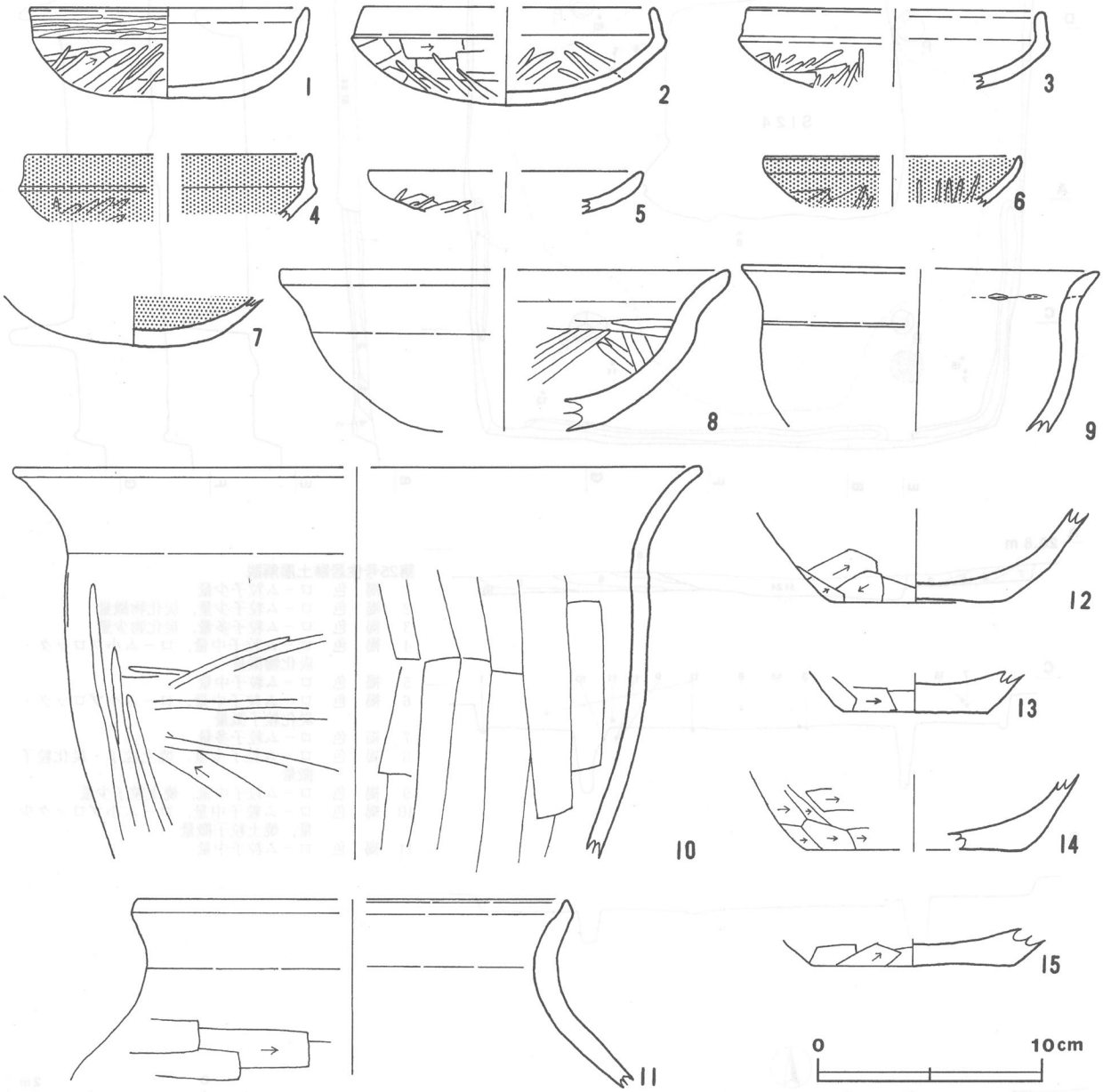
1　にぶい赤褐色　褐色粘土中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，褐色粘土・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
4　赤　褐　色　褐色粘土中量，焼土粒子少量
5　褐　色　褐色粘土中量，焼土粒子少量，ローム中ブロック微量
6　褐　色　褐色粘土中量，焼土粒子・焼土小ブロック微量

0　1 m

第63図　第25号住居跡

れたものである。

所見　本跡は，第24号住居跡よりも古い。時期は，黒色処理された模倣坏が多く，また，器高も低くなりつつあることから6世紀後葉の中でも新しいと考えられる。



第64図　第25号住居跡出土遺物

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第64図 1	坏 土師器	A 12.4 B 4.0	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部との境に弱い稜をもつ。	口縁部外面ヘラ磨き，内面横ナデ。底・体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 良好	P398　80%　PL28 内・外面摩滅 床直
2	坏 土師器	A [12.9] B 4.3	丸底。底・体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。	白色粒・雲母 橙色 良好	P399　40% 覆土
3	坏 土師器	A [13.4] B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 良好	P400　20% 床直

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第64図 4	坏 土師器	A [12.7] B (5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部との境に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P401　10% 覆土
5	坏 土師器	A [12.2] B (1.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ。	白色粒 橙色 普通	P402　10% 覆土
6	坏 土師器	A [11.4] B (2.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P403　10% 覆土
7	坏 土師器	B (2.2)	底部から体部片。丸底。底・体部は内彎して立ち上がる。	内面黒色処理。	砂粒・白色粒・透明粒・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P404　30% 体部内・外面摩滅 覆土中層
8	鉢 土師器	A [20.0] B 7.2 C [8.0]	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。	白色粒 にぶい黄橙色 普通	P405　30% 内面摩滅 床直
9	鉢 土師器	A [15.8] B (7.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P406　20% 床直
10	甕 土師器	A [30.5] B (17.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P407　30%　PL28 床直
11	甕 土師器	A [19.2] B (8.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，端部はわずかにつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	透明粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P408　10% 床直
12	甕 土師器	B (4.0) C 8.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい黄橙色 普通	P409　10% 床直
13	甕 土師器	B (2.9) C 6.4	底部片。平底。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P410　10% 床直
14	甕 土師器	B (3.4) C [10.0]	底部片。平底。	体部外面下端ヘラ削り。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 褐色 普通	P411　10% 内面摩滅 床直
15	甕 土師器	B (1.7) C 8.9	底部片。平底。	体部外面下端ヘラ削り，内面ナデ。	白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい褐色 普通	P412　10% 覆土中層

第27号住居跡（第65図　PL11）

位置　調査区の南西部，B1e4区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は，第18号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

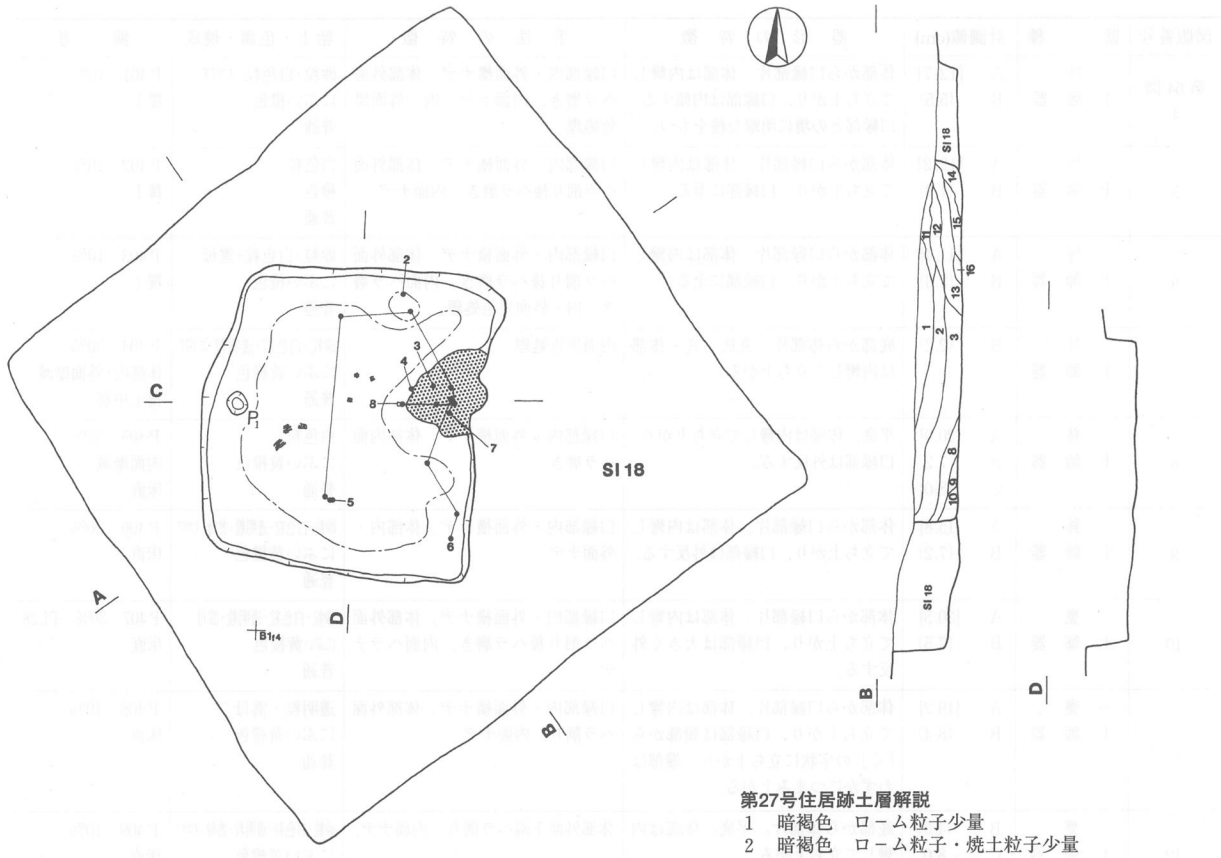
規模と平面形　長軸3.25m，短軸2.90mの長方形である。

主軸方向　N－95°－E

壁　壁高26～48cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

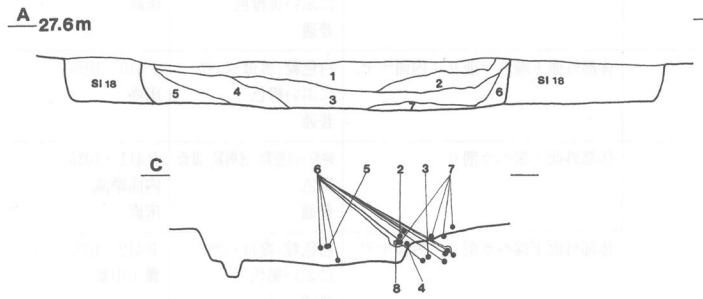
床　平坦で，中央部を中心によく踏み固められている。

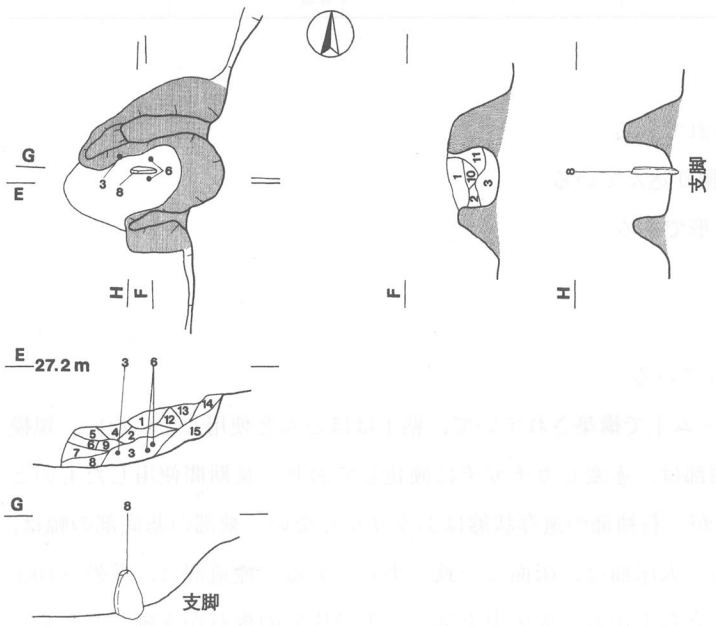
竈　東壁中央部に，暗褐色土と砂混じりのローム土で構築されていて，粘土はほとんど使用していない。規模は，幅93cm，長さ85cmを測る。火床及び袖部は，赤変しガチガチに硬化しており，長期間使用したものと考えられる。左袖部は良好に遺存しているが，右袖部の遺存状態はあまりよくない。袖部の基底部の幅は，左袖部が35cmを測り，右袖部が25cmを測る。火床面は，床面と一致し平らである。煙道部は，壁外へ10cm程掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。火床中央部に，雲母片岩の板石が支脚として立てられた状態で遺存している。



第27号住居跡土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子微量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子・炭化材少量
7　褐　色　ローム粒子少量
8　暗褐色　ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
10　褐　色　ローム粒子少量
11　褐　色　ローム粒子少量
12　褐　色　ローム粒子少量
13　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
14　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
15　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
16　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量





0　2m

第27号住居跡竈土層解説

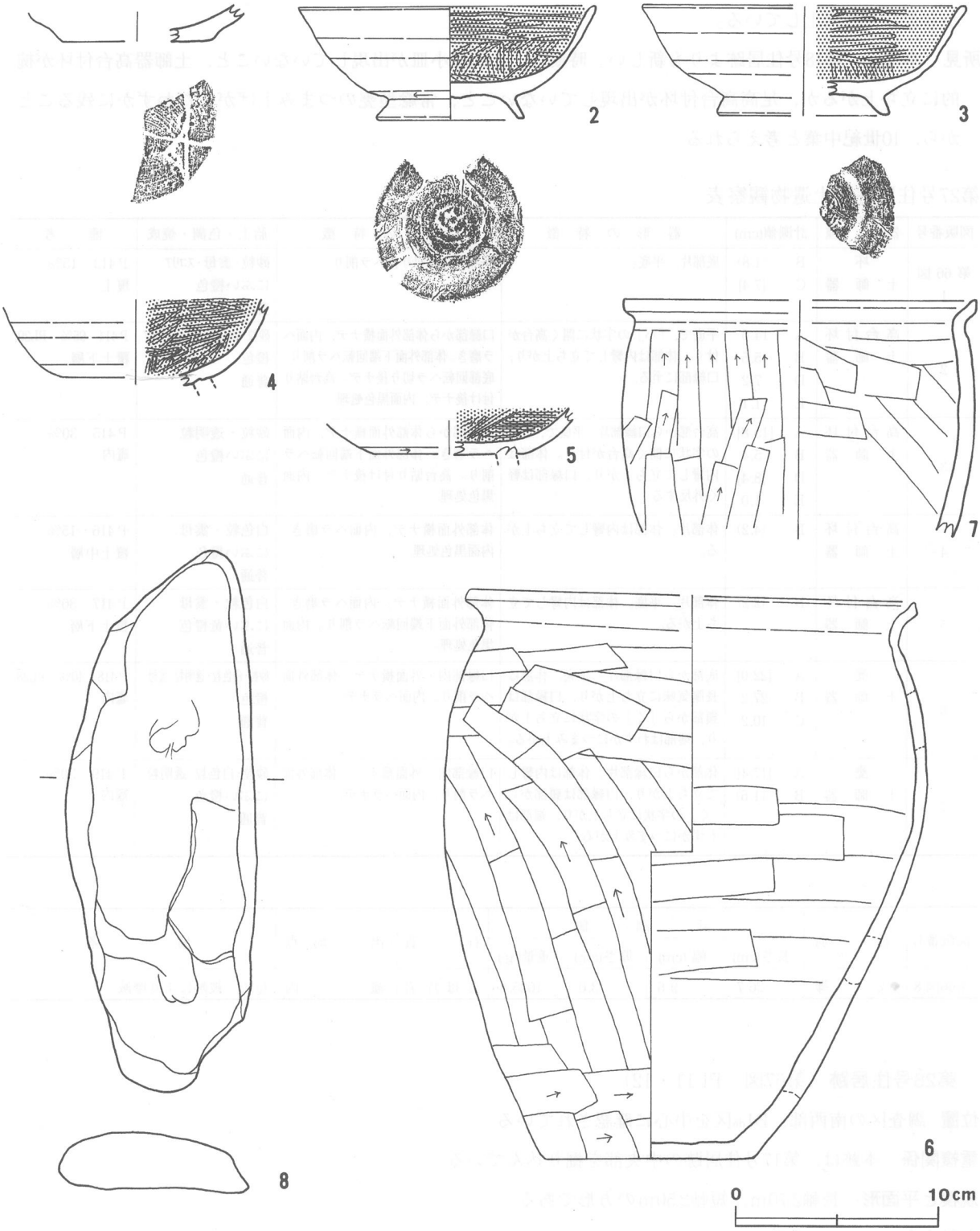
1　暗　褐　色　焼土粒子・砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，砂微量
8　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，砂微量
9　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂少量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・砂少量
12　暗　褐　色　焼土粒子少量
13　暗　褐　色　焼土粒子微量
14　暗　褐　色　ローム粒子微量
15　暗　褐　色　焼土粒子少量

0　1m

第65図　第27号住居跡

ピット　1か所（P_1）。P_1は，径24cmの円形，深さ18cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　16層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。



第66図　第27号住居跡出土遺物

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片224片（坏片28片で，10片が黒色処理，甕片196片），縄文土器6片が，竈内や竈周辺の床面や覆土中から出土している。第66図2の土師器高台付坏は北壁中央部覆土下層から逆位の状態で，5の土師器高台付坏は中央部覆土下層からそれぞれ出土している。4の土師器高台付坏は竈前方部覆土中層から，3の土師器高台付坏と6の土師器甕は竈内から，7の土師器甕は竈覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，第18号住居跡よりも新しい。時期は，土師器小皿が出現していないこと，土師器高台付坏が椀的に立ち上がるが，足高高台付坏が出現していないこと，常総型甕のつまみ上げがまだわずかに残ることから，10世紀中葉と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	坏 土師器	B (1.8) C [7.4]	底部片。平底。	底部回転糸切り後ヘラ削り。	砂粒・雲母・ｽｺﾘｱ にぶい橙色 普通	P413 15% 覆土
2	高台付坏 土師器	A 14.6 B 5.5 D 7.2 E 1.1	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・白色粒・雲母・ｽｺﾘｱ 橙色 普通	P414 95% PL29 覆土下層
3	高台付坏 土師器	A [15.8] B 5.4 D [8.4] E 1.0	高台部から口縁部片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P415 30% 竈内
4	高台付坏 土師器	B (4.2)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P416 15% 覆土中層
5	高台付坏 土師器	B (2.2)	体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。内面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P417 30% 覆土下層
6	甕 土師器	A [22.0] B 27.2 C 10.2	底部から口縁部片。平底。体部は長胴気味に立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，端部はわずかにつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P418 40% PL28 竈内
7	甕 土師器	A [17.4] B (11.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，端部はわずかにつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	砂粒・白色粒・透明粒 にぶい橙色 普通	P419 30% 竈内

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第66図8	●支脚	26.7	9.6	3.0	1025.8	雲母片岩	竈内	Q32 被熱により摩滅

第28号住居跡（第67図　PL11・12）

位置　調査区の南西部，B1d6区を中心に確認されている。

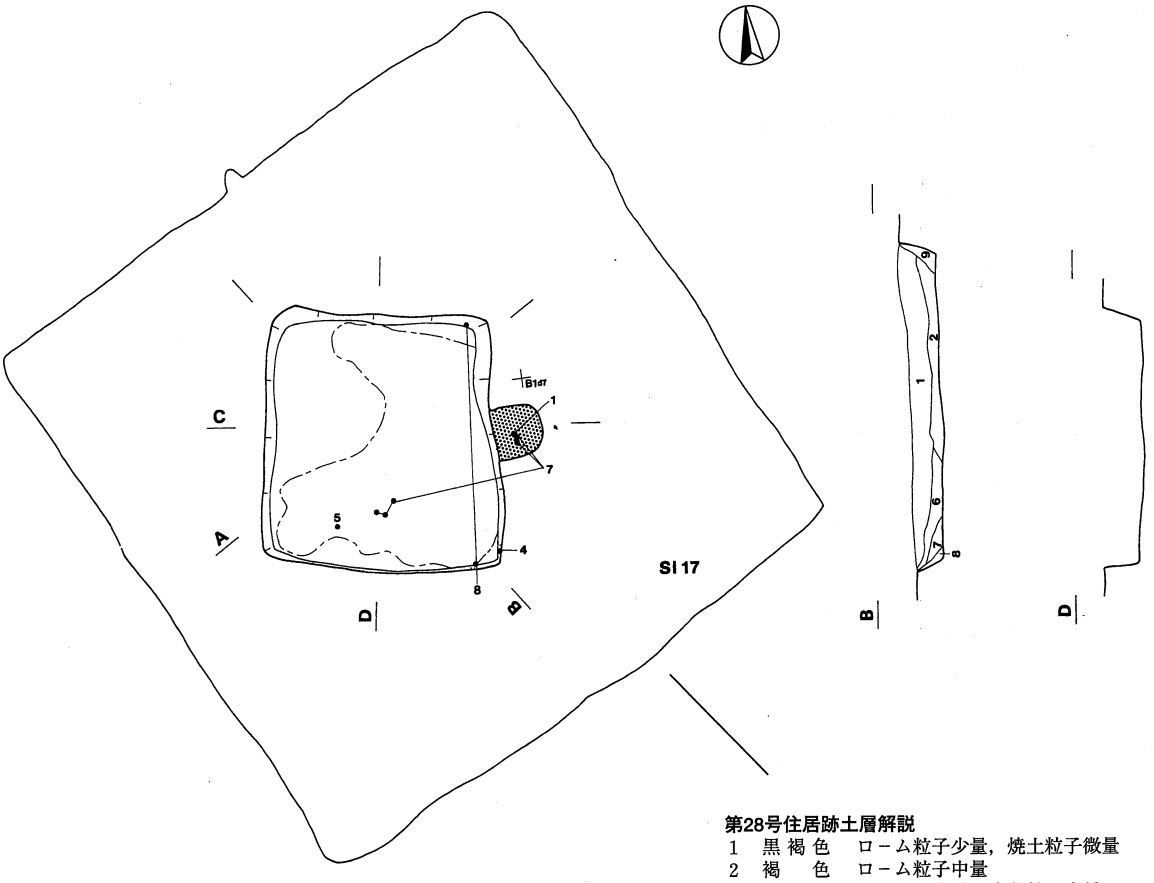
重複関係　本跡は，第17号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

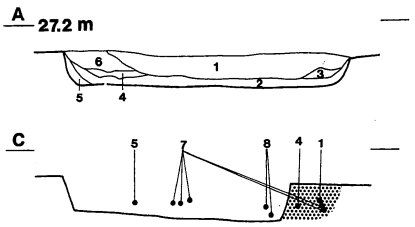
規模と平面形　長軸2.70m，短軸2.50mの方形である。

主軸方向　N－99°－E

壁　壁高32～42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部を中心によく踏み固められている。

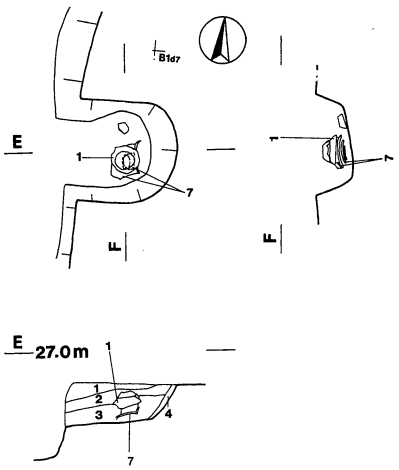




第28号住居跡土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化材少量
7　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8　褐　色　ローム粒子中量
9　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・砂少量

0　2m



第28号住居跡竈土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子微量

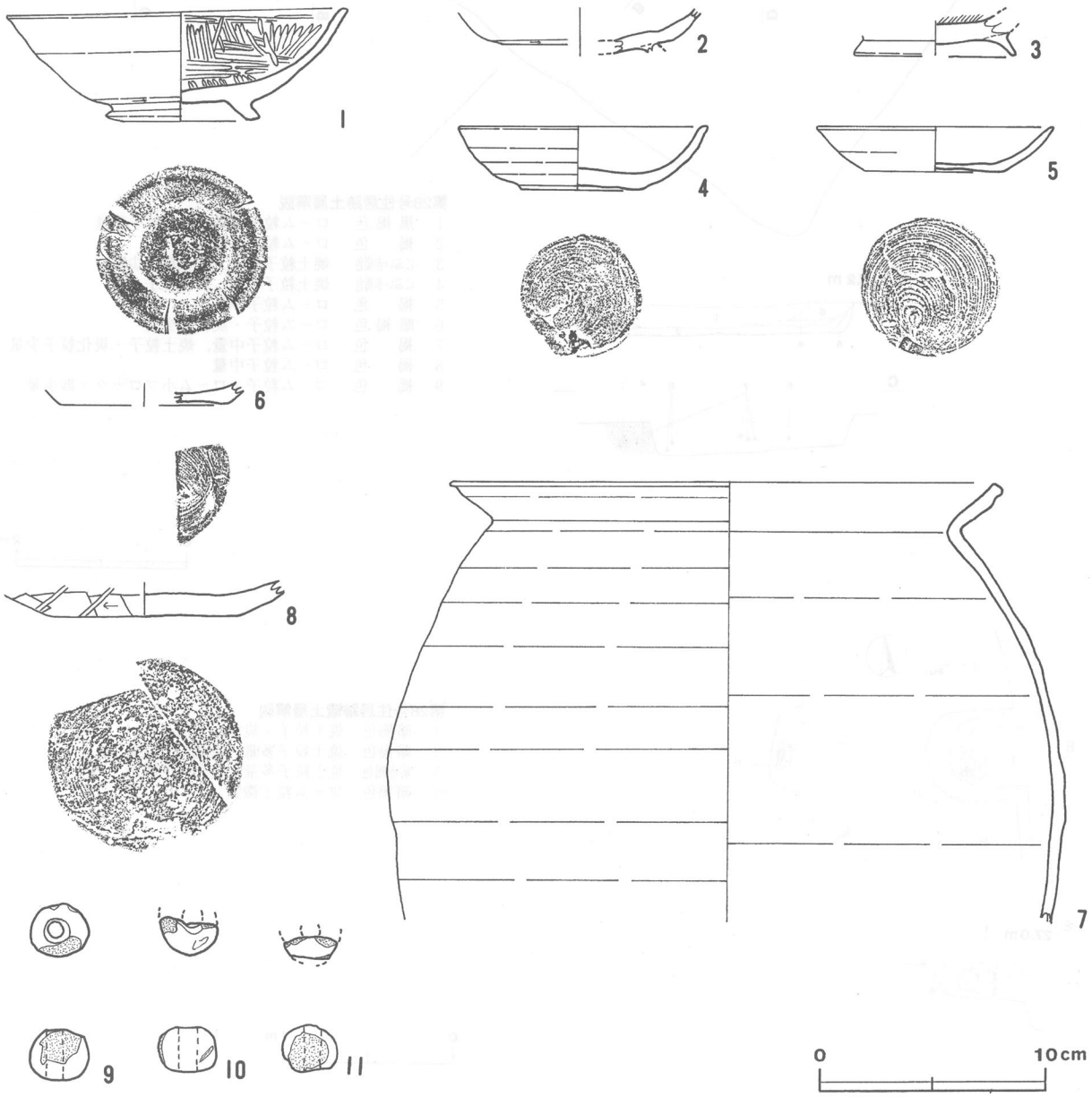
0　1m

第67図　第28号住居跡

竈　東壁中央部に，暗褐色土とローム土で構築されていて，粘土はほとんど使用していない。竈の残存状態は悪く，天井部及び袖部は残っていない。火床面は，床面と一致し平らであり，赤変しかなり硬化している。煙道部は，壁外へ55㎝程掘り込み，火床部から急激に外傾して立ち上がる。火床中央部に土師器の甕・坏・高台付坏・小皿が，重ねて支脚として使用した状態で遺存している。

覆土　8層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片262片（坏・高台付坏片54片で，この中の17片が黒色処理，甕片208片），縄文土器3片，石1点が，竈内や南部の床面や覆土中から出土している。第68図5の土師器小皿は南西部覆土下層から正位の状態で出土している。8の土師器甕は，北東コーナーと南東コーナー床面から出土して接合されたものである。1の土師器高台付坏と4の土師器小皿はそれぞれ逆位の状態で，竈内から支脚として利用された形で出土している。7の土師器甕は，中央部覆土下層から出土したものと，竈内から支脚として利用されて出土したものとが接合されたものである。



第68図　第28号住居跡出土遺物

所見　本跡は，第17号住居跡よりも新しい。時期は，土師器小皿が出現していること，土師器高台付坏が椀的に立ち上がるが，足高高台付坏は出現していないこと，甕は単口縁であることから10世紀中葉から後葉と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	高台付坏 土師器	A 14.9 B 4.9 D 6.8 E 0.9	平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・白色粒・透明粒・雲母 橙色 普通	P420 80% PL29 内・外面被熱 竈内
2	高台付坏 土師器	B (2.0)	高台部から体部片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・雲母 褐色 普通	P421 10% 覆土
3	高台付坏 土師器	B (1.8) D [7.2] E 1.0	高台部片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。	体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	細砂粒・白色粒 にぶい橙色 普通	P422 20% 覆土
4	小皿 土師器	A 10.9 B 2.9 C 5.5	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	細砂粒・白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P423 100% PL29 竈内
5	小皿 土師器	A 10.5 B 2.0 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	砂粒・白色粒・雲母 明褐色 普通	P424 80% PL29 覆土下層
6	小皿 土師器	B (1.0) C [7.4]	底部片。平底。	底部回転糸切り。	砂粒・白色粒 明黄褐色 普通	P425 10% 覆土
7	甕 土師器	A 23.8 B (19.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。単口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横ナデ痕明瞭に残る。	砂粒・白色粒・針状鉱物・雲母 にぶい橙色 普通	P426 40% PL29 竈内と中央部覆土下層
8	甕 土師器	B (1.6) C 8.4	底部片。平底。	体部外面下端ヘラ削り後ヘラ磨き。底部回転糸切り。	砂粒・白色粒 にぶい赤褐色 普通	P428 10% 床直

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第68図 9	土玉	2.4	2.6	2.3	0.7	13.4	100	覆土	DP34 PL30
10	土玉	(1.7)	2.5	2.0	0.8	(8.0)	50	覆土	DP35 PL30
11	土玉	(1.0)	2.4	2.1	0.7	(4.3)	20	覆土	DP36 PL30

第29号住居跡（第69図　PL12）

位置　調査区の北西部，B1b7区を中心に確認されている。

重複関係　本跡は，東部を第14号住居跡に，西部を第15号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

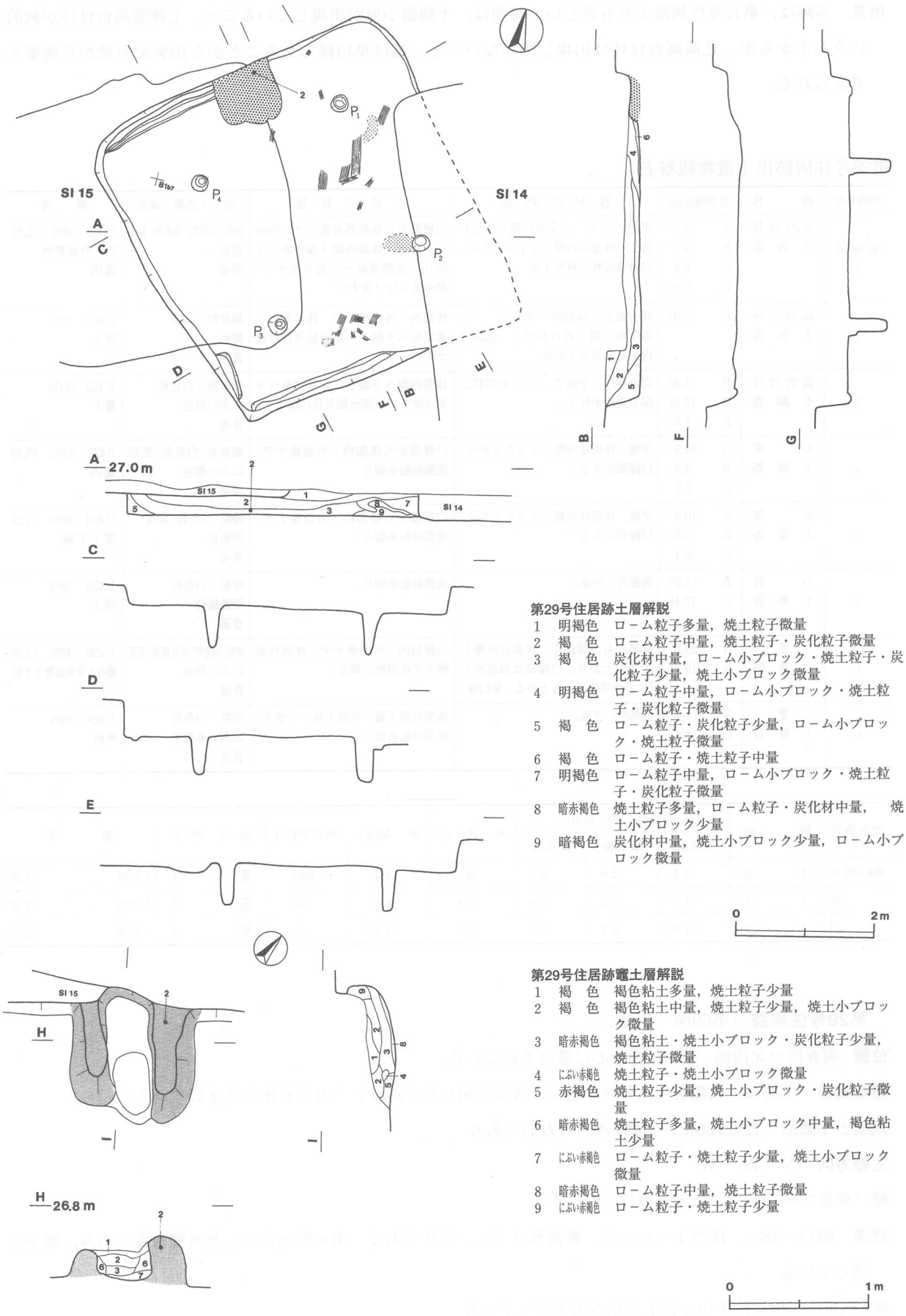
規模と平面形　長軸4.80m，短軸4.70mの方形である。

主軸方向　N－40°－W

壁　壁高30～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　幅14～18cm，深さ4～6cmで，断面形は「U」字状である。南東壁南寄りと北西壁西寄りのみ，壁下を周っている。

床　平坦で，中央部を中心によく踏み固められている。



第29号住居跡土層解説

1　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　炭化材中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
4　明褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
7　明褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化材中量，焼土小ブロック少量
9　暗褐色　炭化材中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック微量

第29号住居跡竈土層解説

1　褐　色　褐色粘土多量，焼土粒子少量
2　褐　色　褐色粘土中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　褐色粘土・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック微量
5　赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，褐色粘土少量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
8　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

第69図　第29号住居跡

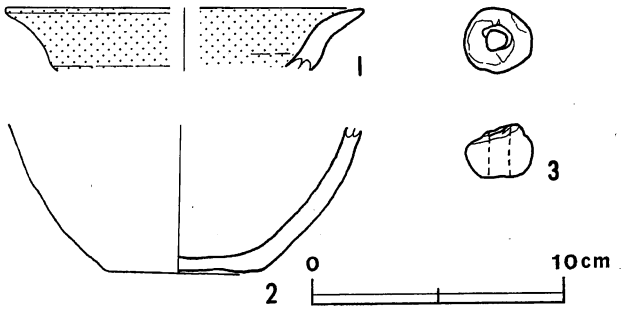
竈　北西壁中央部に，褐色粘土で構築されている。規模は幅90cm，長さ95cmを測る。火床面は，床面を4cm程掘り込み，赤変しかなり硬化している。袖部は，比較的良好に遺存しており，基底部は，右袖は幅35cm，左袖は幅25cmを測る。煙道部は，壁外へ10cm程掘り込み，火床部から急激に外傾して立ち上がる。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径26～28cmの円形，深さ55～61cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

覆土　9層からなり，ロームブロックや焼土粒子や炭化粒子を含む人為堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片39片（坏片4片，甕片35片），縄文土器2片，鉄滓5点が，南部の床面や覆土中から出土している。遺物量は全体的に少ない。第70図2の土師器甕は，竈右袖部内から出土している。

所見　本跡は，第14・15号住居跡よりも古く，時期は遺構の形態と遺物等から6世紀後葉と考えられる。床面や覆土中から，炭化材や焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられ，完形の遺物が少ないことから，住居跡を廃棄したときに，使用可能な遺物を持ち去り，その後，意図的に焼失させたものと考えられる。



第70図　第29号住居跡出土遺物

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A [14.0] B (2.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・透明粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P429 10% 覆土
2	甕 土師器	B (5.8) C 6.1	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。		砂粒・白色粒・雲母 赤褐色 普通	P430 40% PL30 内・外面摩滅 竈内

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第70図 3	土玉	2.6	2.7	2.1	0.8	12.7	100	覆土	DP37 PL30

第30号住居跡（第6図　PL2）

位置　調査区の南西部，$B1_{g5}$区を中心に確認されているが，南西側は調査エリア外に延びている。

重複関係　本跡の大部分は，第1号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸7.20m，短軸6.80mの方形と考えられる。

主軸方向　N－73°－E

壁　壁高8～36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

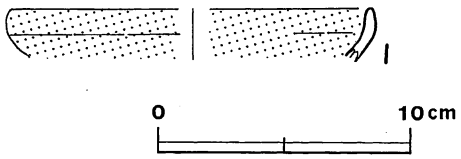
床　平坦である。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は，径28～38cmの円形，深さ84～101cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

覆土　2層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物　図化した遺物及びそれ以外の土師器片14片（甕片14片）が，南東部の床面や覆土中からわずかに出土している。遺物量は全体的に少ない。これは，本跡の大部分を第1号住居跡に掘り込まれているためと考えられる。

所見　本跡は，第1号住居跡よりも古く，時期は遺構の形態と遺物等から5世紀中葉と考えられる。



第71図　第30号住居跡出土遺物

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	坏 土師器	A [14.3] B (2.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	細砂粒・白色粒・雲母 赤褐色 普通	P431 5% 覆土

表2　炭焼遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉 竈	覆土	出土遺物	備考 旧→新
1	$B1_{g5}$	N-61°-E	[方形]	6.90×6.70	15～35	平坦		4	1	1		炉	自然	土師器(坏・鉢・高坏・壺・甕・甑),須恵器(坏蓋),土玉,縄文土器片,弥生土器片	古墳時代中期 SI30→SI1
2	$B1_{i9}$	N-62°-W	方形	5.05×4.95	15～52	平坦	全周	4	1			竈	自然	土師器(坏・高坏・甕),須恵器(坏蓋),縄文土器片,軽石	古墳時代後期
3	$B2_{i1}$	N-53°-W	不整方形	3.70×3.45	20～56	平坦		4	1			竈	自然	土師器(坏・高坏・甕・手捏土器),須恵器(坏身・坏蓋),縄文土器片,石製紡錘車	古墳時代後期
4	$B2_{g6}$	N-51°-W	方形	3.80×3.75	26～86	平坦	全周	4			1	竈	自然	土師器(坏・高坏・甕・手捏土器),土玉,土製支脚,軽石	古墳時代後期
5	$B2_{g7}$	N-28°-E	方形	5.15×4.95	40～60	平坦		4	1			炉	自然	土師器(坏・甕・甑),須恵器(坏身・坏蓋),土玉,土製支脚	古墳時代後期
6	$B2_{j7}$	N-2°-W	方形	5.50×5.35	28～80	平坦	全周	4			1	竈	自然	土師器(坏・甕・甑),須恵器(坏身・坏蓋),軽石,縄文土器片	古墳時代後期 焼失家屋 SI6→SI8
8	$B2_{j7}$	N-93°-E	長方形	3.90×3.20	36～54	平坦						竈	自然	土師器(坏・高台付坏・小皿),砥石	平安時代 SI6→SI8
9	$B2_{g9}$	N-83°-E	不整長方形	4.90×4.00	44～65	平坦	部分	4				炉	自然	土師器(坏・甕),土玉,砥石	古墳時代中期
11	$B2_{c5}$	N-89°-E	不整方形	[3.60]×3.50	8～10	やや凹凹		2				炉	不明	土師器(坏・甕),石製紡錘車	古墳時代中期 焼失家屋
12	$B2_{b4}$	N-65°-E	[方形]	3.50×(2.40)	4～8	平坦		2				炉	不明	土師器(坏・甕),軽石	古墳時代後期 焼失家屋
13	$B2_{a2}$	N-38°-W	方形	4.90×4.85	4～42	平坦	部分	4		1	1	竈	自然	土師器(坏・甕・手捏土器),須恵器(坏蓋),土玉,砥石,軽石,縄文土器片	古墳時代後期
14	$B1_{a8}$	N-23°-W	方形	5.80×5.70	20～50	平坦	全周	4			1	竈	人為	土師器(坏・高坏・甕・甑),須恵器(坏身・𤭯),土玉,砥石,縄文土器片	古墳時代後期 焼失家屋 SI29→SI14
15	$B1_{b7}$	N-28°-W	方形	3.95×3.90	18～36	平坦						竈	自然	土師器(坏・甕・甑),縄文土器片	古墳時代後期 SI29→SI15
16	$B1_{a6}$	N-8°-W	方形	4.30×4.30	34～58	平坦	部分	3	1		1	竈	自然	土師器(坏・高坏・甕),軽石,縄文土器片	古墳時代後期
17	$B1_{d6}$	N-27°-W	方形	6.60×6.40	40～95	平坦	全周	4	1	1		竈	自然	土師器(坏・高坏・甕),須恵器(坏蓋),縄文土器片	古墳時代後期 SI17→SI28
18	$B1_{e4}$	N-37°-W	方形	6.40×6.20	26～70	平坦	全周	3		2	1	竈	自然	土師器(坏・甕),須恵器(坏蓋),土製紡錘車,砥石,縄文土器片,弥生土器片	古墳時代後期 焼失家屋 SI18→SI27
19	$B1_{d9}$	N-16°-W	方形	6.40×6.20	46～80	平坦	全周					竈	自然	土師器(坏・高坏・鉢・甕・甑・手捏土器),須恵器(坏蓋),土玉	古墳時代後期 SI20→SI19
20	$B1_{e0}$	N-45°-W	方形	8.35×8.20	22～42	平坦	全周	4				炉	自然	土師器(坏・鉢・壺),土玉,砥石	古墳時代後期 焼失家屋 SI20→SI19
22	$B2_{g2}$	N-59°-E	方形	3.70×3.40	20～40	平坦					1	竈	自然	土師器(高台付坏・甕),縄文土器片	平安時代 SI23→SI22
23	$B2_{g2}$	N-28°-W	方形	5.10×5.00	25～57	平坦		4		3	1	竈	自然	土師器(坏・高坏・鉢・甕・甑),須恵器(坏蓋)	古墳時代後期 SI23→SI22
24	$A1_{i4}$	N-97°-E	方形	2.80×2.65	26～30	平坦						竈	自然	土師器(高台付坏・甕・小皿)	平安時代 SI25→SI24

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉	覆土	出土遺物	備考 旧→新
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	竈			
25	B1i4	N-15°-W	方形	6.65×6.35	12～34	平坦	部分	4				竈	自然	土師器(坏・鉢・甕)	古墳時代後期 SI25→SI24
27	B1e4	N-95°-E	長方形	3.25×2.90	26～48	平坦					1	竈	自然	土師器(坏・高台付坏・甕),縄文土器片	平安時代 SI18→SI27
28	B1d6	N-99°-E	方形	2.70×2.50	32～42	平坦						竈	自然	土師器(高台付坏・小皿・甕),土玉,縄文土器片	平安時代 SI17→SI28
29	B1b7	N-40°-W	方形	4.80×4.70	30～50	平坦	部分	4				竈	自然	土師器(坏・甕),土玉	古墳時代後期焼失家屋 SI29→SI14・15
30	B1g5	N-73°-E	方形	7.20×6.80	8～36	平坦		4					自然	土師器(坏)	古墳時代中期 SI30→SI1

2 土坑

今回の調査では，土坑11基を検出した（SK 1～12，内SK 9は欠番）。以下，主な土坑の概要について記載し，その他の土坑については実測図と一覧表を掲載する。

第4号土坑（第72図，PL12）

位置 調査区の北部，A1g9区を中心に確認されている。

規模と平面形 長径1.62m，短径1.22mの楕円形で，深さは100cmである。

長径方向 N－53°－W

壁面 急激に外傾して立ち上がる。

底面 2段に掘り込まれている。

覆土 3層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

所見 本跡は，出土遺物がなく明確ではないが，遺構が傾斜面に位置していることと，遺構の形態から，単独ではあるが陥し穴と考えられる。時期は不明である。

第7号土坑（第72図，PL12）

位置 調査区の南部，B2g3区を中心に確認されている。

規模と平面形 長径1.84m，短径1.50mの楕円形で，深さは100cmである。

長径方向 N－12°－W

壁面 急激に外傾して立ち上がる。

底面 2段に掘り込まれている。

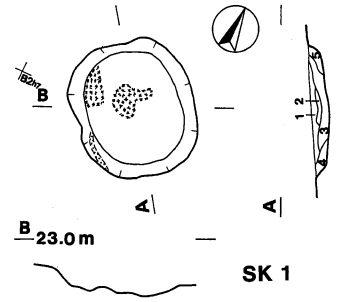
覆土 5層からなり，ほぼレンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

遺物 覆土中層から，第73図1の土師器高台付坏が出土している。

所見 本跡は，平安時代の第22号住居跡に隣接し，同時期の遺物（第22号住居跡からの流れ込みとは考えられない）が出土していることから，この第22号住居跡に関連する貯蔵用穴と考えられる。

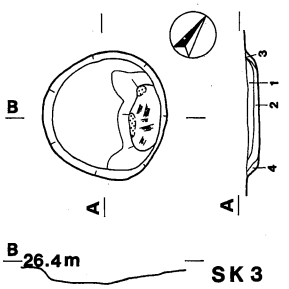
土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	高台付坏 土師器	A [13.8] B 5.5 D 6.1 E 0.9	高台部から口縁部片。平底で,「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は軽く外反する。	口縁部から体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	白色粒・雲母 橙色 良好	P432 25% PL29 SK 7覆土 内面焼土付着
2	甕 土師器	A [16.2] B (7.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指ナデ・ヘラ磨き。	白色粒・雲母多 にぶい褐色 普通	P433 10% SK 8覆土



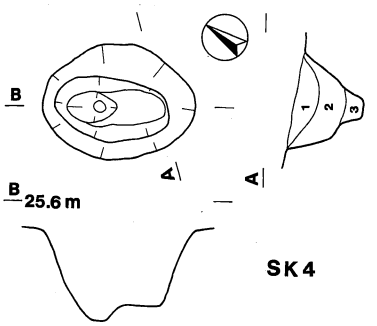
第1号土坑土層解説

1　黒褐色　黒色土多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　黒褐色　黒色土・炭化粒子・炭化材中量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量



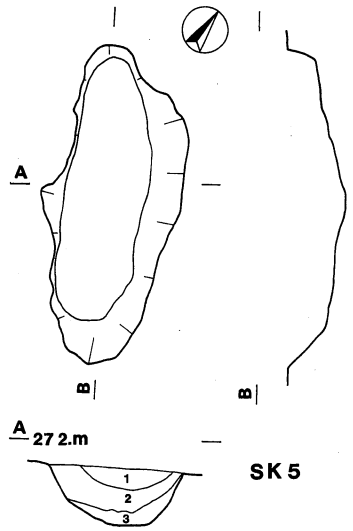
第3号土坑土層解説

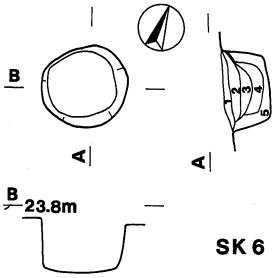
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・炭化材少量
2　黒褐色　炭化材中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量



第4号土坑土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量含み，しまりは弱い
2　褐　色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子中量



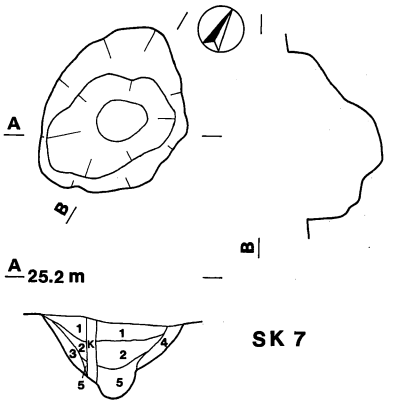


第5号土坑土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量

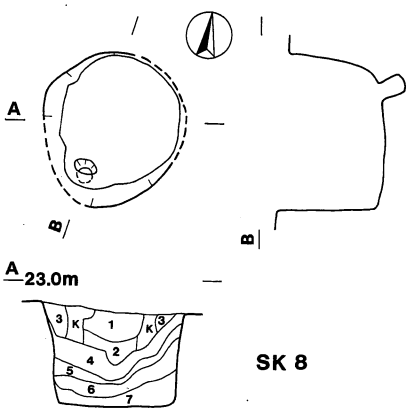
第6号土坑土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　明褐色　ローム粒子多量



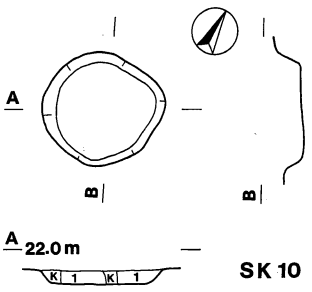
第7号土坑土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　明褐色　ローム粒子多量
4　明褐色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム粒子中量



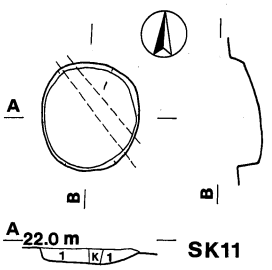
第8号土坑土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
7　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量



第10号土坑土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量

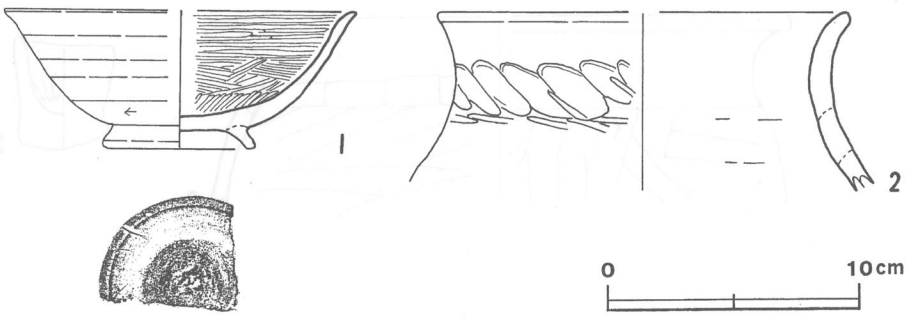


第11号土坑土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

0　2m

第72図　第1・3・4・5・6・7・8・10・11号土坑



第73図　第７・８号土坑出土遺物

表３　炭焼遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 旧→新
1	$B2_{g7}$	N－38°－W	不整方形	1.42×1.28	16	外傾	凸凹	自然	土師器片，炭	SI５→SK１
2	$B1_{g6}$	N－11°－E	楕円形	2.30×2.00	50	外傾	平坦	自然		SI４→SK２
3	$B1_{d9}$	－	円形	1.34×1.32	13	外傾	皿状	自然	土師器片，炭	SI19→SK３
4	$A1_{g9}$	N－53°－W	楕円形	1.62×1.22	100	急傾	2段掘り	自然		陥し穴
5	$B1_{b6}$	N－33°－W	不定形	3.40×1.48	62	外傾	皿状	自然		
6	$B2_{h4}$	－	円形	0.90×0.86	58	垂直	平坦	自然	土師器片	
7	$B2_{g3}$	N－12°－W	楕円形	1.84×1.50	100	外傾	2段掘り	自然	土師器(高台付坏)	平安時代貯蔵用穴
8	$B2_{h6}$	N－９°－E	楕円形	1.70×1.52	106	垂直	平坦	人為	土師器(甕)	底面にピットをもつ
10	$B2_{i8}$	－	円形	1.30×1.20	16	外傾	平坦	自然		
11	$B2_{j8}$	N－２°－W	楕円形	1.15×1.03	16	垂直	平坦	自然		
12	$B1_{e9}$	不明	不明	2.00×(0.70)	52	外傾	皿状	自然		SK12→SI４

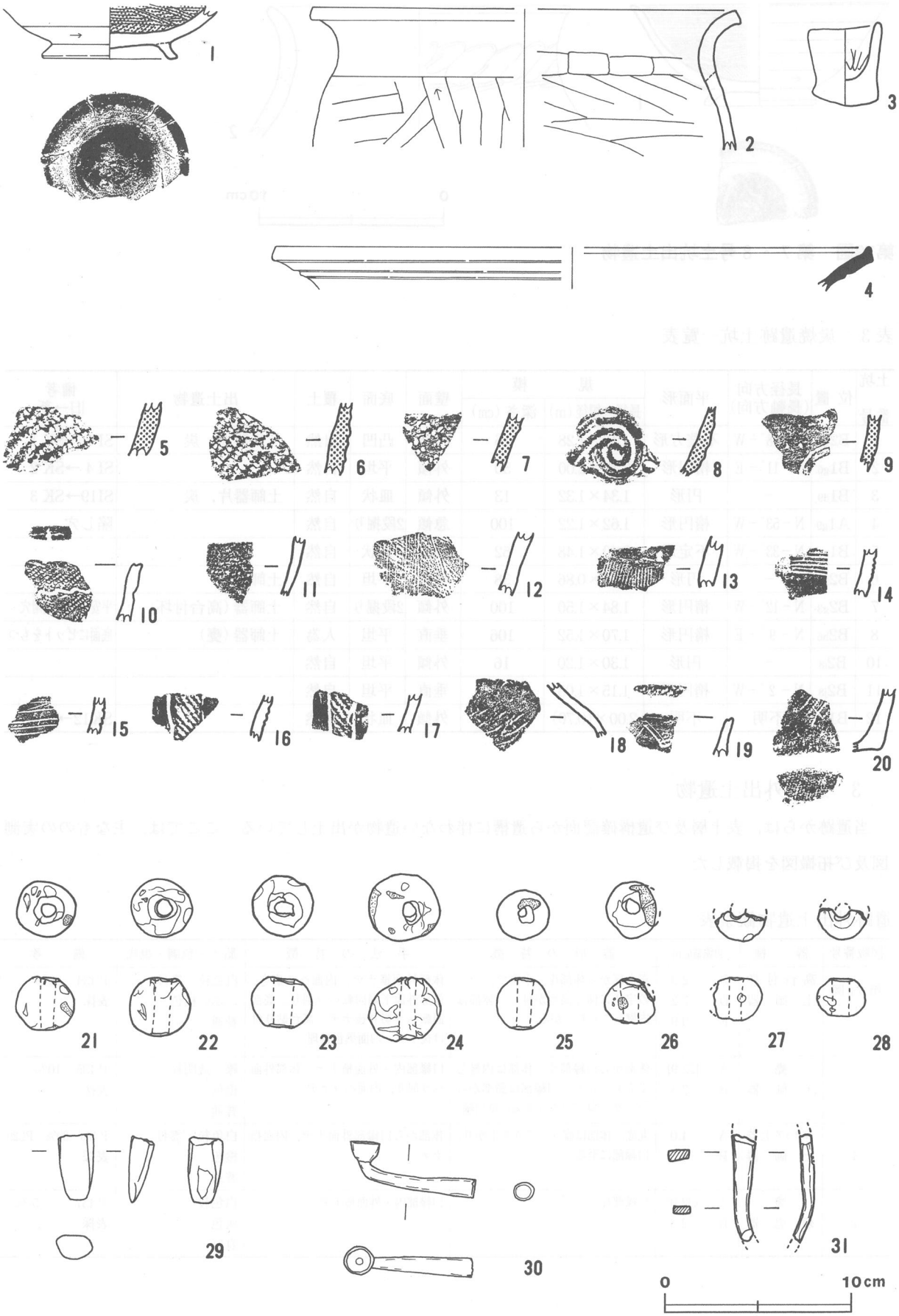
３　遺構外出土遺物

当遺跡からは，表土層及び遺構確認面から遺構に伴わない遺物が出土している。ここでは，主なものの実測図及び拓撮図を掲載した。

遺跡外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	高台付坏 土師器	B (2.8) D 7.2 E 0.9	高台部から体部片。平底で，「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横ナデ，内面ヘラ磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	白色粒・雲母 にぶい橙色 普通	P434 20% 表採
2	甕 土師器	A [22.9] B (7.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。単口縁。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	礫・透明粒 橙色 普通	P435 10% 表採
3	ﾐﾆﾁｭｱ土器 土師器	A 4.0 B 4.5	丸底。体部は直立して立ち上がり，口縁部に至る。	体部から口縁部外面ナデ，内面指ナデ。	白色粒・雲母 橙色 普通	P436 80% PL29 表採
4	甕 須恵器	A [32.0] B (2.3)	口縁部片。	口縁部内・外面横ナデ。	白色粒 灰色 良好	P437 5% 表採

炭焼遺跡



第74図　遺構外出土遺物

Ⅰ群の土器（縄文時代前期前半の土器）

第74図５～７（TP13・14・18）は組紐文が施されている。８・９（TP16・20）は渦巻き文が施されている。すべて繊維土器である。

Ⅱ群の土器（縄文時代前期後半の土器）

10・11（TP12・19）は撚糸文を地文とし，10は沈線が波状に施されている。

Ⅲ群の土器（縄文時代中期の土器）

12・13（TP15・17）は条線文が施されている。14・15（TP21・24）は半裁竹管による平行沈線文が施されている。16・17（TP22·23）は磨消懸垂文が施されている。

Ⅳ群の土器（弥生時代の土器）

18～20（TP25～27）は弥生後期の土器である。18は胴部片で，附加条の縄文が施されている。19は口縁部片で，口唇部にキザミ目が施され，口縁部に櫛描文が施されている。20は底部片で，胴部に附加条１種（附加２条）の縄文が施され，底面に布目痕が見られる。

図版番号	種別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考	
		最大長	最大幅	最大厚						
第74図21	土玉	3.1	3.2	2.9	0.9	27.2	100	表採	DP38	PL30
22	土玉	3.1	3.2	3.2	0.9	29.2	100	表採	DP39	PL30
23	土玉	3.3	3.3	2.8	1.1	28.4	100	表採	DP40	PL30
24	土玉	3.6	3.9	3.4	0.8	43.8	100	表採	DP41	PL30
25	土玉	2.6	2.8	2.8	0.9	17.8	100	表採	DP42	PL30
26	土玉	3.1	2.7	2.5	1.0	17.4	100	表採	DP43	PL30
27	土玉	(1.5)	(2.7)	2.4	(0.8)	(7.8)	40	表採	DP44	PL30
28	土玉	(1.7)	(2.6)	2.1	(0.9)	(7.5)	50	表採	DP45	PL30

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第74図29	磨製石斧	(3.5)	1.9	1.3	(12.7)	粘板岩	表採	Q33	PL29

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第74図30	煙管	(6.8)	1.6	0.1	(8.0)	銅	表採	M３ 雁首	PL29
31	不明鉄製品	(5.7)	1.4	0.7	(11.2)	鉄	表採	M４	PL29

第4節 まとめ

今回の調査で検出した遺構は，古墳時代の竪穴住居跡21軒，平安時代の竪穴住居跡5軒，土坑11基である。また，出土した遺物は，縄文土器片，弥生土器片，土師器，須恵器，石製品，土製品である。

炭焼遺跡の主体となるのは，古墳時代中期から後期にかけてと平安時代である。この時期の住居跡の形態と土器の様相について，さらに，古墳時代の須恵器，球状土錘として利用されたと考えられる土玉にふれてまとめとする。

1 古墳時代中期から後期にかけての住居跡の形態と出土遺物

古墳時代に位置付けられる住居跡は，全部で21軒である。時期は，古墳時代中期から後期にかけてである。[1] 土器の形態変化や器種構成から5期に区分する。

炭焼Ⅰ期（5世紀中葉）

第1・9・11・30号住居跡が当該期に属する。平面形は方形・不整方形・長方形で，規模は長軸［3.60］～6.90mである。主軸方向はN－61°～89°－Eである。確認できなかったものも見られるが，炉をもつ。ピットは，4本主柱穴を基本とする。本期に該当する遺物は，土師器の坏・高坏・椀・甕・小形甕・壺，須恵器の坏蓋である。土師器の坏は，丸底と平底があり，体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至るものや口縁部が直立するものが見られる。赤彩されたものの比率が高い。椀は丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立するものが見られる。

炭焼Ⅱ期（5世紀後葉）

第2・3・5・12・13・20号住居跡が当該期に属する。平面形は方形・不整方形で，規模は長軸3.50～8.35mで，8m台の大型のもの，5m前後の中型のもの，3m台の小型のものとが見られる。主軸方向はN－62°－W～N－65°－Eとバラツキが見られる。確認できなかったものも見られるが，炉が付設されているものと竈が付設されているものとが見られる。4本の主柱穴で，出入り口施設に伴うピットが確認できるものもある。本期に該当する遺物は，土師器の坏・高坏・椀・大形椀・甕・小形甕・小形鉢・甑・手捏土器，須恵器の坏蓋・坏身である。土師器の坏は，前期からの流れを汲むもの以外に，新しく須恵器坏蓋模倣と考えられる体部と口縁部との境に稜をもち，口縁部が外反したり，外傾したり，直立したりするものが見られる。赤彩率は，相変わらず高い。椀の中には，重量感のある手捏土器風で，内面にハケ目整形が施され，底部に木葉痕が見られる土器があり，第3号住居跡から大・中・小の3個体がセットで出土している。

炭焼Ⅲ期（6世紀前葉）

第6・29号住居跡が当該期に属する。平面形は方形で，規模は長軸4.80～5.50mで，中形のものである。主軸方向はN－2°～40°－Wである。北西壁に竈が付設されている。ピットは4本の主柱穴で，出入り口施設に伴うピットの確認されたものもある。本期に該当する遺物は，土師器の坏・椀・甕・甑，須恵器の坏蓋・坏身である。土師器の坏は，須恵器坏蓋模倣のものが見られるが，新しく須恵器坏身模倣の体部と口縁部との境に明瞭な稜をもち，口縁部が内傾するものが多く見られるようになる。赤彩されるものが多い。

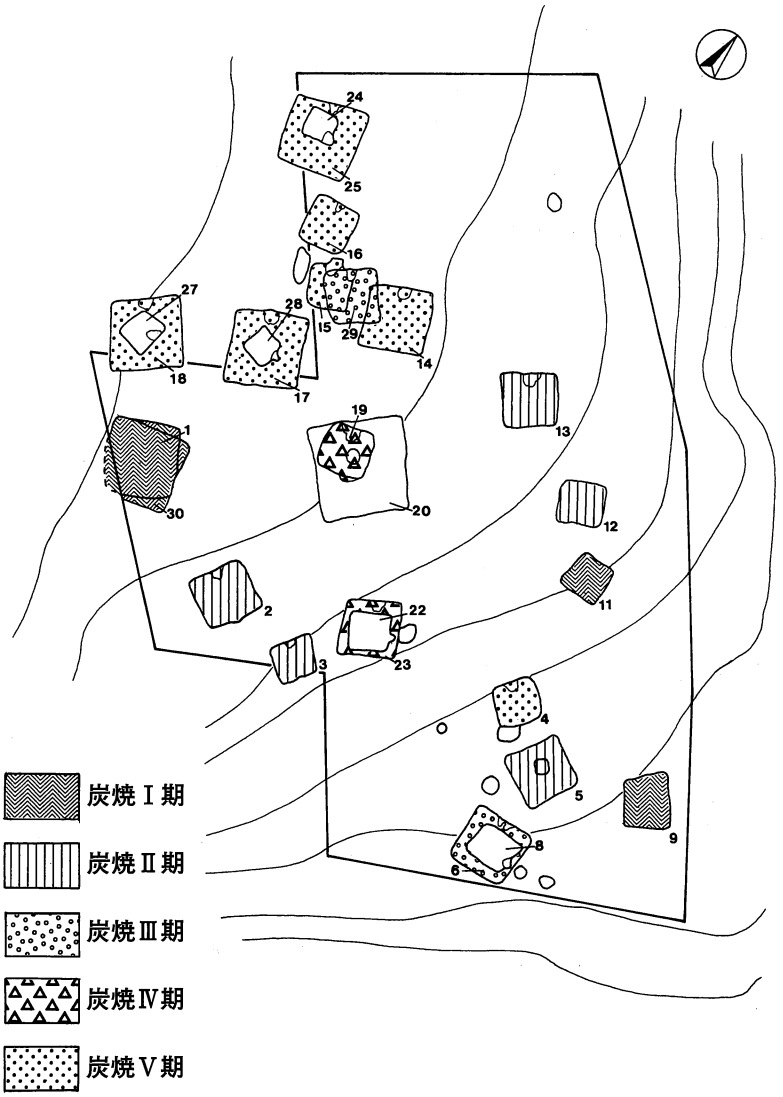
炭焼Ⅳ期（6世紀中葉）

第19・23号住居跡が当該期に属する。平面形は方形で，規模は長軸5.10～6.40mで，中形でもやや大きめのものである。主軸方向はN－16°～28°－Wである。北西壁に竈が付設されている。第19号住居跡のピットは確認できなかったが，第23号住居跡のピットは4本の主柱穴である。本期に該当する遺物は，土師器の坏・高

坏・鉢・甕・甑・壺・手捏土器，須恵器の坏蓋である。土師器の坏は，須恵器坏蓋模倣のものがまだ見られ，須恵器坏身模倣のものでは，赤彩されたものよりも黒色処理されたものの方が多くなる。甕は，この期に体部が長胴化するものが出現する。

炭焼Ⅴ期（6世紀後葉）

第4・14・15・16・17・18・25号住居跡が当該期に属する。平面形は方形で，規模は長軸3.80～6.60mで，小型のものから中型でもやや大きめのものまである。主軸方向はN－8°～51°－Wである。北西壁に竈が付設されている。ピットは，基本的には4本の主柱穴と出入り口施設に伴うピットをもつものである。本期に該当する遺物は，土師器の坏・高坏・椀・小形鉢・甕・小形甕・甑，須恵器の坏身・瓿である。土師器の坏は，須恵器坏身模倣のものばかりになり，黒色処理されたものが極めて多くなる。この時期に新しく，丸底で，器高のやや低く，口縁部がわずかに内傾するものが出現する。



第75図　炭焼遺跡集落変遷図(1)

2　平安時代の住居跡の形態と出土遺物

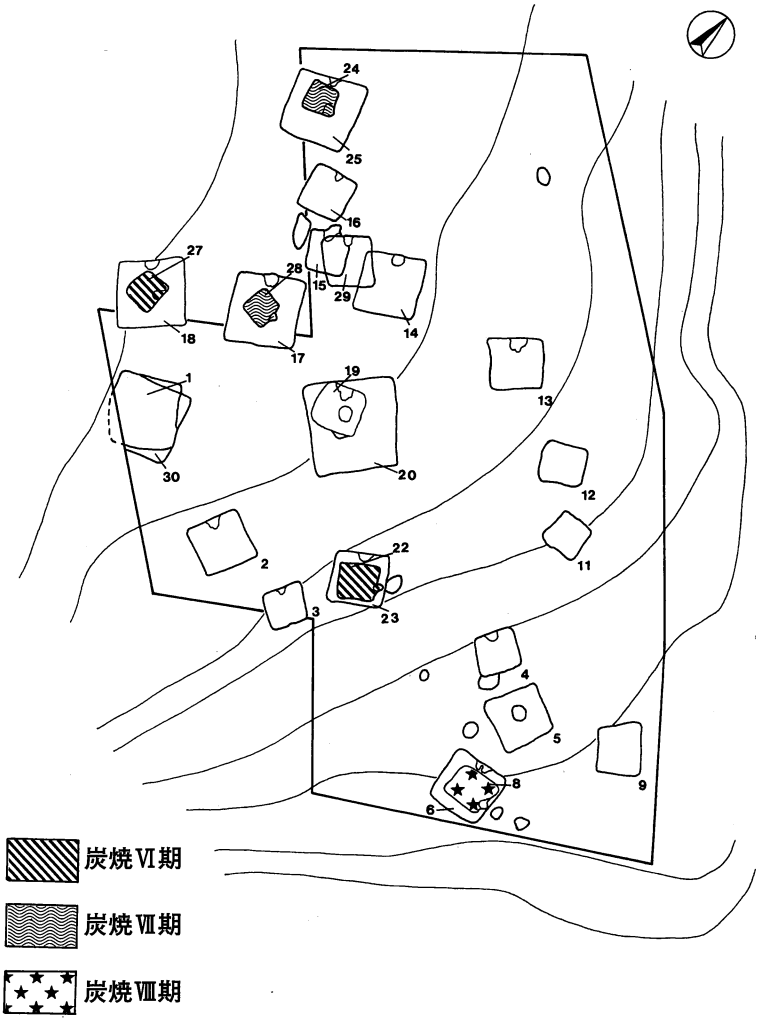
平安時代[(2)]に位置づけられる住居跡は，第8・22・24・27・28号住居跡の5軒である。いずれの住居跡からも須恵器は出土していない。土器の形態変化や器種構成から3期に区分する。

炭焼Ⅵ期（10世紀中葉）

第22・27号住居跡が当該期に属する。平面形は方形・長方形で，規模は長軸3.25～3.70mである。主軸方向はN－59°～95°－Eとバラツキが見られる。竈は北東壁や東壁に付設されている。竈の反対側に出入り口施設に伴うピットが確認されている。本期に該当する遺物は，土師器の坏・高台付坏・甕である。坏は，底部回転糸切りである。高台付坏は，体部が椀的に立ち上がるもので，内面黒色処理されるものの比率が高い。墨書土器も見られる。甕は，口縁部にわずかにつまみあげの残るものと単口縁のものとが見られ，内面黒色処理されるものも見られる。

炭焼Ⅶ期（10世紀中葉～後葉）

第24・28号住居跡が当該期に属する。平面形は方形で，規模は長軸2.70～2.80mと非常に小型であり，Ⅴ期に比べ，住居跡の規模がかなり小さくなっている。主軸方向はN－97°～99°－Eで，竈は東壁または東壁の南コーナーに付設されている。ピットは確認されなかった。本期に該当する遺物は，土師器の高台付坏・小皿・甕であり，Ⅴ期に見られなかった小皿が出現している。高台付坏は，体部が椀的に立ち上がるもので，内面黒色処理されるものの比率が低くなっている。小皿は，器高が低いものとやや高いものとが見られ，体部が外傾して立ち上がり，口縁部に至るものと，内彎して立ち上がり，口縁部に至るものとが見られる。底部は回転ヘラ切りと回転糸切り調整のものが見られる。本期に小皿が出現したものと考えられる。甕は，口縁部が単口縁のみであり，いわゆる常総甕が消失した時期と捕えられる。



第76図　炭焼遺跡集落変遷図(2)

炭焼Ⅷ期（11世紀前葉）

第８号住居跡が当該期に属する。平面形は長方形で，規模は長軸3.90m，短軸3.20mである。主軸方向はN－93°－Eで，竈は東壁に付設されている。ピットは確認されなかった。Ⅵ期に比べ，また，規模がやや大きくなってきている。本期に該当する遺物は，土師器の高台付坏・小皿・甕であり，Ⅵ期に見られなかった足高高台付坏が出現している。高台付坏は，体部が椀的に立ち上がるもので，内面黒色処理されるものの比率が低くなっている。第26図２の様な足高高台付坏や第26図７の様な小形の内・外面黒色処理された高台付坏も見られる。小皿は，器高が低く，体部が外傾して立ち上がり，口縁部に至るものである。底部は回転ヘラ切りと回転糸切り調整のものが見られ，前者には内面黒色処理の施されているものが見られる。本期で小皿が土器組成として定着したものと考えられる。足高高台付坏や小形の内・外面黒色処理された高台付坏は儀礼的遺物と考えられる。

3　古墳時代の須恵器について

当遺跡からは，総計23点の古墳時代の須恵器が出土している。[3] 器種は，坏蓋，坏身，甕，瓶である。坏蓋は14点，坏身は5点，甕は3点，瓶は1点である。古墳時代の住居跡は，21軒であるが，その中の11軒から須恵器が出土し，必ずしも特定の住居跡から出土しているものではない。その須恵器の出土状況は，大多数が覆土中からの出土で，8点を除くと，ほとんどが残存率10%以下の破片である。出土した須恵器の時期は，TK216～TK43と考えられる。

坏身

第3号住居跡出土の坏身は，焼成は良好で，受け部はやや上方に伸び，端部はシャープである。立ち上がりの端部は沈線が巡っている。時期は，TK208（新）～TK23の時期のものと思われる。第14号住居跡出土の坏身は，胎土に砂粒と白色粒を少量含み，粘土質ではあるが，焼成がやや甘く，釉は灰オリーブ色しているが，ザラザラとしていて在地産と考えられる。[4] プロポーション的には，TK43窯式と考えられ，土師器の時期と一致する。この坏身以外は，全て搬入品と考えられる。

坏蓋

第5号住居跡出土の坏蓋は天井部が平坦で，器壁の膨張が見られるが焼成は比較的良好である。口縁部との境にやや弱い稜をもち，口縁端部はわずかに凹む。時期はTK208と考えられる。第19号住居跡出土の坏蓋は大形で，天井部と口縁部との境にわずかに稜が見られる。時期はTK10～MT85（古）と考えられる。

瓶

第14号住居跡出土の瓶は，胎土中に砂粒・白色粒を極少量含み，黒色斑点が見られ，体部中央からやや上位に最大径をもつ。体部下端に手持ちヘラ削りを施し，中位に櫛状のものによる押し引きの刺突文が施され，上位にカキ目整形が施されている。MT15～TK10の時期のものと思われる。共伴する土師器の時期は6世紀後葉と考えられ，時期差があり伝世品と考えられる。

県内で須恵器の胎土分析が行われている遺跡に，水海道市西原遺跡と牛久市ヤツノ上遺跡がある。両者とも，三辻利一氏によると大阪陶邑古窯址群産と推定されている。[5] 坏蓋以外の須恵器は，筆者の肉眼的観察によると大阪陶邑古窯址群産とは考えにくく，むしろ東海系の可能性が指摘できるのではないかと考えている。

この時代の須恵器の性格は，祭祀的意味合いをもつという考え方が強いようである。川井正一氏は，「県内における古式須恵器も，山田氏が指摘するように集落内の限られた住居跡から出土し，石製模造品や赤彩された土師器を共伴する例が多く，器種は蓋・杯・瓶・甕が多くみられ，中央の祭祀形態の浸透により石製模造品などとともに使用される場合が多かったものと見られる。[6]」としている。当遺跡や牛久市のヤツノ上遺跡・中久喜遺跡の須恵器の出土状況をみると，必ずしも限られた住居跡から出土しているとは言い難い状況である。しかし，須恵器の器種によって，例えば，瓶の様な場合は祭祀的様相を示すことが考えられる。

表4　炭焼遺跡出土古墳時代の須恵器一覧表

図版番号	出土遺構・位置	器種	並行形式	火処	備考	図版番号	出土遺構・位置	器種	並行形式	火処	備考
第8図22	第1号住居跡覆土上層	坏蓋	ＴＫ216	炉	Ｐ22	第20図22	第5号住居跡覆土上層	坏身	ＴＫ208・古	竈	Ｐ115
第12図34	第2号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	Ｐ57	第20図23	第5号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	Ｐ116
第15図21	第3号住居跡覆土上層	坏身	TK208・新～TK23	竈	Ｐ78	第24図35	第6号住居跡覆土上層	坏身	ＭＴ15	竈	Ｐ151
第15図22	第3号住居跡覆土上層	坏身	TK208・新～TK23	竈	Ｐ79	第24図36	第6号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	Ｐ152
第15図23	第3号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	Ｐ80	第24図37	第6号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	Ｐ153
第20図21	第5号住居跡覆土上層	坏蓋	ＴＫ208	竈	Ｐ114	第24図38	第6号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	Ｐ154

図版番号	出土遺構・位置	器種	並行形式	火処	備　　考	図版番号	出土遺構・位置	器種	並行形式	火処	備　　考
第24図39	第6号住居跡覆土上層	甕		竈	TP7	第46図17	第17号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	P288
第24図40	第6号住居跡覆土上層	甕		竈	TP28	第49図16	第18号住居跡覆土上層	坏蓋	TK10	竈	P316
第35図13	第13号住居跡覆土上層	坏蓋	TK47	竈	P208	第53図22	第19号住居跡覆土上層	坏蓋	TK10～MT15	竈	P338
第39図38	第14号住居跡覆土上層	坏身	TK43	竈	P246　在地産Ⅰ	第59図23	第23号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	P384
第39図39	第14号住居跡覆土上層	甑	MT15～TK10	竈	P247　東海系か？	第74図4	表　　採	甕			P437
第46図16	第17号住居跡覆土上層	坏蓋		竈	P287						

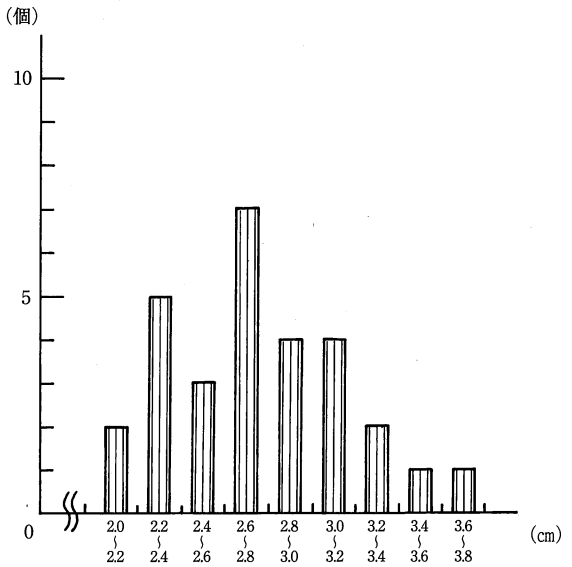
4　土玉について

土玉については，祭祀に関する遺物とする考えと漁撈具の一つである土錘とする考えとがあるが，当遺跡の立地する自然環境を考えたとき，当遺跡出土の土玉は後者と考えるのが自然であろう[7]。

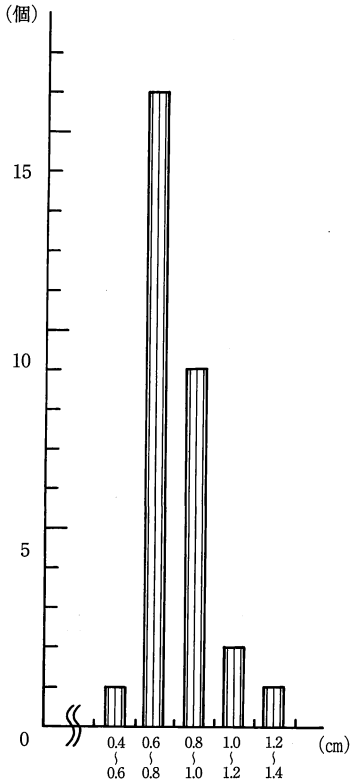
当遺跡から土玉が41個（土玉42個体あるが，１点は中央部に穴が貫通していないので除く）出土している。形態はすべて球状であり，管状のものは出土していない（札場古墳群から１点出土している）。完形29個体，破片12個体である。この完形の29個体について若干の分析をする。

土玉の大きさは，径2.2～3.4cmに集中し80%を占める。この中で径2.6～2.8cmのものが最も多い。重量については，小形の18ｇ前後，中形の30ｇ前後，大形の46ｇ前後３タイプに分けられるが，65%程は18ｇ前後の小形のものである。この３タイプに分けられるのは，狩猟しようとする魚種によるものと考えられる。孔径は0.8cm前後で86%にもなり，土玉の大きさ及び重量に変化なく，ほぼ同じ径と考えられる。このことから，網（紐）の太さは狩猟しようとする魚種にかかわらず，ほぼ同じ太さのものを使用していたと考えられる。以上のことから，当遺跡における平均的な土玉は，径2.9cm前後の大きさで，重さは18ｇ，孔径は0.8cmのものと言える[8]。

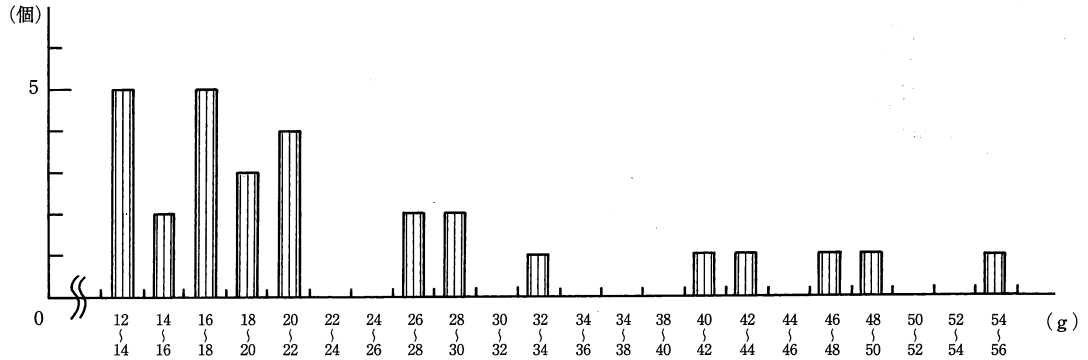
現在，調査及び整理作業の行われている北浦町内の木工台遺跡からは，数百もの土玉が出土している。しかも，一つの遺構から百を越す数の土玉が出土している。この結果が示された後に，また，分析したいと考えている。



第77図　土玉の大きさ



第78図　土玉の孔径



第79図　土玉の重量

《註》

(1)この時期の県内の土器に関しては，県北部を中心とした樫村・浅井氏の編年案（樫村宣行・浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器－久慈川・那珂川流域を中心として－」『考古学ジャーナル』342　ニューサイエンス社　1992年），県南部を中心とした樫村氏の編年案（樫村宣行「茨城県南部の鬼高式土器について」茨城県教育財団『研究ノート』2号　1993年，同氏「和泉式土器編年考」茨城県教育財団『研究ノート』5号　1996年），県西部の真壁町の八幡前遺跡を基にした吹野氏の編年案（吹野富美夫「八幡前遺跡における古墳時代後期の土器様相」茨城県教育財団『研究ノート』4号　1995年）等がある。当遺跡における古墳時代の住居跡の時期もこれらの成果による。

(2)この時期の須恵器に関しては，1997年3月に行われた，『東国の須恵器』のシンポジウムで，現時点における県内の須恵器研究の成果を的確に示している（古代生産史研究会 '97シンポジウム『東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－』 1997年）。当遺跡における時期は，須恵器が見られなくなった以降の時期である。この時期に関しては，現在のところ，浅井氏の編年案しか示されていない。浅井氏の編年を基本に，近隣の研究成果を基に本跡の平安時代の住居跡の時期を考えたい。（浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ）・（Ⅱ）」茨城県教育財団『研究ノート』創刊号・2号　1992・1993年）

(3)この時期の県内の須恵器に関しては，土生氏が積極的に研究している（土生朗治「常陸地方出土のⅠ期の須恵器の性格について（上）・（中）・（下）」茨城県教育財団『年報』9・10，『研究ノート』創刊号　1990・1991・1992年他）。また，荒井氏は牛久市の中久喜遺跡出土の須恵器を谷津を挟んで対峙するヤツノ上遺跡との比較検討を行っている（荒井保雄「中久喜遺跡出土の古式須恵器について」茨城県教育財団『研究ノート』3号　1994年）

(4)県内における古墳時代の須恵器窯は，現在のところ7世紀中葉の常陸太田市の幡山窯跡が最も古い例であり，6世紀までさかのぼる須恵器窯は，現在のところ確認されていないので，これを仮に在地産Ⅰ式としておく。後述する札場古墳群からも在地産と考えられる須恵器が出土しているが，この須恵器とは胎土の様子から明らかに違っているが，両者とも現在のところ，窯を特定できない事による。酒井氏によると（酒井清治「須恵器の編年　関東」『古墳時代の研究』6　雄山閣　1991年等による），群馬県を中心とした広い分布圏を「関東型」としての捉え方を提唱している。この分布圏がどこまでの広まりを示すか，6世紀段階までの須恵器生産と7世紀段階の須恵器生産との違いからも疑問が残る。同氏も「必ずしも関東の在地産須恵器が全て同一の特色を持つものではない。その点では同一の特色を持つものは，大窯跡群を擁する群馬県と埼玉県の一部により濃厚に見られる。」との考えも示している。筆者自身大窯跡群と言えども，この時期に地方の窯がかなりの広範囲に須恵器製品を供給するとは考えられず，県内においても6世紀段階までさかのぼり得る窯の存在を指摘したい。

・海老澤稔他『幡山遺跡発掘調査報告』常陸太田市教育委員会　1977年3月

(5)三辻利一「西原遺跡出土初期須恵器の胎土分析」『茨城県教育財団文化財調査報告』第31集　1986年　同氏「ヤツノ上

遺跡出土須恵器の胎土分析」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年

(6)川井正一「茨城県石下町屋敷尻遺跡出土の初期須恵器」『菟玖波』第２号　菟玖波倶楽部　1988年　同氏の引用の山田氏の論文は，山田友治「房総における古式須恵器とその性格について」『史館』第４号　1974年による。

(7)本町内の調査遺跡の平遺跡からも，292個体の土玉が出土している。これも球状の土錘と考えるのが自然であろう。山田地区遺跡発掘調査会『茨城県行方郡北浦村平遺跡調査報告書』 1990年３月

(8)宮田裕紀枝「伊勢ノ木遺跡出土の土錘について」『板倉町史考古資料編』別巻９　1989年３月　土玉についての分析方法もこの論文による。当遺跡出土の土玉は，群馬県板倉町伊勢ノ木遺跡出土の土玉と比較すると，伊勢ノ木遺跡出土の平均的土玉は，「24mm前後の大きさを持ち，重さ16ｇ，穴の短径約４mm」であることから，やや大きめのものと言える。

第4章　札　場　古　墳　群

第1節　遺跡の概要

札場古墳群は，北浦町の北東部に位置し，北浦西岸の行方台地の縁辺部に立地している。台地は，標高32～34mで，北浦西岸の低地面との比高は27～29mである。調査区域は東西170m，南北160m，面積12,708m^{2}で，現況は畑である。当遺跡は，埴輪片が1片も確認できなかったので，埴輪の消滅した後の古墳群である。

今回の調査では，古墳時代後期の古墳4基を検出した。墳形は，円墳2基，方墳1基，前方後円墳1基である。第2号古墳の主体部はシルト岩を石材とした横穴式石室で，第3号古墳の主体部は，箱式石棺を2基もつ。

遺物は，縄文土器片，土師器片，須恵器（平瓶・横瓶），土師器（坏），石製品（勾玉・切子玉），ガラス玉が出土している。

第2節　基本層序

札場古墳群においては，調査区北西部のB2$_{f9}$区にテストピットを設定し，第80図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は，厚さ10～33cmで，暗褐色の耕作土である。

第2層は，厚さ12～24cmで，やや赤みを帯びた暗褐色土層である。

第3層は，厚さ14～20cmで，ロームブロックを中量含む明褐色のハードローム層への漸移層である。

第4層は，厚さ34～50cmで，粘性もしまりもつよい明褐色のハードローム層である。

第5層は，厚さ32～42cmで，4層に比べ，ややしまりがよわい明褐色のハードローム層である。

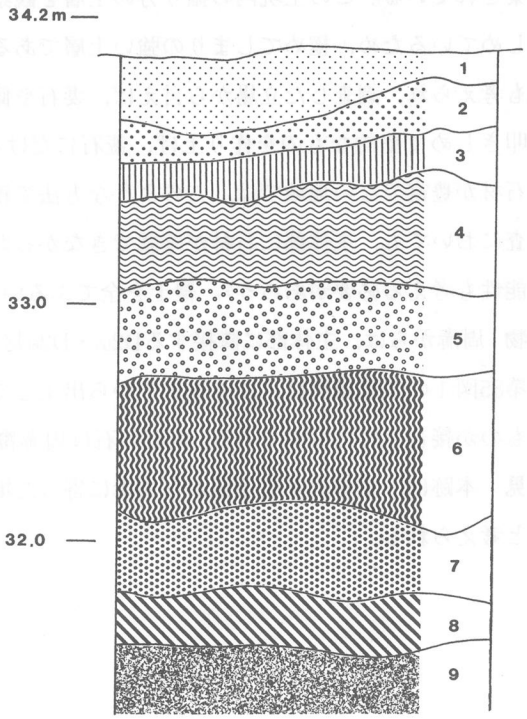
第6層は，厚さ52～66cmで，5層に比べ，やや粘性もしまりもよわい明褐色のハードローム層である。

第7層は，厚さ25～40cmで，極めてしまりのつよい明褐色のハードローム層である。

第8層は，厚さ16～25cmで，粘土ブロックを中量含む灰褐色の粘土層への漸移層である。

第9層は，粘性の極めてつよい褐灰色の粘土層である。

遺構は，第2層上面で確認できた。



第80図　札場古墳群基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳

今回の調査では，古墳時代後期（埴輪・大型前方後円墳が消滅した時期でもあるので，終末期古墳とも言える。）の古墳4基を検出した。墳丘を有するものが，第1・2・3号古墳の3基，墳丘を全く失っているものが第4号古墳である。

以下，検出した古墳の特徴や遺物に付いて記載する。

第1号古墳（第81・82・83・84図，PL32）

現況と確認状況　古墳の4分の1程の墳丘は残存し，この墳丘の周りは畑として利用されていた。

位置　調査区西部の大グリットのC2・D2区にまたがる位置で，台地上の平坦な場所に確認されている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約27.8mである。

墳丘　高さは，2.5mである。耕作により削平されているが，墳形全体の4分の1程が残存している。土層は26層（7・8・9・10層は周溝の土層）からなり，21層が旧表土と考えられる。この旧表土を平坦に成形した後に盛土したと考えられる。盛土は，ローム粒子・ローム小ブロックを含んだ褐色土・暗褐色土を主とし，黒色土を含んだ黒褐色土を帯状に挟む状況を示している。いずれもよく締まっている。

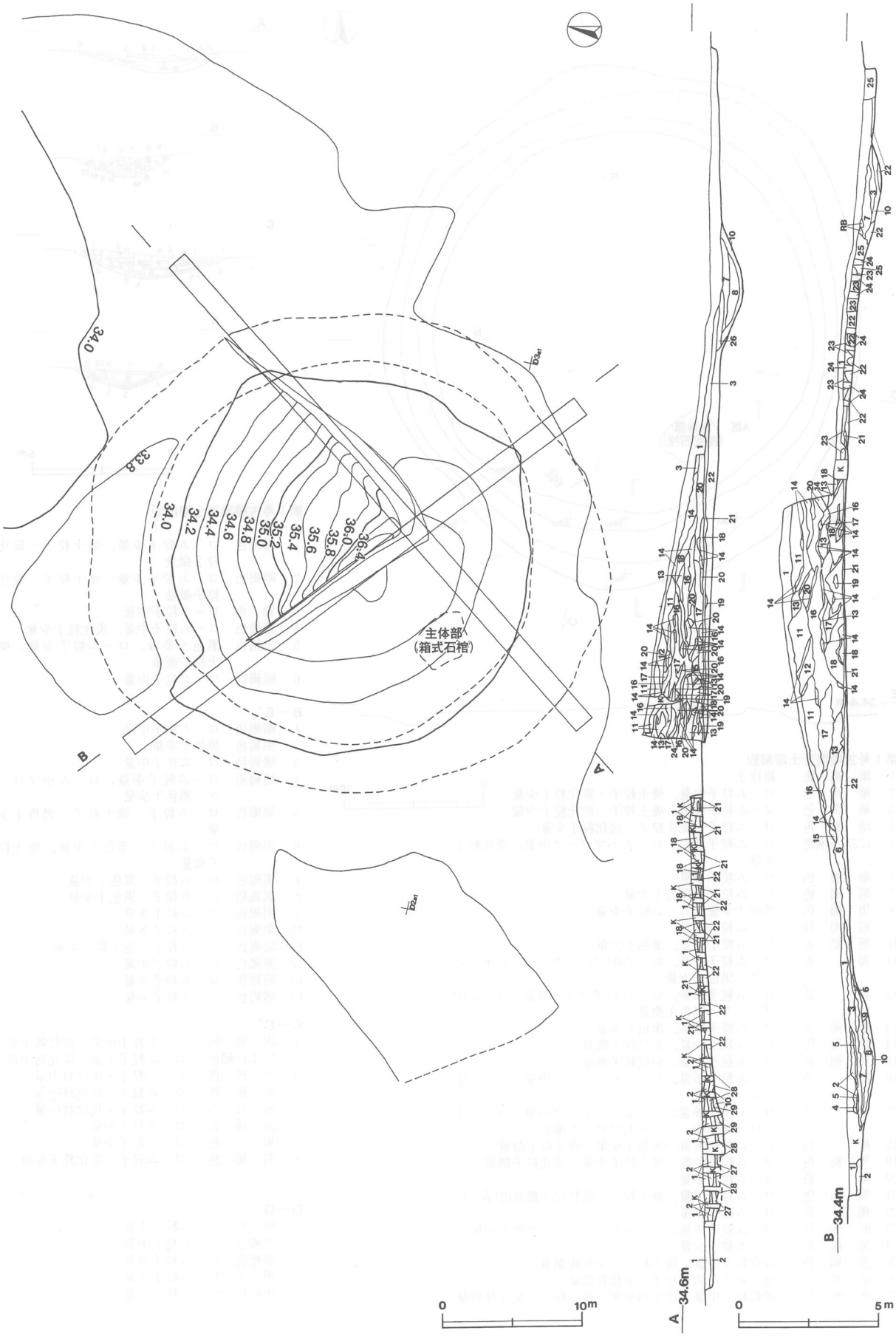
墳丘主軸方向　N－32°－E。

周溝　全周している。確認面における規模は，上幅3.4～5.3m，下幅1.1～2.8m，深さ64～90cmを測り，皿状に掘り込まれている。覆土は，基本的に凹レンズ状の自然堆積を示している。

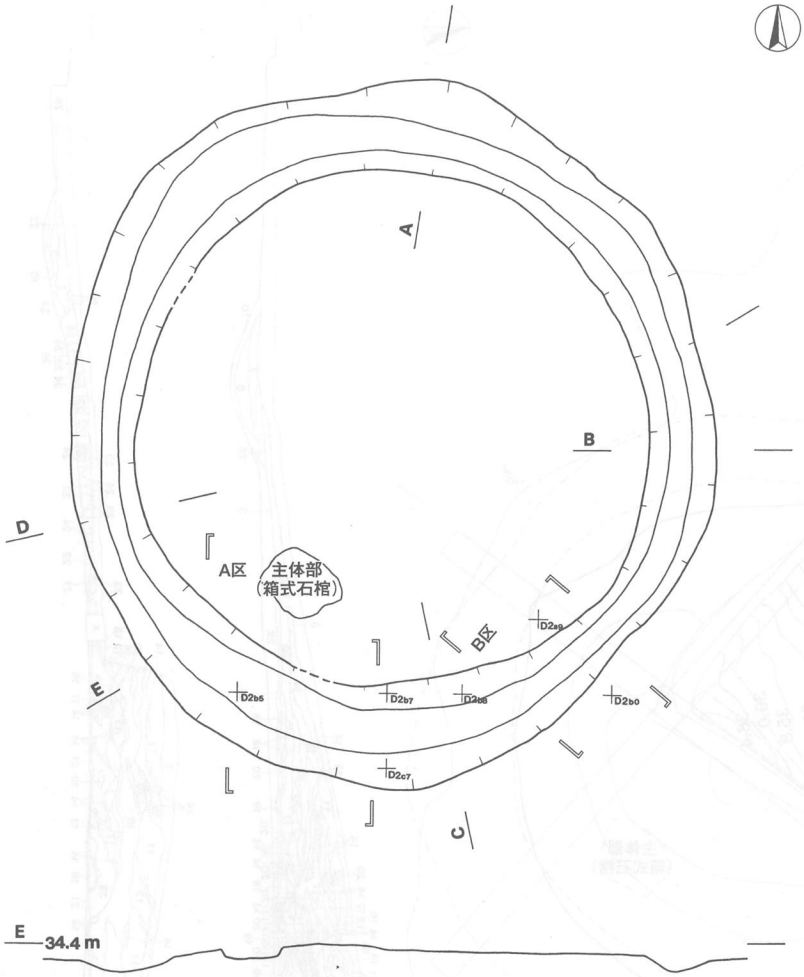
埋葬施設　南東部の周溝に寄った位置に，旧表土を掘り込んだ地下式の箱式石棺である。主軸方向は，墳丘軸とほぼ直交するN－47°－Wで，長軸3.8m，短軸3.2mの不整方形をし，深さ1.3m程掘り下げた土坑内に構築されている。この土坑内の掘り方の土層を観察してみると，粘土とローム土を混ぜ合わせ，版築状に叩きしめているため，極めてしまりの強い土層である。6層は，粘土を利用した側石的なものにつながる可能性も考えられ，調査した立場から言えば，妻石や側石の場所に石材を使用せずに，粘土とローム土を版築状に叩きしめて壁的なものを作り上げ，蓋石にだけ石材を使用したような主体部の可能性を考えている。特に，石材が豊富でない地域では，このような方法で箱式石棺を構築している可能性が考えられよう（今までの調査においても，主体部に石材が確認できなかった場合は，はじめから妻石や側石に石材を使用しなかった可能性も考える必要があろう）。覆土を全てふるいにかけたが骨片は確認できなかった。

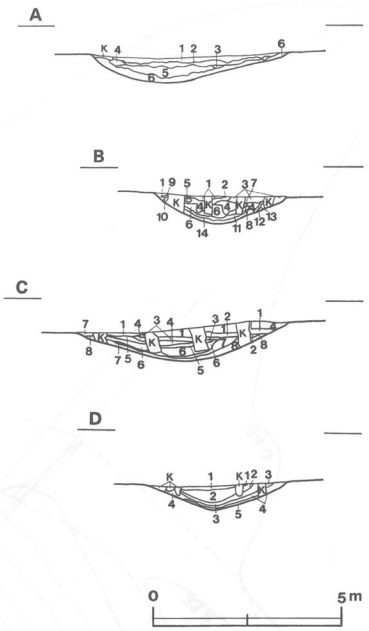
遺物　周溝からは，主体部に隣接する$D2_{b5}$・$D2_{b6}$区と$D2_{b8}$区を中心に雲母片岩の集石が2か所確認できている。第85図1の須恵器甕は，周溝覆土中から出土している。2の須恵器横瓶は，主体部からと周溝から出土したものが接合されたものである。集石の石は周溝覆土下層から，須恵器横瓶は周溝覆土上層から出土している。

所見　本跡は，主体部が墳頂部から周溝に寄った墳裾部で確認できたことや須恵器横瓶から6世紀末葉の古墳と考えられる。


34.0
33.8
34.0
34.2
34.4
34.6
34.8
35.0
35.2
35.4
35.6
35.8
36.0
36.4
主体部
(箱式石棺)
B
A
0
10m
A 34.6m
0
5m
B 34.4m

第81図　第1号古墳(1)





第1号古墳墳丘土層解説

1	暗褐色	耕作土
2	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5	にぶい赤褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子中量
7	暗褐色	ローム粒子・黒色土少量
8	黒褐色	黒色土多量，ローム粒子少量
9	暗褐色	ローム粒子中量
10	暗褐色	ローム粒子中量，黒色土少量
11	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色土少量
12	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・黒色土微量
13	暗褐色	ローム粒子中量，黒色土少量
14	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
16	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
17	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
18	褐色	ローム粒子多量，黒色土少量，焼土粒子微量
19	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
20	褐色	ローム粒子多量
21	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量(旧表土)
22	褐色	ローム粒子多量
23	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土少量
24	暗褐色	ローム粒子少量
25	黒褐色	炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
26	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・炭化物微量
27	黒褐色	炭化粒子中量，炭化物少量，焼土粒子・炭化材微量

第1号古墳周溝土層解説

A－A'

1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量
5	黒褐色	黒色土多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量

B－B'

1	暗褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	黒色土多量
3	暗褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・黒色土少量
6	黒褐色	ローム粒子・黒色土少量，焼土粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・黒色土少量
8	黒褐色	ローム粒子・黒色土少量
9	明褐色	ローム粒子多量
10	明褐色	ローム粒子多量
11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
12	暗褐色	ローム粒子少量
13	暗褐色	ローム粒子少量
14	暗褐色	ローム粒子少量

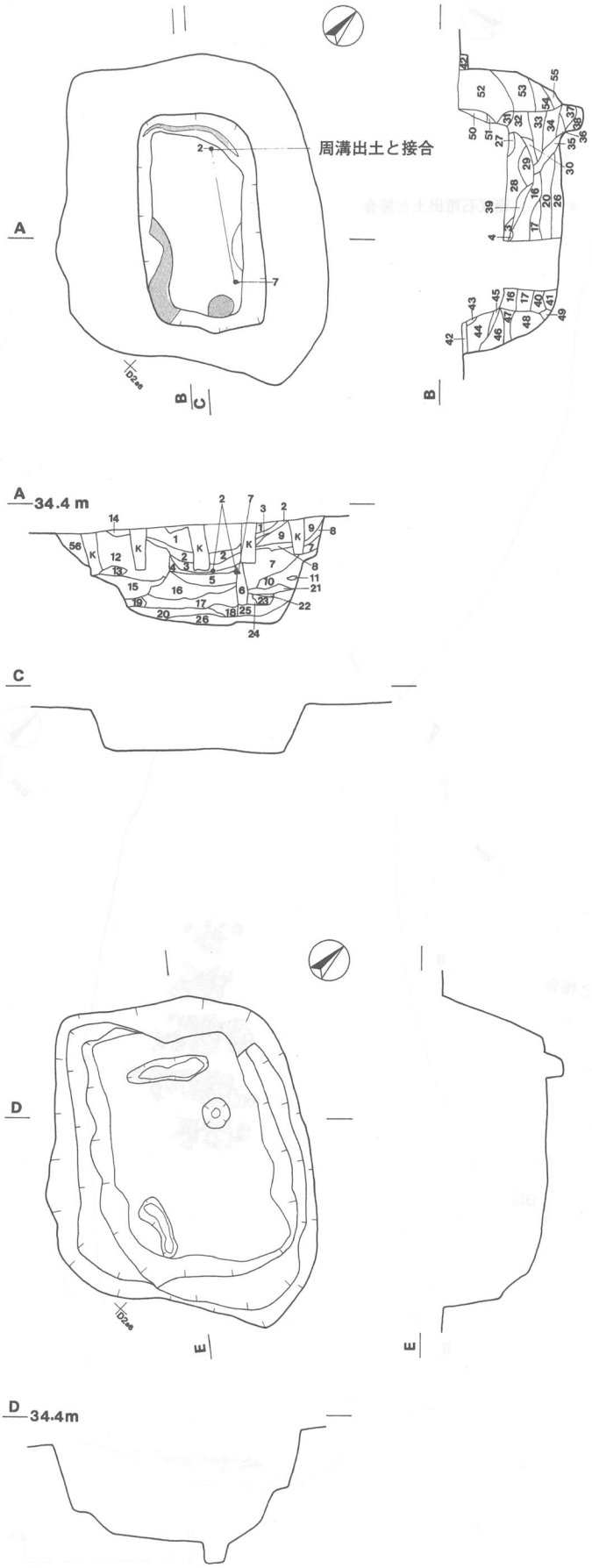
C－C'

1	明褐色	ローム粒子中量，炭化物少量
2	にぶい褐色	ローム粒子中量，炭化物少量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化材中量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化材中量
5	暗褐色	ローム粒子・炭化材中量
6	黒褐色	ローム粒子中量
7	褐色	ローム粒子少量
8	明褐色	ローム粒子・炭化粒子少量

D－D'

1	褐色	ローム粒子少量
2	黒褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ローム粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子少量

第82図　第1号古墳(2)

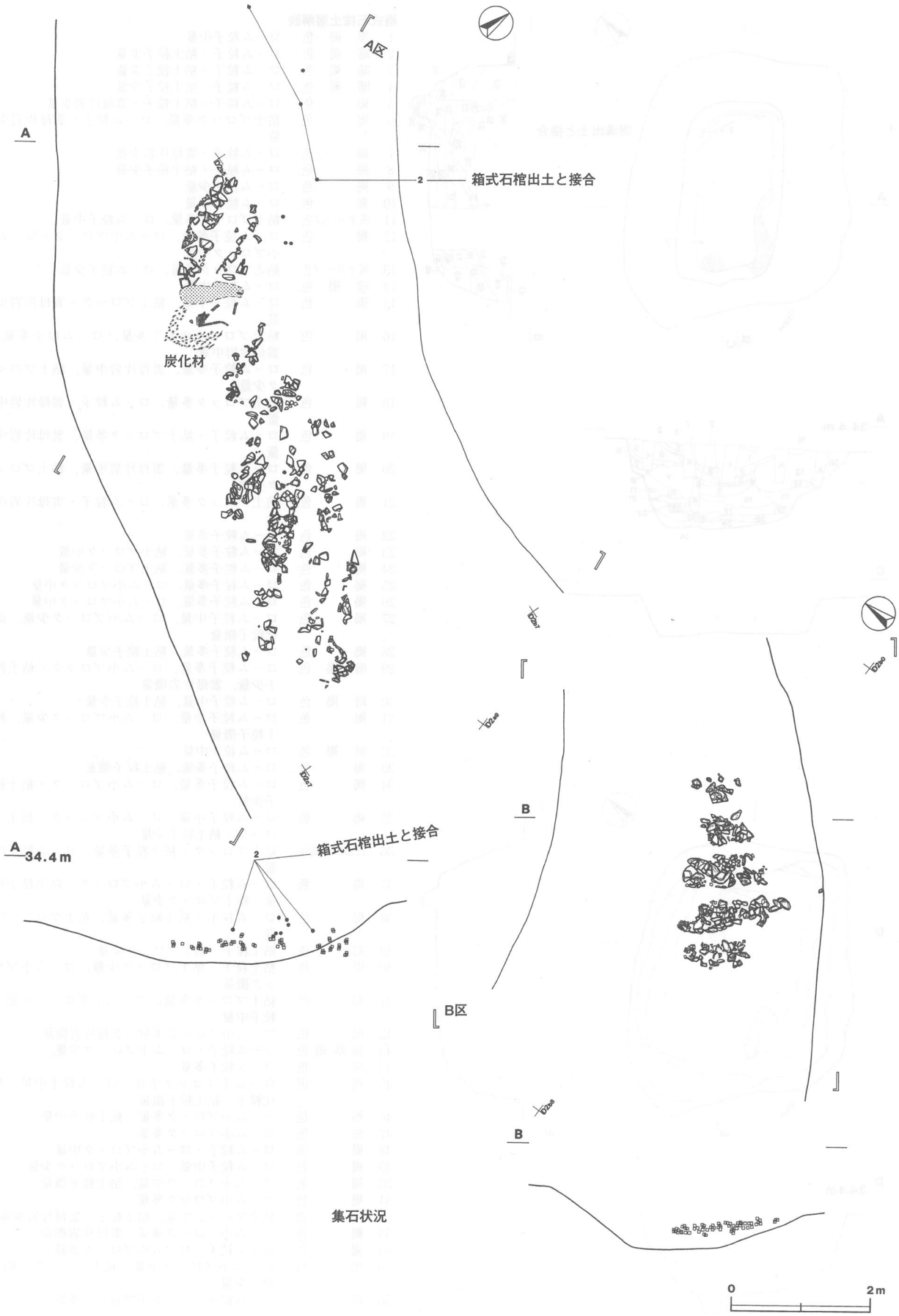


箱式石棺土層解説

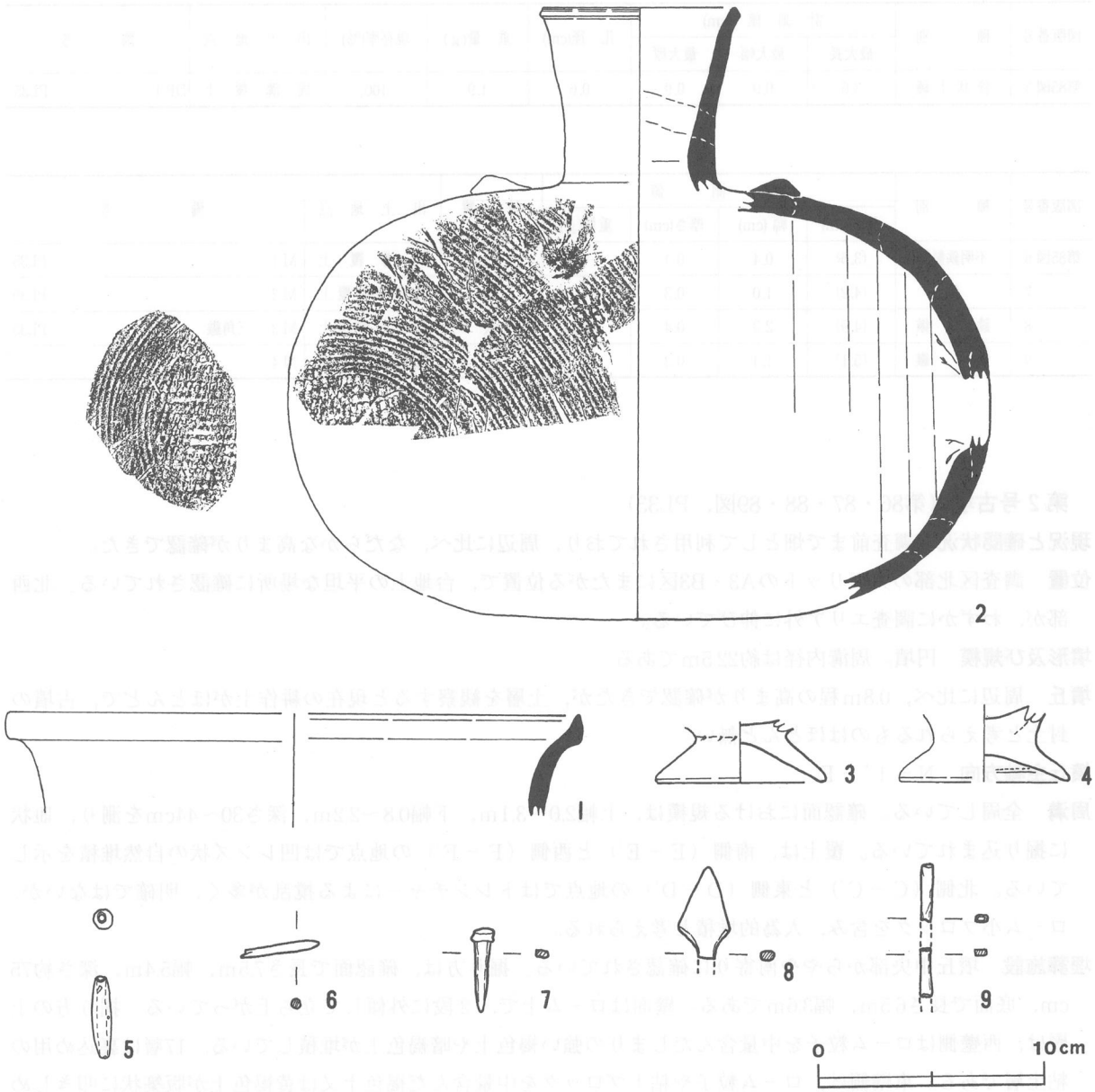
1	黒褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
5	褐色	ローム粒子・粘土粒子・雲母片岩少量
6	褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子・雲母片岩少量
7	褐色	ローム粒子・雲母片岩少量
8	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
9	褐色	ローム粒子少量
10	褐色	ローム粒子多量
11	灰オリーブ色	粘土ブロック多量，ローム粒子中量
12	褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
13	灰オリーブ色	粘土ブロック多量，ローム粒子少量
14	暗褐色	ローム粒子中量
15	褐色	ローム粒子中量，粘土ブロック・雲母片岩少量
16	褐色	粘土ブロック極めて多量，ローム粒子多量，雲母片岩中量
17	褐色	ローム粒子多量，雲母片岩中量，粘土ブロック少量
18	褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子・雲母片岩中量
19	褐色	ローム粒子・粘土ブロック多量，雲母片岩中量
20	褐色	ローム粒子多量，雲母片岩中量，粘土ブロック少量
21	褐色	粘土ブロック多量，ローム粒子・雲母片岩中量
22	褐色	ローム粒子多量
23	褐色	ローム粒子多量，粘土ブロック中量
24	褐色	ローム粒子多量，粘土ブロック少量
25	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
26	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
27	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
28	褐色	ローム粒子多量，粘土粒子少量
29	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，雲母片岩微量
30	暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量
31	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
32	暗褐色	ローム粒子中量
33	褐色	ローム粒子多量，粘土粒子微量
34	褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
35	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土ブロック・粘土粒子少量
36	にぶい黄褐色	粘土ブロック・粘土粒子多量，ローム粒子中量
37	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量，粘土ブロック少量
38	褐色	ローム粒子・粘土粒子多量，粘土ブロック中量
39	褐色	粘土粒子・粘土ブロック少量
40	褐色	粘土粒子・粘土ブロック少量，ローム小ブロック微量
41	褐色	粘土ブロック多量，ローム小ブロック・粘土粒子中量
42	褐色	ローム小ブロック多量，雲母片岩微量
43	極暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
44	褐色	ローム粒子多量
45	褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
46	褐色	ローム小ブロック多量，粘土粒子少量
47	褐色	ローム小ブロック多量
48	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量
49	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
50	褐色	ローム小ブロック中量，粘土粒子微量
51	褐色	ローム小ブロック多量
52	褐色	粘土ブロック中量，粘土粒子・雲母片岩少量
53	褐色	ローム小ブロック多量，雲母片岩微量
54	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量
55	褐色	ローム小ブロック中量，粘土ブロック・粘土粒子少量
56	褐色	ローム粒子・ローム小ブロック多量

0 2m

第83図　第1号古墳(3)



第84図　第1号古墳(4)



第85図　第1号古墳出土遺物

第1号古墳出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第85図 1	甕 須恵器	A [25.2] B (4.4)	口縁部片。口縁部は頸部から外反して立ち上がる。口縁端部は下方へ突出する。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・透明粒 灰黄褐色 不良	P 3　5%　PL37 周溝内 還元不十分
2	横瓶 須恵器	A 8.6 B [27.2]	体部は横長のつぶれた球形で，口縁部は頸部から外傾して立ち上がる。体部上方に偏平な突起が貼付されている。口縁端部に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子目叩き後，縦位のカキ目，内面指ナデ。	礫多し・白色粒 褐灰色 普通	P 4　30%　PL35 箱式石棺と周溝内 在地産Ⅱ
3	脚付椀 土師器	B (2.8) D 7.2 E 2.1	脚部片。脚部は「ハ」の字開く。	体部内面磨き。	白色粒 灰褐色 やや不良	P 1　10% 箱式石棺覆土
4	脚付椀 土師器	B (3.4) D [7.2] E 2.0	脚部片。脚部は「ハ」の字開く。脚部内面に沈線が巡る。	体部内面磨き。	白色粒 にぶい橙色 普通	P 2　5% 箱式石棺覆土

図版番号	種　別	計測値 (cm)			孔径(cm)	重量(g)	現存率(%)	出土地点	備考
		最大長	最大幅	最大厚					
第85図5	管状土錘	3.6	0.9	0.9	0.6	1.9	100	周溝覆土	DP1　PL35

図版番号	種　別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第85図6	不明鉄製品	(3.6)	0.4	0.4	(1.6)	鉄	周溝覆土	M1　PL35
7	釘	(4.2)	1.0	0.3	(2.2)	鉄	箱式石棺覆土	M2　PL35
8	鉄鏃	(4.9)	2.3	0.4	(25.2)	鉄	箱式石棺覆土	M3　三角鏃　PL35
9	鉄鏃	(5.1)	1.4	0.3	(3.6)	鉄	箱式石棺覆土	M4

第2号古墳（第86・87・88・89図，PL33）

現況と確認状況　調査前まで畑として利用されており，周辺に比べ，なだらかな高まりが確認できた。

位置　調査区北部の大グリットのA3・B3区にまたがる位置で，台地上の平坦な場所に確認されている。北西部が，わずかに調査エリア外に伸びている。

墳形及び規模　円墳。周溝内径は約22.5mである。

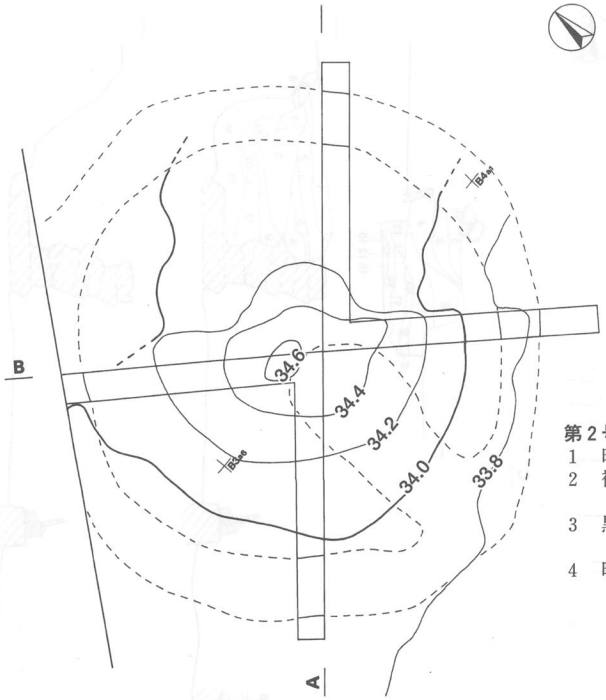
墳丘　周辺に比べ，0.8m程の高まりが確認できたが，土層を観察すると現在の耕作土がほとんどで，古墳の封土と考えられるものはほとんど無い。

墳丘主軸方向　N－1°－E。

周溝　全周している。確認面における規模は，上幅2.0～3.1m，下幅0.8～2.2m，深さ30～44cmを測り，皿状に掘り込まれている。覆土は，南側（E－E'）と西側（F－F'）の地点では凹レンズ状の自然堆積を示している。北側（C－C'）と東側（D－D'）の地点ではトレンチャーによる撹乱が多く，明確ではないが，ローム小ブロックを含み，人為的堆積と考えられる。

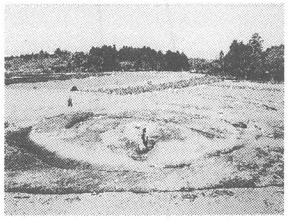
埋葬施設　墳丘中央部からやや南寄りに確認されている。掘り方は，確認面で長さ7.5m，幅5.4m，深さ約75cm，底面で長さ6.5m，幅3.6mである。壁面はローム土で，2段に外傾して立ち上がっている。掘り方の土層は，西壁側はローム粒子を中量含んだしまりの強い褐色土や暗褐色土が堆積している。17層は裏込め用の粘土層である。東壁側は，ローム粒子や粘土ブロックを中量含んだ褐色土又は黄褐色土が版築状に叩きしめて裏込め的に堆積している。埋葬施設は，地下式の無袖形横穴式石室で，シルト岩で構築している。主軸方向はN－1°－Eである。規模は，外法で長さ約4.6m，幅約3.2m，内法で長さ約3.7m，幅約1.8m，高さ約1.2～1.3mである。石室は，天井石は既に削平されていて無いが，羨道と玄室に分けられる。羨道の長さは約1.2m，幅約1.45m，玄室の長さは約2.5m，幅は奥壁付近で約2.0m，中央部付近で約1.96m，入り口付近で約1.46mで，平面形は羽子板状である。玄室と羨道の境には梱石が置かれ，この梱石に切り込みを入れ，45×35cm程の雲母片岩の板石を閉塞的に立てている。墓道は，周溝中央部から埋葬施設まで，約2.15mである。石室は，奥壁・側壁共縦25～60cm，横50～70cm，厚さ20～40cm程の切り石を，奥壁で7段に，左右側壁で4・5段に積み上げて構築し，小口積みの形態を示している。壁は奥壁・側壁共に持ち送り的に，内傾して立ち上がっている。玄室の床面には，シルト岩が部分的に敷かれ，羨道の底面には川原石の玉石が混じった様に敷かれている。石室内の覆土をすべてふるいにかけたが，骨片は出土しなかった。

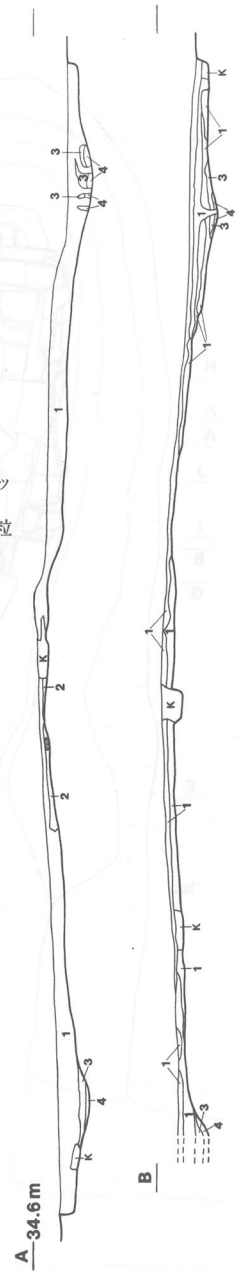
遺物　周溝からは，主体部の墓道に繋がるB3c7・B3c8区を中心に雲母片岩の集石が確認できている。主体部羨道覆土中から，第90図1～3の底部回転糸切りの土師器坏が出土している。2の土師器坏の内面にはタールの付着が見られ，灯明皿として利用されたものと考えられる。



第２号古墳墳丘土層解説

1　暗褐色　耕作土
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・粘土ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量





0　10m

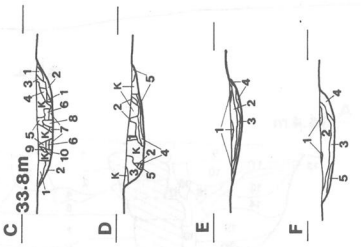
第２古墳周溝土層解説

C－C’
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子・黒色土少量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・黒色土少量
10　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土少量

D－D’
1　暗褐色　ローム粒子・黒色土少量
2　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子中量

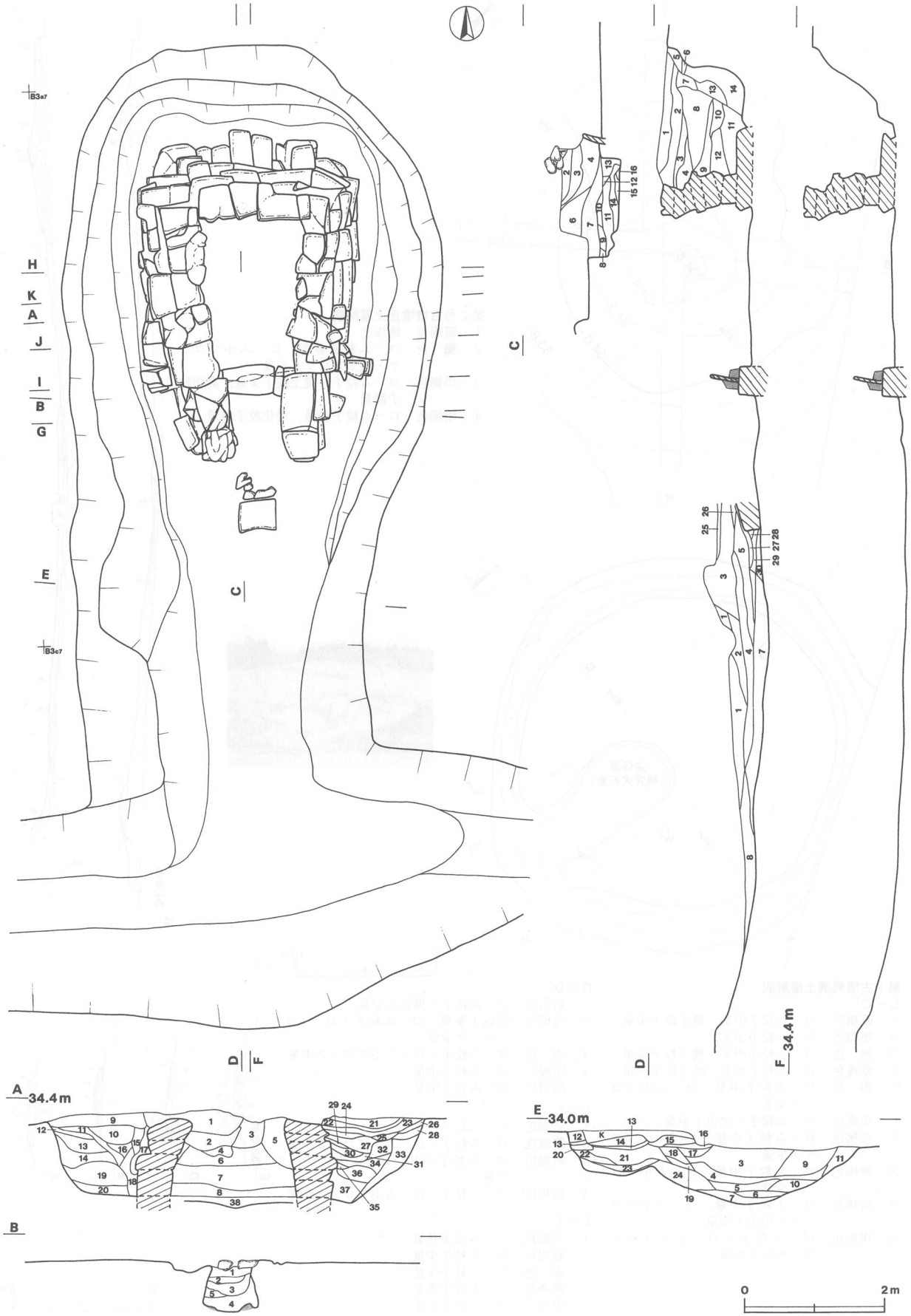
E－E’
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量

F－F’
1　明褐色　ローム粒子多量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子少量
4　明褐色　ローム粒子多量
5　黒褐色　ローム粒子少量

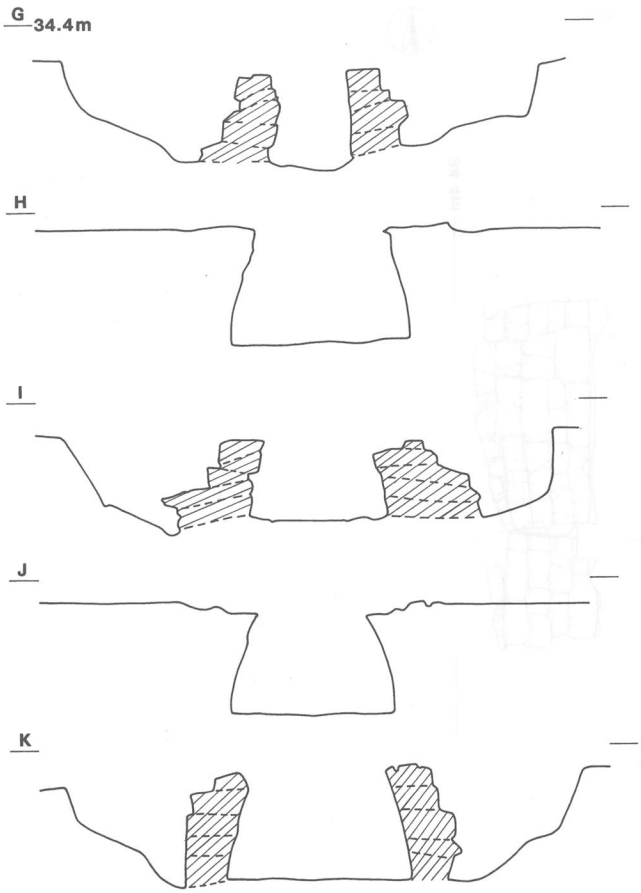


0　5m

第86図　第2号古墳(1)

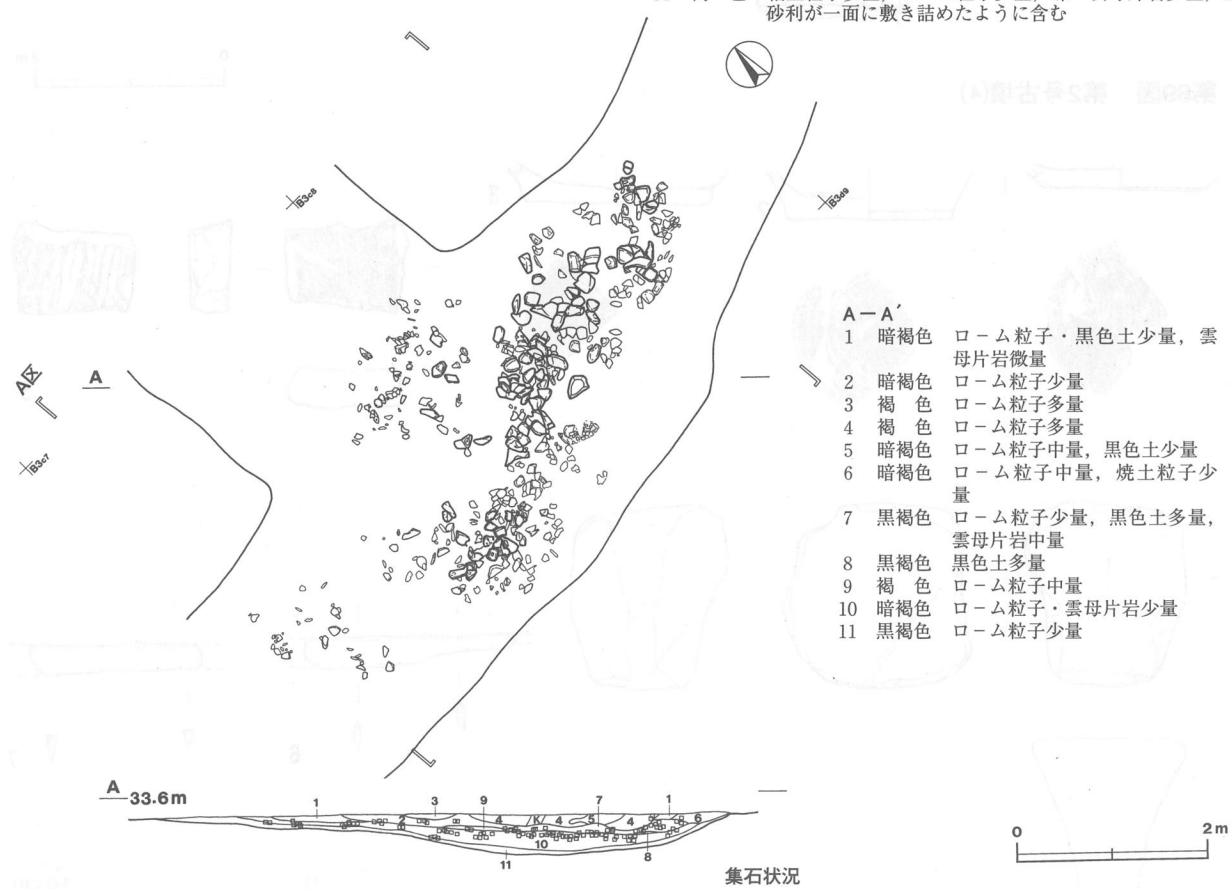


第87図　第2号古墳(2)



横穴式石室土層解説

1　褐　色　ローム粒子・炭化物・シルト岩ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子・シルト岩ブロック少量，焼土粒子少量
3　明褐色　ローム小ブロック・シルト岩ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子・シルト岩ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム小ブロック・シルト岩ブロック少量
6　褐　色　ローム小ブロック・シルト岩ブロック少量
7　褐　色　シルト岩ブロック中量，ローム小ブロック少量
8　褐　色　シルト岩ブロック少量
9　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック少量
10　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック・黒色土少量，炭化粒子微量
11　褐　色　ローム粒子・シルト岩ブロック中量
12　暗褐色　黒色土中量，ローム粒子・炭化粒子少量
13　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
14　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
15　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック少量
16　褐　色　ローム粒子中量
17　黄褐色　粘土ブロック多量，シルト岩ブロック中量
18　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック・粘土ブロック少量
19　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック少量
20　暗褐色　ローム粒子少量
21　褐　色　ローム粒子多量，シルト岩ブロック中量
22　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック・シルト岩ブロック中量
23　褐　色　ローム粒子中量
24　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック・シルト岩ブロック中量
25　褐　色　ローム粒子中量，黒色土少量
26　褐　色　ローム粒子多量
27　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック微量
28　褐　色　ローム粒子・黒色土中量
29　黄褐色　粘土ブロック・シルト岩ブロック中量，ローム粒子少量
30　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック微量
31　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック・シルト岩ブロック中量
32　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
33　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
34　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
35　黄褐色　粘土ブロック・シルト岩ブロック中量，ローム粒子少量
36　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
37　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
38　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子少量，礫・雲母片岩少量，玉砂利が一面に敷き詰めたように含む

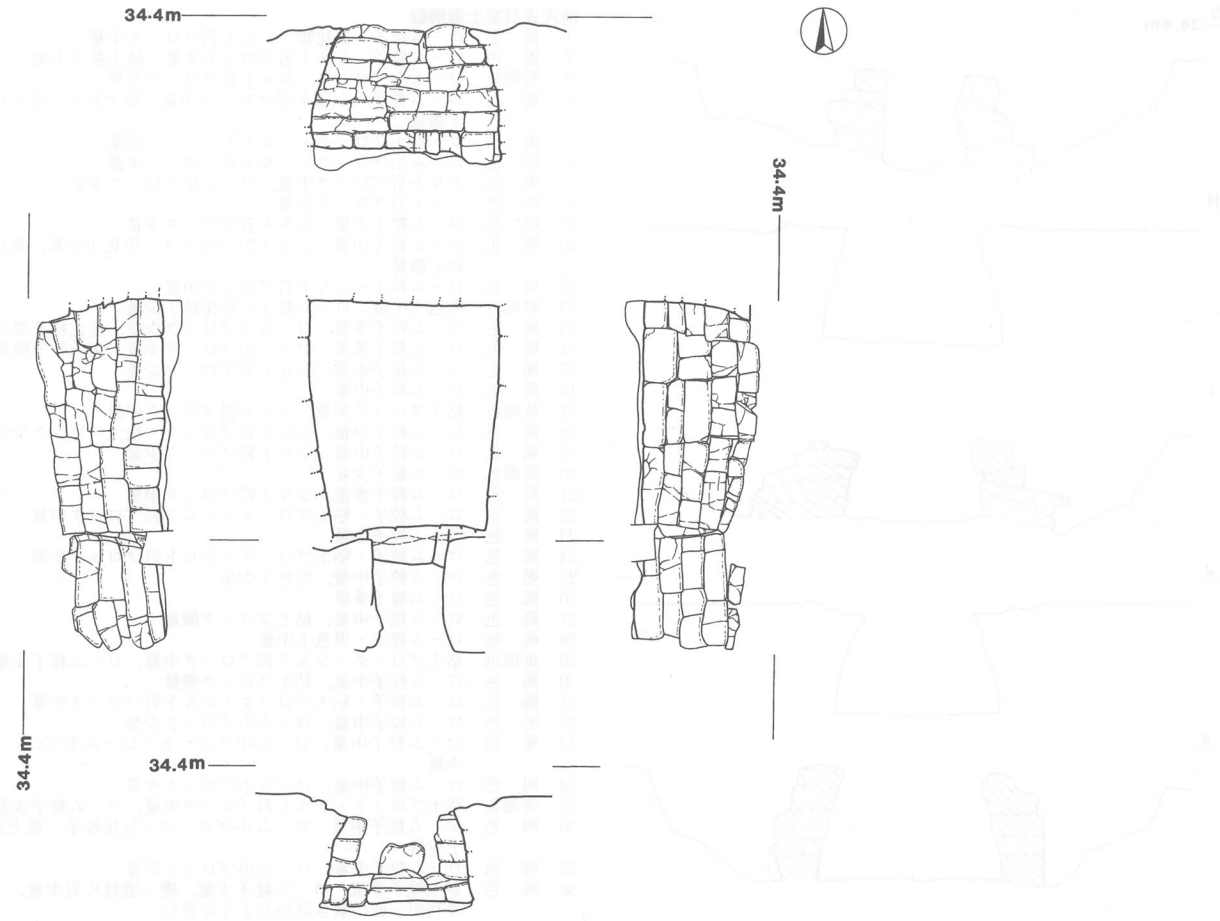


集石状況

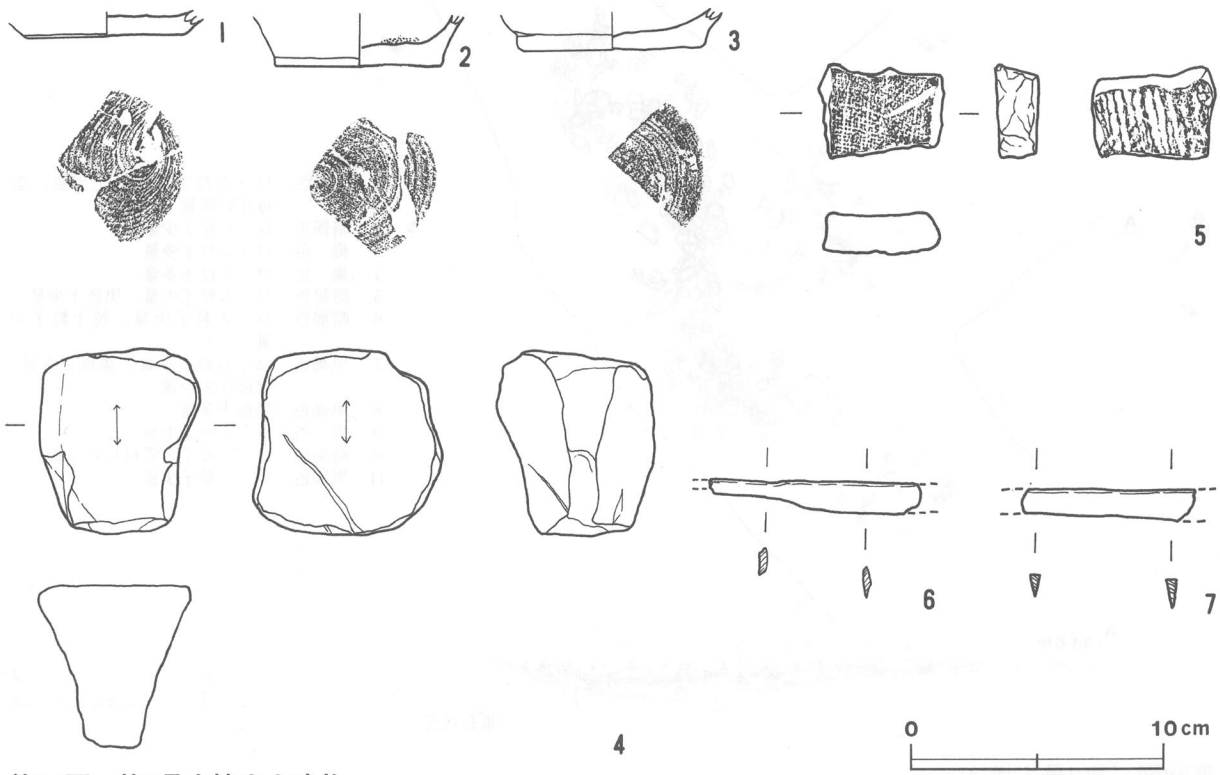
A－A′

1　暗褐色　ローム粒子・黒色土少量，雲母片岩微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム粒子中量，黒色土少量
6　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　黒褐色　ローム粒子少量，黒色土多量，雲母片岩中量
8　黒褐色　黒色土多量
9　褐　色　ローム粒子中量
10　暗褐色　ローム粒子・雲母片岩少量
11　黒褐色　ローム粒子少量

第88図　第2号古墳(3)



第89図　第2号古墳(4)



第90図　第2号古墳出土遺物

第2号古墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	坏 土師器	B (1.0) C 6.2	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	白色粒・雲母 橙色 普通	P5 30% PL35 石室墓道覆土
2	坏 土師器	B (2.1) C 6.6	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	白色粒・雲母 にぶい褐色 普通	P6 30% PL35 石室墓道覆土 灯明皿として利用(体部内面にススが付着)
3	坏 土師器	B (1.6) C 7.0	底部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	白色粒 にぶい褐色 普通	P7 20% PL35 石室墓道覆土

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第90図4	砥石	7.3	6.5	7.5	294.7	砂岩	周溝覆土	Q1

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第90図5	平瓦	(3.8)	(5.0)	1.7	(33.8)	周溝覆土	T1 凹面布当痕，凸面縄叩き PL35

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第90図6	刀子	(8.5)	1.7	0.3	(7.0)	鉄	周溝覆土	M5 PL35
7	刀子	(6.9)	1.2	0.4	(10.7)	鉄	周溝覆土	M7

所見　本跡に伴う遺物が無く，遺構から判断すると，石室の構築方法が切石小口積みの無袖形横穴式石室であることから，6世紀末葉から7世紀初頭と考えられる。石室から灯明皿として使われた土師器坏が出土していることから，この土器の時期である平安時代に盗掘にあったものと考えられる。そのため，石室の立派さに比べて，副葬品が全く出土しなかったものと思われる。

第3号古墳（第91・92・93・94・95図，PL33・34）

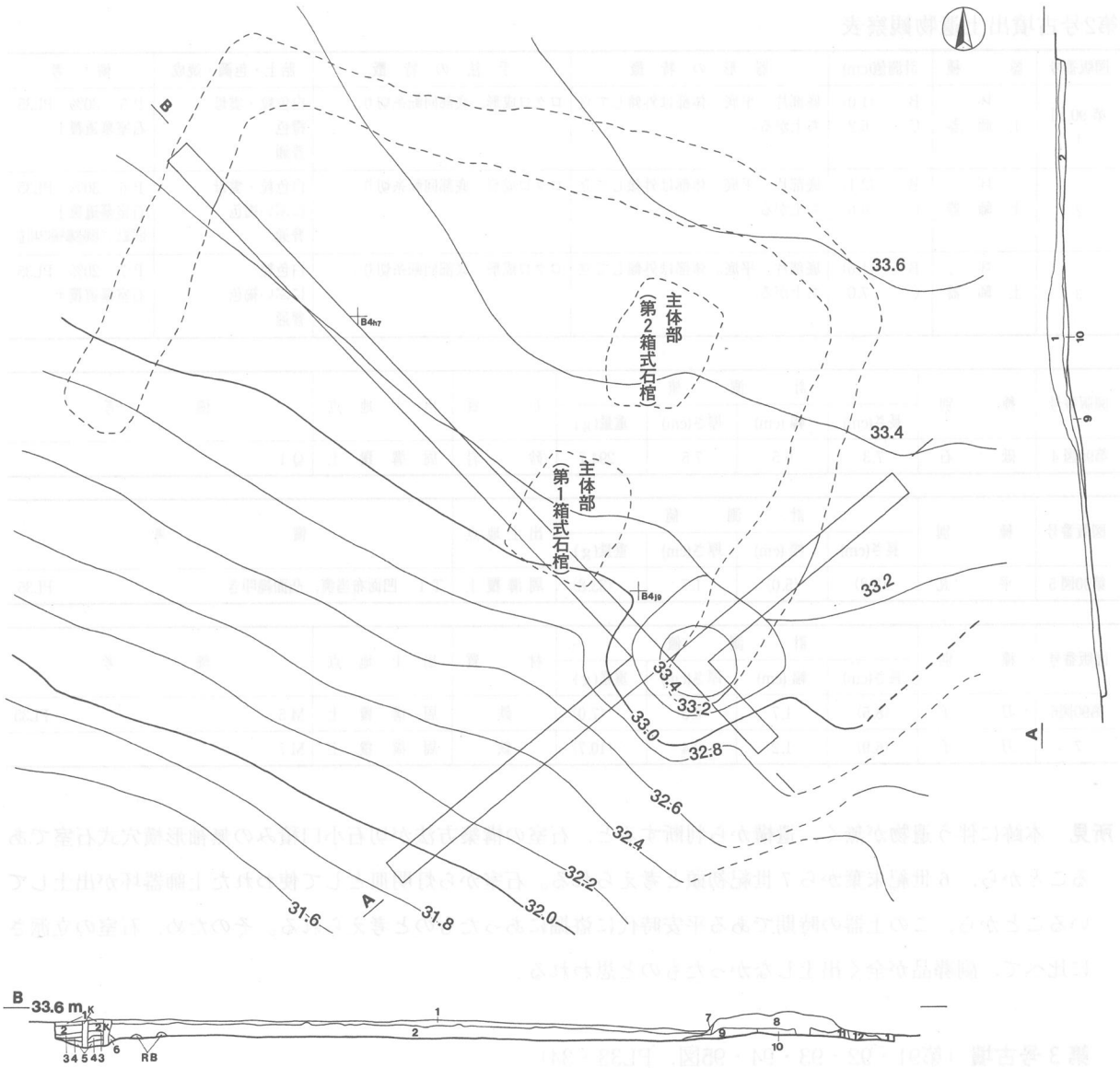
現況と確認状況　調査前まで畑として利用されており，周辺に比べ，なだらかな高まりが確認できた。ただし，周辺に比べ一番高い位置を墳頂部と考えトレンチを設定したが，後世の撹乱を受け，この場所は周溝上であった。

位置　調査区東部の大グリットのB4区に位置し，南西部に向かってなだらかに傾斜した場所に確認されている。墳形及び規模　長方墳。周溝内法で，長軸約17.5m，短軸約［12.5］mである。

墳丘　周辺に比べ，0.6m程の高まりが確認できたが，土層を観察すると現在の耕作土がほとんどで，古墳の封土と考えられるものはほとんど無い。

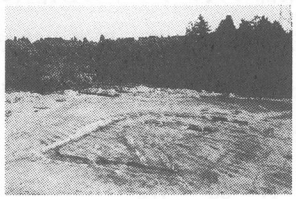
墳丘主軸方向　N－60°－W。

周溝　長方形に巡るが，南西部の一辺だけが確認できなかった。この方向に向かってなだらかに傾斜しているためと考えられるが，標高32.4mのラインのコンタが北東辺の周溝に対応するので，このラインに周溝があった可能性が考えられる。確認面における規模は，上幅1.1～2.25m，下幅0.9～1.8m，深さ6～40cmを測り，皿状に掘り込まれている。覆土は，北西コーナー（E－E′)と北東コーナー(B－B′)の地点では凹レンズ状の自然堆積を示している。西側（A－A′）と北側(F－F′）と東側（C－C′）の地点ではローム小ブロックを少量含み，褐色土と黒色土が交互に堆積し，人為的に埋め戻した様相を示している。



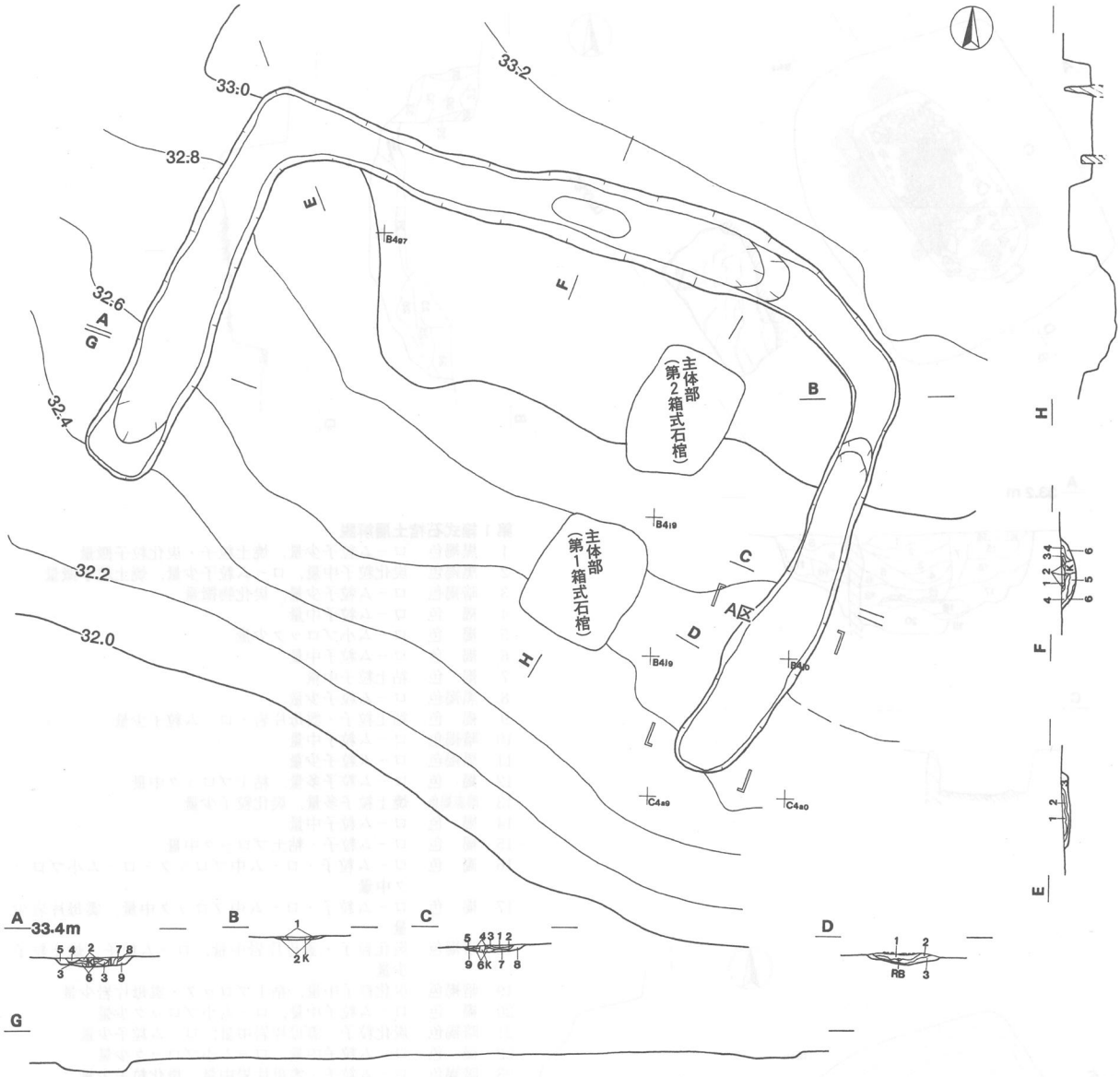
第3号古墳墳丘土層解説

1　暗褐色　耕作土
2　暗褐色　ローム粒子・黒色土中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・黒色土中量，炭化粒子少量
4　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子多量
7　褐　色　ローム粒子多量
8　褐　色　ローム粒子多量
9　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子・礫少量
10　褐　色　ローム粒子多量
11　褐　色　ローム粒子中量
12　暗褐色　ローム粒子少量



0　5m

第91図　第3号古墳(1)



第3号古墳周溝土層解説

A－A'
1　褐　色　ローム粒子中量，黒色土少量
2　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子・黒色土少量
4　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土少量
6　暗褐色　ローム粒子・黒色土少量
7　暗褐色　粘土ブロック中量，ローム粒子・黒色土少量
8　暗褐色　黒色土中量，ローム粒子少量
9　暗褐色　ローム粒子中量

B－B'
1　褐　色　炭化粒子多量，ローム粒子・黒色土少量
2　褐　色　ローム粒子中量，炭化材少量

F－F'
1　暗褐色　黒色土中量，ローム粒子・ローム大ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
3　暗褐色　黒色土中量，ローム粒子少量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
6　明褐色　ローム粒子多量

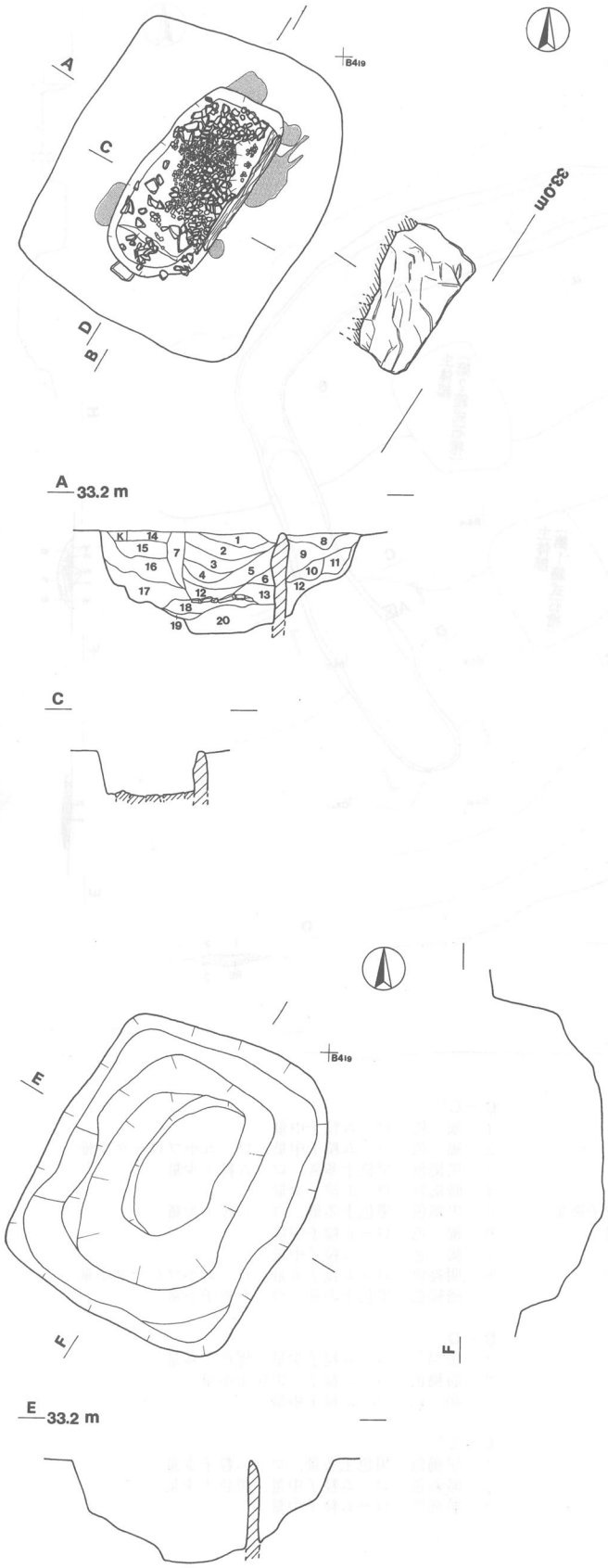
C－C'
1　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　色　ローム粒子中量
8　明褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
9　暗褐色　黒色土中量，ローム粒子少量

D－D'
1　黒褐色　ローム粒子少量，黒色土多量
2　暗褐色　ローム粒子・黒色土中量
3　褐　色　ローム粒子中量

E－E'
1　黒褐色　黒色土多量，ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，黒色土少量
3　暗褐色　ローム粒子中量

0　5m

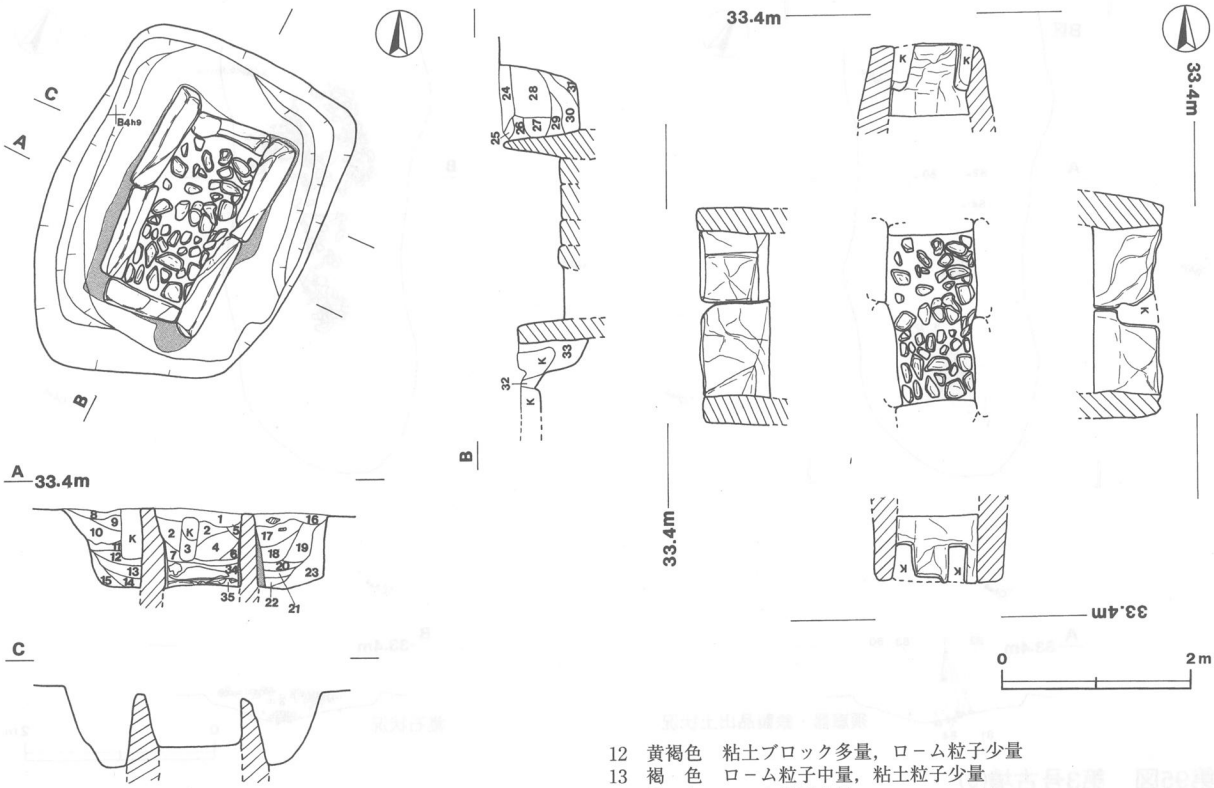
第92図　第3号古墳(2)



第1箱式石棺土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム小ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　色　粘土粒子中量
8　黒褐色　ローム粒子少量
9　褐　色　粘土粒子・雲母片岩・ローム粒子少量
10　暗褐色　ローム粒子中量
11　黒褐色　ローム粒子少量
12　褐　色　ローム粒子多量，粘土ブロック中量
13　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
14　褐　色　ローム粒子中量
15　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック中量
16　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
17　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，雲母片岩少量
18　暗褐色　炭化粒子・雲母片岩中量，ローム粒子・焼土粒子少量
19　暗褐色　炭化粒子中量，粘土ブロック・雲母片岩少量
20　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
21　暗褐色　炭化粒子・雲母片岩中量，ローム粒子少量
22　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
23　暗褐色　ローム粒子・雲母片岩中量，炭化粒子少量
24　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
25　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
26　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック・雲母片岩中量
27　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック少量
28　オリーブ灰色　粘土ブロック極めて多量
29　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック中量
30　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子微量
31　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
32　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量
33　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，雲母片岩少量

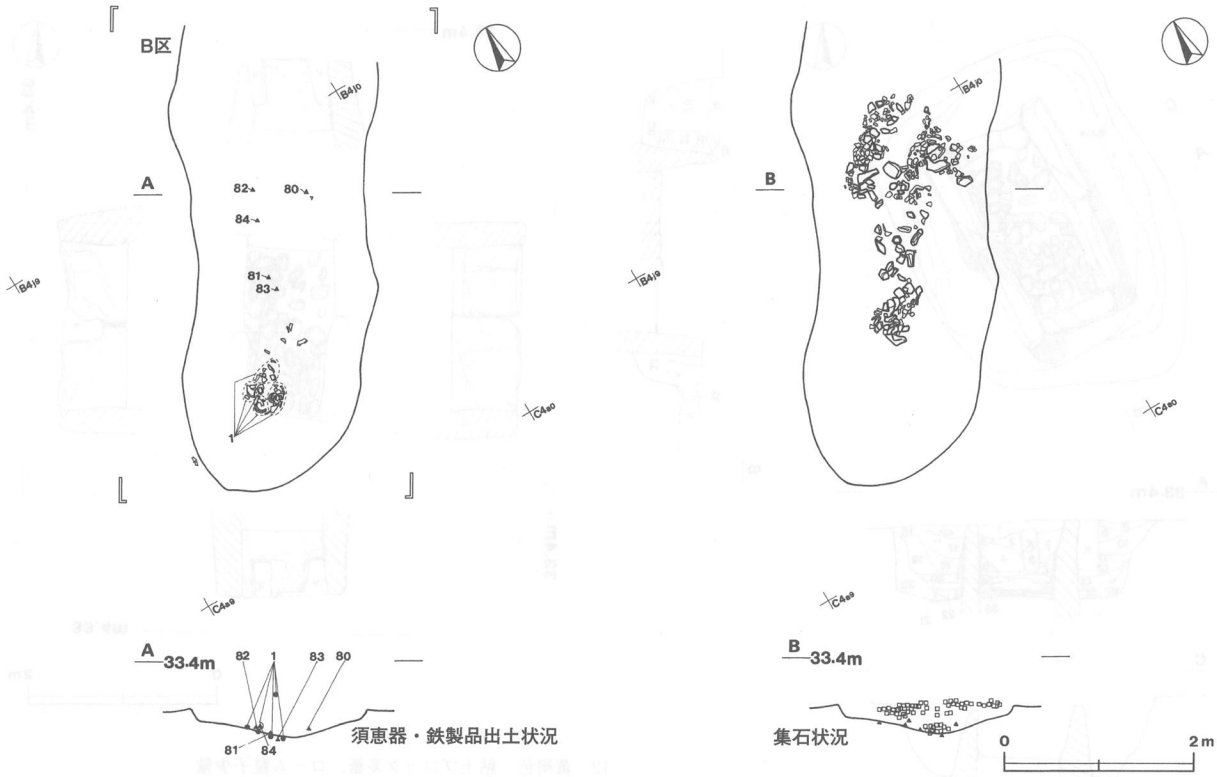
第93図　第3号古墳(3)—第1箱式石棺



第2箱式石棺土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　シルト岩ブロック極少量
4　暗褐色　ローム小ブロック・シルト岩ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　褐　色　シルト岩ブロック中量
7　褐　色　シルト岩ブロック少量
8　褐　色　ローム粒子中量，褐色土少量
9　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック少量
10　褐　色　ローム粒子多量
11　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
12　黄褐色　粘土ブロック多量，ローム粒子少量
13　褐　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
14　褐　色　ローム粒子中量
15　褐　色　ローム粒子多量
16　暗褐色　ローム粒子中量，褐色土少量，焼土粒子微量
17　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩ブロック少量
18　褐　色　ローム粒子中量
19　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，褐色土少量
20　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
21　褐　色　ローム粒子中量
22　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
23　褐　色　ローム粒子多量
24　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
25　褐　色　ローム粒子中量
26　黄褐色　粘土ブロック・シルト岩ブロック中量
27　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩粒子少量
28　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
29　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック・シルト岩ブロック中量
30　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
31　褐　色　ローム粒子中量
32　褐　色　ローム粒子中量，黒色土少量
33　褐　色　ローム粒子多量，粘土粒子少量
34　褐　色　ローム粒子中量，シルト岩粒子少量
35　灰褐色　シルト岩粒子多量，ローム粒子少量

第94図　第3号古墳(4)―第2箱式石棺



第95図　第3号古墳(5)

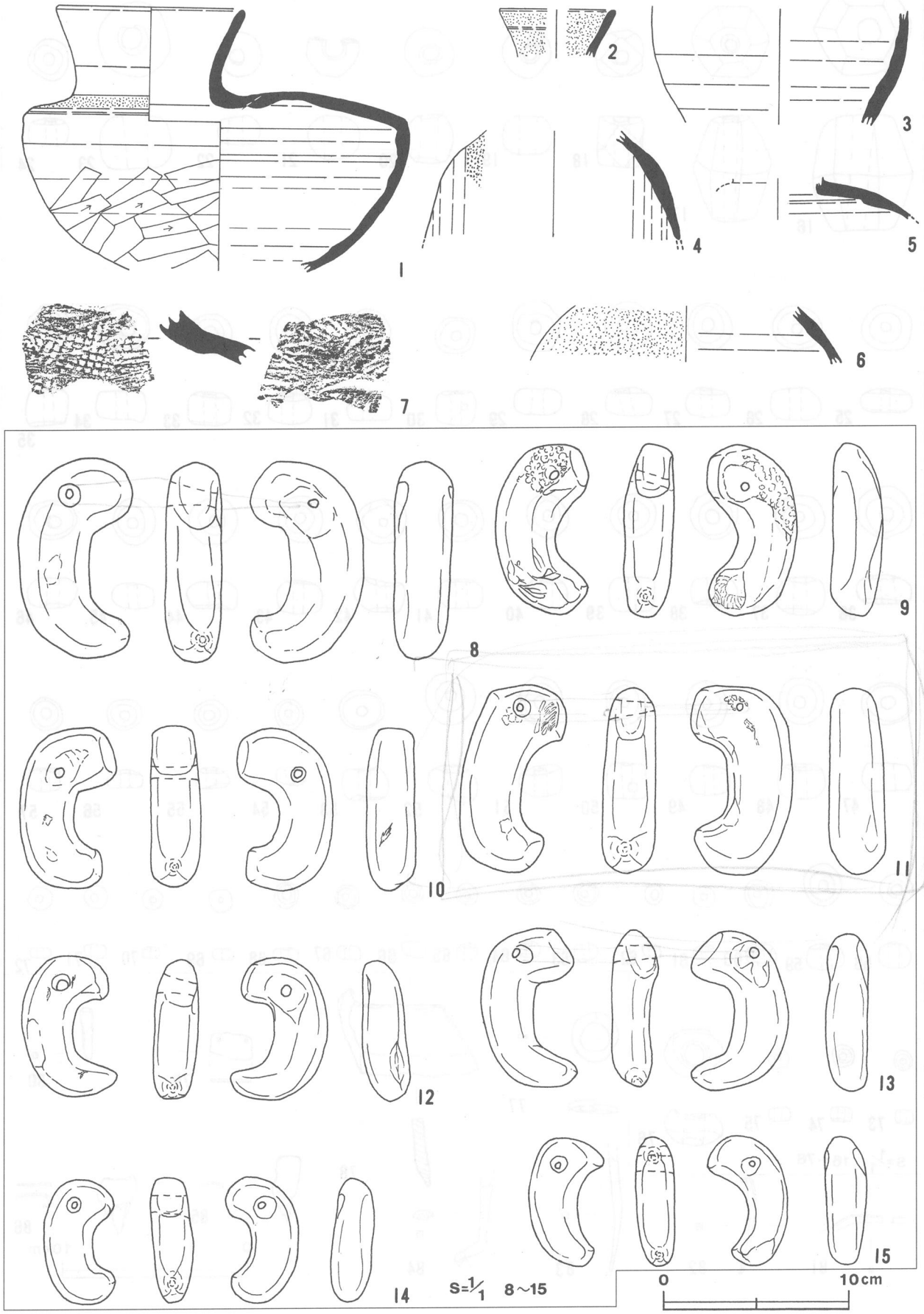
埋葬施設　古墳の南東部の周溝に寄った位置に，南東部周溝に平行して２基の地下式の箱式石棺が確認されている。遺存状態等から，第１箱式石棺よりも第２箱式石棺の方が新しいと考えられる。第１・２箱式石棺とも，覆土を全てふるいにかけたが骨片は確認できなかった。

①第１箱式石棺

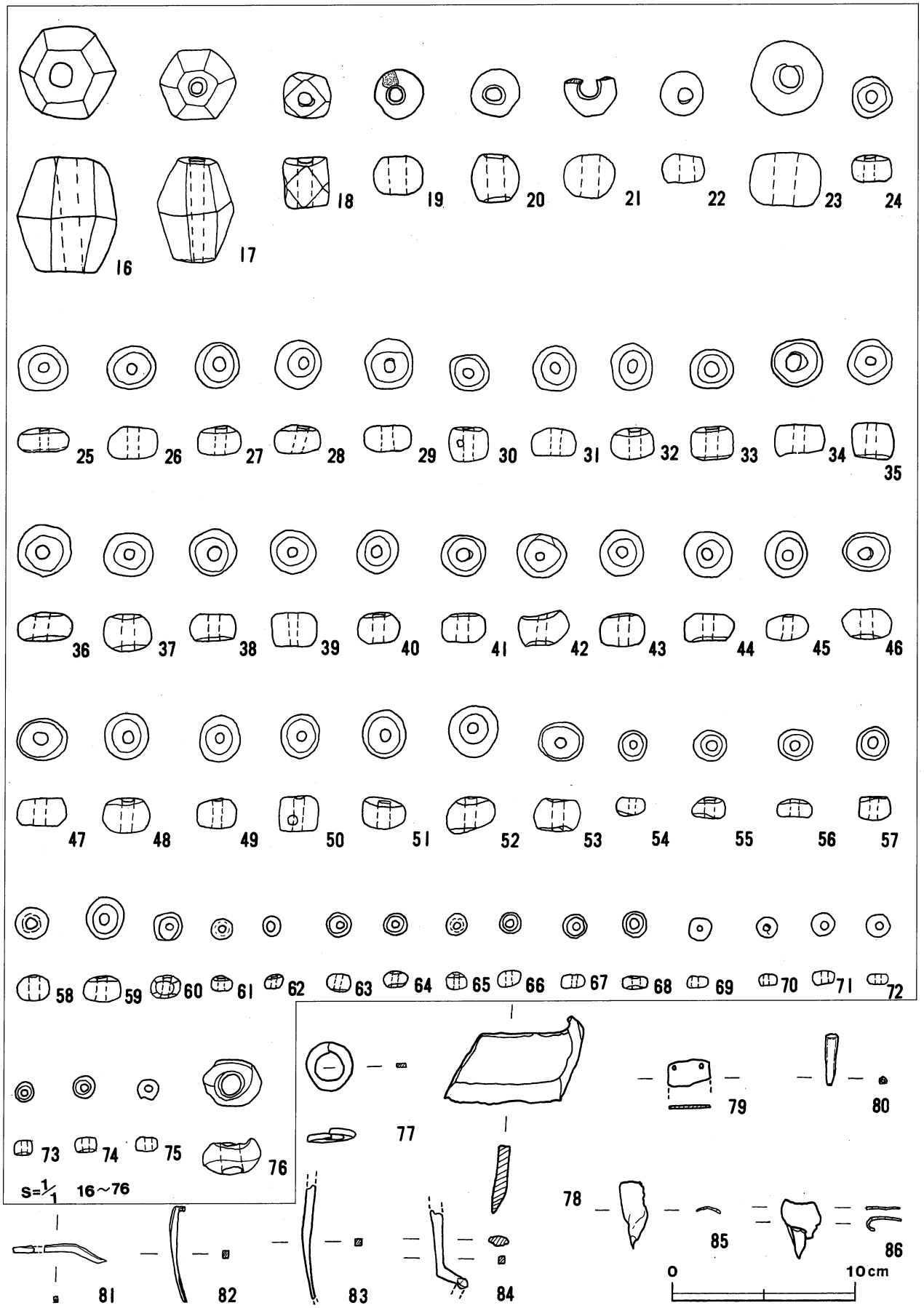
掘り方は，長軸3.6m，短軸3.0mの隅丸長方形で，深さ1.3m程掘り下げたものである。壁は，ローム土で，硬く明瞭で，２段に外傾して立ち上がっている。覆土は褐色土や暗褐色土で，ローム粒子・雲母片岩・粘土ブロックを含んでいる。７・26・27層は，裏込め用の粘土層である。埋葬施設は，雲母片岩の板石を組み合わせた箱式石棺で，主軸方向は墳丘軸とほぼ直交するＮ－30°－Ｅである。調査以前に撹乱を受けており，南東側に板石１枚が残存するのみで，他は失われている。残された石棺材の板石の大きさは，長辺160cm，短辺98cmで，厚さは12cmを測る。石材は直立していて，原位置を保っていると思われる。底石は雲母片岩の割石を敷きつめている。

②第２箱式石棺

掘り方は，長軸3.6m，短軸2.8mの隅丸長方形で，深さ0.9m程掘り下げたものである。壁は，ローム土で，硬く明瞭で，ゆるやかに外傾して立ち上がっている。覆土は，褐色土や暗褐色土で，ローム粒子やシルト岩粒子を含んだややしまりの強い層と，褐色土や黄褐色土で，粘土ブロックを多量に含んだしまりの強い層とが，互層に堆積している。埋葬施設は，シルト岩の切石を組み合わせた箱式石棺で，主軸方向は第１主体部の主軸に近いＮ－27°－Ｅである。蓋石は既に失われていたが，妻石は１枚ずつ，側石は２枚ずつを組み合わせて構築している。石棺材の大きさは，北妻石は，長辺80cm，短辺76cmで，厚さ16cm，南妻石は，長辺88cm，短辺68cmで，厚さ20cmを測る。東側石は，長辺100cm，短辺76cmで，厚さ14cmと長辺120cm，短辺70cmで，厚さ22cmを測る。西側石は長辺112cm，短辺74cmで，厚さ24cmと長辺140cm，短辺74cmで，厚さ20cmを測る。石材は直立していて，原位置を保っていると思われる。底石は雲母片岩の割り石を敷きつめている。



第96図　第3号古墳出土遺物(1)



第97図　第3号古墳出土遺物(2)

第3号古墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	平瓶 須恵器	A 10.0 B (14.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，天井部は平坦であるが，頂部に向かってやや膨らむ。体部と天井部との境に明瞭な稜を有し，沈線が巡る。口縁部は頸部から外傾して立ち上がる。	ロクロ成形。体部下端ヘラ削り。天井部に釉付着。	白色粒・黒色斑点 黄灰色 (釉)灰オリーブ色 良好	P 8 80% PL35 周溝内 東海系(東海東部)か？
2	長頸瓶 須恵器	A [6.2] B (2.6)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。	ロクロ成形。内・外全面に釉付着。	黒色斑点・緻密 灰色 (釉)ｵﾘｰﾌﾞ黒色 良好	P 9 5% PL37 第2箱式石棺 湖西産
3	長頸瓶 須恵器	B (6.2)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。	緻密 灰色 良好	P10 10% PL37 第1箱式石棺 湖西産
4	ﾌﾗｽｺ形長頸瓶 須恵器	B (5.8)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。外面に釉付着。	緻密 灰色 (釉)ｵﾘｰﾌﾞ色 良好	P11 10% PL37 確認面 湖西産
5	平瓶 須恵器	B (2.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がり，頸部に至る。	ロクロ成形。	白色粒・緻密 灰白色 良好	P12 10% PL37 第2箱式石棺 湖西産
6	ﾌﾗｽｺ形長頸瓶 須恵器	B (3.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。	白色粒・緻密 灰白色(釉)暗ｵﾘｰﾌﾞ色 良好	P13 5% PL37 第1箱式石棺 湖西産

第96図7(TP1)は須恵器甕の体部上位片で，外面に格子目叩き，内面に同心円の当て具痕が施されている。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第96図8	勾玉	3.6	1.9	1.0	9.0	メノウ(赤)	第2箱式石棺覆土	Q 2 孔径0.4cm PL35
9	勾玉	3.1	1.7	0.9	4.8	メノウ(赤)	第2箱式石棺覆土	Q 3 孔径0.3cm PL35
10	勾玉	2.9	1.7	0.9	5.3	メノウ(赤)	第2箱式石棺覆土	Q 4 孔径0.2cm PL35
11	勾玉	3.3	1.9	1.0	8.1	メノウ(赤)	第2箱式石棺覆土	Q 5 孔径0.3cm PL35
12	勾玉	2.5	1.7	0.8	4.0	メノウ(赤)	第2箱式石棺覆土	Q 6 孔径0.3cm PL35
13	勾玉	2.8	1.8	0.8	4.2	メノウ(赤)	第2箱式石棺覆土	Q 7 孔径0.3cm PL35
14	勾玉	2.2	1.3	0.7	2.7	メノウ(白)	第2箱式石棺覆土	Q 8 孔径0.3cm PL36
15	勾玉	2.3	1.4	0.7	2.7	メノウ(白)	第2箱式石棺覆土	Q 9 孔径0.1cm PL36
第97図16	切子玉	1.7	1.8	2.1	8.0	水晶	第2箱式石棺覆土	Q10 孔径0.5cm PL36
17	切子玉	1.3	1.3	1.9	4.1	水晶	第2箱式石棺覆土	Q16 孔径0.3cm PL36
18	切子玉	0.8	0.9	0.9	0.9	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q15 孔径0.25cm PL36
19	小玉	0.9	0.9	0.7	0.5	ｸﾞﾘｰﾝﾀﾌ	第2箱式石棺覆土	Q11 孔径0.3cm PL36
20	小玉	0.9	0.9	0.9	0.7	ｸﾞﾘｰﾝﾀﾌ	第2箱式石棺覆土	Q12 孔径0.3cm PL36
21	小玉	(0.7)	0.9	0.8	(0.4)	ｸﾞﾘｰﾝﾀﾌ	第2箱式石棺覆土	Q13 孔径0.3cm PL36
22	小玉	0.8	0.8	0.6	0.5	ｸﾞﾘｰﾝﾀﾌ	第2箱式石棺覆土	Q60 孔径0.3cm PL36
23	トンボ玉	1.4	1.3	1.0	2.0	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q14 孔径0.4cm
24	小玉	0.7	0.7	0.5	0.4	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q17 孔径0.2cm PL36
25	小玉	0.9	0.9	0.4	0.6	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q19 孔径0.2cm PL36
26	小玉	0.8	0.9	0.5	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q20 孔径0.2cm PL36
27	小玉	0.8	0.8	0.5	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q21 孔径0.2cm PL36
28	小玉	0.9	0.8	0.5	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q22 孔径0.2cm PL36
29	小玉	0.9	0.8	0.5	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q23 孔径0.2cm PL36
30	小玉	0.7	0.7	0.6	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q26 孔径0.2cm PL36
31	小玉	0.85	0.8	0.5	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q27 孔径0.2cm PL36
32	小玉	0.9	0.8	0.55	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q28 孔径0.2cm PL36
33	小玉	0.7	0.8	0.6	0.5	ガラス	第2箱式石棺覆土	Q29 孔径0.2cm PL36